

都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊

高松城跡（丸の内地区）

2020年3月

高松市教育委員会





SE 539 出土遺物

例　　言

1 本書は都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第5冊で、高松市丸の内に所在する高松城跡（丸の内地区）の調査報告を収録した。

2 発掘調査期間、調査面積は次のとおりである。

　調査地　　高松市丸の内

　調査期間　　平成29年10月13日～平成30年1月29日

　調査面積　　237 m²

3 発掘調査及び整理作業は、高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部文化財課文化財専門員高上 拓及び同非常勤嘱託職員中西 克也が担当した。

4 本報告の執筆は、第1章第1節を高上が、それ以外は中西が担当し、編集は中西が行った。

5 発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会で保管している。

凡　　例

1 本報告の挿図として、国土地理院発行5万分の1「高松」及び高松市都市計画図2千5百分の1「高松市街地」を一部改変して使用した。

2 座標は東京湾平均海面高度を基準とし、座標は国土座標第IV系（世界測地系）、方位は座標北を表す。

3 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである

S A : 杖列 S B : 据立柱建物 S D : 溝 S E : 井戸

S K : 土坑 S P : 柱穴 S S : 磐石 S W : 石垣

4 挿図の縮尺は、遺構の平・断面図が1/40、出土遺物の実測図は土器が1/3、木製品が1/2・1/3・1/4、金属製品が1/1・1/2、土製品・石製品が1/2、瓦が1/4を基本とする。

5 近世陶磁器の年代観については、松本和彦氏による高松城跡（西の丸地区）の調査に基づく様相編年案（松本2003）に準拠する。また、近世の土師質土器、瓦の年代観及ぶ分類については、佐藤竜馬氏による高松城跡（西の丸地区）の調査に基づく編年・分類案（佐藤2003）に準拠する。

6 発掘調査のうち、掘削業務を株式会社芝口組に、測量業務を株式会社四航コンサルタントに委託した。整理作業のうち、遺物の写真撮影業務を西大寺フォトに、遺物保存処理は株式会社吉田生物研究所・株式会社イビゾクに委託した。

7 土層及び土器観察表の色調表現は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。

8 報告書は図化した遺物が出土した遺構を中心に記述しており、記述していない遺構は文末に記載した遺構一覧表に規模等を表記する。

9 遺物観察表の法量のうち、（ ）は推定値、〔 〕は残存値である。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	
第1節 調査の方法	5
第2節 第1遺構面の遺構・遺物	9
第3節 第2遺構面の遺構・遺物	26
第4節 第3遺構面の遺構・遺物	46
第5節 第4遺構面の遺構・遺物	57
第6節 第5遺構面の遺構・遺物	69
第7節 第6遺構面の遺構・遺物	107
第4章 自然科学分析	
第1節 高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果	116
第2節 高松城跡出土木製品の樹種同定	120
第3節 高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果	126
第5章まとめ	
第1節 検出遺構について	131
第2節 絵図と調査結果の比較	132
第3節 井戸状石組遺構について	133

挿 図 目 次

第 1 図 調査地位置図	1
第 2 図 高松平野	2
第 3 図 周辺発掘調査地位置図	4
第 4 図 調査区南壁土層図	6
第 5 図 第 1 遺構面平面図	7-8
第 6 図 SS101・104・SW105 平・断・立面図、 出土遺物実測図	10
第 7 図 SD111 平・断面図、出土遺物実測図	11
第 8 図 SD120 平・断面図、出土遺物実測図	12
第 9 図 SK106 平・断面図、出土遺物実測図	12
第 10 図 SK108 平・断面図	13
第 11 図 SK108 出土遺物実測図(1)	14
第 12 図 SK108 出土遺物実測図(2)	15
第 13 図 SK108 出土遺物実測図(3)	16
第 14 図 SK108 出土遺物実測図(4)	17
第 15 図 SK108 出土遺物実測図(5)	18
第 16 図 SK108 出土遺物実測図(6)	19
第 17 図 SK108 出土遺物実測図(7)	20
第 18 図 SK108 出土遺物実測図(8)	21
第 19 図 SK108 出土遺物実測図(9)	22
第 20 図 SP109・110・112・113・121 平・断面図、 出土遺物実測図	24
第 21 図 第 1 遺構面包含層出土遺物実測図	25
第 22 図 第 2 遺構面平面図	27-28
第 23 図 SW225 平・立面図	29
第 24 図 SD201・202 平・断面図、出土遺物実測図	29
第 25 図 SK203・205 平・断面図、出土遺物実測図	30
第 26 図 SK210・211・228 平・断面図、出土遺物 実測図	32
第 27 図 SK228・231・233 平・断面図、出土遺物 実測図	33
第 28 図 SK236 平・断面図、出土遺物実測図(1)	35
第 29 図 SK236 出土遺物実測図(2)	36
第 30 図 SK237・240・241 平・断面図、出土遺物 実測図	37
第 31 図 SK242 平・断面図、出土遺物実測図	38
第 32 図 SK244 平・断面図、出土遺物実測図	40
第 33 図 SK245 平・断面図、出土遺物実測図	41
第 34 図 SK246 平・断面図、出土遺物実測図、 SK247 平・断面図、出土遺物実測図(1)	42
第 35 図 SK247 出土遺物実測図(2)	43
第 36 図 SK247 出土遺物実測図(3)、SK248・250 平・ 断面図、出土遺物実測図	44
第 37 図 第 2 遺構面包含層出土遺物実測図	45
第 38 図 第 3 遺構面平面図	47-48
第 39 図 第 SD330・SA344・SK301 平・断面図、 出土遺物実測図、SK302 平・断面図	49
第 40 国 SK302 出土遺物実測図(1)	50
第 41 国 SK302 出土遺物実測図(2)	51
第 42 国 SK302 出土遺物実測図(3)	52
第 43 国 SK302 出土遺物実測図(4)	53
第 44 国 SK304・307・314・315 平・断面図、出土 遺物実測図	55
第 45 国 SK335・336・SP308・311・316 平・断面図、 出土遺物実測図、第 3 面包含層出土遺物実 測図	56
第 46 国 第 4 面遺構面平面図	57-58
第 47 国 SB476 平・断面図、出土遺物実測図	59
第 48 国 SK402・417 平・断面図、出土遺物実測図	60
第 49 国 SK422・439・440 平・断面図、出土遺物実 測図	61
第 50 国 SK442・451 平・断面図、出土遺物実測図	63
第 51 国 SK453～455 平・断面図、出土遺物実測図	64
第 52 国 SK458・459・461 平・断面図、出土遺物実 測図	65
第 53 国 SK462～465 平・断面図、出土遺物実測図	66
第 54 国 SP420・457 平・断面図、出土遺物実測図	68
第 55 国 第 4 遺構面包含層出土遺物実測図	68
第 56 国 第 5 遺構面平面図	69
第 57 国 SE539 平・断・立面図	73-74
第 58 国 SE539 出土遺物実測図(1)	75
第 59 国 SE539 出土遺物実測図(2)	76

第 60 図	SE539 出土遺物実測図 (3)	77
第 61 図	SE539 出土遺物実測図 (4)	78
第 62 図	SE539 出土遺物実測図 (5)	79
第 63 図	SE539 出土遺物実測図 (6)	80
第 64 図	SE539 出土遺物実測図 (7)	81
第 65 図	SE539 出土遺物実測図 (8)	82
第 66 図	SE539 出土遺物実測図 (9)	83
第 67 図	SE539 出土遺物実測図 (10)	84
第 68 図	SE539 出土遺物実測図 (11)	85
第 69 図	SE539 出土遺物実測図 (12)	86
第 70 図	SE539 出土遺物実測図 (13)	87
第 71 図	SE539 出土遺物実測図 (14)	88
第 72 図	SE539 出土遺物実測図 (15)	89
第 73 図	SE539 出土遺物実測図 (16)	91
第 74 図	SE539 出土遺物実測図 (17)	92
第 75 図	SE539 出土遺物実測図 (18)	93
第 76 図	SE539 出土遺物実測図 (19)	94
第 77 図	SE539 出土遺物実測図 (20)	95
第 78 図	SE539 出土遺物実測図 (21)	96
第 79 図	SE539 出土遺物実測図 (22)	97
第 80 図	SE539 出土遺物実測図 (23)	98
第 81 図	SE539 出土遺物実測図 (24)	99
第 82 図	SE539 出土遺物実測図 (25)	100
第 83 図	SE539 出土遺物実測図 (26)	101
第 84 図	SK501・503 平・断面図、出土遺物実測図	102
第 85 図	SK504・534 ~ 536・544・549・550 平・断面図、出土遺物実測図	103
第 86 図	SK546・553 平・断面図、出土遺物実測図	105
第 87 図	SW524 平・立面図	106
第 88 図	第 5 遺構面包含層出土遺物実測図	106
第 89 図	第 6 遺構面平面図	107-108
第 90 図	SB741 平・断面図	109
第 91 図	SB742・743 平・断面図、出土遺物実測図	111
第 92 図	SA744・745、SK625 平・断面図、出土遺物実測図	112
第 93 図	SK632・677・695・710・715・727 平・断面図、出土遺物実測図	113
第 94 図	SP687・702・噴礫平・断面図、出土遺物実測図、第 6 遺構面包含層・深掘り出土遺物実測図	114
第 95 図	光学顕微鏡写真 (1)	118
第 96 図	光学顕微鏡写真 (2)	119
第 97 図	高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真 (1)	123
第 98 図	高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真 (2)	124
第 99 図	高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真 (3)	125
第 100 図	光学顕微鏡写真 (1)	128
第 101 図	光学顕微鏡写真 (2)	129
第 102 図	光学顕微鏡写真 (3)	130
第 103 図	高松城下の絵図	136
第 104 図	『高松城下図屏風』(部分) (香川県立ミュージアム蔵 高松松平家歴史資料)	137

挿 表 目 次

第 1 表	高松市高松城跡出土木製品同定表	117
第 2 表	高松城跡出土木製品の樹皮同定	120
第 3 表	高松城跡出土木製品の樹種同定結果	122
第 4 表	高松市高松城跡出土木製品同定表	127
第 5 表	遺構一覧	138
第 6 表	陶磁器・土器観察表	144
第 7 表	瓦観察表	159
第 8 表	木製品観察表	162
第 9 表	石製品観察表	166
第 10 表	金属製品観察表	166

卷頭図版目次

卷頭図版 1

SE 539 (真上から)

卷頭図版 2

SE 539出土遺物

写真図版目次

写真図版 1

1 工区第1 遺構面完掘 (西から)
1 工区第2 遺構面完掘 (西から)
1 工区第3 遺構面完掘 (西から)

SK 108 (南から)

SK 245 (東から)

SK 247 (南から)

写真図版 2

1 工区第4 遺構面完掘 (西から)
1 工区第5 遺構面完掘 (東から)
1 工区第6 遺構面完掘 (西から)

SK 301 (北から)

第3 遺構面 (西から)

第4 遺構面 (南から)

SB 476 (南から)

写真図版 3

2 工区第2 遺構面完掘 (東から)
2 工区第3 遺構面完掘 (東から)
2 工区第4 遺構面完掘 (東から)

SK 546・549・550 (西から)

SK 553 (北から)

SB 741・742、SA 745 (西から)

SK 625 (南から)

写真図版 4

2 工区第5 遺構面完掘 (東から)
2 工区第5 遺構面完掘 (西から)
2 工区第6 遺構面完掘 (東から)

写真図版 9

1 工区南壁 (北西から)

1 工区南壁 (北から)

1 工区南壁 (北から)

1 工区南壁 (北から)

写真図版 5

SS 101・102、SW 105 (西から)
SS 101・102 (北から)
SS 101 2段目礎石撤去 (西から)
SS 102 2段目礎石撤去 (西から)

2 工区南壁 (北から)

写真図版 10

SE 539 (西から)

SE 539出土遺物

写真図版 6

SS 101・102 1段目礎石 (北から)
SS 101 1段目礎石 (西から)
SS 101 1段目礎石 (西から)
SS 102 1段目礎石 (西から)
SS 102 1段目礎石 (西から)

SE 539出土遺物

SE 539出土遺物

写真図版 11

SE 539土層 (東から)

SE 539土層 (北から)

写真図版 7

SW 105 (南から)
SW 105 (西から)
SW 225 (東から)
SW 524 (西から)
SW 524 (北から)

SE 539西壁 (東から)

SE 539北壁 (西から)

SE 539北壁 (南から)

SE 539東壁 (北から)

SE 539東壁 (西から)

写真図版 12	写真図版 19
遠景（南から）	金属製品
遠景（南東から）	S E 5 3 9 出土遺物
写真図版 13	写真図版 20
調査風景	S E 5 3 9 出土遺物
調査風景	写真図版 21
写真図版 14	S E 5 3 9 出土遺物
S K 1 0 8 出土遺物	写真図版 22
S K 1 0 8 出土遺物	S E 5 3 9 出土遺物
第1 遺構面包含層出土遺物	写真図版 23
第1 遺構面包含層出土遺物	S E 5 3 9 出土木簡（片面）
S K 2 2 8 出土遺物	S E 5 3 9 出土木簡（他面）
写真図版 15	写真図版 24
S K 2 3 7 • 2 4 2 出土遺物	S E 5 3 9 出土遺物
S K 2 4 7 出土遺物	写真図版 25
S K 3 0 2 出土遺物	S E 5 3 9 出土遺物
写真図版 16	写真図版 26
S K 4 2 2 • 4 4 2 • 4 5 5 • 4 5 8 •	S E 5 3 9 出土遺物
4 6 1 • 4 6 4、第4 遺構面包含層出土遺物	写真図版 27
S K 5 0 3 • 5 5 5、第5 遺構面包含層出土遺物	S E 5 3 9 出土遺物
写真図版 17	写真図版 28
S K 1 0 8 • 3 0 2 • 4 2 2、S E 5 3 9、	S E 5 3 9 出土遺物
第1 遺構面包含層出土遺物	写真図版 29
S K 1 0 8、S E 5 3 9 出土遺物	S E 5 3 9 出土遺物
第5 遺構面包含層出土遺物	写真図版 31
写真図版 18	S E 5 3 9 出土遺物
錢貨	S K 5 4 6 • 5 3 3 出土遺物
金属製品	

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

本調査地は、高松海岸線（玉藻工区）道路改良工事の予定地にあたる。本市道路整備課により、当地での道路改良事業が計画されたため、本市文化財課が着工に先立ち平成29年10月13日に試掘調査を実施した。その結果、近世を中心とした埋蔵文化財の包蔵を確認したため、香川県教育委員会に報告したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地「高松城跡（丸の内地区）」として追加登録された。平成29年10月13日付けで埋蔵文化財保護法第94条に基づく発掘通知が提出され、県教委へ進達したところ、10月13日付けで「発掘調査」の行政指導があった。これを受けて文化財課は道路整備課と協議を行い、工事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意したため、平成29年10月13日から30年1月29日にかけて、発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成29年10月13日から平成30年1月29日の間で実施した。調査対象面積は約237m²である。試掘調査では遺構面の最上面を検出するにとどめたため、本遺跡の西側に隣接する平成24年2月～8月に実施した高松城跡（丸の内地区）（高松市教委2016）の5工区における調査結果から判断して、本遺跡では遺構検出面を5面と想定して調査を実施した。

調査工程の都合により調査区を東西に2分し、東側の調査区を1工区、西側を2工区と仮称する。調査は作業効率と周辺の状況等を考慮し、東側の1工区から開始し、全ての調査を終了した後に2工区の調査を行った。発掘調査の工程は以下のとおりである。

平成29年10月13日～平成29年12月1日 1工区の調査

平成29年12月8日～平成30年1月29日 2工区の調査

整理作業は、高松市埋蔵文化財センターにおいて平成30年度から2ヵ年計画で実施した。平成30年度は出土遺物の洗浄及び接合、選別作業、遺構図面の整理を行った。令和元年度は、出土遺物の実測と製図、図面のレイアウトを行い、執筆及び編集を実施した。



第1図 調査地位置図

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に、低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地、東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km、南北16kmの範囲に及んでいる。この平野は、讃岐山脈から流下し、北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川等の河川が運んだ土砂の堆積によって形成された扇状地でもある。香東川は、現在、石清尾山塊の西を直線に北流する西流路のみだが、17世紀初頭、高松藩に招かれた西郷八兵衛の河川改修によって一本化されたものである。なお、17世紀の庵川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

高松城跡周辺は中世前半には安定した地盤が面的に形成されたと考えられ、特に大筋は周辺より高いことから、微高地状を呈した比較的安定した土地の可能性が考えられている。その堆積過程は『高松城跡（丸の内地区）』（香川県教委2003）において詳細に報告されている。それによると、黄灰色砂質シルト層を基調とする中・近世の基盤層は弥生土器や須恵器を含み、その直上から9～10世紀の遺物が出土していることから、この基盤層は9～10世紀以前に堆積したと考えられる。また、花粉分析の結果からも周辺地域は9～10世紀以前にも安定した地盤が形成されていたことが明らかである。なお、丸の内地区の北側に位置する高松城跡（松平大膳家上屋敷）においては、同じ基盤層と思われる土層の直上から8世紀末～9世紀と考えられる溝が検出され、さらに下層の標高0.2～0.3mの砂層の上面で弥生時代終末と考えられるピット群が見られ、微高地の形成がさらにさかのぼる可能性がある。

一方、史跡高松城跡（天守台）や廻跡や東町奉行所跡では中世前半の旧河道が検出されていることから、少なくとも中世前半にはこの周辺に旧河道が数条存在していたことが判明している。また、中・近世の遺構面を形成する堆積層は調査地ごとに変化しており、その形成過程が一様でなく、低地や旧河道に囲まれた微高地が点在した可能性も考えられる。このような複数の低地や旧河道や微高地の存在は「八輪島」と呼ばれていた景観を示唆するものである。

高松城の城下町として発展した高松市街地は、香東川の東流路が瀬戸内海に注いでいた河口の中洲や砂堆上に立地している。このため、城下町は高松城築城と同時にこの中洲や砂堆を大規模に埋め立てて形成されたと考えられる。

第2節 歴史的環境

高松市街地の下に埋没している中洲や砂堆上に初めて人の活動が認められるのは、弥生時代後期である。高松城内南に位置する高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）では、ベースとなる砂層上面より柱穴とともに弥生土器が多く出土し、付近に集落が存在していた可能性が指摘できる。また、この遺跡では、平安時代前期の構もわずかながら確認している。

この地域の土地が安定し、人が恒常的に居住できるようになるのは平安時代後期と考えられる。当時、この地域は範原郷と呼ばれ、安楽寺院領である野原庄が高松城跡の南方に所在していた。野原庄は、白河院の勅使田が応徳年間頃（11世紀末葉）に立券莊号されたものである。康治2年（1143）8月19日の太政官符によれば野原庄の四至が条里によって表記されているこ



第2図 高松平野

とから、土地が安定し条里地割又は条里呼称がこの地まで普及していたと考えられる。

さらに時代が下ると、莊園としての機能以外にも、文安2年(1445)の「兵庫北閑入船納帳」には船籍地として名前が記載されていることから、中世においては港町としての機能を有していたと考えられる。時代は遡るが、高松城跡(西の丸町地区)の発掘調査では、11世紀後半～13世紀前半の護岸施設とともに県外から搬入された土器が高い比率で出土している。さらに、西の丸地区に隣接する浜ノ町遺跡では、白磁四耳壺を埋納していた13世紀末から15世紀末の集落跡が確認されている。また、高松城跡(寿町一丁目)では第3遺構面において16世紀に存在した寺院である無量壽院に関係する遺構・遺物が見つかっている。一方、高松城跡東の丸地区に目を転じると、16世紀後半以前の漁民の墓群が検出されている。城跡より南東方向にある片原町遺跡においては、15～16世紀に属するL字形の大溝を検出しており、これは居館の外側にめぐらしていた堀の一部と考えられている。

このように、高松市街地下において、古代末から中世の集落等が確認され、かつて港町が栄えていたと考えられる。この砂堆や中洲上に中世都市が立地する状況は、博多や草戸千軒遺跡にも見られるように全国的な傾向であり、これらの都市をつなぐ交易が行われていたのであろう。このような時代背景のもとに、高松城がこの地に築かれ、城下町が整備されたと考えられる。

さて、この高松城及び城下町を造ったのは、豊臣秀吉の家臣であった生駒親正である。豊臣秀吉の四国出兵により、天正13年(1585)長宗我部元親が降伏し、讃岐国は仙石秀久・十河存保に与えられ、その後尾藤知宣の領国となつたが、天正15年(1587)生駒親正が入部し、讃岐一国を領した。高松城は、生駒親正の居城として、翌天正16年から築城された水城である。北の守りを瀬戸内海にゆだね、堀には海水が引き込まれるのが水城と呼ばれる由縁である。また、南方には大手(旧太鼓門)を構え、城の南側に城下町が展開する「後堅国」の城でもある。城の構造は、内堀・中堀・外堀といった三重の堀をめぐらし、中堀より内側には本丸・二ノ丸・三ノ丸などの曲輪を配している。本丸は、さらに堀によって他の曲輪と独立しており、本丸と二ノ丸をつなぐ鞘橋を落とすことによって敵の侵入を防ぐ構造となっている。

生駒氏は御家騒動により寛永17年(1640)出羽国矢島に転封となり、代わって松平頼重が寛永19年(1642)に高松城主となり、東讃岐12万石を領した。松平頼重は、城の改修を度々行っているが、寛文10年(1670)頃の大規模な改修では、北ノ丸・東ノ丸を造成するとともに、月見櫓・渡櫓などを作り、北に設けた水手御門より直接海から出入りができるようになっている。松平氏は明治4年(1871)に廃城になるまで11代にわたって230年間城主を務めた。その後、天守は老朽化のため明治17年(1884)に取り壊され、高松城跡は昭和29年(1954)に高松市が取得し、翌30年に玉藻公園として市民に開放され、現在に至っている。一方、史跡として昭和30年(1955)に国指定を受け、文化財の保護が図られている。

高松城跡の史跡指定地内において近年発掘調査が実施されている。主な調査を年次順に並べると、最も古いのが1990年の水手御門、以後1998年の三の丸、1999年の地久櫓台、2005年の鉄門、2006～2008年の天守台、2013年の桜御門の調査である。最も注目すべきは石垣解体修理に伴って実施された天守台の調査であり、天守の内部構造や石垣の内部構造の一端を解明することができた。

高松城跡外堀内側の史跡指定地外においても近年発掘調査が実施されている。主な遺跡を地区別に列挙すると、以下の通りである。高松城跡の西側に位置する西の丸町には概述した高松城跡(西の丸町地区)Ⅱ、高松城跡(西の丸町地区)Ⅲ、高松城跡(西の丸町地区)Ⅰがあり、寿町1丁目には概述した高松城跡(寿町一丁目)、同(寿町一丁目地区)がある。南西の西内町に高松北警察署地区、寿町2丁目には高松城跡(寿町二丁目地区)、南側の丸の内には高松城跡(松平大膳家中屋敷跡)、同(松平大膳家上屋敷跡)、同(丸の内地区)、内町には高松城跡(厩跡)がある。南東の鶴屋町には高松城跡(東町奉行所跡)がある。東側の玉藻町には東ノ丸跡(県民ホール地区)、同(県民小ホール地区)、同(香川県歴史博物館地区)、同(作事丸)、同(大手前地区城内中学校跡地)がある。また、本遺跡

の近隣地においても海岸線街路事業に伴う発掘調査と共同住宅建設に伴う発掘調査が行われている。前者は、本遺跡の西接する高松城跡（丸の内地区）（2017年）、高松城跡（江戸長屋跡）、高松城跡（丸の内地区）（2018年）、後者は本遺跡の東側に位置する高松城跡（丸の内地区）（2016年）である。



- | | | | | |
|------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 東ノ丸跡 | 2. 水手御門 | 3. 県民ホール地区 | 4. 県立歴史博物館地区 | 5. 西の丸町地区II |
| 6. 西の丸町地区III | 7. 作事丸 | 8. 西内町 | 9. 地久橋 | 10. 高松北署地区 |
| 11. 内町 | 12. 三の丸 | 13. 西の丸地区I | 14. 地久櫓台 | 15. 丸の内地区 |
| 16. 松平大膳家中里敷跡 | 17. 松平大膳家上屋敷跡 | 18. 三の丸（重櫓台北側） | 19. 西の丸町D地区 | 20. 丸の内 |
| 21. 寿町一丁目（無量寿院跡） | 22. 中堀（北浜町） | 23. 丸の内（都市計画道路高松海岸線街路事業） | 24. 丸の内（再生水管布設工事） | |
| 25. 丸の内（個人住宅建設） | 26. 二の丸（玉藻公闐西門料金所整備工事） | 27. 外堀（西内町 共同住宅建設） | 28. 丸の内（共同住宅） | |
| 29. 東町奉行所跡 | 30. 西の丸町 | 31. 丸の内 | 32. 丸の内 | 33. 鉄門 |
| 34. 厥跡 | 35. 外堀（兵庫町） | 36. 寿町二丁目地区 | 37. 天守台 | 38. 江戸長屋跡I |
| 39. 江戸長屋跡II | 40. 丸の内 | 41. 丸の内 | 42. 城内中学校 | 43. 中堀南岸石垣 |
| 44. 本町 | 45. 丸の内（都市計画道路高松海岸線街路事業） | 46. 庵ノ町道跡 | 47. 片原町遺跡 | |
| 48. 桂屋町遺跡 | 49. 生駒親正夫妻墓所 | 50. 犀町一丁目遺跡 | 51. 亀井戸跡 | 52. 大井戸 |
| 53. 二番丁小学校遺跡 | 54. 丸の内 | 55. 高松城跡（寿町一丁目地区） | 56. 高松城跡（丸の内地区） | 57. 高松城跡（丸の内地区） |
| 58. 高松城跡（丸の内地区） | | | | |

第3図 周辺発掘調査位置図

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

1 調査区の設定

調査は高松海岸線街路事業に伴う発掘調査であり、調査地の位置は平成24年2月～8月に実施した高松城跡（丸の内地区）の東側に隣接する。主要幹線道路の一つである高松海岸線（通称、浜街道）の拡幅工事であるため、調査地の全長は約42.4m、西端の幅は7.8m、東端で1.2mを測る変則的な平面形を呈する。調査工程の都合により調査区を東西に2分し、東側の調査区を1工区、西側を2工区と仮称する。1工区は全長29.5m、2工区は12.9mを測る。調査時は工区を分けて調査を実施したが、本報告では遺構面ごとに報告する。

2 調査の方法

調査は東側の1工区から開始し、すべての調査を終了した後に2工区の調査を行った。調査の方法は、遺構面直上まで重機で掘削した後に人力による遺構検出を行い、検出した遺構に番号を付け、遺構の調査を実施した。土層図が必要と考えられる遺構は随時作成し、それ以外の遺構は土質を確認した後に掘り上げた。測量は委託業務によって4級基準点及び水準点測量を行い、遺構の遺存状態が良い遺構面において10回の空中写真測量を行った。空中写真測量ができなかった遺構面に関しては、基準点をもとに平面図・断面図とともに手測りで記録を作成した。

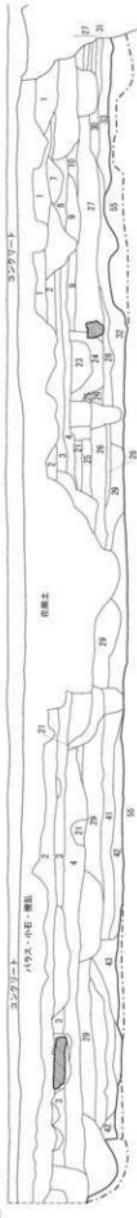
3 基本層序

調査区南壁において土層観察を行い、土層図を作成した。壁面には多数の遺構や複数の聖地層が重複するが、比較的に水平堆積をなす1工区東側においてA～I層に分類する。

- A層：コンクリート、アスファルト舗装、花崗土
- B層：黄灰・灰シルト質細砂
- C層：灰シルト質細砂—第1遺構面
- D層：灰オリーブシルト質細砂—第2遺構面
- E層：焼土層（第21層）。版築状堆積の第27層—第3遺構面
- F層：灰オリーブシルト質細砂（第29層）—第4遺構面
- G層：オリーブ黒シルト質細砂（第41層）—第5遺構面
- H層：灰オリーブシルト～極細砂（第55層）—第6遺構面
- I層：灰オリーブ～灰白細砂～中砂。砂礫層

4 遺構番号

遺構には第1～6遺構面ごとに遺構番号を付けた。遺構の種類は整理作業時に平面形態から想定した性格を判断し、数字の前に遺構の略号を冠した。遺構番号は3桁の数字で表す。最初の数字は遺構面を示し、後の2桁の数字は調査時に検出した順に付与した番号である。例えば、第1遺構面で検出した礎石01は「S S 101」、第5遺構面の井戸39は「S E 539」となる。ただし、第6遺構面は遺構が多数検出されたために700番台の数字を付けている。また、本報告書の作成時に新たに確認した掘立柱建物と柱列はその遺構面における最後の遺構番号を付ける。

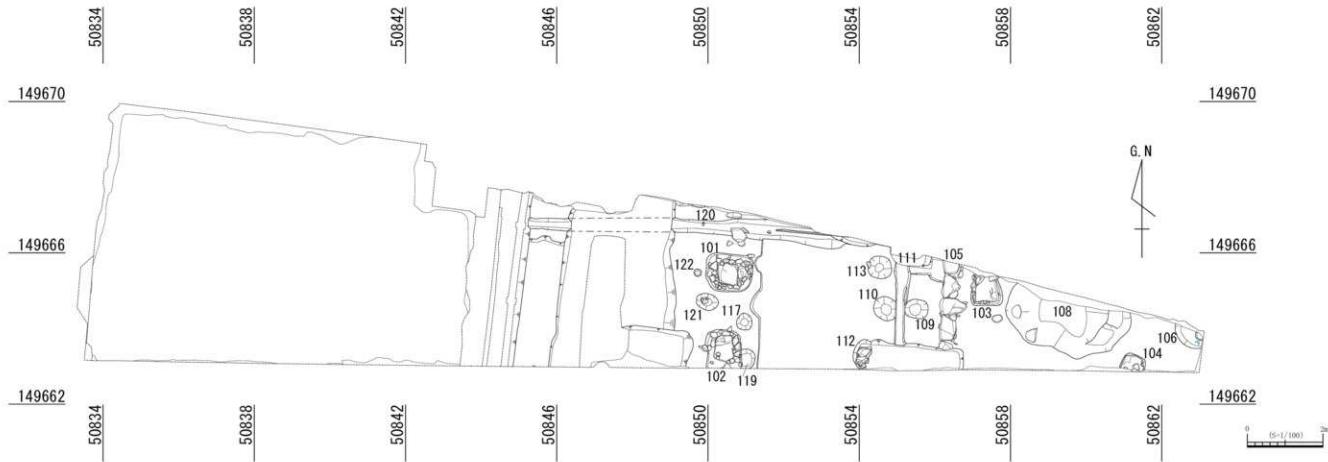


A geological cross-section diagram illustrating the stratigraphy of a site. The vertical axis is labeled '地層' (Strata) and the horizontal axis shows '標高' (Elevation) with values from 16 to 20. The diagram features several distinct layers, each labeled with its name in Chinese. Key layers include '花崗岩' (Granite), '花崗土' (Granite soil), '砂岩' (Sandstone), '頁岩' (Shale), and '泥岩' (Mudrock). A series of numbered points (1 through 44) are plotted across the sections, with some points having dashed lines connecting them. A small circle is also present near point 1.

第十一章 工業化



45	SHD02-2	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — C 檯
46	SHD04-2	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — C 檯
47	SHD04-2	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — D 檯
48	SHD04-4	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — D 檯
49	SHD05-4	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — E 檯
50	SHD05-12	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — E 檯
51	SHD05-12	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — F 檯
52	SHD05-2	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — G 檯
53	SHD05-2	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — H 檯
54	SHD05-4	高橋シート販賣機 (原價：每台合計) — I 檯



第5図 第1遭構面平面図

第2節 第1造構面の遺構・遺物

1 調査の概要

第1造構面は調査区東側のみにおいて検出した。遺構面の土層は第4図の3層灰シルト質細砂であり、1工区の東側のみにはほぼ水平に堆積している。調査区の中央と西側は擾乱により削平されている。標高は1.30m前後を測り、現地表面からの深さは約0.60mである。

調査は、1工区を遺構面まで重機で下げ、人力による遺構の調査を実施した。検出した遺構は、礎石、石垣、溝、土坑、柱穴であり、土坑と柱穴は多数検出した。

2 遺構・遺物

礎石

SS 101（第6図）

調査区東側において検出した礎石であり、SS 102の北側に位置し、礎石中心間の距離は2.00mである。土坑は方形を呈し、長辺1.23m、短辺1.00mを測り、礎石上面からの深さは0.36mである。土坑の検出面の標高は1.30m前後であるが、礎石上面は0.20m上であることから本来の検出面は標高1.50mである。埋土は暗褐シルトを含む灰シルト質細砂である。礎石は2段積みであり、土坑掘削後に1段目の礎石を設置し、その上面と周辺に小石や礫を置き、その上に2段目の礎石を設置する。1段目の礎石は一辺0.60mの方形、厚さは0.14mである。礎石上面の標高は1.28mである。2段目の礎石は台形を呈し、長辺0.93m、短辺0.67m、厚さ0.15mである。礎石上面の標高は1.50mである。石材は花崗岩である。所属時期は松本和彦氏の様相編年案の様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は数点の陶磁器小片といぶしのない平瓦であるが、図化できる遺物はない。

SS 102（第6図）

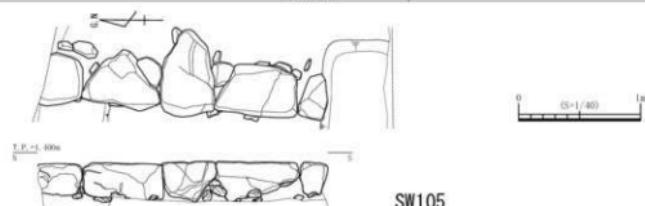
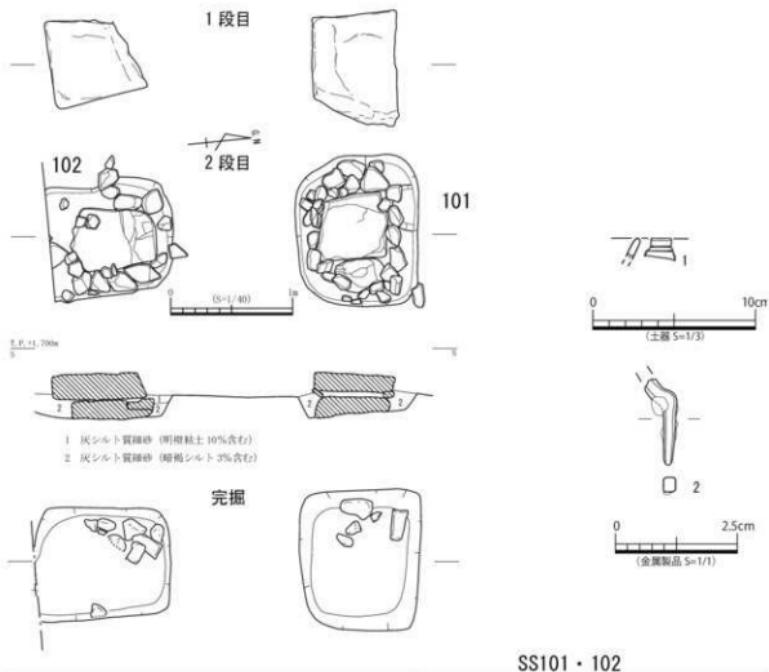
調査区東側において検出した礎石であり、SS 101の南側に位置し、礎石中心間の距離は2.00mである。礎石に伴う土坑の南東隅は調査区外にかかる。土坑の平面形は方形を呈し、長辺1.10m、短辺0.93mを測り、礎石上面からの深さは0.36mである。土坑の検出面の標高は1.30m前後であるが、礎石上面は0.20m上であることから本来の検出面は標高1.50mであると思われる。埋土は暗褐シルトを含む灰シルト質細砂である。礎石は2段積みであり、土坑掘削後に1段目の礎石を設置し、その上面と周辺に小石や礫を置き、その上に2段目の礎石を設置している。1段目の礎石は0.71×0.51mの方形であり、厚さは0.16mである。礎石上面の標高は1.28mである。2段目の礎石は一辺0.54mのやや不整な台形を呈し、厚さ0.15mである。礎石上面の標高は1.50mである。2個の礎石上面は平坦であり、石材は花崗岩である。所属時期は様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は肥前系の胸器碗（1）、釘（2）、陶磁器碗・灯明皿、平瓦である。

SS 103（第6図）

調査区東側において検出した礎石であり、SS 105の東側に位置する。SS 101との礎石中心間の距離は6.80mである。礎石に伴う土坑の北側は調査区外にかかる。土坑の平面形はやや不整な方形を呈し、南北方向の長辺0.85m以上、短辺0.80mを測り、礎石上面からの深さは0.17mである。土坑の検出面の標高は1.30mである、埋土は暗褐シルトを含む灰シルト質細砂である。礎石は1段積みであり、土坑掘削後に礎石を設置し、その上面と周辺に小石や礫を置くというSS 101・102同一工程であることから、本来は2段積みの礎石であったと考えられる。礎石は0.65×0.60mのやや不整な方形で、厚さは0.14mである。礎石上面の標高は1.33mである。礎石上面は平坦であり、石材は花崗岩である。所属時期は様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は軒丸瓦と丸瓦の小片のみであり、図化できる遺物はない。



第6図 SS101～104・SW105 平・断・立面図、出土遺物実測図

SS104 (第6図)

調査区東端において検出した礎石である。SK 108の南東側に位置し、SS 102との礎石中心間の距離は10.70mである。礎石に伴う土坑は一辺0.64mの方形であり、礎石上面からの深さは0.22mである。埋土は暗褐色シルトを含む灰シルト質細砂の單一層である。礎石は1段積みであり、土坑掘削後に礎石を設置し、その上面と周辺に小石や礫を置くというSS 101・102と同一工程であることから、本来は2段積みの礎石であったと考えられる。他の礎石は土坑底面に礎石を直置きしているのに対し、本造構では底面と礎石の間にやや大きな石を設置している。礎石は一辺0.58mを測るやや不整な方形であり、厚さは0.14mである。礎石上面は東から西に向かって約4cm下がっており、礎石上面の標高は東端で1.38mである。石材は花崗岩である。様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は土師質土器鍋の小片のみである。

石垣

SW105 (第6図)

調査区東側において検出した石垣であり、SS 103の西側に位置する。石垣は西側に面を持ち、南北方向に延びる。検出した長さは2.34mであり、方位はN-2°-Eである。石は1段のみ残存し、上面の標高は1.50m前後であり、SS 101~104と同一の高さである。石垣は5個の石で構築されており、石材は全て花崗岩である。石の平面形は台形あるいは三角形を呈し、長さ0.43~0.70m、厚さ0.30mである。石の裏側には裏込め石として0.20m大の石が設置され、石の下には安定させる目的で薄い石や小石が設置されている。本石垣の東側と西側では土層の堆積状態が同一であり、本石垣は西側に面を持つことから東側を意識した空間的な区画と考えられる。

遺物の出土がないため時期は不明であるが、検出面と石垣上面の標高がSS 101~104の礎石上面と同一であることから、同時期のものと考えられる。

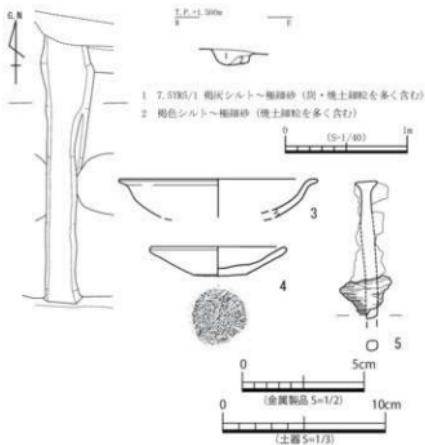
溝

SD111 (第7図)

調査区東側において検出した溝であり、SW 105の西側に位置し、SP 109・110を切る。検出面の標高は1.20m前後である。検出した全長は2.12m、幅0.23~0.43m、深さ0.10mを測る。方位はN-0°-Eである。断面はU字形で、底面は平坦である。埋土は灰シルト質細砂・焼土粒を多量に含む褐シルト質細砂である。所属時期は様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器皿(3)、土師質土器小皿(4)、釘(5)、磁器碗小片、土師質土器小皿、丸瓦、平瓦である。

3は肥前系であり、口縁部がやや外反し、内外面に貫入が見られる。4は底部から緩やかな傾斜で体部が立ち上

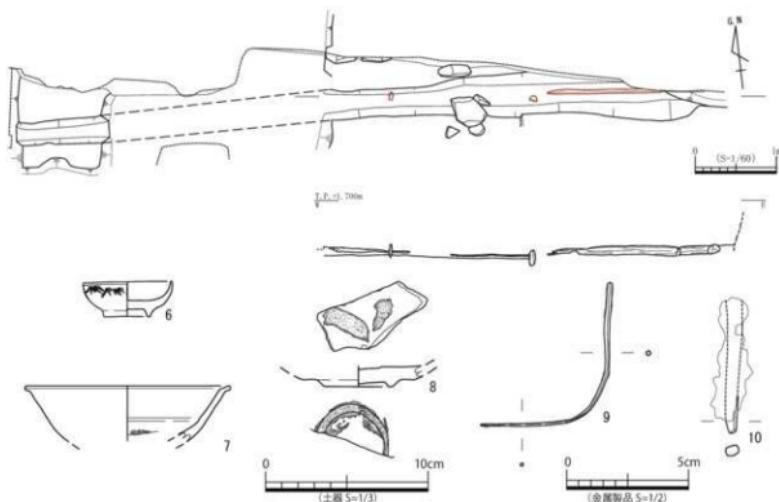


第7図 SD111 平・断面図、出土遺物実測図

がり口縁部に至る。底部は静止系キリにより切り離される。5は断面方形の釘で、木質遺体が一部残存する。

SD120 (第8図)

調査区東側において検出した溝であり、SS 101の北側に位置する。東端は調査区外になっており、西端は現有の水道管と排水管により削平され、その東側はガソリンのタンクにより削平されている。検出面の標高は1.25m前後である。検出した全長は消失部分を含めて8.40m、幅0.30~0.53m、深さ0.15mを測る。方位はN-92°-Eである。断面はU字形で、底面は西方に緩やかに下がっている。埋土は炭を多量に含む黄灰シルト質細砂の單一層である。溝の東端から擾乱にかけて溝の中央部には細長い板を溝に沿うように立てており、その脇には杭が2本打ち込まれている。板と杭の依存状態は非常に悪く、取り上げは不可能であった。SD 111と埋土が類似することから同一の溝である可能性

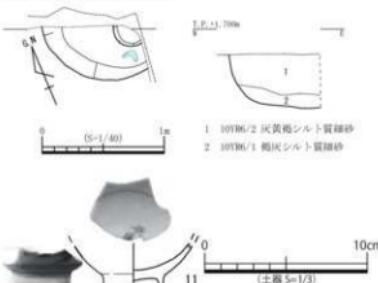


第8図 SD120 平・断面図、出土遺物実測図

も考えられる。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相8に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器紅猪口（6）、陶器皿（7・8）、釘（9・10）、磁器碗、陶器鉢、軒丸瓦、丸瓦、平瓦、小菊瓦、釘、漆喰がある。

6は肥前系の紅猪口であり、外面に笹文を描く。7は口縁部が外反し、体部内面に若干の段を有する。見込みに胎土目が見られる。8は削り出し高台で、疊付と見込みに胎土目が見られる。9・10は方形の断面であり、9は中央でほぼ直角に曲がる。



第9図 SK106 平・断面図、出土遺物実測図

土坑

SK106 (第9図)

調査区東端において検出した土坑である。検出面の標高は1.33mである。平面形は検出面が狭いが円形と考えられる。検出された径は0.72m、検出面からの深さは0.20mであるが、北壁の土層観察では標高1.50mから掘り込まれている。埋土は灰黄褐色シルト質細砂・褐灰色シルト質細砂である。所属時期は構造面及び出土遺物から様相8に相当すると考えられる。

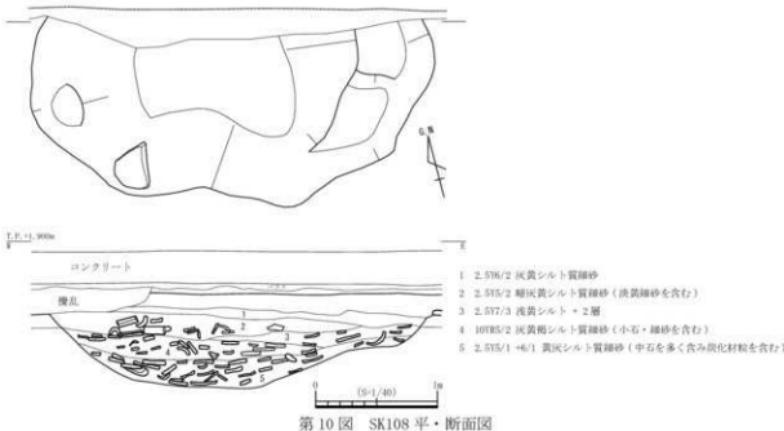
出土遺物は磁器碗(11)、陶器碗、土師質土器鍋、軒平瓦、丸瓦、平瓦である。11は肥前系の碗であり、内外面に染付が施される。高台疊付に砂目が部分的に残る。

SK108 (第10～19図)

調査区東側において検出した土坑であり、SS103の東側に位置する。検出面の標高は1.28mである。平面形は不整な円形を呈し、直径3.24m、検出面からの深さは0.58mを測る。埋土は5層に分層され、レンズ状堆積をなし、2～5層には陶器等の土器や瓦が多量に含まれる。土坑の掘方は緩やかな傾斜であり、東側斜面は段を有する。多量の土器や瓦などの遺物が出土することからごみ穴としての機能を有する土坑と考えられる。所属時期は様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器蓋(12・13)、磁器碗(14～25)、同紅猪口(26・27)、同皿(28～30)、同蓋(31)、同小壺(32)、同壺(33)、同鉢(34～36)、同灰吹(37)、陶器蓋(38・39)、同碗(40～44)、同皿(45～47)、同土瓶(48)、同花生(49)、同蓋(50)、同灯明皿(51～53)、同擂鉢(54)、同土鍋(55・56)、同手水鉢(57)、土師質土器皿(58～60)、同茶釜(61)、同焙烙(62・63)、同焼塙壺(64～67)、同蛸壺(68・69)、軒丸瓦(70～74)、軒平瓦(75～78)、菊丸瓦(79～81)、丸瓦(82～84)、鬼瓦(85)、遊戯具(86・87)、硯(88)、煙管(89・90)である。

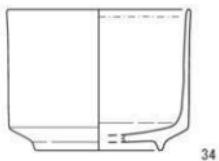
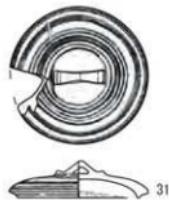
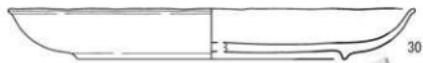
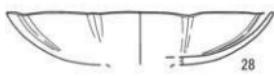
12は瀬戸系で、外面に草花文、内面に四方擗を描く。13は肥前系で、外面に宝物文と草花文、内面に四方擗、宝物文、圓線を描く。14・15はやや小型の肥前系碗で、14の内外面には菊花散らしと氷裂文、15の外面には草花文を描き、疊付には部分的に砂目が付着する。16は口縁部に蓋受けが付き、外面に丸文と圓線を描く。17は瀬戸系で、やや腰が張り、断面四角形の高台が付く。18はやや高い高台が付き、外面に草文と圓線、内面に四方擗、松梅文、圓線を描く。19は肥前系で、外面に



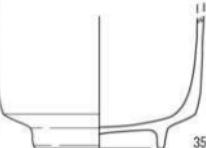
第10図 SK108 平・断面図



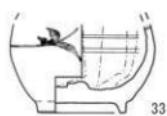
第11図 SK108出土遺物実測図(1)



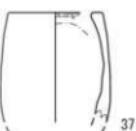
34



35



36



37



第12図 SK108出土遺物実測図(2)

笹文と圈線を描き、見込みは蛇ノ目釉剥ぎが施され、高台と見込みに砂目が付着する。20は肥前系で、高台と見込みに砂目が付着する。21は肥前系で、厚い器厚の底部である。蛇ノ目釉剥ぎが施され、高台と見込みに砂目が付着する。22・23は肥前系で、器厚が非常に薄い。22の外面には草花文を描く。23の外面は草花文と区画間、内面は四方擗、若松文、圈線を描き、高台内に「富貴口春」の銘款が記される。24は肥前系で、内面に四方擗、五弁花、圈線、高台内に二重方形枠の銘款を描く。25は肥前系碗で多角形を呈し、外面に文字が描かれる。

26・27は肥前系紅猪口で、26は菊花形、27は外面に笹文を描く浅丸形である。

28～30は肥前系で輪花状を呈する。28は白磁である。29は外面に唐草文と圈線、内面に梅、遠山、圈線を描く。30は大型の肥前系皿で、外面に唐草文、内面に花唐草文、圈線、高台内に二重方形枠の銘款と圈線を描く。

31は肥前系蓋物蓋で、口縁部内外面に砂目が付着する。

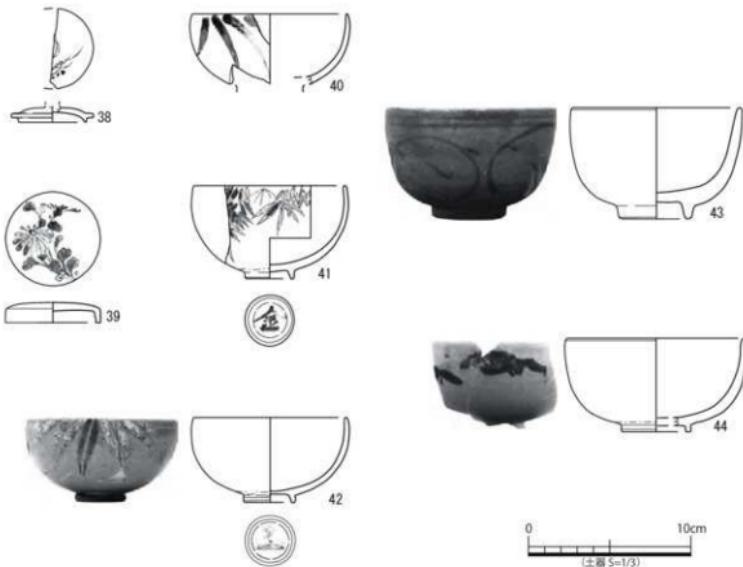
32は体部外面に草花文を描き、輸入品と思われる。33は肥前系で、外面に草花文を描き、疊付に砂目が部分的に残る。内面には釉が垂れています。

34・35は肥前系で、体部と底部の境に明確な稜を有し、体部はほぼ直線的に立ち上がり口縁部に至る。34の外面は淡青色の草花文の染付と朱色の唐草文と斜格子文の上絵を描く。35は外面に草花文、圈線を描く。36は白磁である。

37は口縁部に煙管による敲打痕が見られる。

38は京焼系の土瓶蓋で、外面に草文を描く。39は肥前系の蓋物蓋で、外面に朱色と灰黄褐色による草花文の上絵が描かれる。

40～42は京焼系で、半球形の体部である。40の外面は灰白色、赤褐色、オリーブ灰、にぶい黄橙色による上絵が描かれる。41の外面は朱色と白色による上絵が描かれ、高台内に「金」の墨書がある。



第13図 SK108出土遺物実測図(3)

42の外面はオリーブ灰と灰白色による上絵が描かれ、高台内に解読不能な墨書がある。43・44は肥前系で、内外面に貫入が見られる。43の外面は唐草文、44の外面は草花文を描く。

45は京焼系で、波状口縁である。外面には「三つ葉葵」の家紋が描かれ、蔵状の陰刻が施される。46は肥前系で、波状口縁であり、貫入が見られる。47は高台内に刻印が見られる。

48は京焼系の土瓶で、外面にオリーブ褐色の草文を描く。

49はほぼ直線的な体部の花生で、黒色と青色の染付がある。

51は備前焼の灯明皿で、口縁部に重ね焼き痕、内面に煤がわずかに付着する。52・53は備前焼の灯明受皿で、体部外面下位は回転ヘラケズリが施される。

54は備前焼鉢であり、重ね焼き痕が明瞭で、内面は滑らかである。

55・56は在地産の土鍋であり、55の口縁部に耳の一部が残存する。56は脚1個残存し、底部全体に煤が付着する。

57は瀬戸系手水鉢で、体部上半は大きく広がり、口縁部は肥大する。体部外面はヘラによる「メ」字状の文様、沈線、押圧文が施される。内面下半は部分的に指ナデが施される。

58は器高が低く、底部は静止糸キリにより切り離される。59は直線的な体部で、底部は回転糸キリが施される。60は体部外面下半に回転ヘラケズリが施される。

62・63は在地産焙烙であり、体部外面は指オサエ後にナデ、内面は細かいハケとナデが施される。

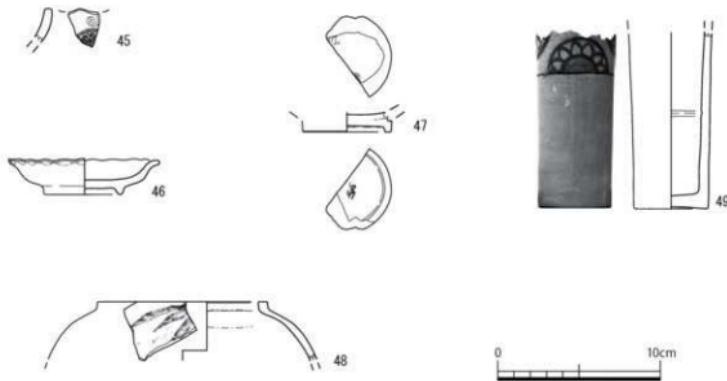
64・65は焼塙壺の蓋であり、内面に布目の圧痕が見られる。66・67は焼塙壺の壺である。

70～74は軒丸瓦である。70は佐藤分類IV類109に類似し、瓦当裏面の調整はC2である。71は佐藤分類IV類201、瓦当裏面の調整はC2、接合方法はDである。72・73は佐藤分類IV類201、瓦当裏面の調整はC2である。74は佐藤分類IV類109であり、2個の釘穴の周囲には漆喰の痕跡がある。

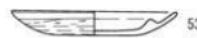
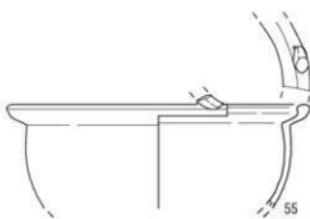
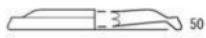
75～78は軒平瓦である。75は佐藤分類XXII類122、中心飾りは上向の半歳花菱文である。76は佐藤分類X類38、中心飾りは十六葉の菊花である。

79～81は菊丸瓦である。79は佐藤分類II類14、80はVI類34であり、凹面に刻印がある。81は外区のない陽刻菊花文であり、佐藤分類VI類である。

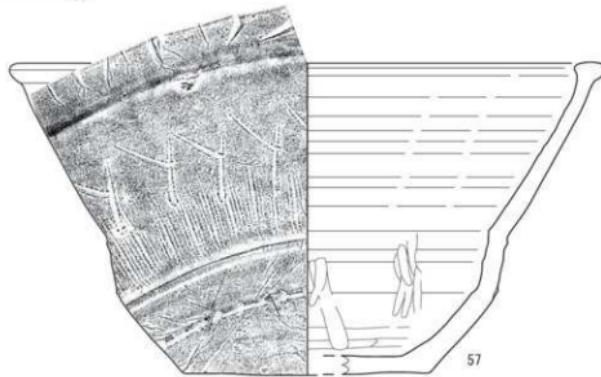
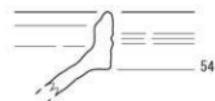
86は太夫、87は神社の遊戯具で、成形は型合わせであり、底部から胴部にかけ円錐状に大きく穿孔する。



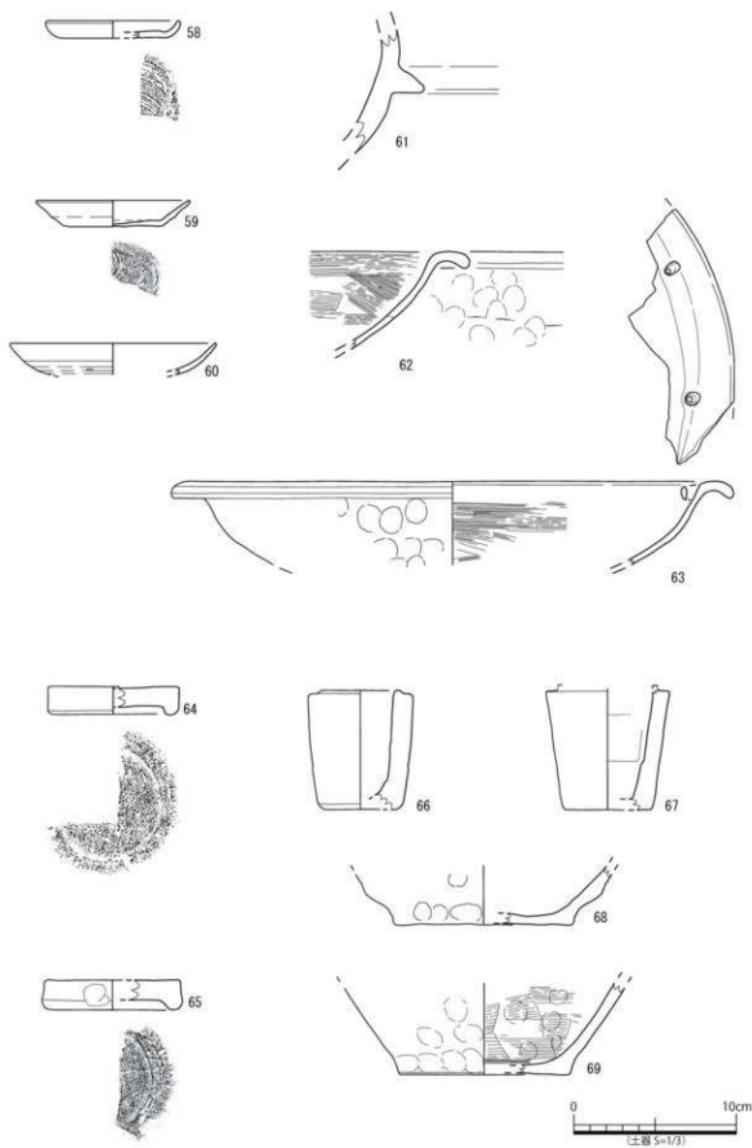
第14図 SK108出土遺物実測図(4)



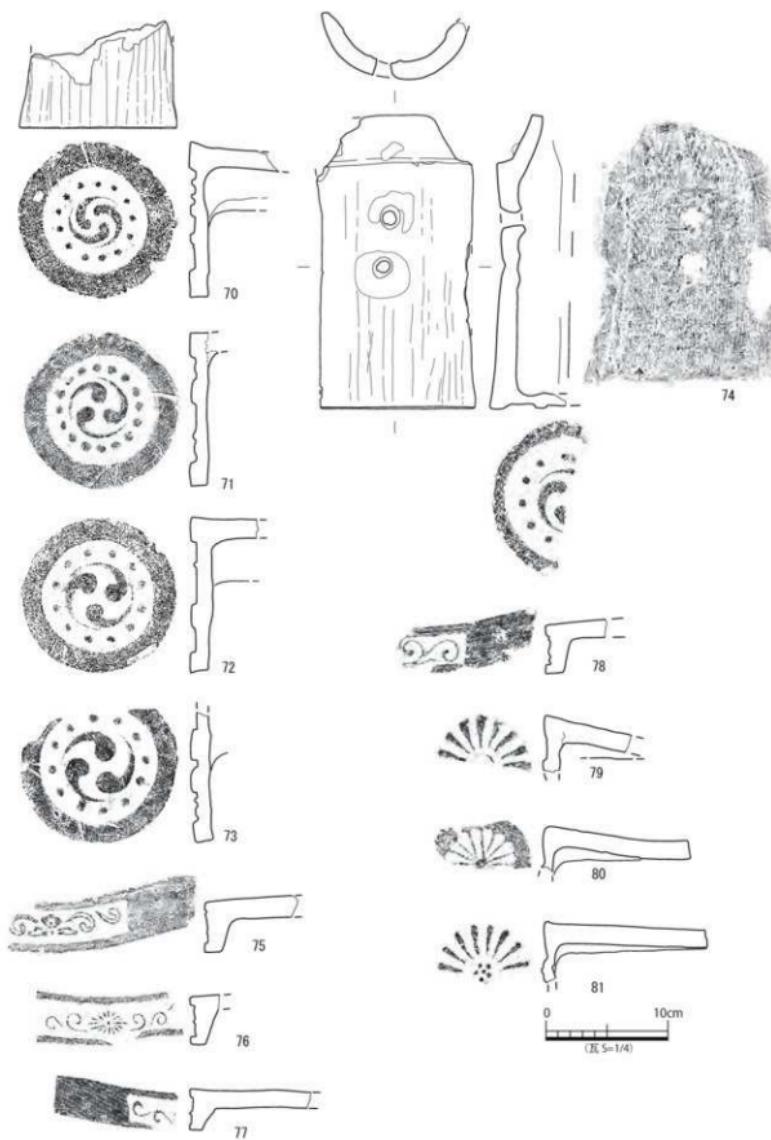
0 10cm
(土器 5=1/3)



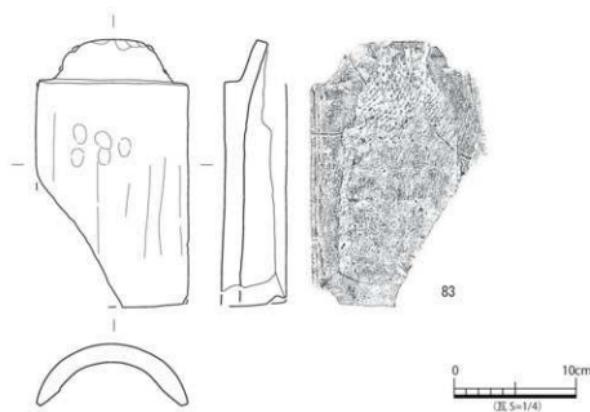
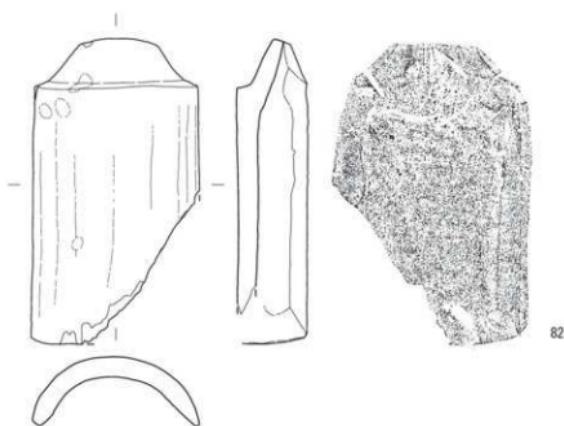
第15図 SK108出土遺物実測図(5)



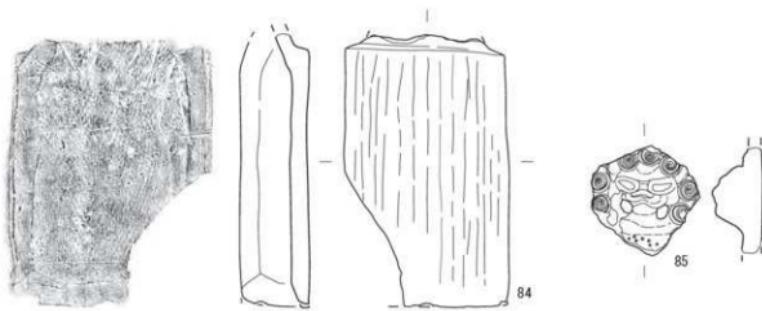
第16図 SK108出土遺物実測図(6)



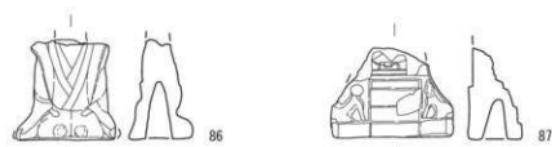
第17図 SK108出土遺物実測図(7)



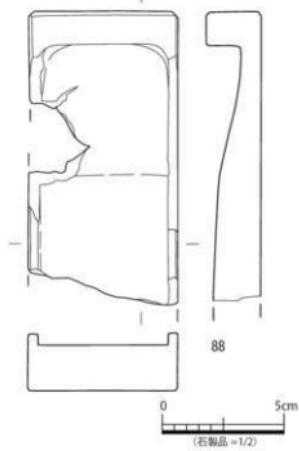
第18図 SK108出土遺物実測図(8)



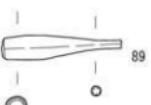
0 10cm
(石製品 = 1/4)



0 5cm
(土製品 = 1/2)



0 5cm
(石製品 = 1/2)



0 5cm
(金属製品 = 1/2)

第19図 SK108出土遺物実測図(9)

88 は墨池が深く、硯縁に面取りがみられ、石材はチャートである。

89 は煙管の吸口、90 は雁首であり、共に材質は真鍮である。

柱穴

S P 1 0 9 (第 20 図)

調査区東側において検出した柱穴で、S D 111 に切られる。検出面の標高は 1.20m である。平面形は円形を呈し、直径は 0.60×0.50 m、深さ 0.15m を測る。埋土は褐灰シルト質細砂である。

出土遺物は、土師質土器小皿 (91)、同鍋、平瓦、釘である。

S P 1 1 0 (第 20 図)

調査区東側に検出した柱穴で、S D 111 に切られる。検出面の標高は 1.20m である。平面形は円形を呈し、直径は 0.63m、深さ 0.19m を測る。埋土は焼土を含む灰オリーブシルト質細砂である。

出土遺物は、土師質土器小皿 (92 ~ 96)、磁器碗、丸瓦、平瓦である。92 ~ 94 は口径 8 ~ 9 cm の小皿で、95・96 は静止糸キリにより切り離される。

S P 1 1 2 (第 20 図)

調査区東側において検出した柱穴で、S D 111 に切られる。検出面の標高は 1.16m である。柱穴の東半分は擾乱を受ける。平面形は円形を呈し、直径は 0.78m、深さは 0.19m を測る。板状の石が多量に検出される。

出土遺物は、陶器碗小片、平瓦小片であり、図化できるものはない。

S P 1 1 3 (第 20 図)

調査区東側に検出した柱穴で、S P 110 の北側に位置する。検出面の標高は 1.22m である。平面形は円形、直径は 0.60m、深さ 0.27m を測る。埋土は礫を多量に含む褐灰シルト質細砂である。

出土遺物は、陶器碗 (97)、同擂鉢 (98)、鬼瓦 (99)、磁器碗、土師質土器皿、丸瓦、平瓦、貝。

97 は肥前系で、内面は白泥のハケが施される。98 は備前焼である。

S P 1 2 1 (第 20 図)

調査区東側において検出した柱穴で、S D 111 に切られる。検出面の標高は 1.30m である。平面形は円形を呈し、直径は 0.60×0.42 m、深さは 0.08m を測る。

出土遺物は、土師質土器杯 (100) のみである。

第 1 遺構面包含層出土遺物 (第 21 図・写真図版 14)

101 は肥前系磁器紅猪口で、笠文が描かれる。102 は肥前系磁器小皿で、内面に陽刻四方襟と陽刻文がある。成形は型打ちである。103・104 は肥前系磁器小碗で、高台に砂目が付着する。104 の外側は笠文と圓線を描く。105 は瀬戸系磁器碗で、外面に竹文、草花文、圓線、見込みに「寿」を描く。106 は肥前系磁器皿で、内面に遠山と樹木を描き、蛇ノ目回形高台である。107 は青磁鉢。

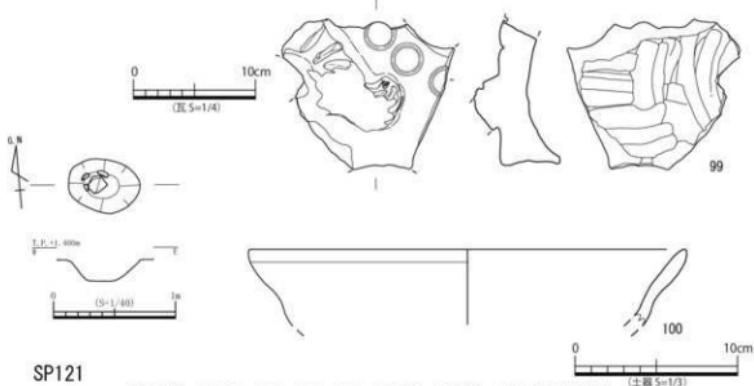
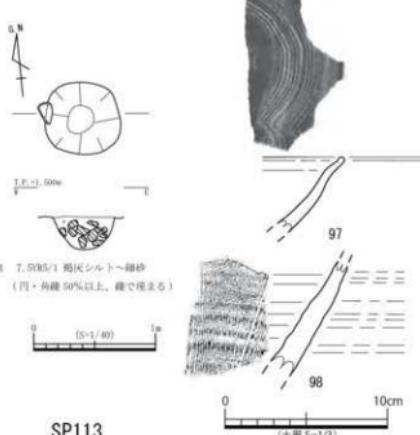
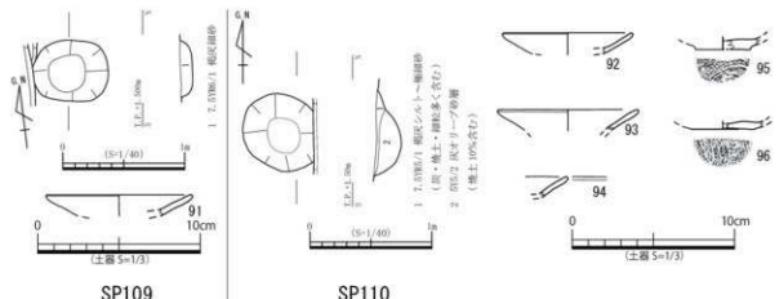
108 は陶器小碗で、外面に白化粧土のハケ、底面に墨書がある。109 は陶器花生で、底面に白化粧土のハケと墨書がある。110 は備前焼擂鉢である。111 は屋島焼陶器の急須蓋で、底部は回転糸キリ。

112 は土師質土器の焼塙壺蓋であり、内面に布目の圧痕が残る。

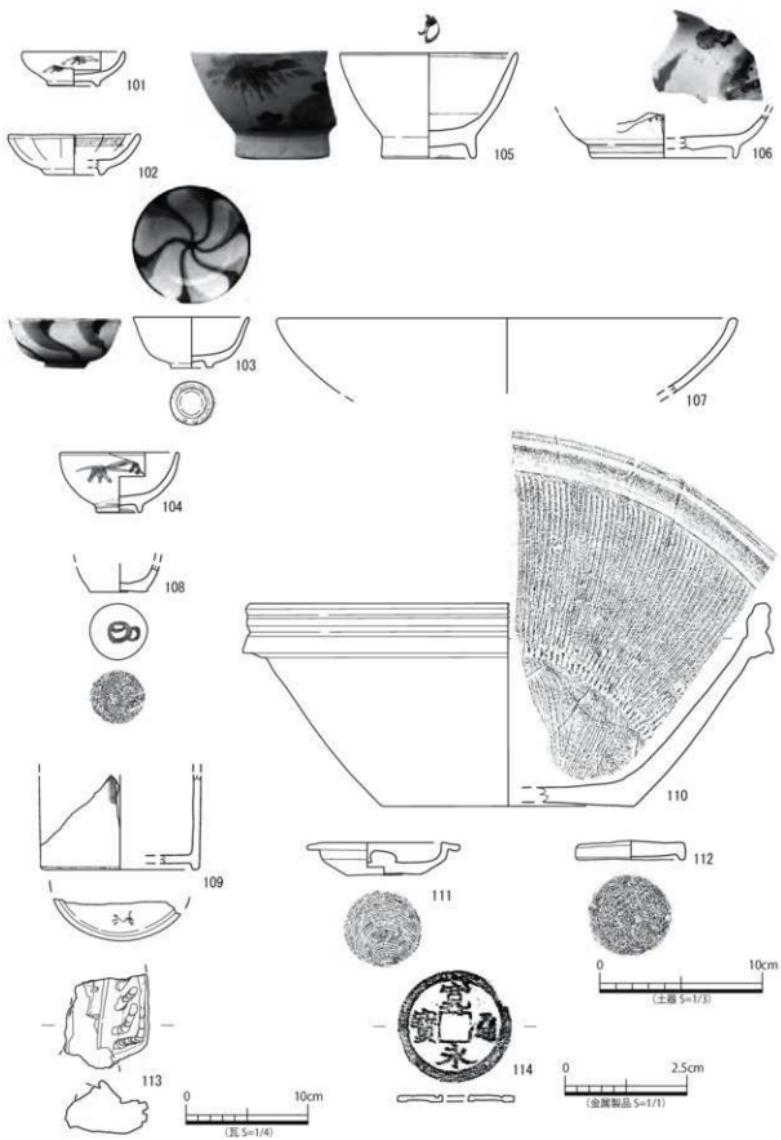
113 は鬼瓦の破片である。

114 は寛永通宝である。

768 はサンゴである (写真図版 14)。



第20図 SP109・110・112・113・121 平・断面図、出土遺物実測図



第21図 第1構面包含層出土遺物実測図

第3節 第2造構面の造構・遺物

1 調査の概要

第2造構面は調査区全域において検出したが、調査区中央部の1工区西側では擾乱が広く及んでおり、造構は南壁側の一部だけで検出される。造構面の土層は、1工区では4層灰オリーブシルト質細砂、2工区では48層焼土・炭を若干含む褐シルト質細砂を基本とする。造構面の標高は1.15m前後を測る。

調査は、1工区を造構面まで重機で下げ、人力による造構の調査を行い、全ての調査終了後に2工区を同様な工程で実施した。検出した造構は、石垣、溝、土坑、柱穴である。

2 造構・遺物

石垣

SW225（第23図）

調査区東側において検出した石垣であり、SK 226とSK 230の中間に位置する。石垣は4個の石で構築されており、石材は北側の2石が花崗岩、残りは安山岩である。石垣は東側に面を持ち、南北方向に延びる。検出した長さは1.10mであり、方位はN-0°-Eである。石は1段のみ残存し、上面の標高は1.25m前後である。石の平面形は長方形と三角形を呈し、長さ0.18~0.44m、厚さ0.08~0.14mを測る。石の下には安定させる目的で薄い石が置かれている。本石垣は東側に面を持つことから何らかの区画と考えられる。遺物の出土がないため時期は不明であるが、SK 108に切られることがや石垣上面の標高が他の造構の検出面とほぼ同一であることから様相7と考えられる。

溝

SD201（第24図）

調査区東側において検出した溝であり、SK 203・205・SP 227に切られる。SD 202の西側に位置し、溝中心間の間隔は約1.00mである。検出面の標高は1.15~1.20mである。検出した全長は4.10m、幅0.42~0.70m、深さ0.08mを測り、溝の平面形は不整である。方位はN-0°-Eである。断面は非常に浅いU字形で、底面は平坦である。埋土は褐灰+灰黄褐シルト質細砂の単一層である。所属時期は造構面及び出土遺物より様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器小皿と鍋の小片のみであり、図化できるものはない。

SD202（第24図）

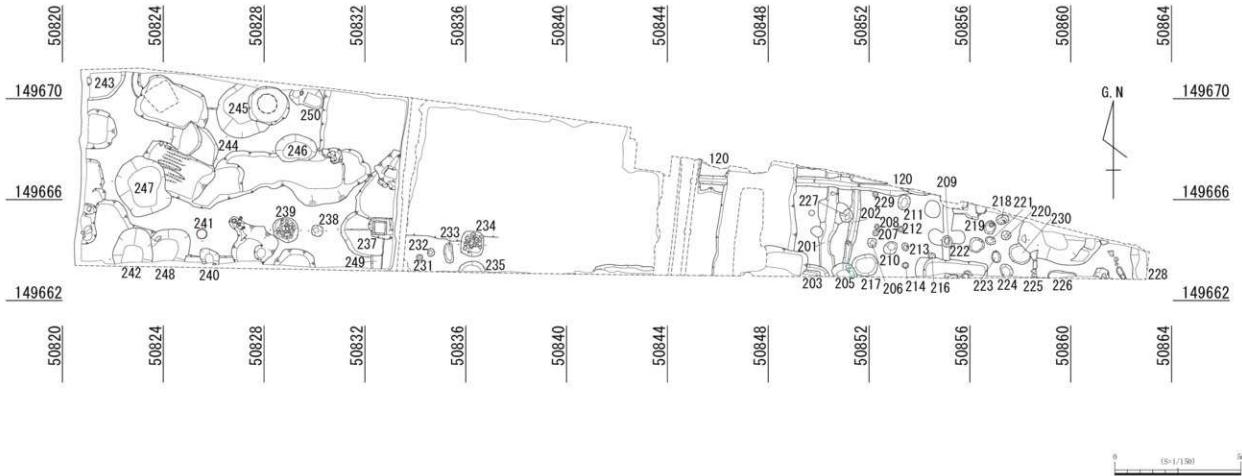
調査区東側において検出した溝であり、SS 101の北側に位置する。SD 201の東側に位置し、溝中心間の間隔は約1.00mである。検出面の標高は1.15~1.20mである。検出した全長は3.45m、幅0.26~0.36m、深さ0.06mを測る。方位はN-7°-Eである。断面は非常に浅いU字形で、底面は北方に緩やかに下がっている。埋土は灰黄褐色～中砂の単一層である。所属時期は造構面及び出土遺物より様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、丸瓦(115)、陶器擂鉢、土師質土器小皿がある。

土坑

SK203（第25図）

調査区東側において検出した土坑であり、SD 201を切る。検出面の標高は1.15mである。西側は擾乱を受け、南側は調査区外であるため全体の平面形は不明であるが、円形と考えられる。検出された規模は1.05×0.42m、検出面からの深さは0.35mである。掘り込みは段を有する。埋土は焼土・



第22図 第2遺構面平面図

炭を含む暗オリーブ褐色シルト質細砂である。所属時期は様相7に相当すると考えられる。

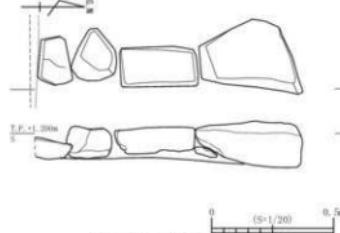
出土遺物は陶器碗(116)、同小壺(117)、土師質土器小皿(118)、同鍋、平瓦である。

116は瀬戸・美濃系で、豊付と高台内側に砂目が付着する。117は備前焼である。

SK205 (第25図)

調査区東側において検出した土坑であり、SK203の東側に位置する。SD202を切る。検出面の標高は1.15mである。南側半分は調査区外であるが、平面形は円形を呈すると思われる。直径0.83m、深さは0.25mを測る。埋土は暗オリーブ褐色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物から

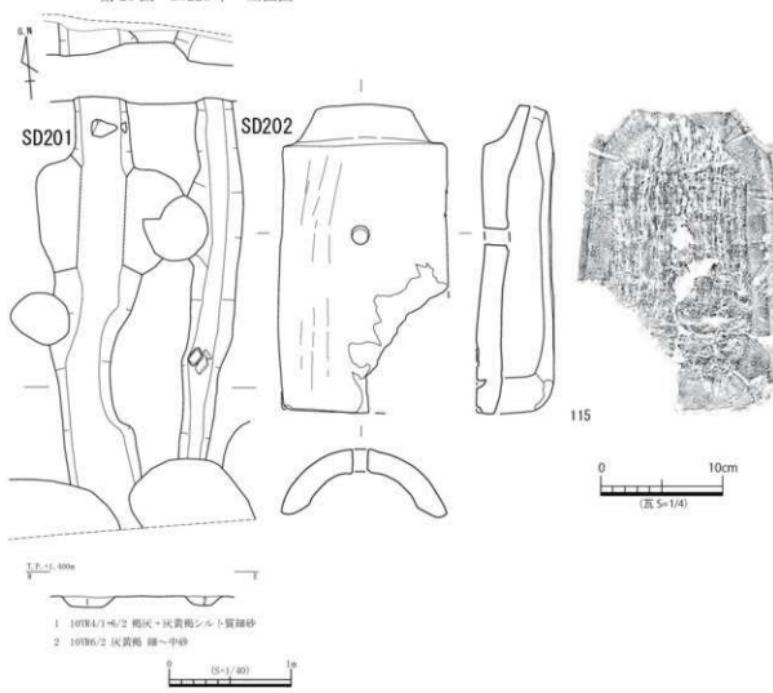
様相7に相当すると考えられる。



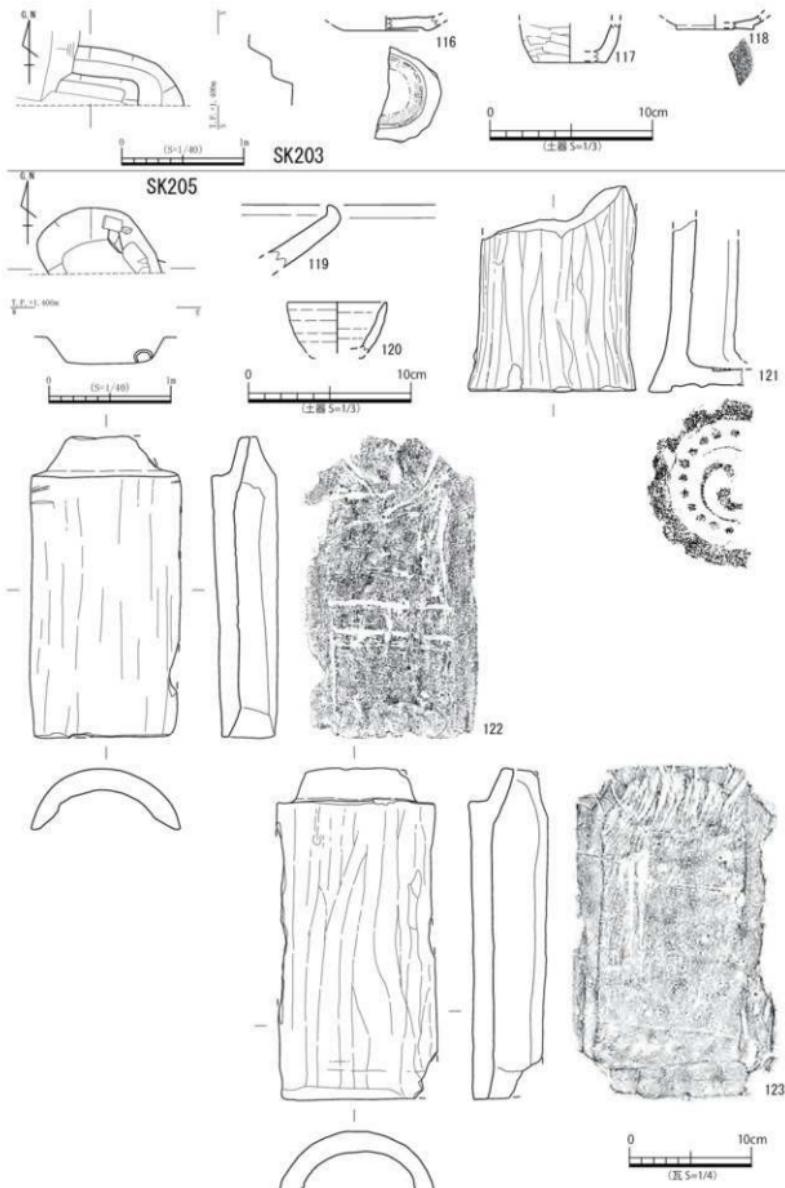
第23図 SW225 平・立面図

出土遺物は、陶器鉢(119)、土師質土器杯(120)、軒丸瓦(121)、丸瓦(122・123)、磁器碗、土師質土器皿である。

119は備前焼である。120は体部内外面に稜を有し、急傾斜で立ち上がる。121は佐藤分類IV類38であり、瓦当裏面の調整はC1である。122は凹面に布目、コビキBが施され、123は凸面上端に面取りがあり、凹面は布目、コビキB、タタキが施される。



第24図 SD201・202 平・断面図、出土遺物実測図



第25図 SK203・205 平・断面図、出土遺物実測図

S K 210 (第 26 図)

調査区東側において検出した土坑であり、SK 217 の北東側に位置する。検出面の標高は 1.15m 前後である。平面形は不整円形を呈し、直径 0.58×0.48 m、深さは 0.19m を測る。底面が北東側に偏る。埋土は中砂を含む灰黄褐シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相 7 に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯 (124)、陶器捏鉢 (125)、平瓦である。

S K 211 (第 26 図)

調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は 1.17m 前後である。平面形は梢円形を呈し、直径 0.60×0.47 m、深さは 0.14m を測る。埋土は灰黄褐 + 褐灰細～中砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相 7 に相当すると考えられる。

出土遺物は、宋銭「元豐通宝」(126)、陶器捏鉢、土師質土器小皿、軒丸瓦、平瓦、漆喰である。

S K 228 (第 26・27 図)

調査区東端において検出した遺構で、調査範囲が非常に狭いため遺構の性格は不明であるが、土坑として報告する。検出面の標高は 1.21m 前後である。平面形は不明である。検出した東西方向の長さは 0.60m、深さは 0.28m を測る。埋土は炭を多量に含むオリーブ黒灰シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相 7 に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器碗 (127)、同蓋 (128)、同合子 (129)、同鉢 (130)、陶器碗 (131・132)、同皿 (133)、同鉢 (134)、同灯明皿 (135)、土師質土器皿 (136)、同杯 (137)、同熔烙 (138)、平瓦 (139)。

127 は肥前系の「くわらんか碗」で、外面に蓮弁文と草花文、内面に圓線、見込みに「寿」を描く。128 は肥前系で、外面に草花文と圓線、内面に四方襟、草花文、圓線を描く。130 は肥前系で、内外面に草花文、圓線を描く。131 は体部と底部の境に明確な稜を持ち、削り出し高台である。132 は肥前系で、外面に松文と圓線、内面に簡略化した五弁花、圓線を描く。133 は蛇ノ目袖剥ぎが施され、疊付と見込みに砂目が付着する。134 は外面に流水文を描く。135 は備前焼で、口縁部内外面に煤が付着する。136・137 の底部切り離しは回転糸キリである。138 は底面に平行タタキ、ヘラによる押圧が施され、口縁部の孔は末貫通である。外面全面に煤が付着する。

S K 231 (第 27 図)

調査区東端において検出した遺構で、土坑として報告するが、土坑内の石を含めて 5 個の石が直線的に北西方向に検出されており、これらの石と関連する遺構の可能性もある。検出面の標高は 1.20m 前後である。平面形は梢円形であり、検出した南北方向の長さは 0.54m、幅 0.25m、深さ 0.04m を測る。埋土は炭を含む灰黄褐シルト質細砂である。

出土遺物は凝灰岩（豊島石）の加工石 (140・141) であり、鑿による加工痕が明瞭に残り、若干湾曲することから円形の井戸枠の一部と思われる。

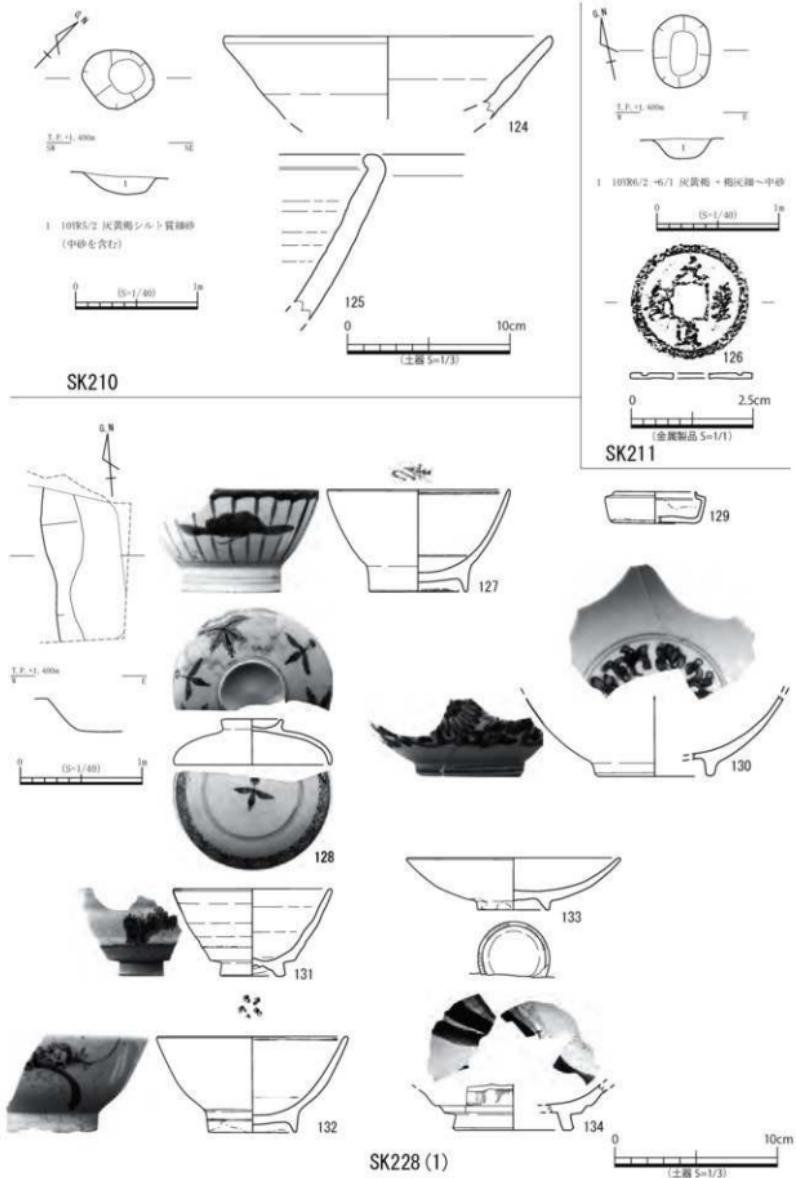
S K 233 (第 27 図)

調査区中央において検出した土坑であり、検出面の標高は 1.35m 前後である。平面形は梢円形であり、直径は 0.80×0.35 m、深さ 0.09m を測る。埋土は炭を含む灰黄褐シルト質細砂である。所属時期は様相 7 に相当すると考えられる。

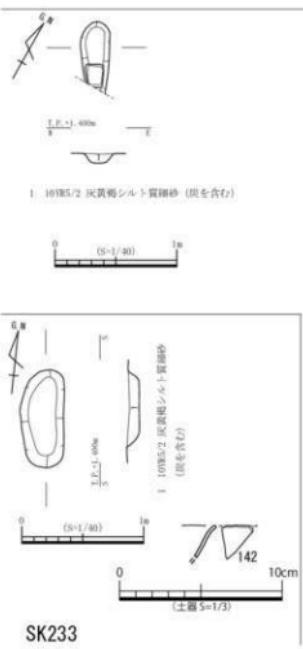
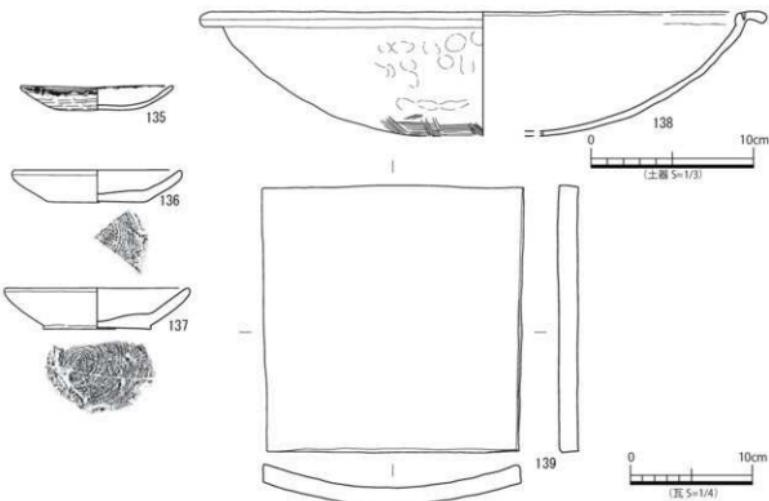
出土遺物は白磁碗 (142)、土師質土器鍋、平瓦である。142 は輪花状口縁である。

S K 236 (第 28・29 図)

調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は 1.20m 前後である。土坑の大半は調査区外であるため平面形は不明である。検出した径は 2.40×0.32 m、深さは 0.50m を測る。埋土は灰黄褐シルト質細砂の單一層で、多量の瓦が出土しており、短期間に瓦が廃棄されたと考えられる。所属



第26図 SK210・211・228平・断面図、出土遺物実測図



第27図 SK228・231・233 平・断面図、出土遺物実測図

時期は遺構面及び出土遺物から様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器碗（143）、陶器灯明皿（144）、軒平瓦（145・146）、丸瓦（147～149）、平瓦（150・151）、軒丸瓦である。

143は肥前系で、外面に丸文、内面に唐草文と圓線を描く。144は備前焼で、煤が付着する。145は佐藤分類XXIII類、146はXXII類で、接合のキザミが見える。147の凹面に抜取紐痕が残る。

S K 2 3 7 (第30図)

調査区中央において検出した土坑であり、土坑249を切り、コンクリートブロックの擾乱を受ける。検出面の標高は1.30m前後である。平面形は不整な円形であり、直径は1.90m、深さ0.18mを測る。土坑の北半部は掘りすぎである。埋土は炭を含む黄褐色シルト質細砂である。底面はやや凹凸がある。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器酒杯（152）、同碗（153）、同蓋（154）、同皿（155）、陶器蓋（156）、同水注（157）、軟質施釉陶器土瓶（158）、土師質土器瓶（159）、同焜炉（160）、同遊戯具（161・162）、磁器皿、陶器碗、同水鉢、同急須、丸瓦、平瓦、軒棟瓦である。

152は肥前系で、外面に柳葉文、内面に上絵の草花文を描く。153は小型の肥前系碗で、口縁部に鈎軸。154は肥前系である。155は瀬戸・美濃系で、内面に樓閣・遠山を描く。

156は京焼系である。157は肥前系である。158は外面全面に煤が付着する。

159は底部中央に1個、体部に5個の孔を有し、底面は回転糸キリが施される。160は方形の焜炉であり、外面は非常に滑らかで光沢がある。上面角に刻印がある。

161は蓋で、外面に紅葉を描く。162は橋であり、表面には軸が部分的に残存し、裏面に墨書がある。

S K 2 4 0 (第30図)

調査区西側において検出した土坑であり、SK248の東に位置し、南側は調査区外である。検出面の標高は1.20m前後である。平面形は不整円形を呈し、直径は0.75m、深さ0.09mを測る。掘り込みは緩やかである。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器碗（163）、土師質土器鍋である。

163は肥前系で、外面に陰刻花文、内面に四方襷と圓線を描く。

S K 2 4 1 (第30図)

調査区西側において検出した土坑であり、SK240の北に位置する。検出面の標高は1.20mである。平面形は円形を呈し、直径は0.42m、深さ0.11mを測る。土師質土器甕の底部が掘方に密着するようにならって検出され、内面に僅かであるが石灰質の付着物が残り、便所と考えられる。

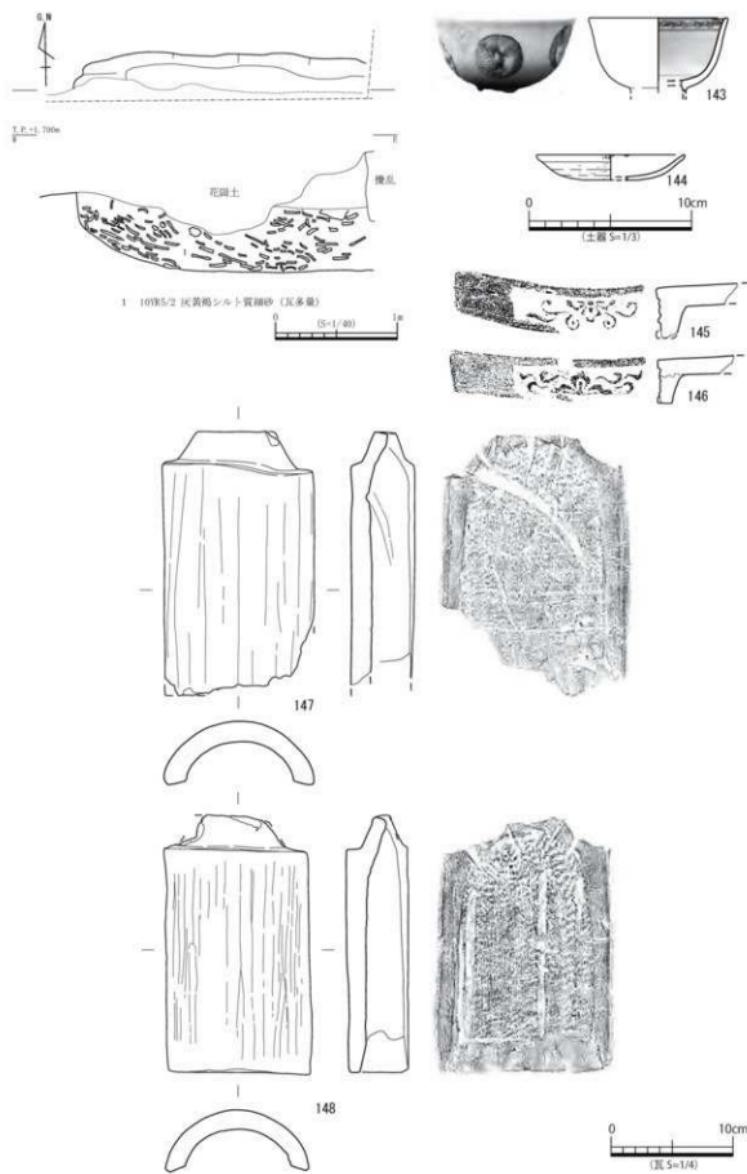
S K 2 4 2 (第31図)

調査区南西隅において検出した土坑であり、土層観察により土坑248に切られることが判明する。上面は擾乱により削平され、検出面の標高は0.90mである。平面形は梢円形を呈し、検出した南北方向の径は1.36m、東西の径は1.58m、深さ0.38mを測る。底面は平坦であるが、東側がやや下がる。埋土は5層に分層され、レンズ状堆積である。所属時期は様相7に相当すると考えられる。

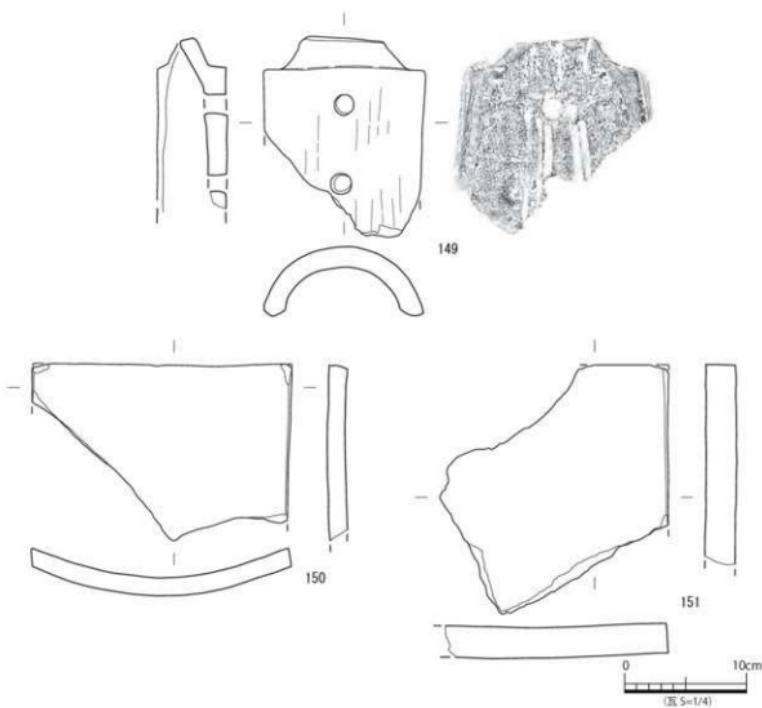
出土遺物は、磁器碗（164）、同皿（165）、同蓋（166）、同髮油壺（167）、陶器行平（168）、土師質土器植木鉢（169）、同カマド（170）、軒丸瓦（171）、軒平瓦（172）である。

164は肥前系で、外面に草花文と圓線、内面に圓線を描く。165は肥前系で、外面に唐草文と圓線、見込みに五弁花を描く。166は肥前系で、つまみを欠損する。外面に草花文と圓線を描く。167は肥前系で、外面にタコ唐草文と樹木を描く。

171は佐藤分類IV類175に類似し、瓦当裏面の調整はC3である。172はXXIII類106である。



第28図 SK236 平・断面図・出土遺物実測図(1)



第29図 SK236出土遺物実測図(2)

SK244(第32図)

調査区西側において検出した土坑であり、北側と南側は擾乱により削平される。SK245とSK247の中間に位置し、検出面の標高は1.13m前後である。平面形は不整円形を呈し、直径は1.86m、深さ0.35mを測る。掘り込みは東側に段を有し、底面は平坦である。埋土は4層で、最上の第1層は多量の土器や瓦を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相6・7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器瓶(173)、同皿(174)、土師質土器杯(175)、軒丸瓦(176・177)、陶器碗、同皿、土師質土器焰熔、丸瓦、平瓦である。

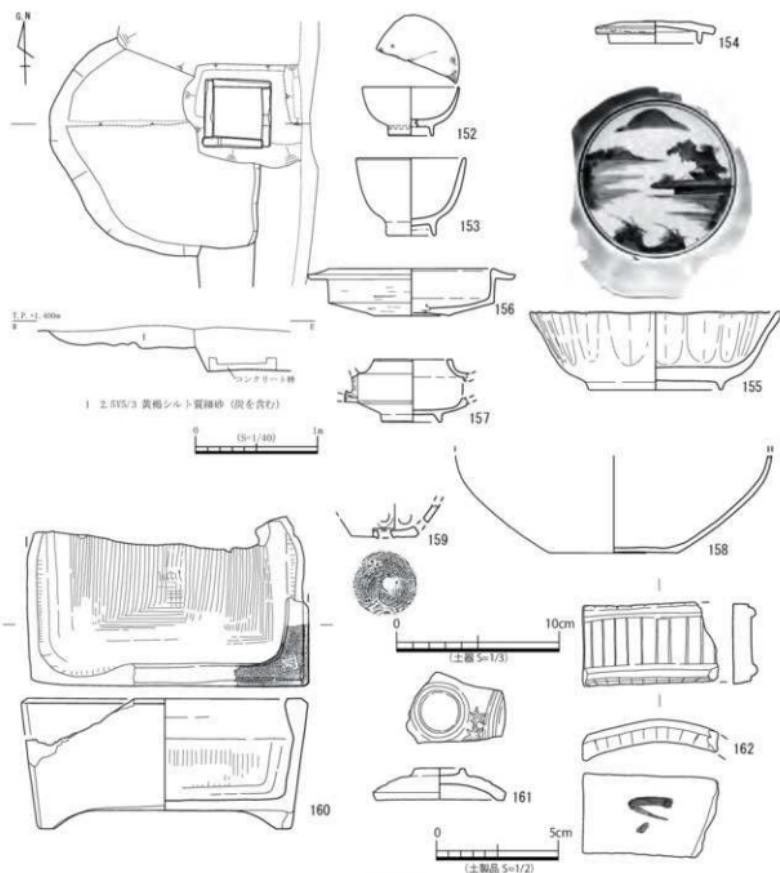
173は外面に草花文と圓線を描く。174は削り出し高台で、見込みに4カ所の胎土目がある。

175の底面は回転糸キリの後にナデが施される。

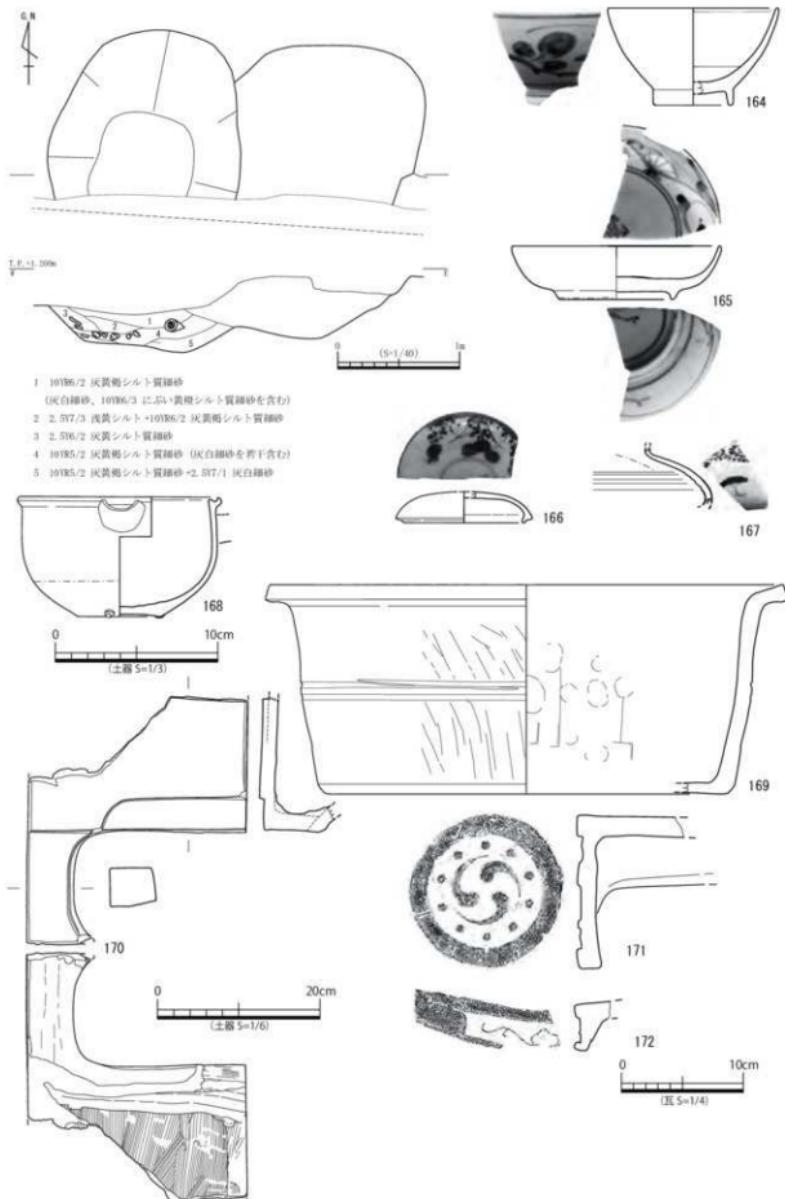
176は佐藤分類IV類133に類似し、177は佐藤分類II類23であり、共に瓦当裏面の調整はC3である。

SK245(第33図)

調査区西側において検出した土坑であり、北東側はコンクリート製井戸により削平される。SK244の北東に位置し、検出面の標高は1.14mである。平面形は円形を呈し、直径は2.17m、深さ0.44m



第30図 SK237・240・241 平・断面図、出土遺物実測図



第31図 SK242 平・断面図、出土遺物実測図

を測る。底面は平坦である。埋土は3層であり、埋土の大部分を占める第1層は多量の土器や瓦を含む。所属時期は造構面及び出土遺物から様相6・7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器皿(178)、陶器擂鉢(179)、同甕(180)、同火鉢(181)、土師質土器土鍤(182)、丸瓦(183)、菊丸瓦(184～186)、磁器碗、陶器碗、同鉢、軒丸瓦、軒平瓦、軒棧瓦、漆喰である。

178は肥前系で、内面に鳥文・草花文を描き、疊付に砂目が付着する。179は備前焼の片口擂鉢である。180は外面にヘラケズリが施される。181は瀬戸・美濃系で、外面は削りによる文様を付ける。内面に接合痕が残る。

184は佐藤分類III類20、185はIII類21、186はVI類35である。

S K 2 4 6 (第34図)

調査区西側において検出した土坑であり、北側と南側は擾乱により削平される。SK 245の南東に位置し、検出面の標高は1.13mである。平面形は梢円形を呈し、直径は1.63×1.02m、深さ0.36mを測る。掘り込みは緩やかで、底面は平坦である。埋土は7層であり、焼土と炭を含む土層が多く、レンズ状堆積である。所属時期は造構面及び出土遺物から様相6・7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器仏飯器(187)、陶器皿(188)、土師質土器小皿(189)、陶器碗、同鉢、土師質土器熔炉、須恵器甕である。

188は瀬戸・美濃系灰釉陶器の折縁皿である。

S K 2 4 7 (第34～36図)

調査区西側において検出した土坑であり、北東側の上部は擾乱により削平され、中央はコンクリートブロックの擾乱を受けている。SK 242・248の北に位置し、検出面の標高は1.10～1.16mである。平面形は不整円形を呈し、直径は2.39×2.27m、深さ0.74mを測る。掘り込みは急傾斜で、底面は平坦である。埋土は8層であり、その堆積状態から1・2層、3～5層、6～8層に大別され、2層は瓦・焼土・炭を多量に含む。所属時期は様相6・7に相当すると考えられる。

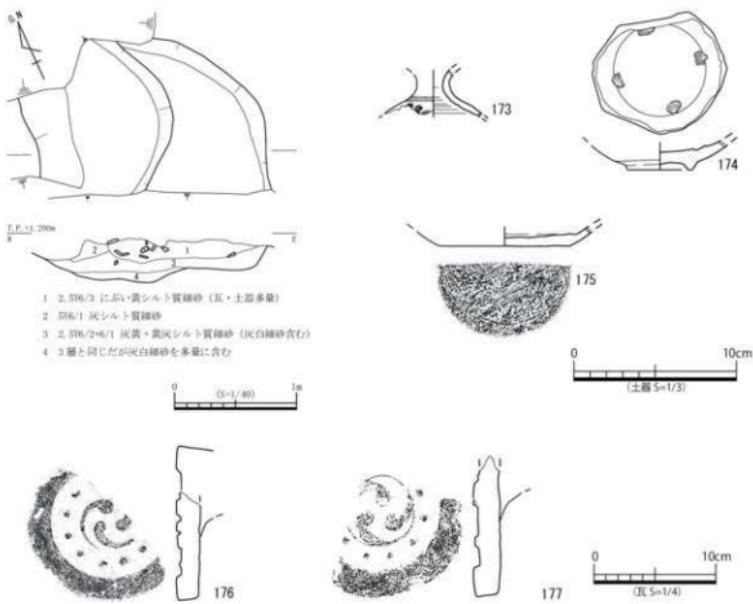
出土遺物は、磁器碗(190・191)、同蓋(192)、同皿(193～195)、同髪油壺(196)、同段重(197)、陶器碗(198～202)、同瓶(203・204)、同灯明皿(205・206)、同段重(207)、同土瓶(208・209)、同擂鉢(210)、同水鉢(211)、土師質土器焼塙壺(212～214)、軒丸瓦(215・216)、土堀瓦(217)、平瓦(218)、棟瓦(219)、煙管入れ(220)、鐵板(221・222)、鋸先(223)、土師質土器人形(224)、同土鍤(225)、砥石(226)、石造物(227)である。

190は肥前系で、見込みに「大明成」の銘がある。191は肥前系で、高い高台を有する。見込みに「寿」の文字がある。192は肥前系で、外面に菊文と流水文、内面に圈線と宝文を描く。193は肥前系で、蛇ノ目凹形高台である。内面に唐草文が描かれる。195は瀬戸・美濃系で、内面に遠山を描き、口縁部に鈎輪。196は肥前系で、外面に草花文を描く。197は肥前系で、外面に草花文を描く。体部と底部の境に砂目が僅かに付着する。

198・199は京焼系小碗。200は肥前系小碗、201は肥前系である。202は碗底部で、墨書がある。203は体部中央に最大径を持つ器形の中瓶、204は大瓶である。205は備前焼で、口縁部外側に煤が付着する。206は備前焼の受皿である。207は肥前系で、白化粧土が塗られる。209は屋島焼で、算盤玉形の器形である。210は明石焼きである。211は瀬戸・美濃系で、外面は陰刻の文様が施される。

212は焼塙壺の蓋で、外面にヘラの押圧痕、内面に布目が残る。213・214は接合痕から底部を後から充填する成形技法である。

215は佐藤分類IV類175、瓦当裏面の調整はC3である。216は佐藤分類IV類253、瓦当裏面の調整はC3である。217は陽刻の菊花文、唐草文である。218は凸面に弓状圧痕がある。



第32図 SK244 平・断面図、出土遺物実測図

220は青銅製の緒繩である。221は僅かであるが木質が残存する。222は2枚の鐵板である。223は完形の鍛先であり、V字形を呈する。

224は右足の足先。225は管状土錐。226の石材はチャート。227は人工の石である練石。

S K 2 4 8 (第36図)

調査区南西側において検出した土坑であり、SK242の東北に位置し、土層観察によりSK242を切っていると判明する。検出面の標高は1.10mである。平面形は円形を呈し、直径は1.88m、深さ0.50mを測る。掘り込みは緩やかである。埋土は5層である。所属時期は様相6・7に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器碗(228)、同鉢(229)、陶器碗(230)、同擂鉢(231・232)、土師質土器杯(233)、軒丸瓦(234)、青磁香炉、土師質土器熔炉、軒平瓦、丸瓦、釘である。

228は白磁で、外面にヘラ彫りで縦筋を表す。229は断面方形の高台で、疊付に砂目が付着する。

230は肥前系小碗。231は堺焼系で、重ね焼き痕がある。232は明石焼きで、平底である。

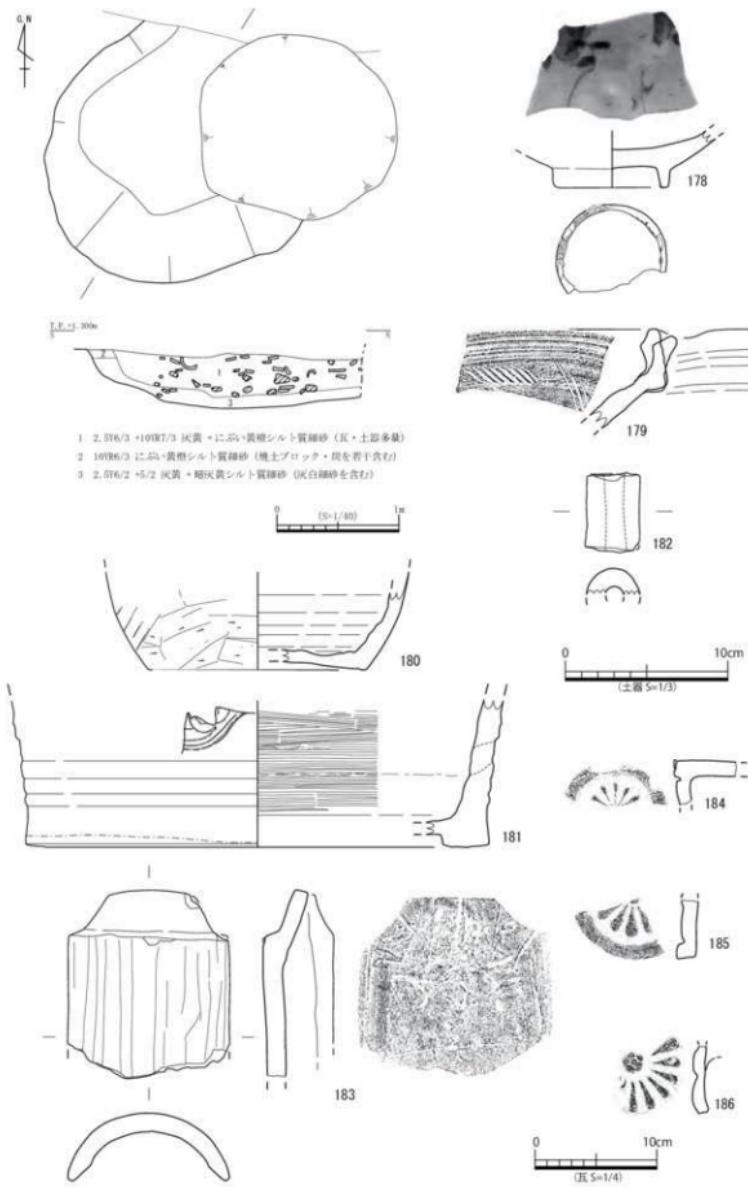
233の底面は回転糸キリである。

234は佐藤分類II類21で、瓦当裏面の調整はC3、接合痕が明瞭である。

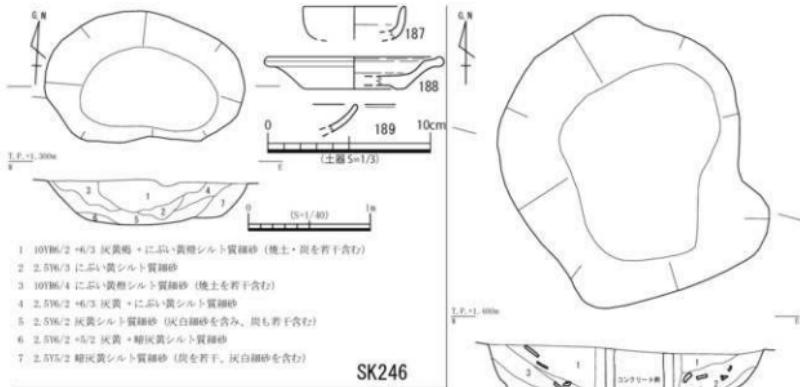
S K 2 5 0 (第36図)

2工区の中央やや東寄りにおいて検出した土坑であり、SK246の北に位置する。検出面の標高は1.13mである。平面形は楕円形を呈し、直径は1.38×0.70m、深さ0.24mを測る。掘り込みは急傾斜で、底面は東側に段を有する。埋土は炭層と褐灰シルト質細砂である。所属時期は様相6・7に相当すると考えられる。

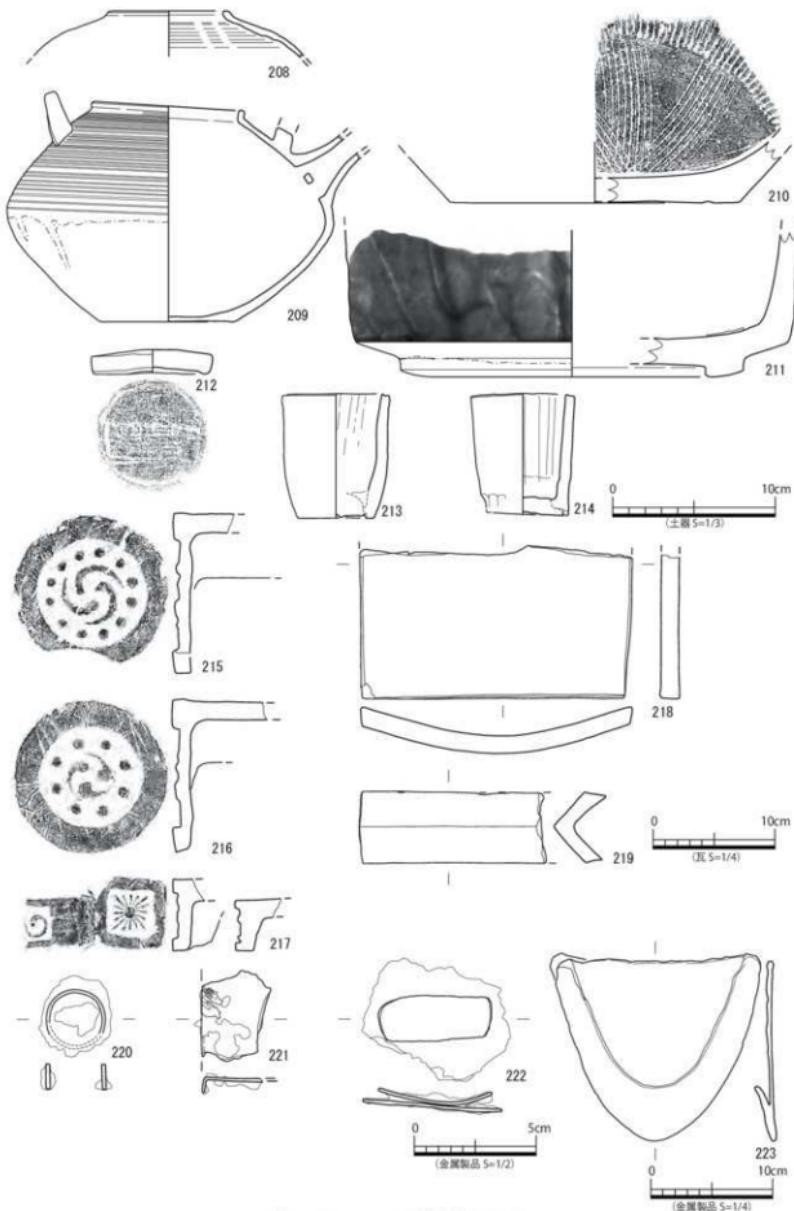
出土遺物は、磁器段重(235)、綠釉陶器碗(236)、磁器碗、土師質土器小皿、軒平瓦、スラグ。



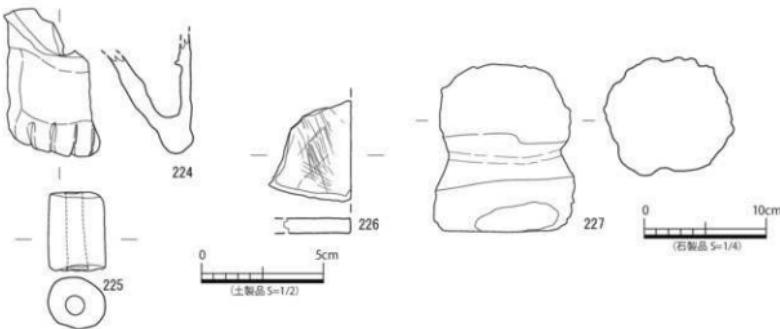
第33図 SK245 平・断面図、出土遺物実測図



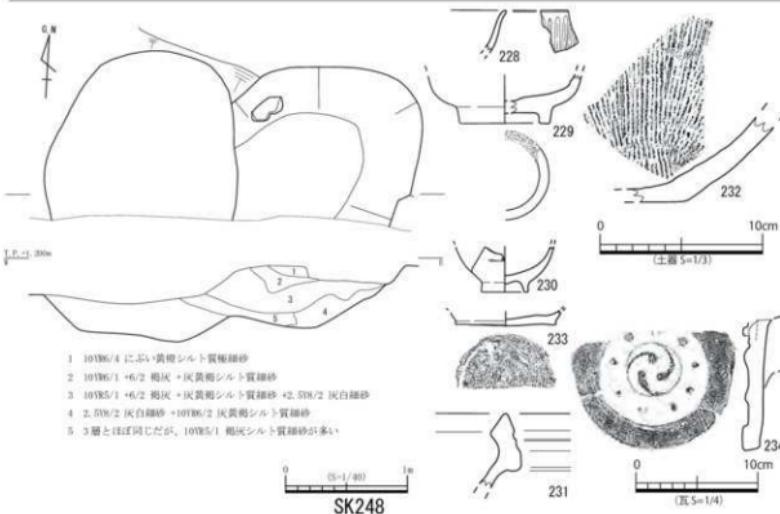
第34図 SK246 平・断面図、出土遺物実測図、SK247 平・断面図、出土遺物実測図(1)



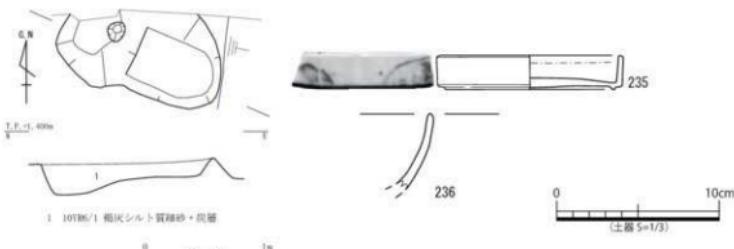
第35図 SK247出土遺物実測図(2)



SK247



SK248

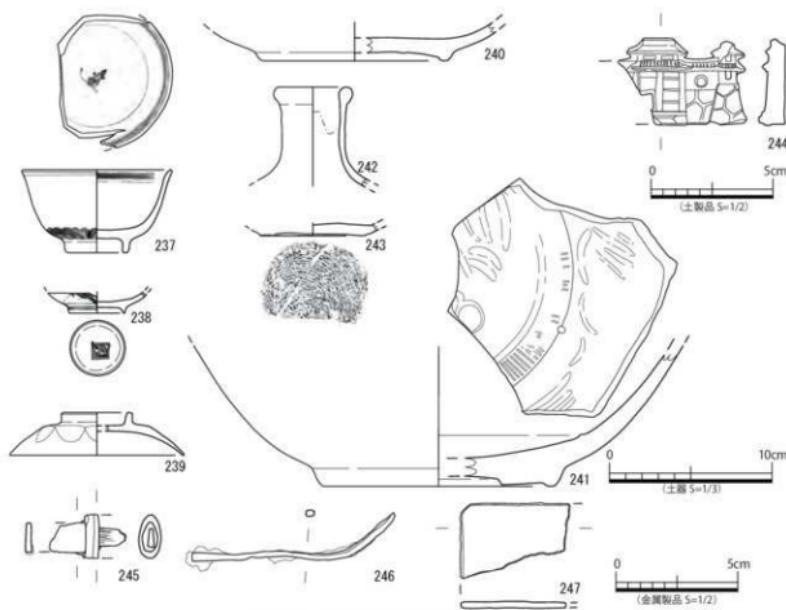


SK250

第36図 SK247出土遺物実測図(3)、SK248・250平・断面図、出土遺物実測図

第2遺構面包含層出土遺物（第37図）

237は瀬戸・美濃系磁器碗で、外面に連弧文、見込みに宝文が描かれる。239は白磁蓋で、型打ちにより成形される。240は青磁皿で、高台内に蛇ノ目釉剥ぎが施され、重ね焼き痕が残る。241は青磁鉢で、蛇ノ目回形高台であり、重ね焼き痕が残る。内面はヘラ彫りによる陰刻の文様が施される。242は瀬戸・美濃系陶器瓶で、口縁部が肥大する。243は土師質土器杯で、外面にヘラによる押圧痕が残る。底面の切り離しは回転糸キリである。244は土師質土器遊戯具の城で、全面にキラ粉が付着する。245は小柄であり、柄縁は鹿角である。茎には木質が若干残存する。246は釘である。247は青銅製の板である。



第37図 第2遺構面包含層出土遺物実測図

第4節 第3遺構面の遺構・遺物

1 調査の概要

第3遺構面は調査区全域において検出したが、調査区中央部から西端（1工区西側から2工区）にかけては擾乱が広く及んでおり、遺構は南壁寄りの一部だけで検出される。遺構面の土層は、1工区では享保3年（1718）の高松大火に伴うと考えられる焼土層（21層）と版築状堆積の27層、2工区では49層にぶい黄褐色シルト質細砂を基本とする。遺構面の標高は1.00～1.10mであり、現地表面からの深さは約0.90mである。

調査は、1工区を遺構面まで重機で下げ、人力による遺構の調査を行い、全ての調査終了後に2工区を同様な工程で実施した。検出した遺構は、溝、柱列、土坑、柱穴であり、土坑と柱穴は調査区全域にわたって多数検出した。

2 遺構・遺物

溝

S D 3 3 0（第39図）

調査区中央から西側において検出した溝であり、S P 327・338に切られる。検出面の標高は1.02～1.13mである。検出した全長は9.85m、幅0.40～0.55m、深さ0.06mを測る。方位はN-90°～Eである。断面は非常に浅いU字形で、底面は平坦である。埋土は灰白細砂を含むにぶい黄褐色シルト質細砂である。所属時期は遺構面及び出土遺物より様相5・6に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯（248）、磁器碗、陶器碗、土師質土器熔接、平瓦、鉄である。

248底面の切り離しは回転糸キリである。

柱列

S A 3 4 4（第39図）

調査区西側において検出した柱列である。掘立柱建物である可能性も考えられるが、検出面積が狭いため柱列として報告する。柱列はS P 339～343の5個の柱穴から構成され、検出面の標高は1.12～1.20mである。主軸方向はN-74°-Wである。検出した全長は8.10mを測る。柱穴の平面形は、梢円形のS P 339を除き円形である。柱穴は直径0.50～0.95m、深さ0.10～0.40mを測る。S P 341は6個の小石が並んでいる。所属時期は遺構面より様相5・6に相当すると考えられる。

出土遺物は磁器碗、陶器碗、同水鉢、土師質土器熔接、同鍋、丸瓦であるが、図化できるものはない。

土坑

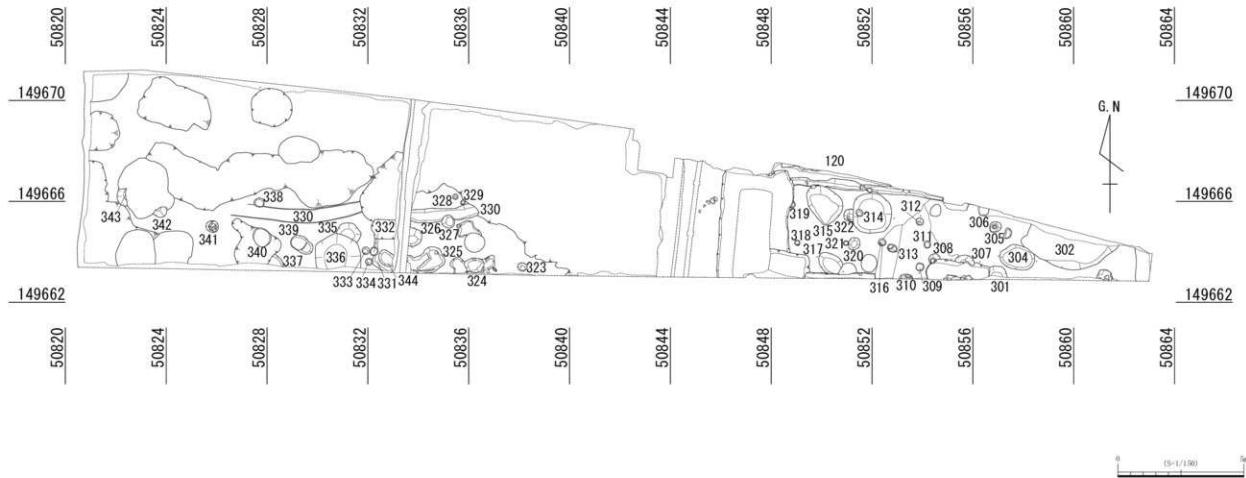
S K 3 0 1（第39図）

調査区東側において検出した土坑であり、S K 304の南西に位置する。検出面の標高は1.07mである。西側は擾乱を受け、南側は調査区外にかかる。平面形は円形と考えられ、直径は0.70m、深さは0.30mを測る。掘り込みは急傾斜である。埋土は4層に分けられ、1層を除き焼土・炭を含む。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相5・6に相当すると考えられる。

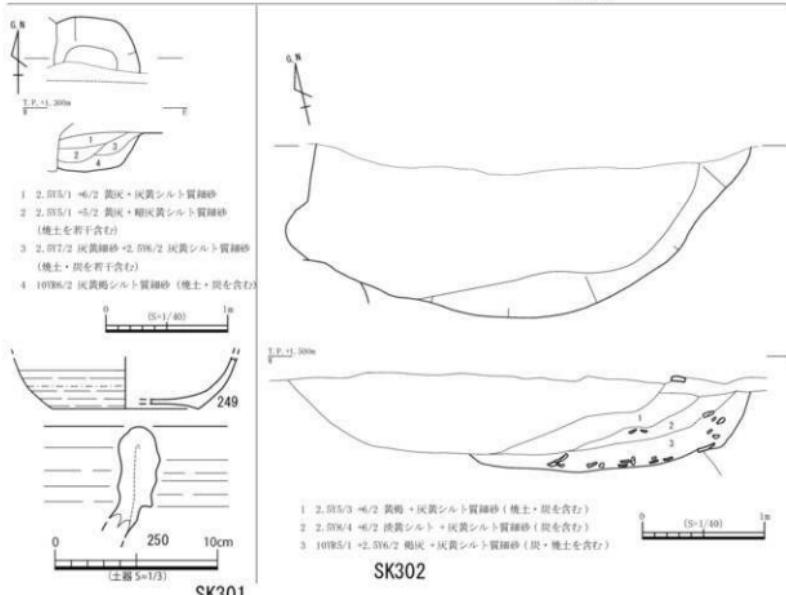
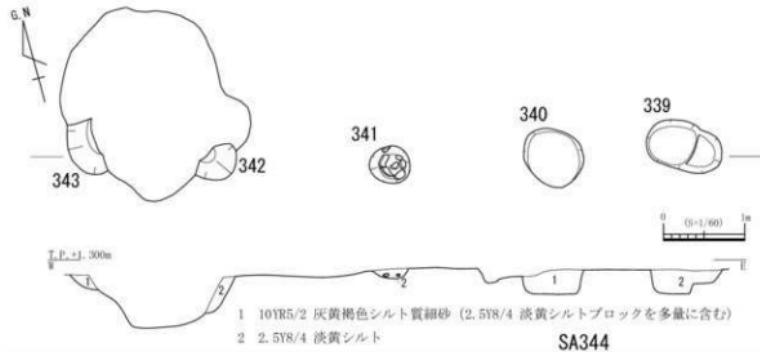
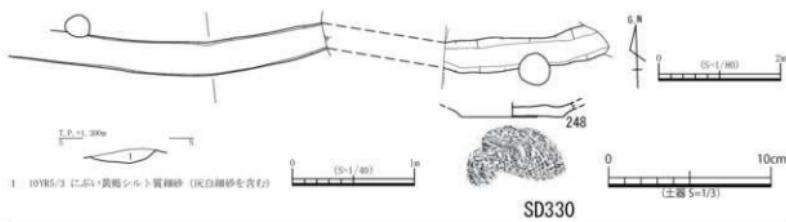
出土遺物は、陶器土瓶（249）、同備前焼大甕（250）、陶器碗、丸瓦、平瓦である。

S K 3 0 2（第39～43図）

調査区東端において検出した土坑であり、西側はS K 108に切られている。検出面の標高は1.07mである。北側は調査区外にかかる。平面形は不整な円形であり、直径は2.25m、深さは0.68mを測る。



第38図 第3遺構面平面図



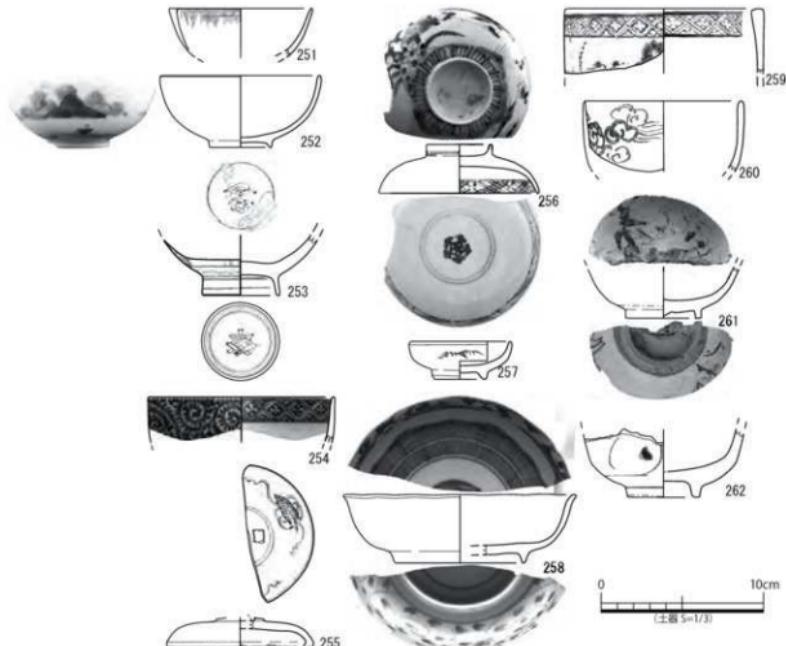
第39図 第SD330・SA344・SK301平・断面図、出土遺物実測図、SK302平・断面図

振り込みは急傾斜である。埋土は3層に分けられ、土器・瓦が多量に出土する。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5・6に相当すると考えられる。

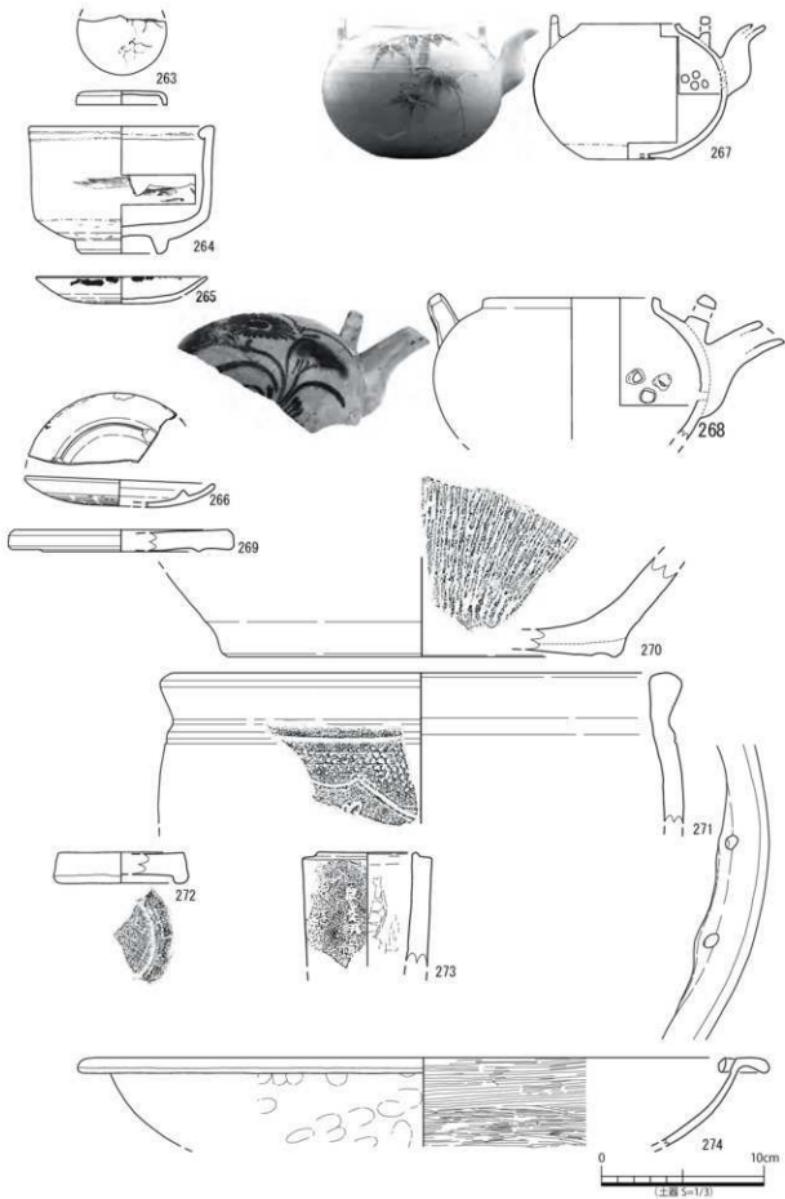
出土遺物は、磁器碗（251～254）、同蓋（255・256）、同紅猪口（257）、同鉢（258）、同花生（259）、陶器碗（260～262）、同蓋（263）、同香炉（264）、同灯明皿（265・266）、同急須（267）、同土瓶（268）、同蓋（269）、同擂鉢（270）、瓦質土器火鉢（271）、土師質土器焼塙壺（272・273）、同焙烙（274）、軒丸瓦（275～277）、丸瓦（278・279）、小柄（280）、加工石材（281・282）である。

251は肥前系で、外面に雨降り文を描く。252は肥前系で、外面に達山文を描き、成形時のひび割れがある。253は肥前系で、外面に草花文、連続文、圓線、高台内に宝文、見込みに宝文、圓線を描く。見込みに砂目が付着する。254は肥前系で、外面にタコ唐草文、内面に四方襷を描く。255は肥前系で、外面に宝文、圓線を描き、口縁部に砂目が付着する。256は肥前系で、外面に梅文、連弁文、圓線、内面に四方襷、圓線、見込みに五弁花を描く。257は肥前系で、外面に鉄絵の笛文を描く。258は肥前系で、口縁部は僅かに波状をなす。外面に唐草文、圓線、内面に草花文、区画文を描く。259は肥前系で、外面に雁文、木文、四方襷、内面に四方襷を描く。260は肥前系で、外面に雲文を描く。

261は京焼系で、内外面に上絵による草花文が描かれる。262は肥前系である。263は肥前系合子蓋であり、外面に記号が描かれる。264は口縁部が折り返され、見込みに胎土目がある。265は備前焼で、口縁部内外面に煤が付着する。266は備前焼の受皿で、内外面に重ね焼き痕が残り、外面の一



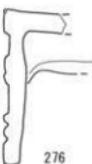
第40図 SK302出土遺物実測図(1)



第41図 SK302出土遺物実測図(2)



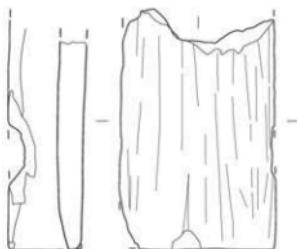
275



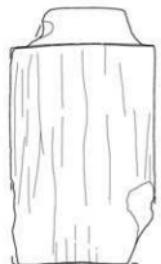
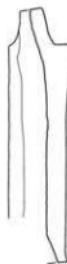
276



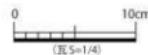
277



278



279



第42図 SK302出土遺物実測図(3)

部に自然釉がかかる。267は肥前系の上手形急須で、外面に竹文を描く。268は肥前系の丸形土瓶で、外面の文様は鉄絵である。体部内面上位には釉薬が菱形にかかってない部分がある。269は備前焼で、内面に僅かな垂帶が付き、外面に自然釉がかかる。270は堺焼で、底部に接合痕が残る。

271は口縁部がやや肥大し、体部外面はヘラによる刺突文と陰刻が施される。

272は蓋で、内面に布目が残る。273は外面に「泉湊伊織」の刻印がある。内面はしづり目の後に工具による圧痕が施される。274の体部外面は指オサエ、内面上半はハケ、下半はハケの後にヘラミガキが施される。

275は佐藤分類IV類90に類似し、瓦当裏面の調整はC3である。276は佐藤分類IV類106に類似し、瓦当裏面の調整はC3である。277は佐藤分類IV類62で、瓦当裏面の調整はC3であり、いぶしはかかっていない。278の凹面は布目・コビキB、279の凹面はゴザ目・コビキBが施される。

280は小柄の身であり、全面に木質が残存する。

281・282は甃による加工痕が明瞭に残り、石材は角巣凝灰岩（豊島石）である。

SK304（第44図）

調査区東側において検出した土坑であり、SK302の西に位置する。検出面の標高は1.07mである。平面形は梢円形であり、直径は1.36×0.96m、深さは0.14mを測る。土坑内には多量の小石が充填される。所属時期は遺構面及び出土物から様相5・6に相当すると考えられる。

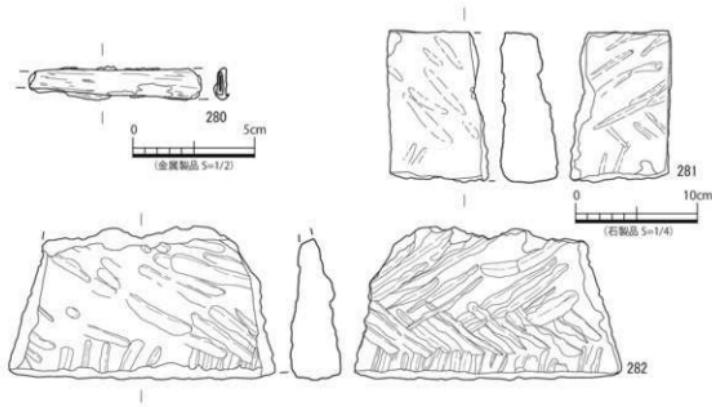
出土遺物は、陶器擂鉢（283）、土師質土器甕（284）、陶器大甕、土師質土器杯、丸瓦、平瓦。

283は明石焼である。284の外面は指オサエ・ハケ・ヨコナデの順で調整される。

SK307（第44図）

調査区東側において検出した土坑であり、SK301の西に位置する。検出面の標高は1.05mである。平面形は円形であり、直径は0.76m、深さは0.28mを測る。埋土は3層である。

出土遺物は、寛永通宝（285）、陶器碗、同擂鉢、土師質土器杯、同焰壺、平瓦である。



第43図 SK302出土遺物実測図(4)

S K 3 1 4 (第 44 図)

調査区東側において検出した土坑であり、S K 315 の東に位置する。検出面の標高は 1.00m 前後である。平面形は円形であり、直径は 1.57m、深さは 0.33m を測る。柱穴に切られ、埋土は 2 層である。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相 5・6 に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯 (286)、陶器擂鉢 (287)、同大甕 (288)、砥石 (289)、陶器碗、丸瓦、平瓦である。286 の底面は回転糸キリ。287・288 は備前焼。289 の石材は流紋岩、1 面を使用する。

S K 3 1 5 (第 44 図)

調査区東側において検出した土坑であり、S K 314 の西に位置する。検出面の標高は 1.00m 前後である。平面形は不整円形であり、直径は 1.60 × 1.15m、深さは 0.27m を測る。底面は平坦である。

出土遺物は、陶器碗、土師質土器小皿、同鍋、軒丸瓦である。

S K 3 3 5 (第 44 図)

調査区東側において検出した土坑であり、S K 336 に切られる。検出面の標高は 1.15m 前後である。平面形は楕円形であり、直径は 0.98m、深さは 0.28m を測る。土坑の西側は段を有し、東側は灰白シルトを厚さ 2 ~ 10 cm で貼り付けており、その内側に径 4 ~ 18 cm の石が充填される。東側の斜面では灰白シルトの下には焼土・炭が検出される。

出土遺物は、土師質土器杯、軟質施釉陶器であるが、図化できるものはない。

S K 3 3 6 (第 45 図)

調査区西側において検出した土坑であり、S K 335 を切る。検出面の標高は 1.15m 前後である。平面形は円形であり、直径は 1.80m、深さは 0.23m を測る。掘り込みは非常に緩やかであり、底面は平坦である。

出土遺物は、青磁碗 (290)、陶器碗、同瓶、丸瓦。290 は肥前系で、口縁部に銹軸がかかる。

柱穴

S P 3 0 8 (第 45 図)

調査区東側において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.00m である。平面形は円形であり、直径は 0.44m、深さは 0.17m を測る。底面は西に片寄る。

出土遺物は、土師質土器杯 (291)、須恵器杯である。291 は回転糸キリである。

S P 3 1 1 (第 45 図)

調査区東側において検出した柱穴であり、S P 308 の北に位置する。検出面の標高は 1.03m である。平面形は円形であり、直径は 0.30m、深さは 0.18m を測る。

出土遺物は、土師質土器杯 (292) で、底面は回転糸キリである。

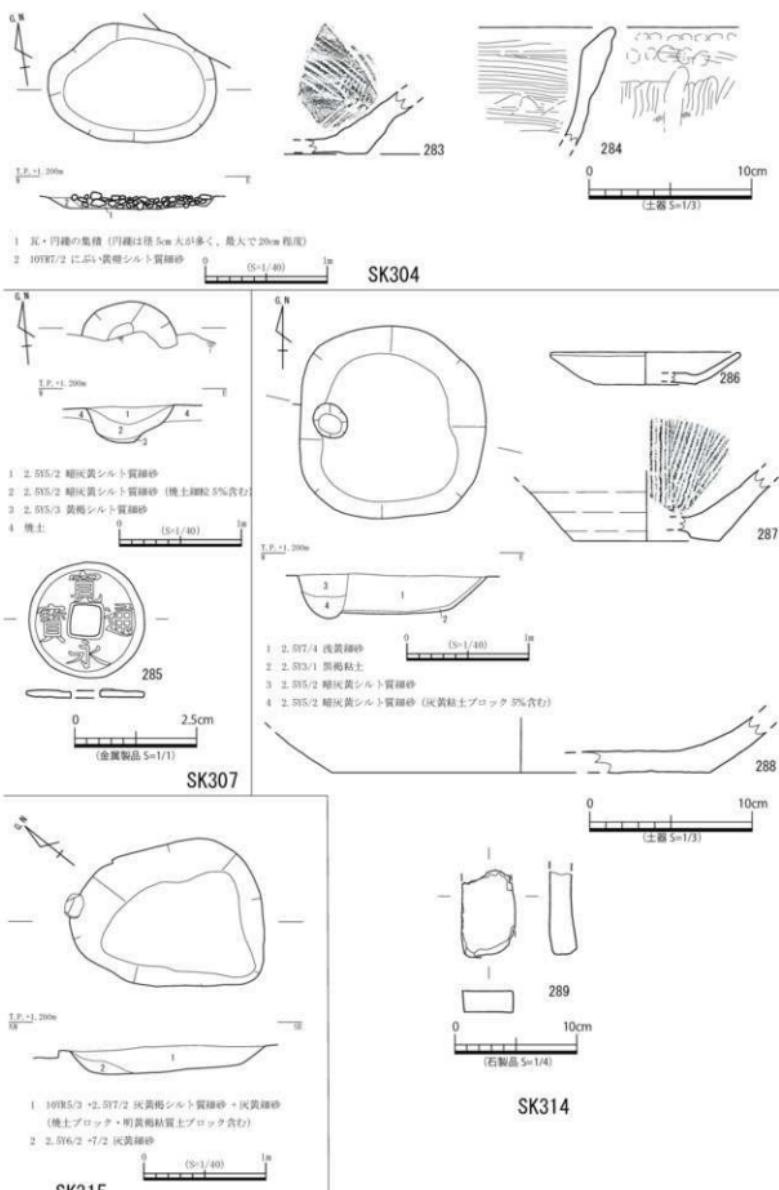
S P 3 1 6 (第 45 図)

調査区東側において検出した柱穴である。検出面の標高は 1.00m である。平面形は円形であり、直径は 0.30m、深さは 0.13m を測る。

出土遺物は、陶器擂鉢 (293)、同碗、平瓦である。

第 3 遺構面包含層出土遺物 (第 45 図)

294 は青磁碗で、内面に片刃彫りが施される。295 は肥前系磁器蓋で、外面に草花文を描く。296 は備前焼陶器擂鉢である。297・298 は土師質土器杯で、底面は静止糸キリである。299 は寛永通宝である。300 は有溝土錘であり、重量 283 g の大型である。

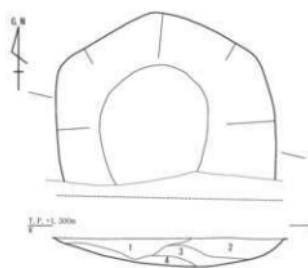


第44図 SK304・307・314・315平・断面図、出土遺物実測図



1. 2.SYS/1 -6-2 黄灰・灰黄シルト質細砂
2. 2.SYS/1 灰黄シルト質細砂
3. 2.SYS/2 地白細砂
4. 10IRZ/1 地白シルト
- (10IRZ/2 にぶく黄根シルト質細砂を含む)
5. 植土・瓦 (燒いた面)

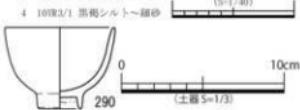
SK335



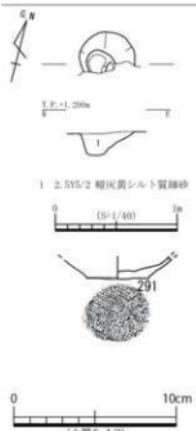
1. 10IR4/2 灰黄シルト～細砂 (瓦・瓦を少量含む)

2. 10IR4/2 灰黄シルト～細砂 (小円窓 5%含む)

3. 10IR4/3 にぶく黄根細砂 0 (S=1/40) 1m

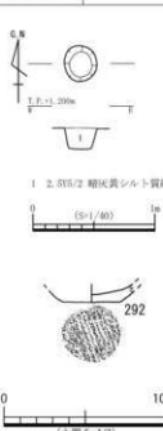


SK336



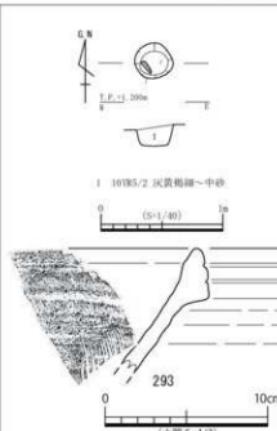
1. 2.SYS/2 灰灰黄シルト質細砂

0 (S=1/40) 3m



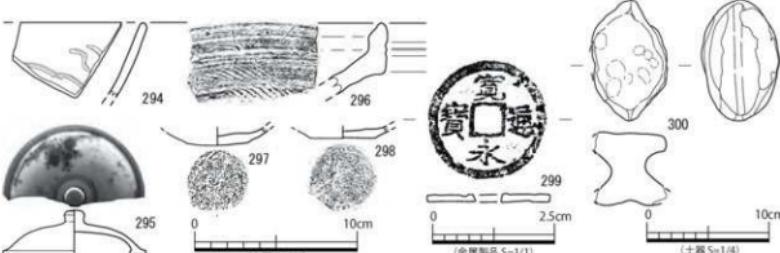
1. 2.SYS/2 灰灰黄シルト質細砂

0 (S=1/40) 1m

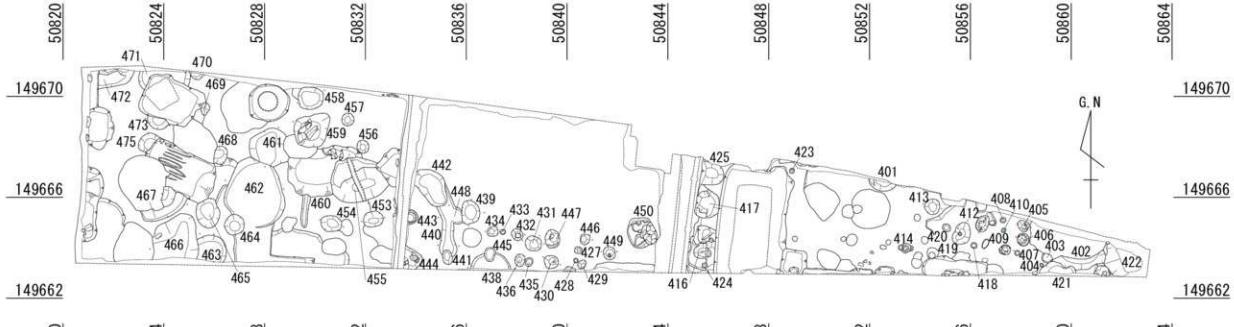


1. 10IR5/2 灰黄褐色～中砂

0 (S=1/40) 1m



第 45 図 SK335・336、SP308・311・316 平・断面図、出土遺物実測図、第 3 面包含層出土遺物実測図



第46図 第4面構造平面図

第5節 第4造構面の造構・遺物

1 調査の概要

第4造構面は調査区全域において検出したが、調査区中央部（1工区西側）では擾乱が広く及んでおり、造構は南壁側だけで検出される。この範囲は重機の掘削が第5造構面まで達したため、検出した造構は第4造構面の造構として報告する。造構面の土層は、1工区では29層灰オリーブシルト質細砂、2工区では49層に亘る黄褐色シルト質細砂を基本とする。造構面の標高は1.00m前後を測る。

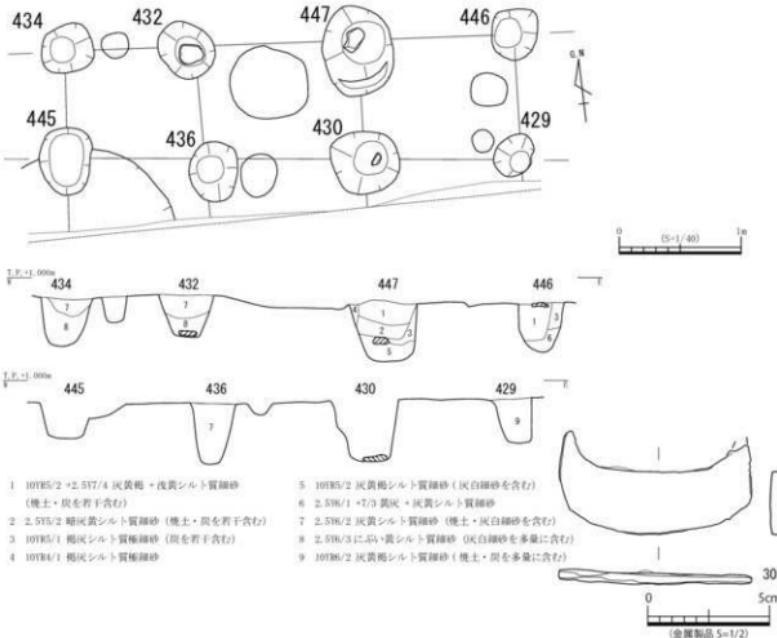
調査は、1工区を造構面まで重機で下げ、人力による造構の調査を行い、全ての調査終了後に2工区を同様の工程で実施した。検出した造構は、掘立柱建物、溝、土坑、柱穴である。

2 造構・遺物

掘立柱建物

SB476（第47図）

調査区中央において検出した掘立柱建物であり、南側は調査区外である。検出面の標高は0.83m前後である。規模は東西3間、南北1間以上（4.06×1.42m）を測り、南側に展開すると考えられる。本造構はS P 429・430・432・434・436・445～447の8個の柱穴から構成され、総柱の建物である。主軸方向はN-87°Wである。東西方向の心心間距離は1.04～1.40m、南北は0.90～1.00mである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は0.37～0.74m、深さは0.31～0.50である。S P 430・



第47図 SB476 平・断面図、出土遺物実測図

432・447は底面に根石が検出される。所属時期は様相5・6に相当すると考えられる。

出土遺物は、火打金(301)、陶器碗、土師質土器杯、同鍋、平瓦、釘である。

土坑

SK402(第48図)

調査区東端において検出した土坑であり、SK302とSK421に切られる。検出面の標高は0.96mである。平面形は円形であり、検出した径は2.10m、深さは0.29mを測る。掘り込みは急傾斜である。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯(302)、軒平瓦(303)、磁器碗、陶器碗、丸瓦、平瓦である。

302は外面下半に回転ヘラケズリが施される。303は佐藤分類XX類89である。

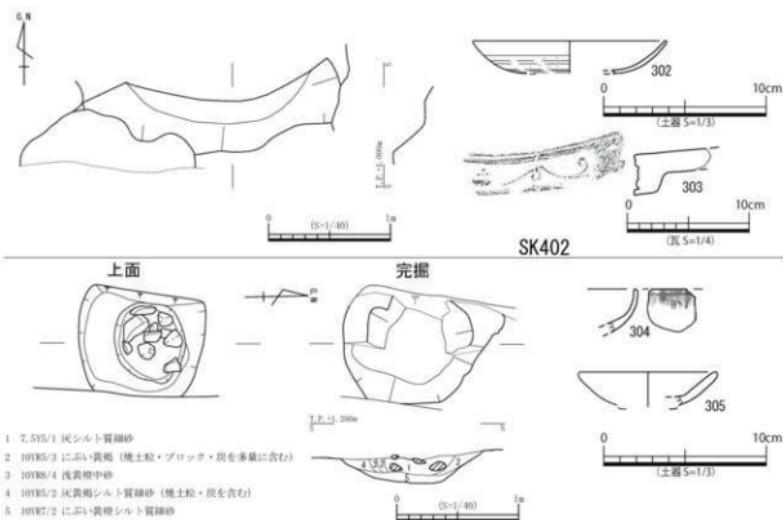
SK417(第48図)

調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は0.92mである。平面形は不整梢円形を呈し、直径は1.17m、深さは0.18mを測る。土坑の内側には焼土粒・焼土ブロック、炭を多量に含むにぶい黄褐色シルト細砂が輪状に廻り、その内側に8~26cmの小石が充填される。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

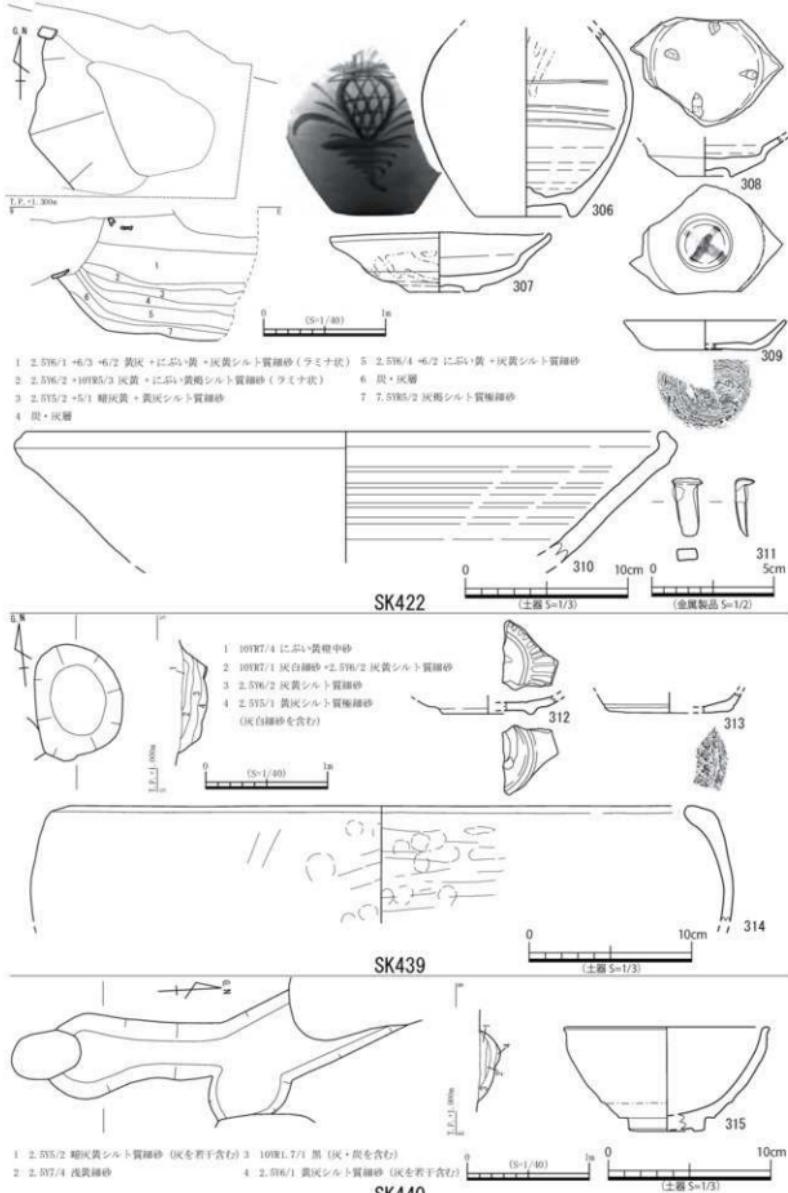
出土遺物は、磁器碗(304)、土師質土器杯(305)、同甕、平瓦、鉄。304は肥前系、外面に雨降文。

SK422(第49図)

調査区東端において検出した土坑である。検出面の標高は0.72mであるが、北壁土層観察では標高1.00mからの掘り込みである。平面形は不明であり、検出した径は1.50m、深さは0.73mを測る。掘り込みは急傾斜である。埋土は7層であるが、堆積状態から1層・2~5層・6・7層に大別できる。出土遺物は古い時期を示すものもあるが、所属時期は様相5に相当すると考えられる。



第48図 SK402・417 平・断面図、出土遺物実測図



第49図 SK422・439・440平・断面図、出土遺物実測図

出土遺物は、磁器壺（306）、陶器皿（307・308）、土師質土器杯（309）、陶器捏鉢（310）、釘（311）、磁器碗、陶器碗、同擂鉢、同大甕、土師質土器培縫、丸瓦、平瓦、鉄である。

306は肥前系で、外面にバイナップル様の文様を描き、疊付に砂目が付着する。309は肥前系。308は高台内に「+」の墨書、見込みに胎土目がある。309の底面は回転糸キリ。310は備前焼である。

S K 4 3 9 (第49図)

調査区西側において検出した土坑であり、S B 476の北西に位置する。検出面の標高は0.84mである。平面形は円形であり、直径は 0.91×0.70 m、深さは0.26mを測る。掘り込みはやや急傾斜である。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器皿（312）、土師質土器杯（313）、同足釜（314）、同小皿、鉄である。

312は瀬戸・美濃系の折縁ソギ皿で、高台内に重ね焼き痕がある。313の底面は切り離し後に板目が施され、体部外面にヘラの工具痕が残る。

S K 4 4 0 (第49図)

調査区西側において検出した。平面形から構の可能性もあるが、土坑として報告する。検出面の標高は0.80mである。平面形は溝状であり、直径は 0.91×0.70 m、深さは0.26mを測る。掘り込みはやや急傾斜である。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器碗（315）、備前焼陶器甕、土師質土器鍋である。315は瀬戸・美濃系の天日茶碗。

S K 4 4 2 (第50図)

調査区西側において検出した土坑であり、S K 440を切る。検出面の標高は0.85mである。平面形は不整な円形であり、直径は 1.70×1.04 m、深さは0.22mを測る。最深部は北側に片寄る。南側の掘り込みは非常に緩やかである。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器皿（316）、磁器碗である。316は灯明皿であり、口縁部に煤が付着する。

S K 4 5 1 (第50図)

調査区東側において検出した土坑であり、工程の都合により第4造構面では調査できなかつたので第5造構面で完掘する。検出面の標高は1.10mである。平面形は不整な円形であり、直径は4.40m、深さは1.04mを測る。最深部は南東隅に片寄る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、白磁壺（317）、陶器鉢（318）、陶器捏鉢（319・320）、同捏鉢（321）、陶器大甕（322）、磁器碗、陶器碗、土師質土器小皿、平瓦である。

317は輸入品と考えられる。318は見込みと疊付に砂目が付着する。319は明石焼で、自然釉がかかる。320は備前焼で、重ね焼き痕が残る。321は備前焼。322は備前焼で、内面にゴマが付着する。

S K 4 5 3 (第51図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00mである。平面形は円形で、直径は 0.78×0.60 m、深さは0.22mを測る。出土遺物は、羽口（323）、土師質土器杯、同鍋である。

S K 4 5 4 (第51図)

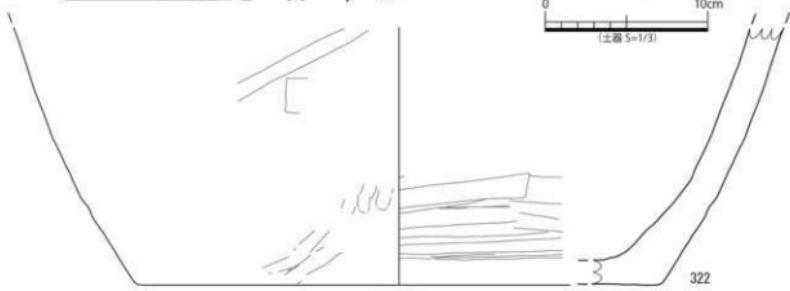
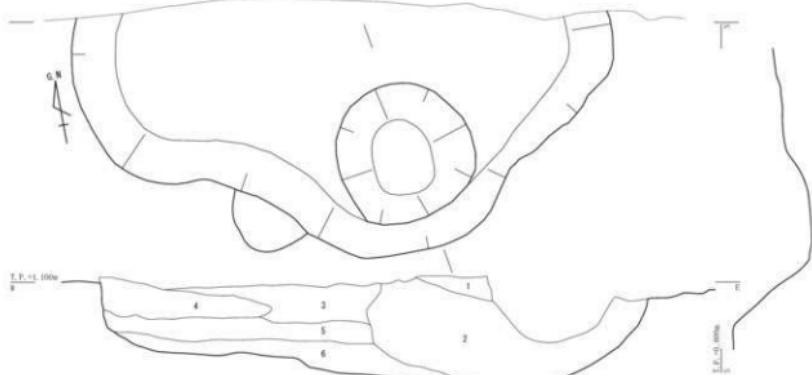
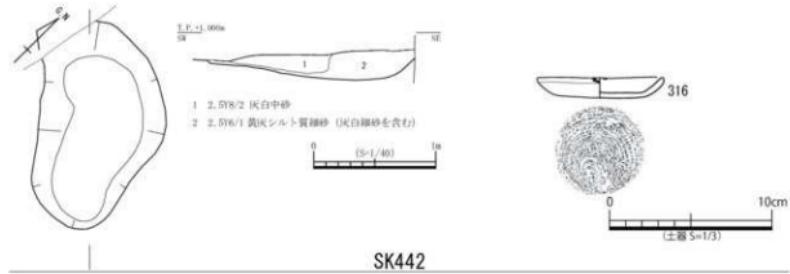
調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00mである。平面形は円形で、直径は 0.83×0.62 m、深さは0.16mを測る。

出土遺物は、丸瓦（324）、陶器火鉢、土師質土器杯、平瓦である。

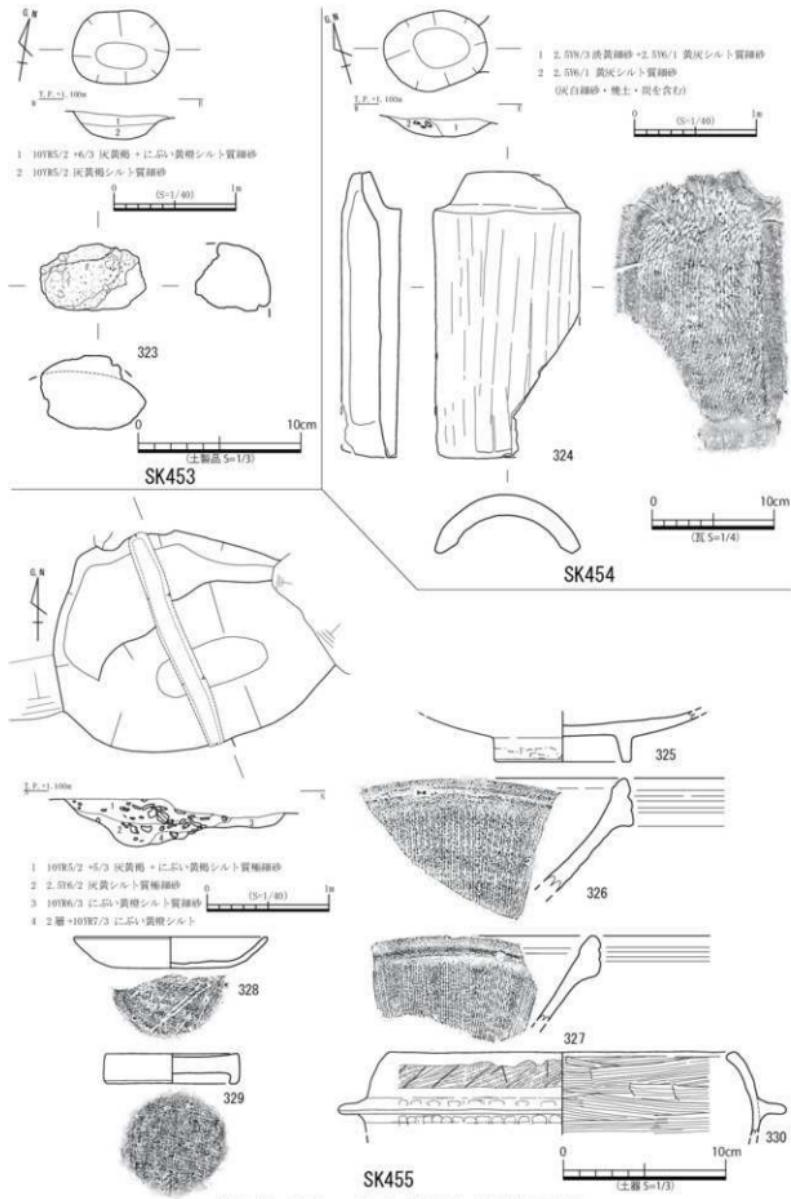
S K 4 5 5 (第51図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00mである。平面形は円形で、直径は 2.08×1.80 m、深さは0.35mを測る。最深部は南側に片寄る。埋土は多量の土器や瓦を含む。所属時期は造構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

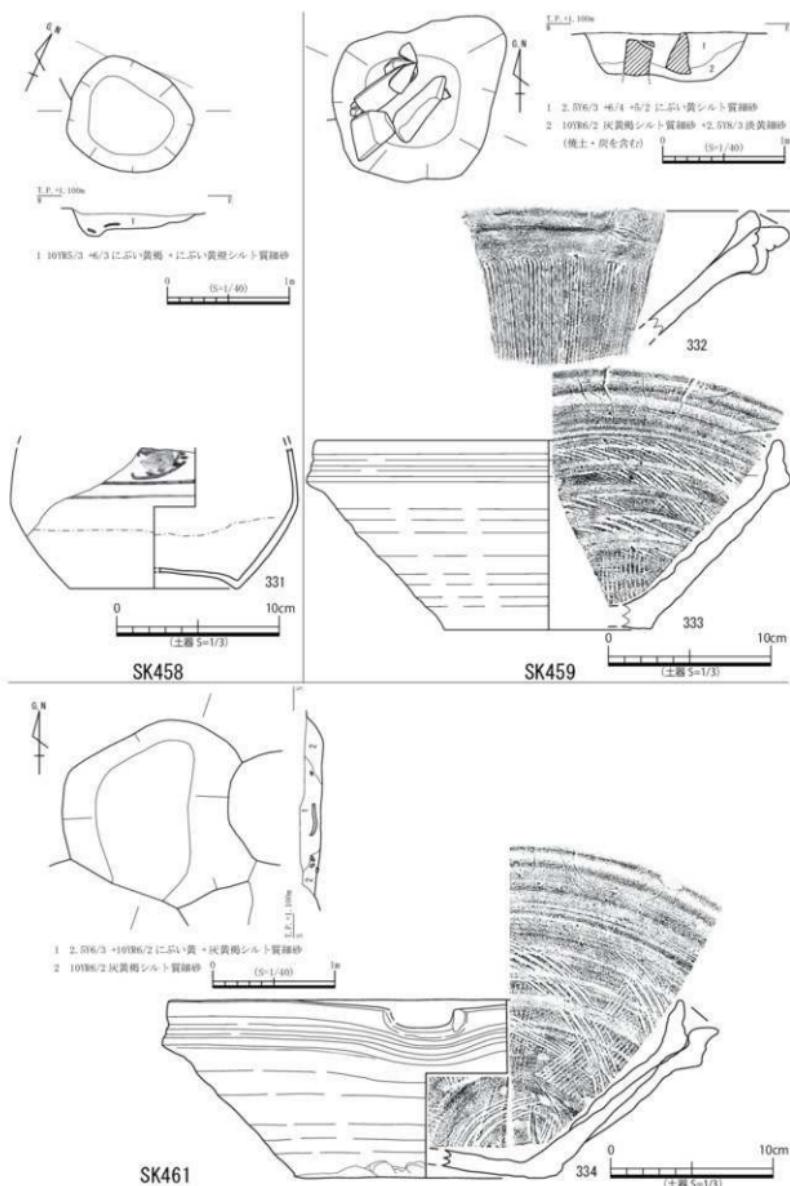
出土遺物は、陶器鉢（325）、同擂鉢（326）、土師質土器擂鉢（327）、同杯（328）、同焼塙壺（329）、



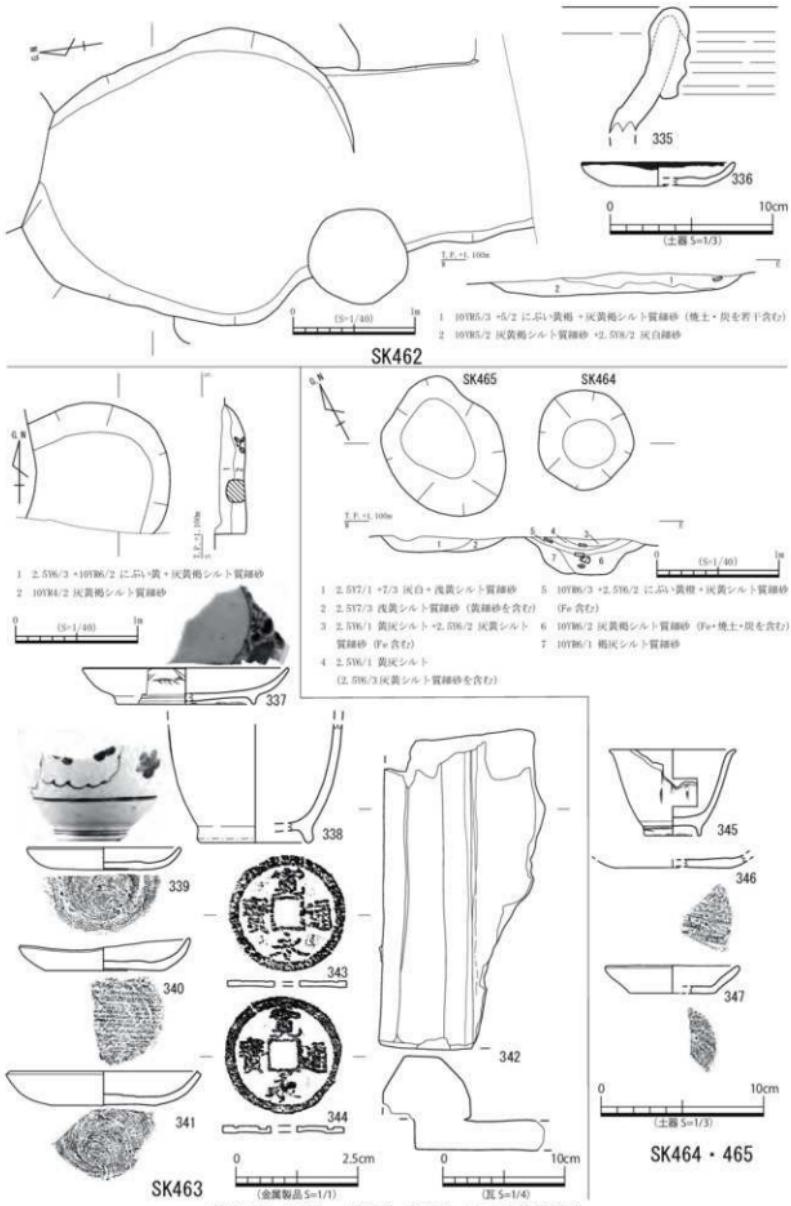
第50図 SK442・451 平・断面図、出土遺物実測図



第51図 SK453～455 平・断面図、出土遺物実測図



第52図 SK458・459・461 平・断面図、出土遺物実測図



第53図 SK462～465平・断面図、出土遺物実測図

同茶釜（330）、磁器碗、陶器碗、同灯明皿、土師質土器熔烙、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦である。325は肥前系で、蛇ノ目釉ハギが施される。326は備前焼で、重ね焼き痕が残る。

328は回転糸キリ後に板目が施される。329は蓋で、内面に布目が施される。330は口縁部内外面に布目の後に工具の押圧痕が残る。

SK 458（第52図）

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00mである。平面形は円形で、直径は 1.00×0.87 m、深さは0.21mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器土瓶（331）、磁器碗、土師質土器杯、釘である。

SK 459（第52図）

調査区西側において検出した土坑で、SK 458の南に位置する。検出面の標高は1.00mである。平面形は不整な円形で、直径は 1.65×1.36 m、深さは0.36mを測る。土坑内には0.35～0.60mの石が不規則な状態で出土する。所属時期は遭構面及び出土遺物から様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器擂鉢（332・333）、磁器碗、陶器碗、土師質土器杯、同鍋、釘である。

332・333は備前焼で、口縁部に重ね焼き痕が残り、332は片口である。

SK 461（第52図）

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00mである。平面形は円形で、直径は 1.60×1.43 m、深さは0.22mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器擂鉢（334）、同大甕、土師質土器小皿、同鍋、丸瓦、平瓦である。

334は備前焼で、片口を有する。口縁部外面に重ね焼き痕が残り、ゴマが付着する。

SK 462（第53図）

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は1.00～0.95mである。平面形は不整な円形で、直径は 4.18×2.42 m、深さは0.19mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器大甕（335）、土師質土器皿（336）、磁器碗、陶器碗、同瓶、丸瓦、鉄である。

335は備前焼で、内面の一部にゴマが付着する。336は灯明皿で、口縁部内外面に煤が付着する。

SK 463（第53図）

調査区西側において検出した土坑で、SK 466に切られる。検出面の標高は0.93mである。平面形は円形で、直径は1.10m、深さは0.19mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器皿（337）、同壺（338）、土師質土器杯（339～341）、特殊瓦（342）、寛永通宝（343・344）、磁器碗、陶器碗、同大甕、土師質土器熔烙、丸瓦、平瓦、弥生土器甕である。

337は瀬戸・美濃系で、外面に草花文、内面に牡丹唐草文を描く。338は肥前系である。

339～341の底面切り離しは回転糸キリである。340は板目が施され、非常に重な器形である。

SK 464（第53図）

調査区西側において検出した土坑で、SK 462を切る。検出面の標高は0.92mである。平面形は円形で、直径は0.78m、深さは0.27mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器碗（345）、土師質土器杯（346）、磁器皿、土師質土器灯明皿、丸瓦、平瓦である。

345は肥前系で、疊付に砂目、見込みにピン痕が残る。346は回転糸キリの後に板目が施される。

SK 465（第53図）

調査区西側において検出した土坑で、SK 462を切る。検出面の標高は0.92mである。平面形は不整円形で、直径は 1.18×0.93 m、深さ0.15mを測る。所属時期は様相5に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯（347）、磁器瓶、陶器碗、滴水瓦、丸瓦である。

柱穴

S P 4 2 0 (第 54 図)

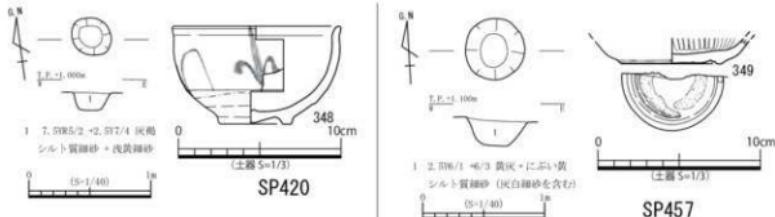
調査区東側において検出した柱穴である。検出面の標高は 0.92 m である。平面形は円形で、直径は 0.32 m、深さ 0.11 m を測る。所属時期は造構面及び出土遺物から様相 5 に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器碗 (348)、磁器碗、土師質土器杯である。348 は肥前系で、鉄絵である。

S P 4 5 7 (第 54 図)

調査区西側において検出した柱穴である。検出面の標高は 0.95 m である。平面形は円形で、直径は 0.50 m、深さ 0.19 m を測る。所属時期は造構面及び出土遺物から様相 5 に相当すると考えられる。

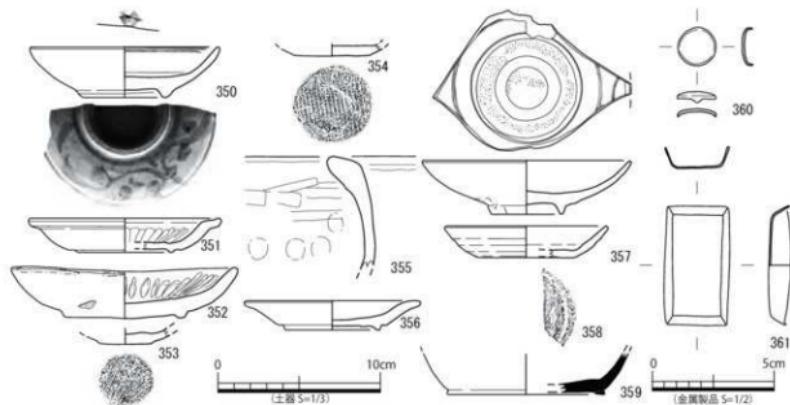
出土遺物は、陶器皿 (349)、磁器碗、土師質土器鍋である。349 は瀬戸・美濃系折縁ソギ皿である。



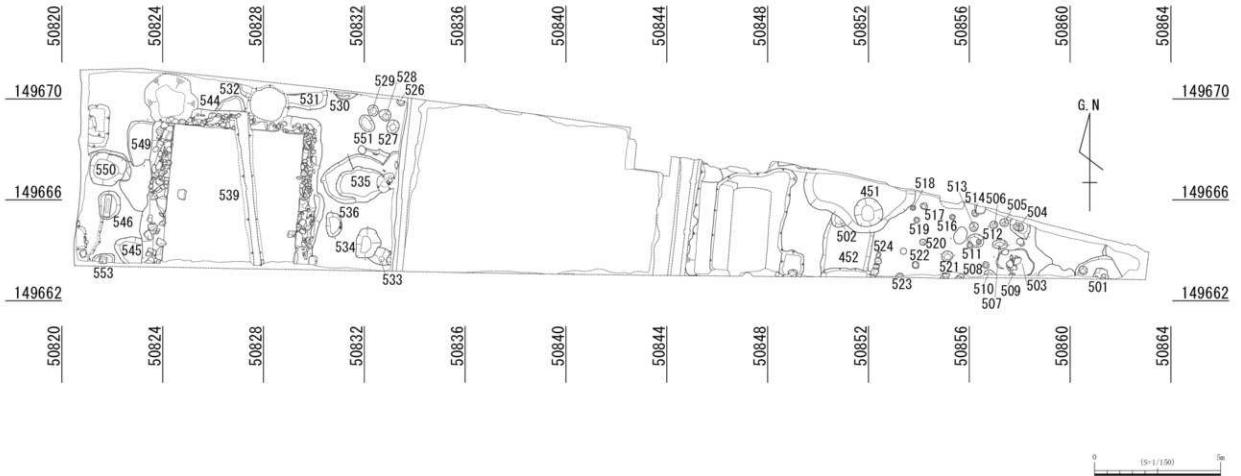
第 54 図 SP420・457 平・断面図、出土遺物実測図

第 4 造構面包含層出土遺物 (第 55 図)

350 は肥前系陶器皿で、外面に唐草文が描かれる。351・352 は瀬戸・美濃系陶器皿で、蛇ノ目釉剥ぎが施される。353・354 は土師質土器杯で、底面は静止糸キリである。355 は土師質土器捏鉢。356・357 は肥前系皿で、356 の高台内に胎土目、357 は蛇ノ目釉剥ぎが施される。358 は土師質土器杯で、底面は回転糸キリである。359 は須恵器杯。360 は火打袋の青銅製大丸対錠。361 は飾り金具。



第 55 図 第 4 造構面包含層出土遺物実測図



第 56 図 第 5 遺構面 平面図

第6節 第5遺構面の遺構・遺物

1 調査の概要

第5遺構面は調査区東側と西側において検出し、調査区中央部では擾乱が広く及んでおり、擾乱を受けていない南壁側は第4遺構面検出時に重機の掘削が第5遺構面まで達したため、検出した遺構は前節の第4遺構面において報告した。この部分は2面の遺構が混在する。遺構面の土層は、1工区では41層・44層オリーブ黒シルト質細砂・灰黄+灰黃褐色シルト質細砂、2工区では49層にぶい黃褐色シルト質細砂を基本とする。遺構面の標高は0.70～0.80mを測る。

調査は、1工区を遺構面まで重機で下げ、人力による遺構の調査を行い、全ての調査終了後に2工区を同様の工程で実施した。検出した遺構は、井戸状石組み遺構、土坑、柱穴、石垣である。

2 遺構・遺物

井戸状石組み遺構

S E 5 3 9 (第57～83図)

調査区西側において検出した大型の井戸状石組み遺構である。南側は調査区外にかかり、遺構全体の調査ができるないため、平面形・規模は不明であるが、高松城跡(廃跡)で検出した同様な遺構(SX 103)を参考にすると平面形は長方形であると考えられる。

掘り方を検出した標高は、東部で最も高く0.78m、西部が0.73m、北部が0.70mである。掘り方の規模は、東西方向で約7.0mを測り、南北方向では約6.0mを検出した。検出面積は約42.0m²である。掘り方の傾斜はやや急傾斜であり、北壁と西壁は1段目の石積の上面と同じ高さの段を有する。段付の掘方となるのは石の積み方に関連すると推測される。つまり、この段に沿うように1段目の石を設置し、その上に2段目を積み上げて背面に裏込め石と24層・25層を充填するという工程である。

石積の地下空間の平面形は前述した掘り方と同様に長方形を呈すると考えられる。空間内の規模は東西約5.2mを測り、南北では約5.4mを検出した。検出した面積は約28.0m²である。底面はほぼ平坦であり、59層砂礫(地山)を掘り下げている。最深の標高は-0.25mを測る。石積は、北壁中央と西壁北側に2段目が残るが、それ以外は根石の1段のみ残存する。西壁の南端では石積の崩落が見られる。石積の最上は標高0.55m、1段目の上面は標高0.20～0.30m、下面は標高-0.20mである。石積された壁面は最も遺存する箇所で底面からの高さ0.75mである。石積部分の石材は全て花崗岩であり、荒削に近い状態であり、全ての石の面を確認するが矢穴や刻印はない。間詰め石と裏込め石の石材は花崗岩・安山岩である。石積の施工順序は、1段ないし2段のみの石積が残存するだけであり確実な事は言えないが、壁面の平・立面で観察される前後関係では東壁→北壁→西壁の順序を考えることができる。

地下空間の埋土は23層に細分されるが、堆積状態や土質・色調から判断して1～5層・6～12層・13～23層に大別される。1～5層は地下空間の北側にのみ堆積しており、堆積状態と地山ブロックを含むことから埋め戻し時の二次堆積であると考えられる。6～12層は全域に堆積し、多量の土器・瓦・貝が出土する。13～23層は地下空間の底面近くに堆積する黒色粘質の土層であり、多量の土器・瓦・貝と共に木製品・木質遺物が多量に出土する。上～下層の出土遺物には明確な時期差は認められず、短期間で埋没・廃絶したものと考えられる。

本遺構の構築・機能した時期は、石積背面の24・25層出土の土器や底面直上の遺物から様相2であり、廃絶時期は出土遺物から様相4・5と考えられる。

地下空間の出土遺物は、土器(362～455)、瓦(456～498)、土製品(499～503)、石製品(504・

505)、金属製品 (506～513)、木製品 (514～705)、竹製品 (706・707)、棕櫚製品 (708・709) である。土器は磁器碗 (362～371)、同皿 (372～378)、同香炉 (379～381)、同小甕 (382)、同仏飯器 (383・384)、同壺 (385)、同花生 (386)、陶器碗 (387～401)、同蓋 (402)、同耳皿 (403)、同皿 (404～408)、同灯明皿 (409)、同壺 (410～413)、同瓶 (414～417)、同甕 (418～421)、同鉢 (422)、同擂鉢 (423～428)、土師質土器皿 (429～433)、同杯 (434)、同灯明皿 (435～440)、同焼塗甕 (441)、同火鉢 (442)、同足釜 (443)、同熔炉 (444～447)、同羽釜 (448)、同茶釜 (449・450)、同擂鉢 (451)、旁生土器小型丸底壺 (452)、同壺 (453)、同高杯 (454)、須恵器壺 (455) である。

362～367 は肥前系小碗である。362 は外面に東屋・樹木、363 は遠山・圓線、365 は草花文・圓線を描く。366 は外面に鍋が認められ、「寿」の文字を描く。367 は外面に草花文を描き、高台内に「宜明年製」の年号を記す。368～371 は肥前系で、368・369 は外面に草花文・圓線を描く。370 は削り出し高台である。371 は器高の低い器形であり、外面に草花文・圓線、内面に雷文・宝文を描き、高台内に「太明年製」の銘款を記す。372～374 は見込みに蛇目釉剥ぎが見られ、見込みと高台に砂目が付着する。374 は内面に草花文を描く。375 は口錫を施す型打成形の輪花皿である。376 は白磁輪花皿で、見込みと内面に陽刻の花弁文と区画文がある。377 は肥前系で、内面に陽刻の花弁文、見込みに草花文を描く。378 は口縁部が外方に広がり、見込みに染付がある。379 は肥前系。380・381 は青磁で、口縁部が内側に屈曲し、380 は蛇目高台である。382 は見込みと疊付に砂目が付着し、白磁のものか。383 は外面にタコ唐草文・圓線を描き、疊付に墨書がある。

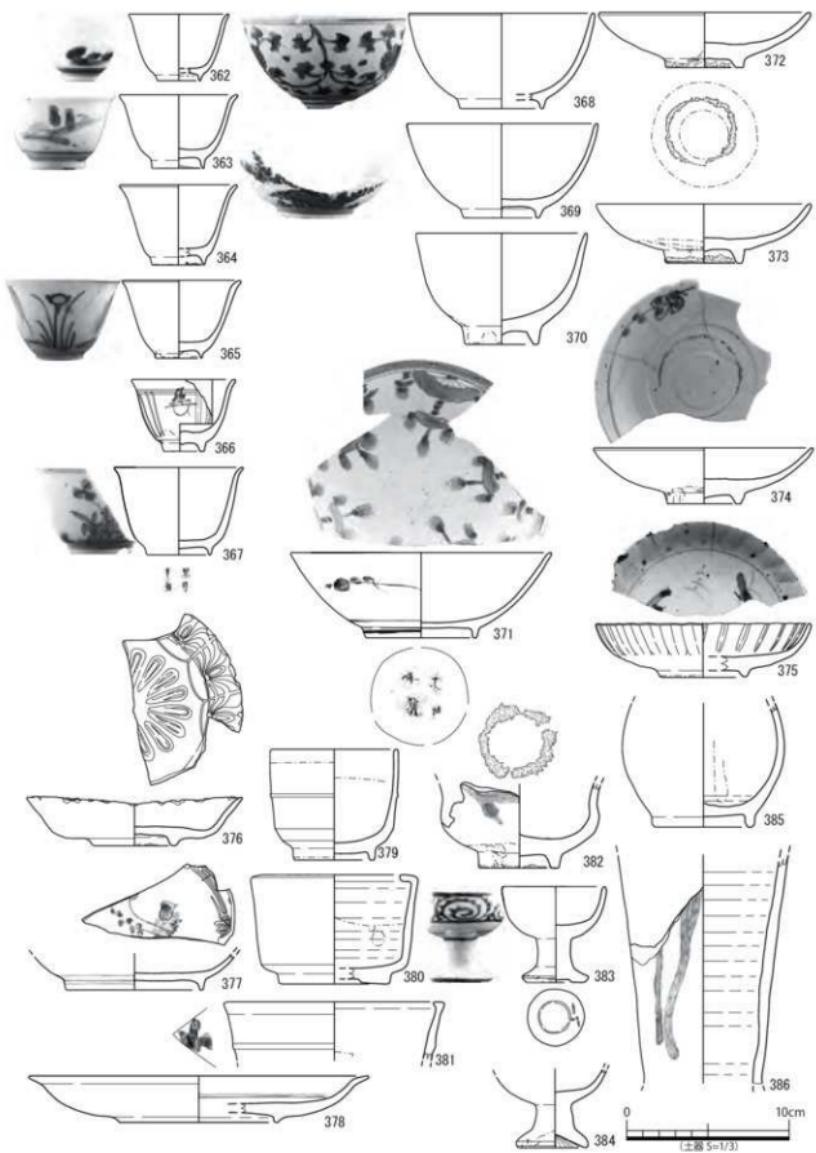
387 は肥前系小碗、外面に鶴を描く。388 は理兵衛焼で、谷家家紋の「下藤」と桜を描く。389 は底面に刻印があり、見込みに 3 個の胎土目がある。390～392 は底部が厚い器形で、全面に貫入が見られる。390 の底面には刻印がある。393 は瀬戸・美濃系で、疊付に砂目が付着する。394・395 は器厚が薄く均一である。396 は瀬戸・美濃系で、底面中央に刻印がある。397 は内面に使用時の擦痕が無数ある。398 は見込みと疊付に砂目が付着する。399 は削り出し高台である。401 は肥前系中碗で、高台に切り込みがあり、口縁部が片口状に下がる。402 は瀬戸・美濃系。403 は瀬戸・美濃系で、口縁部に染付。404 は小型皿で、見込みと底部に胎土目がある。405 は瀬戸・美濃系で、見込みに蛇目釉剥ぎと砂目がある。406～408 は大型の皿で、407 の内面に無数の擦痕がある。409 は備前焼灯明受皿で、内外面に煤が付着する。410・411 は備前焼小壺である。413 は内外面に煤化が見られる。414・415 は備前焼大瓶、415 の外面は自然釉がかかる。416 は備前焼中瓶で、鎌徳利形。底面に刻印がある。417 は中瓶で、底面に分銅様形の刻印がある。418 は備前焼水屋甕。419 は備前焼大甕。420 は備前系の甕。421 は瀬戸・美濃系の小甕。422 は肥前系鉢。423・424・426・427・428 は備前焼擂鉢、425 は明石焼系擂鉢で、体部外面と底面に棒状の釉がかかる。

429～433 は口径 7.2～10.6 cm の皿で、429～432 の底面は回転糸キリ、433 は回転糸キリ後に板目が施される。434 は底径 9.6 cm で、底面は回転糸キリ後に板目が施され、内面に煤が付着する。435～440 は口縁部内外面に煤が付着し、底面切り離しは回転糸キリである。441 は焼塗甕の蓋で、内面は指オサエ・指ナデが施される。442 は内面を被熱し黒色化する。443 はほぼ直立気味の体部で、口縁部は僅かに内傾する。444～447 は外面に指オサエ、内面に横方向のハケが施される。448 は口縁部外面に粗いハケ、内面に粗いハケと細かいハケ、体部外面にハケ、内面に細かいハケ・ナデが施され、体部外面には煤と炭化物、内面に炭化物が付着する。449 は内外面に指オサエ・ハケが施され、外面に煤と炭化物が付着する。金鑄の一部が残存する。450 は口縁部外面にハケ後に丁寧なナデ、体部外面と内面に指オサエ後に粗いハケと細かいハケが施される。体部外面には煤が付着する。

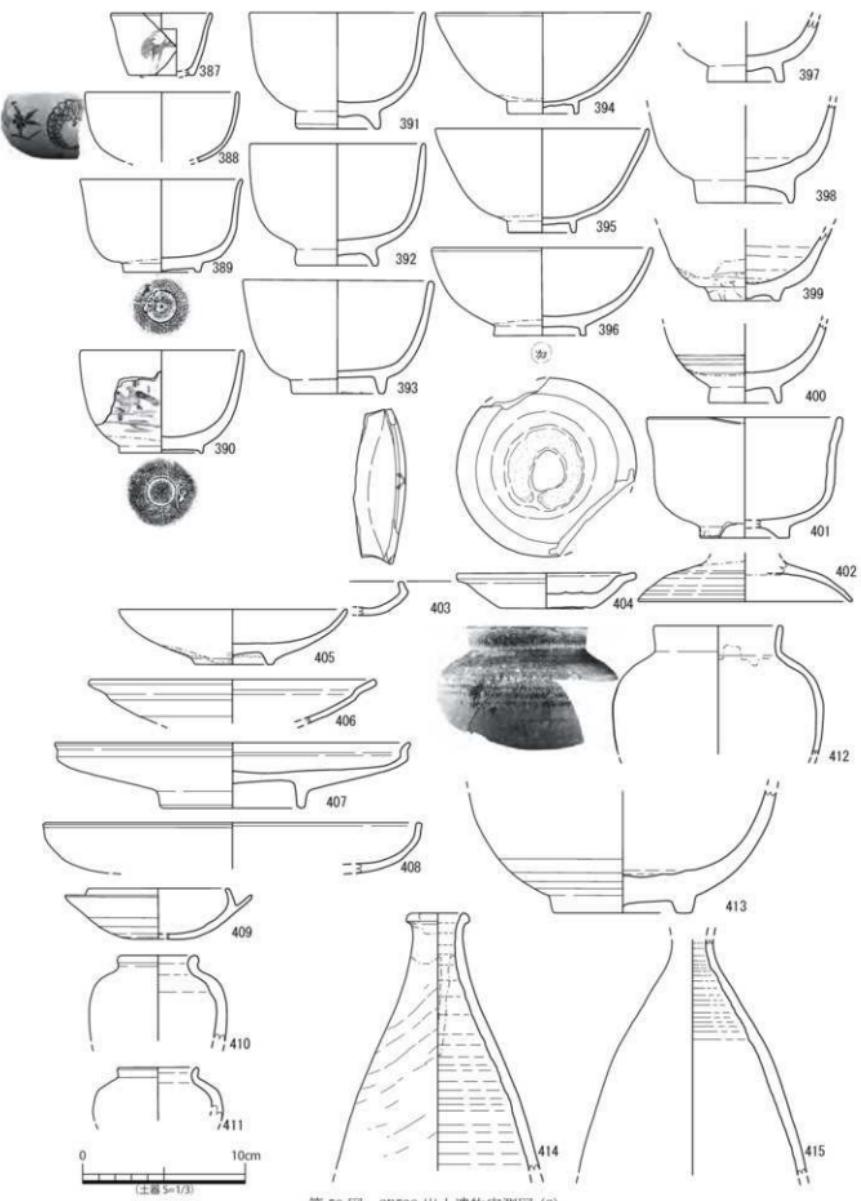
瓦は、軒丸瓦 (456～473)、軒平瓦 (474～485)、滴水瓦 (486・487)、丸瓦 (488～490)、平瓦 (491



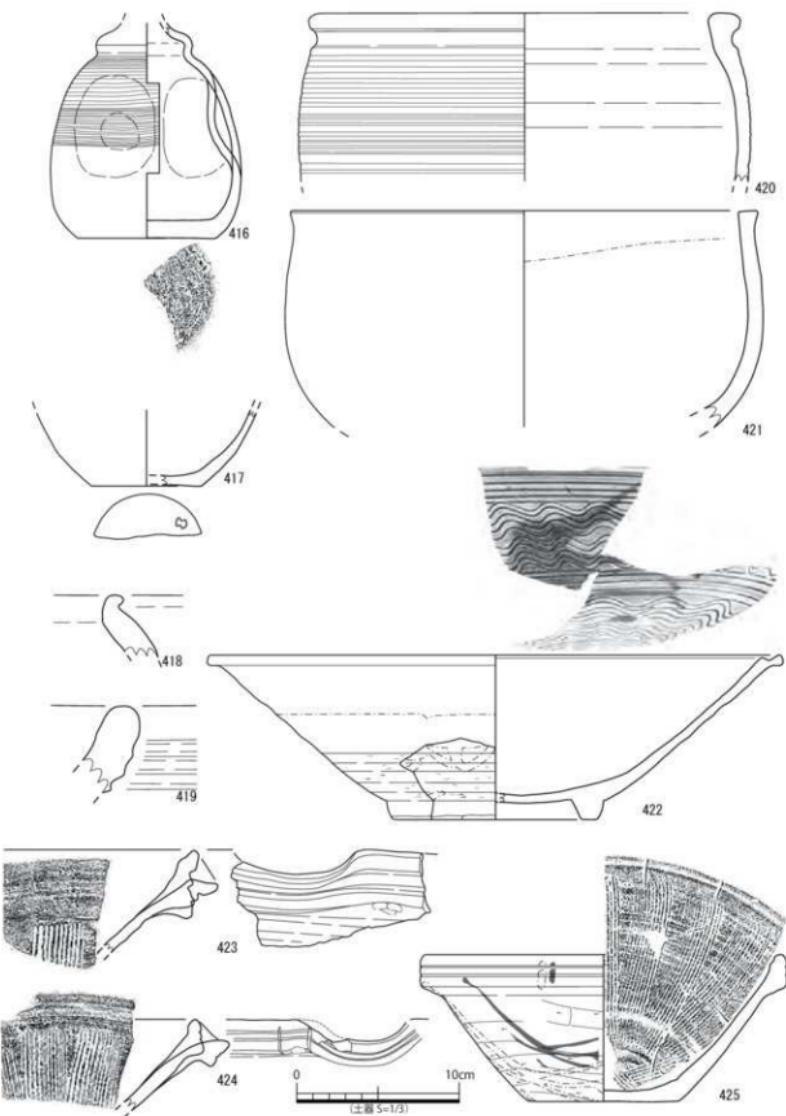
第57図 SE539平・断・立面図



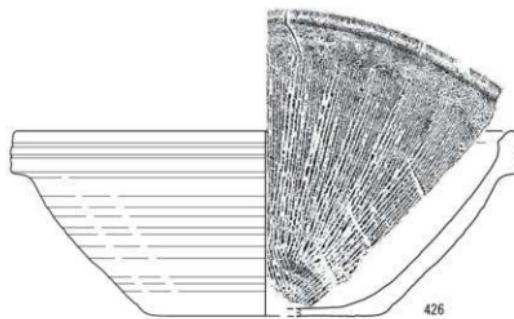
第58図 SE539出土遺物実測図(1)



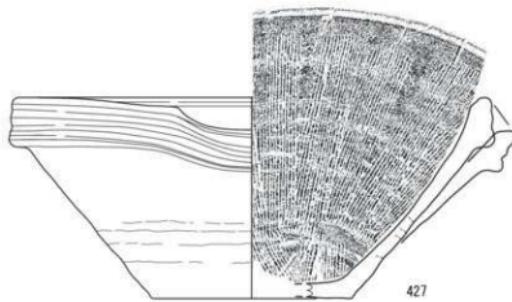
第59図 SE539出土遺物実測図(2)



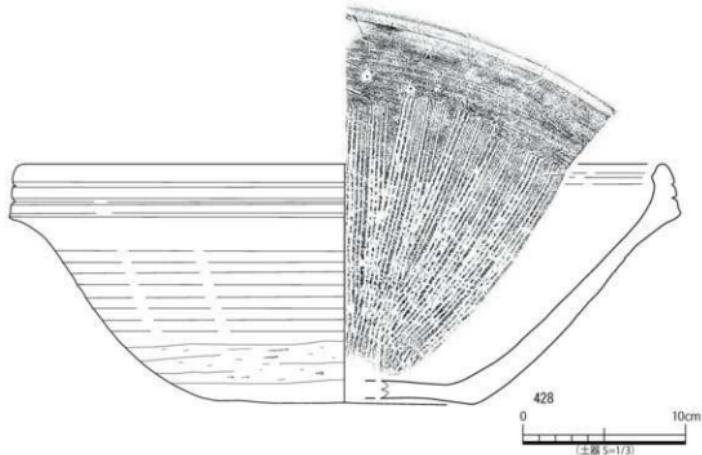
第60図 SE539出土遺物実測図(3)



426



427

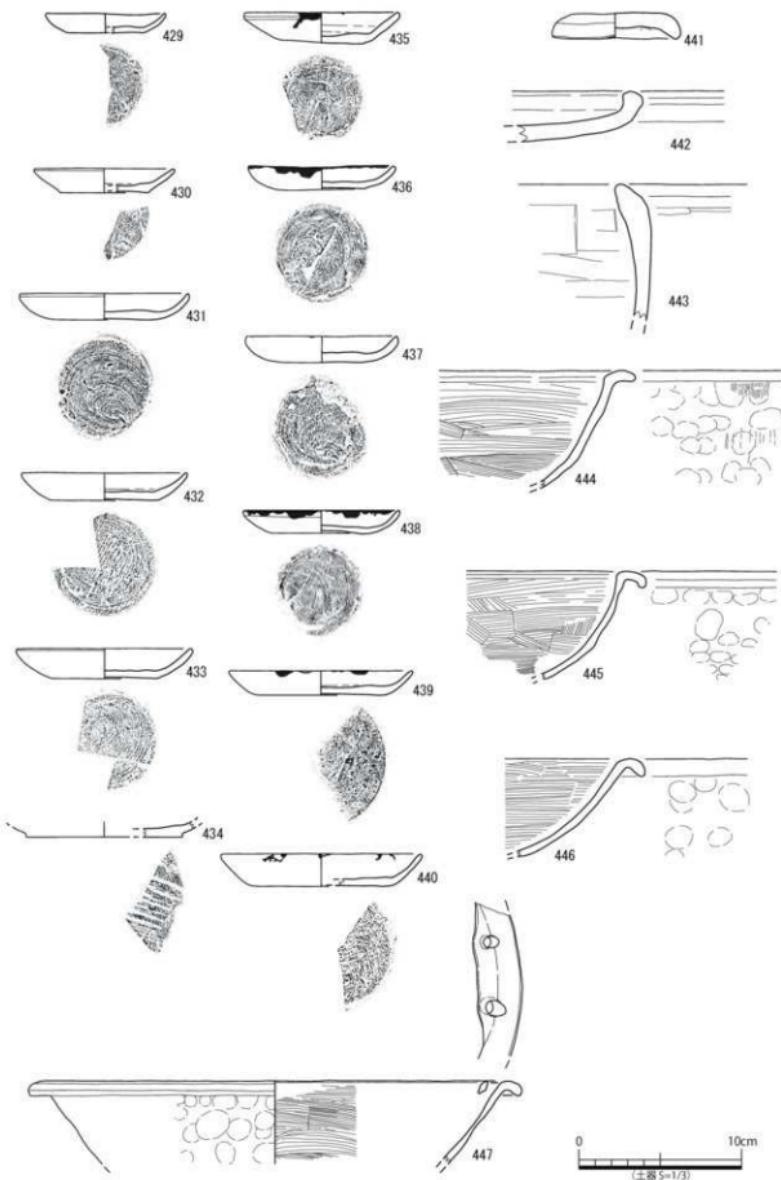


0

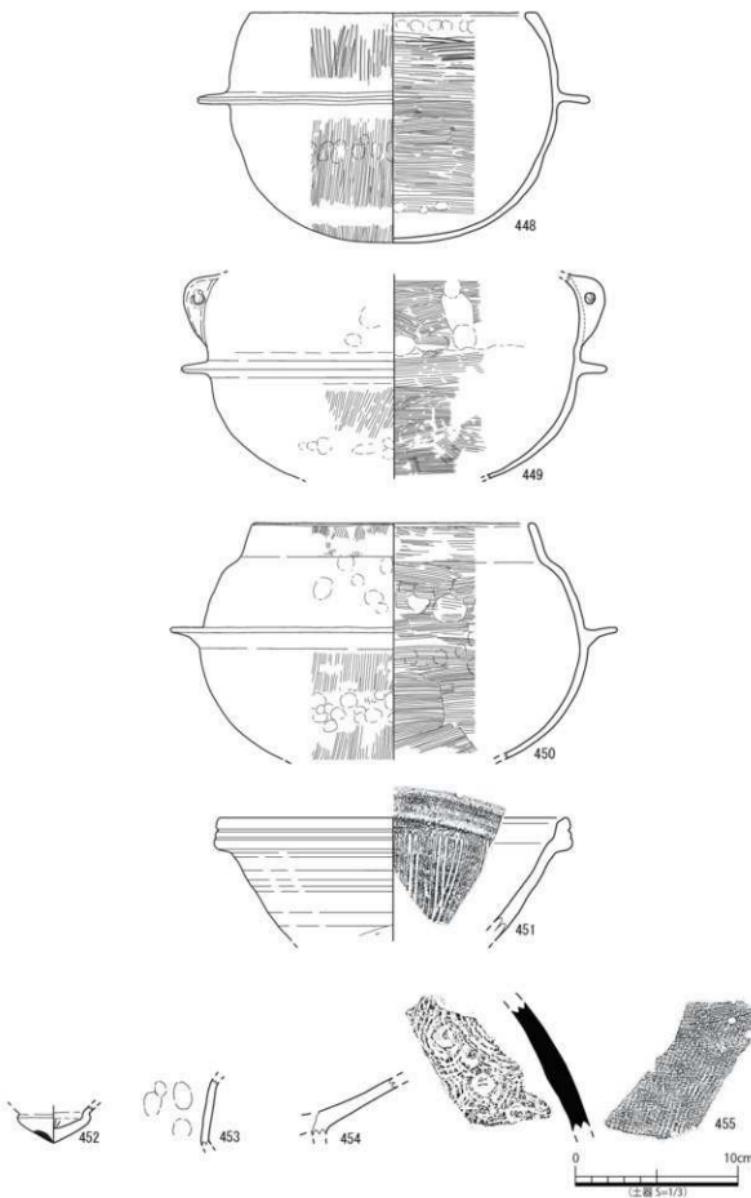
10cm

(土器 5=1/3)

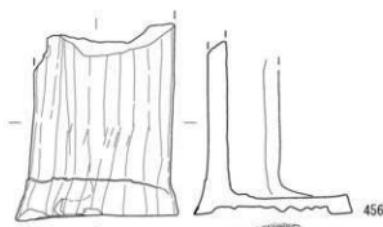
第 61 図 SE539 出土遺物実測図 (4)



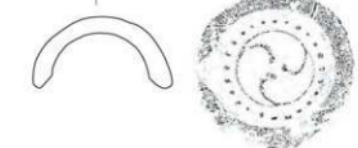
第62図 SE539出土遺物実測図(5)



第63図 SE539出土遺物実測図(6)



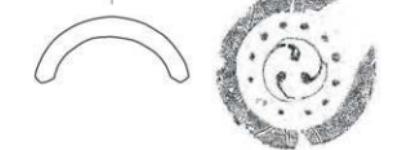
456



457



458



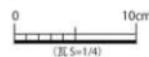
459



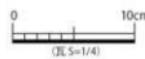
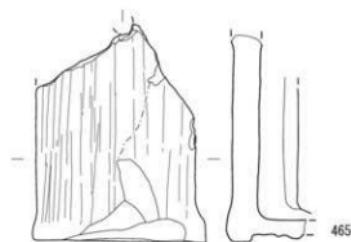
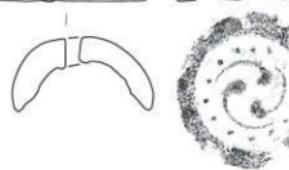
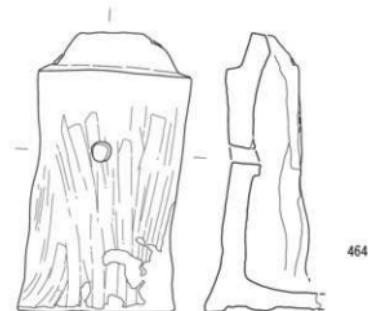
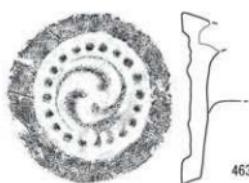
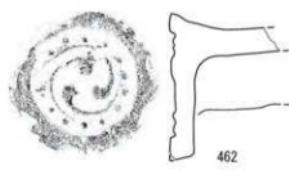
460



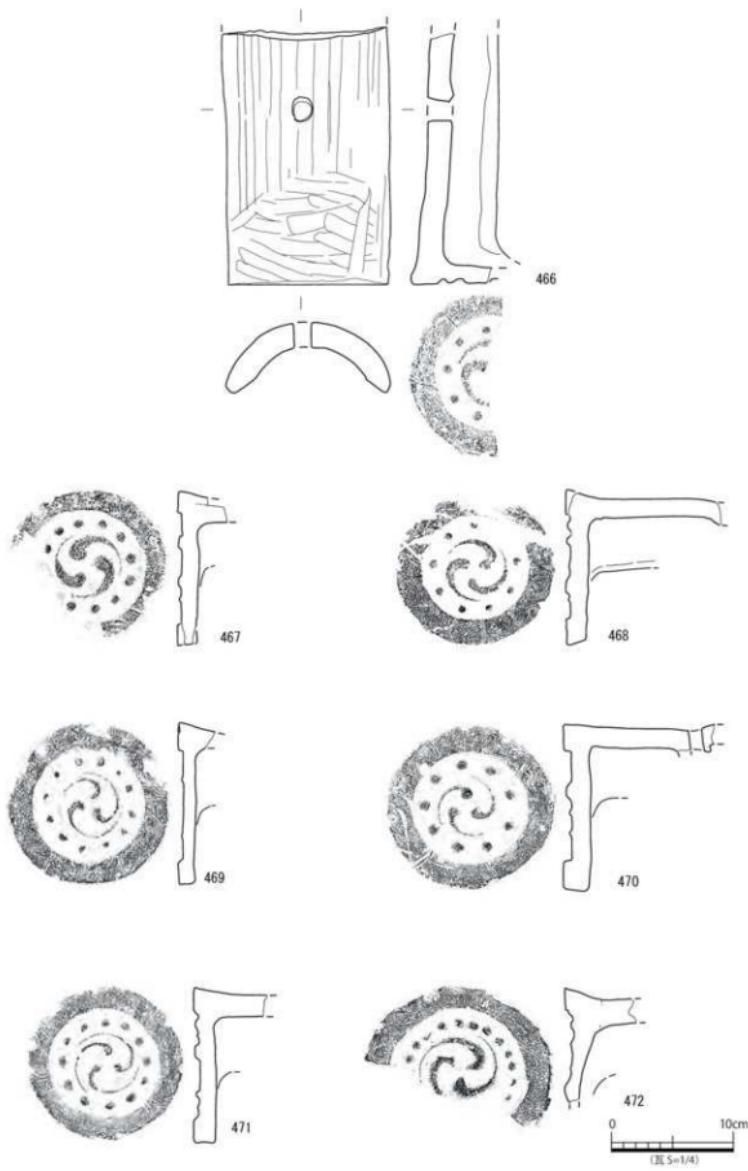
461



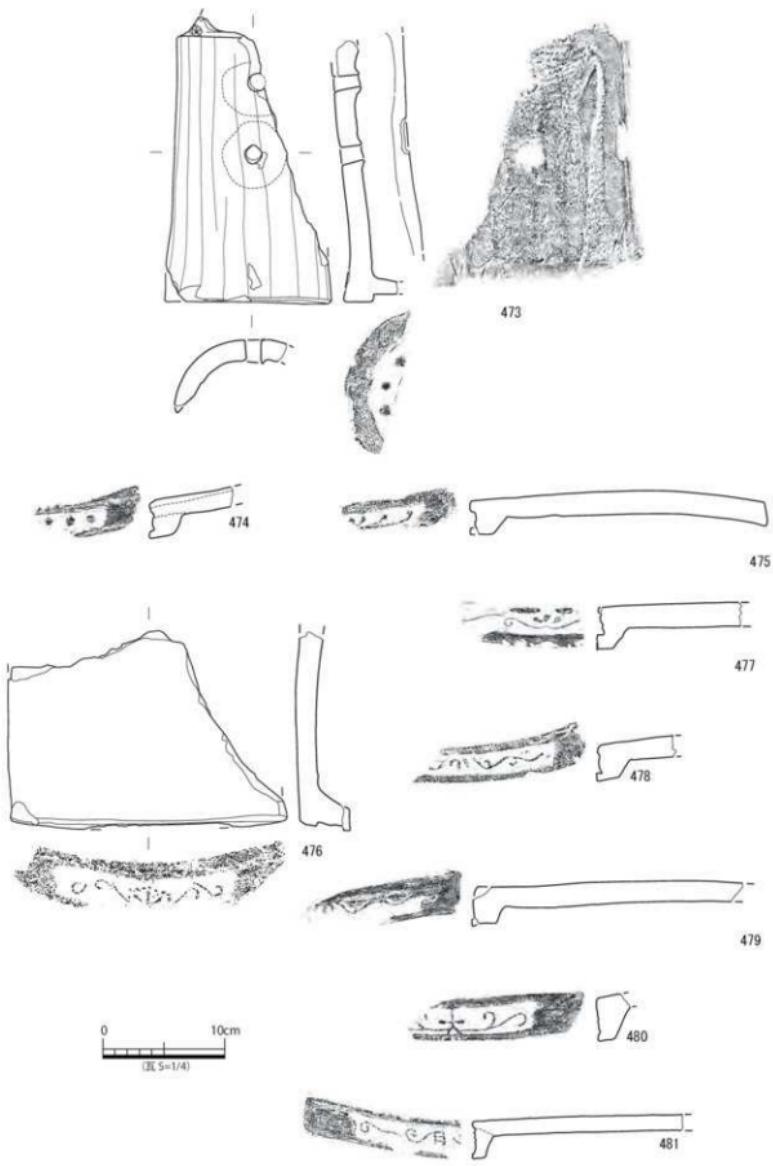
第 64 図 SE539 出土遺物実測図 (7)



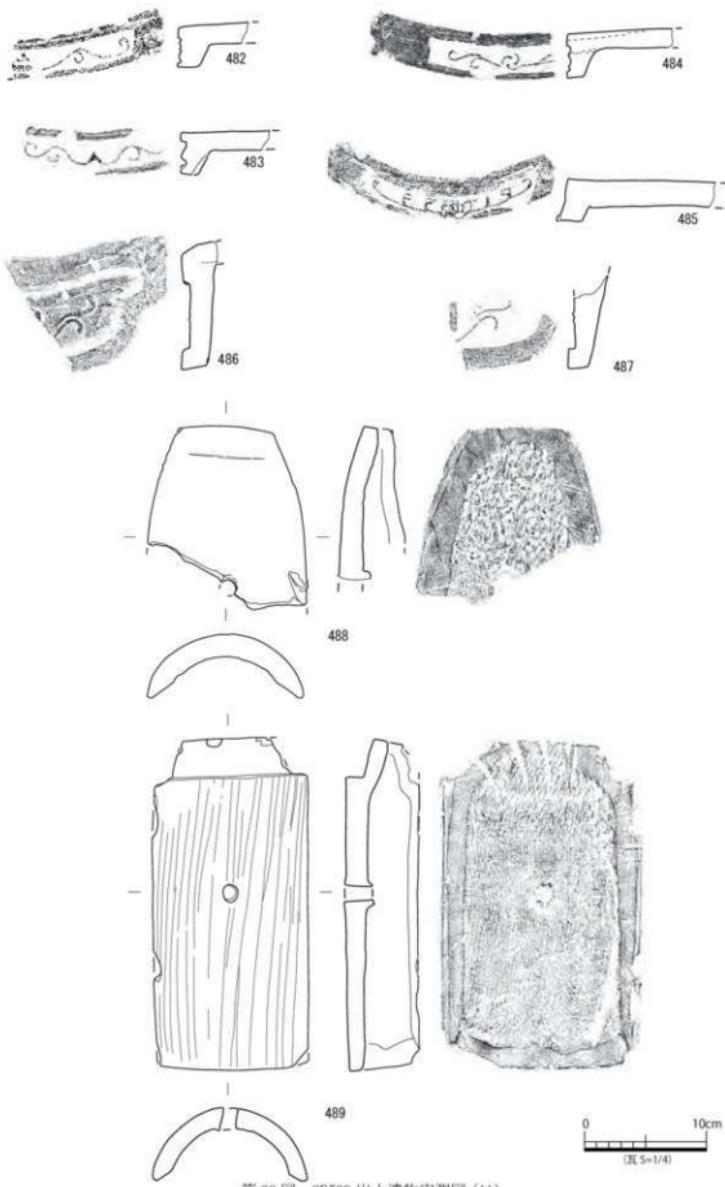
第65図 SE539 出土遺物実測図 (8)



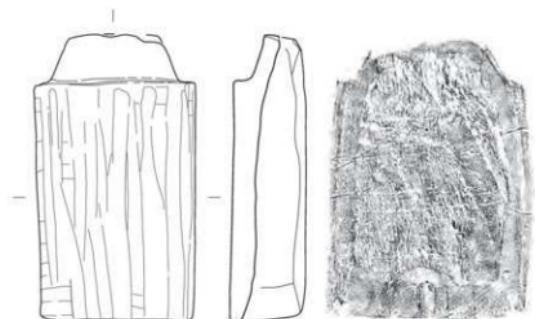
第 66 図 SE539 出土遺物実測図 (9)



第67図 SE539出土遺物実測図(10)



第68図 SE539出土遺物実測図(11)



490

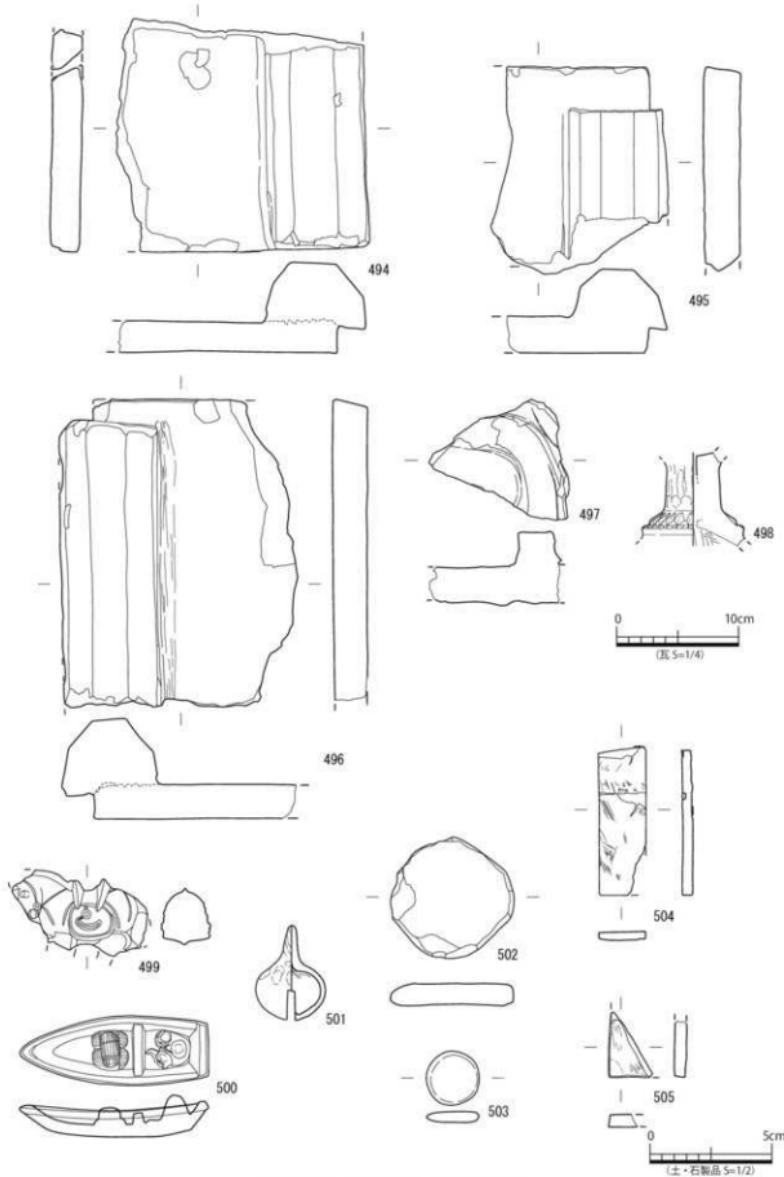
491



493



第69図 SE539 出土遺物実測図(12)



第70図 SE539出土遺物実測図(13)

～493)、特殊瓦(494～496)、鬼瓦(497)、飾り瓦(498)である。

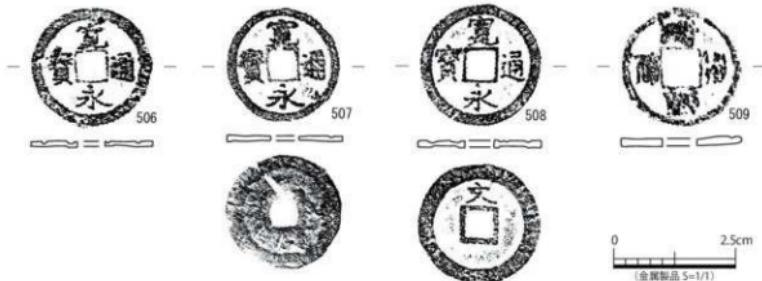
456は巴尾部が繋がり圓線状をなす佐藤分類II類2で、瓦当裏面の調整はC2である。457は佐藤分類II類で、瓦当裏面の調整はC3である。458は佐藤分類II類6に類似する。459は佐藤分類II類24で、瓦当裏面の調整はC3である。460は圓線を有する佐藤分類III類で、瓦当裏面の調整はC3であり、接合痕がある。461は佐藤分類IV類34に類似し、瓦当裏面の調整はC3である。462・463は佐藤分類IV類40、瓦当裏面の調整は462がC3、463がC2である。464は佐藤分類IV類41、瓦当裏面の調整はC2である。465は佐藤分類IV類47、釘孔を有する。466は佐藤分類IV類69、釘孔を有する。凸面の調整は指ナデ・ヘラナデである。467～469は佐藤分類IV類71～85であり、瓦当裏面の調整は467・468がC3、469がC2である。470は佐藤分類IV類88～97、瓦当裏面の調整はC3で、釘孔を有する。471は佐藤分類IV類138、瓦当裏面の調整はC3であり、珠文と巴文の表面に布目が残る。473は釘孔2個を有し、その周囲に漆喰の痕跡が残る。

474・475は佐藤分類V類9であり、474は接合痕が確認でき、475の凸面に弓状圧痕がある。476は佐藤分類V類16、瓦当に面取りを施す。477は佐藤分類V類19に類似する。478・479は佐藤分類VI類23である。480は佐藤分類XI類42である。481は佐藤分類XIII類48に類似し、接合痕が残る。482は佐藤分類XX類89である。483は佐藤分類XX類102である。484は佐藤分類XI類66で、接合痕が明瞭である。485は中心飾りが不明である。

486は接合痕があり、487は瓦当裏面に板ナデが施される。

488は行基式で、釘孔を有する。489・490は玉縁式で、489は釘孔を有する。

491・493は凹面に工具痕が残る。



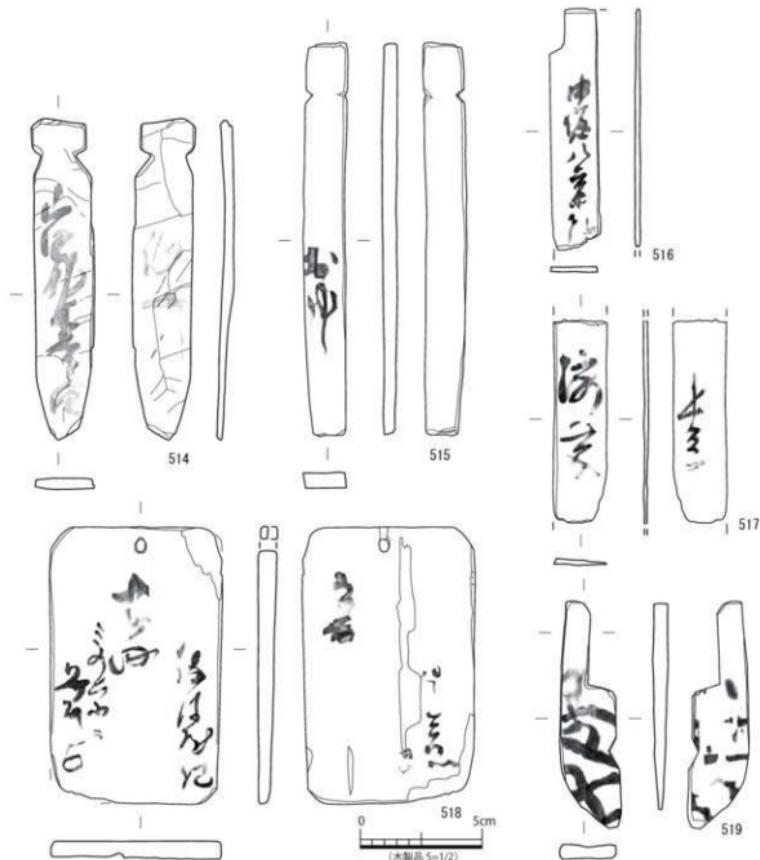
第71図 SE539出土遺物実測図(14)

494～496は大型の瓦で、平板状の瓦に六角形の棟が付く。瓦と棟に接合のキザミを付ける。497は鬼瓦の一部である。498は飾り瓦の一部である。

玩具は、遊戯具（499・500）、土鈴（501）、土製円盤（502）、墓石（503）である。499は馬で、成形技法は型合わせであり、全面にキラ粉がかかる。500は米俵3個と船頭を乗せた船であり、全面にキラ粉がかかる。501は手捻り成形である。502は側面を滑らかに加工する。503は黒石である。

石製品は砥石（504・505）である。504の石材は粘板岩、505は砂岩である。

金属製品は、銭貨（506～509）、箱（510）、毛抜き（511）、鉄板（512）、釘（513）である。506～508は寛永通宝である。507の背面には放射線状に4本の傷があり、508は背面に「文」字を持つ文錢である。509は判読不明である。510は青銅製の蓋であり、中央に摘みを有し、陽刻の文様が見られる。512は片面に木質が残存する。



第72図 SE539出土遺物実測図(15)

木製品は、木筒（514～518）、加工材（519）、漆椀（520～543）、杓子（544・545）、食卓（546～550）、曲物（551～565）、桶（566～570）、櫛（571）、下駄（572～580）、箸（581～584）、箋木（585～613）、筵針（614～620）、楔（621～628）、加工材（629～705）、灰落し（706）、竹製品（707）である。

514は長方形を呈する板材で、上方の両端に抉りを有し、下端を尖らせる。両面に墨書を認め、片面は「山口作右衛門江」の文字が明瞭に残るが、他面は「作□□」と判読できる。515は短冊形を呈する板材で、上方の両端に抉りを有する。片面のみに墨書を認め、「於中」と判読できる。516は短冊形の板材で、片面のみに墨書を認め、「中條八兵衛江」と判読できる。517は長方形と推定される板材で、両面に墨書を認め、片面は「□宮」、他面は「長兵衛」と判読できる。518は角を面取りする長方形を呈する板材で、上方部の中央に穿孔を有する。両面に墨書を認め、片面は「海住屋星江 ち□ ミのノ国之 寄処△」、他面は「八□ 三惣 □厘 □□」と判読できる。519は両面に墨書を認める板材であるが、判読是不可能である。515～518は荷札と推定される。

520・521は内面赤塗り、外面黒塗りの蓋で、520の外面は細線による加飾を施し、521の外面は3個の丸文を加飾する。522は内外面黒塗りの椀で、腰が張る器形である。外面に赤色の松葉と細線による加飾が施される。523～531は内面赤塗り、外面黒塗りの椀であり、523はやや腰の張る器形、524～527は半球形の器形、528～531は高台が高く、腰の張る器形である。523は外面に細い陽刻線による鶴、528は外面に細い陽刻線による鶴と草木、529は細い陽刻線による草木が描かれる。532～543は内外面赤塗りの椀であり、532は器高の低い器形、533～535は半球形の器形、536～543は高台が高く、腰の張る器形である。533は高台内に漆塗り後に「井」状の削痕がつけられる。536は外面に丸文を加飾する。541・542は外面に黒塗りの丸文に鶴の加飾が施される。

544・545は一本作りの杓子で、544は小型品、545は大型品である。

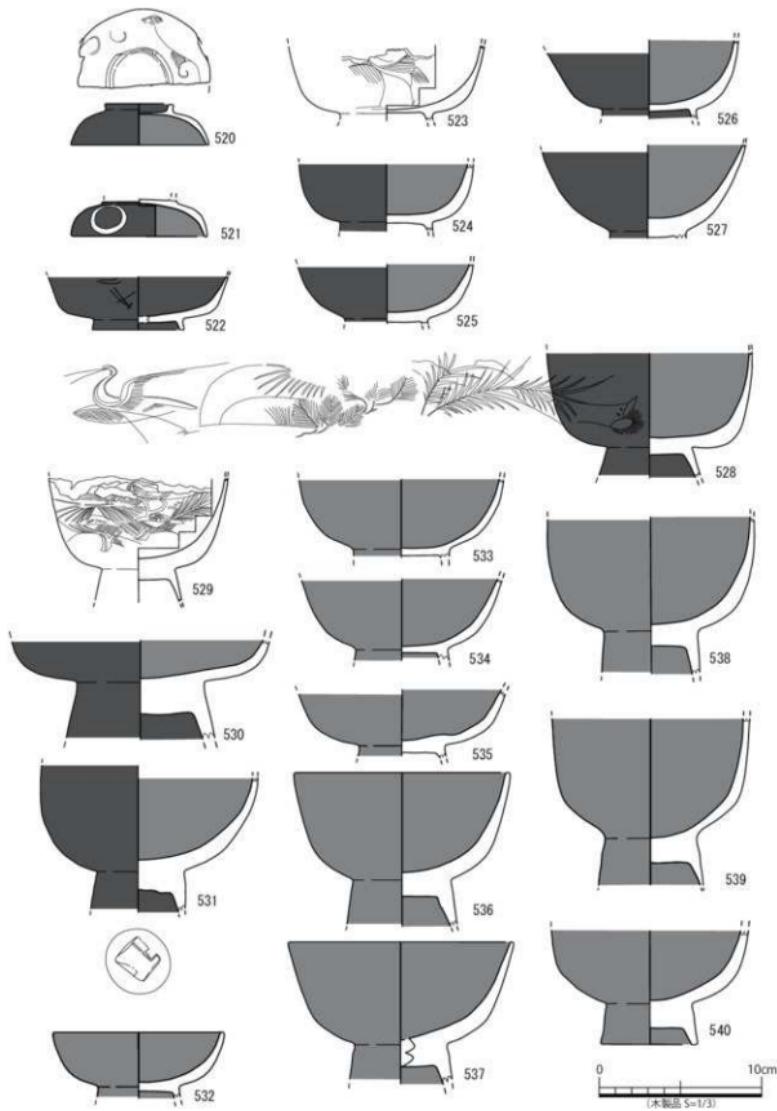
546～549は黒漆塗りの食卓の側板である。546・547は3面を黒塗り、548は2面を黒塗りし、木釘の孔3個を有する。549は4面を黒塗りする。550は短冊形を呈し、片端を薄く削り、綴じ皮として桜皮が残存する。

551～559は直径7.8～12.5cmの曲物である。552は側面に段を有する底板で、側面に1本の木釘と3個の木釘痕を有する。553は桜皮が残存する。556は側面に段を有する底板で、側面に5本の木釘と側板の一部が残存する。557・559は底板と側板が組み合う。底板は側面に段を有し、側板は重なり合う部分を薄く削り、綴じ皮として桜皮を細長い穴に通して綴じる。側板と側板は4本の木釘によって固定される。558は側板であり、内側に木目に直行する7本の直線的な傷が入る。綴じ皮として桜皮が残存する。560～565は直径16.2～32.3cmの曲物である。561は側面に3本の木釘と1個の木釘痕を有する底板で、中央に直径0.7cmの穿孔がある。562は側板で、重なり合う部分を薄く削り、綴じ皮として桜皮を細長い穴に通して綴じる。563と564は同一曲物の側板と蓋である。側板は重なり合う部分を薄く削り、綴じ皮として桜皮を細長い穴に通して綴じる。外面に焼印が押されるが、遺存状態が悪く判読不能である。蓋は2～3枚のへぎ板を丸めて桜皮で綴じている。565は側板で、内側に木目に直行する14本の直線的な傷が入る。綴じ皮を通す細長い穴が穿たれる。

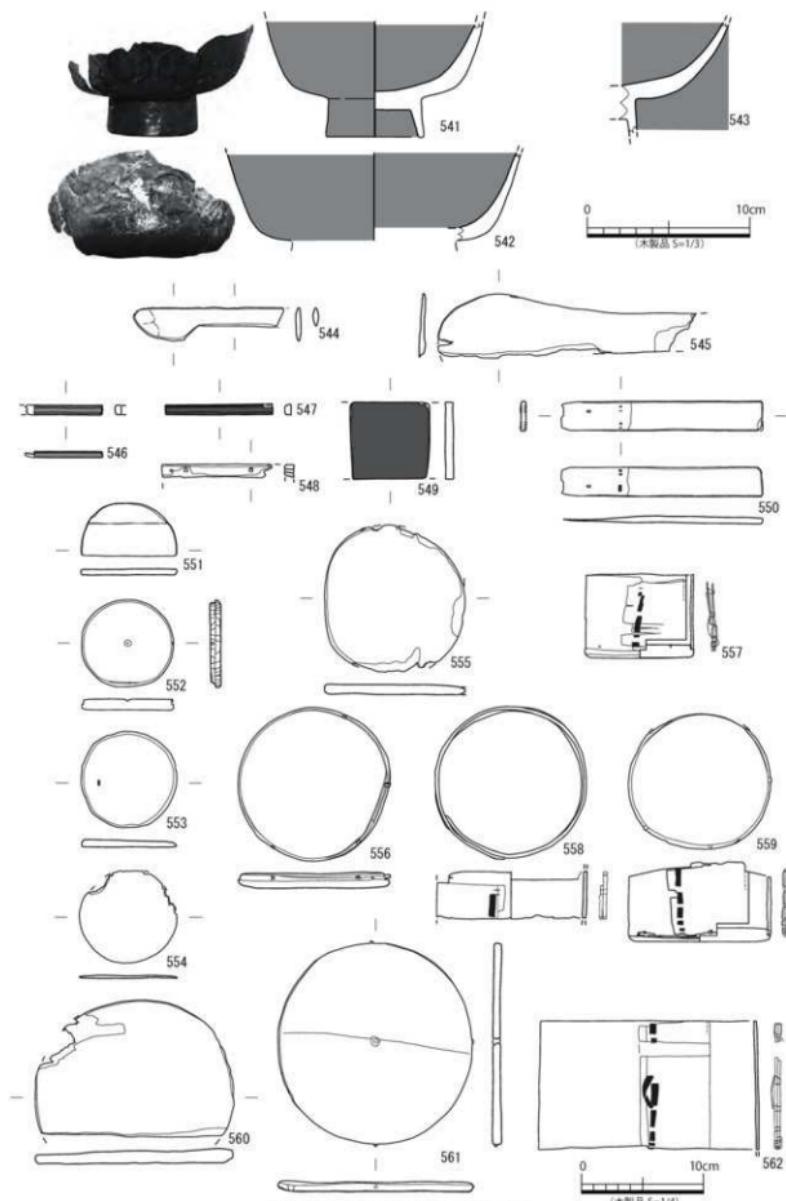
566～569は桶の側板である。566は内側に鉄釘が残る。567は内側下方に底板の痕跡が残る。568は内側中央以下に黒色付着物が残る。569は中央に切断痕がある。570は四角形の桶の側板である。

571は柘植製の櫛である。

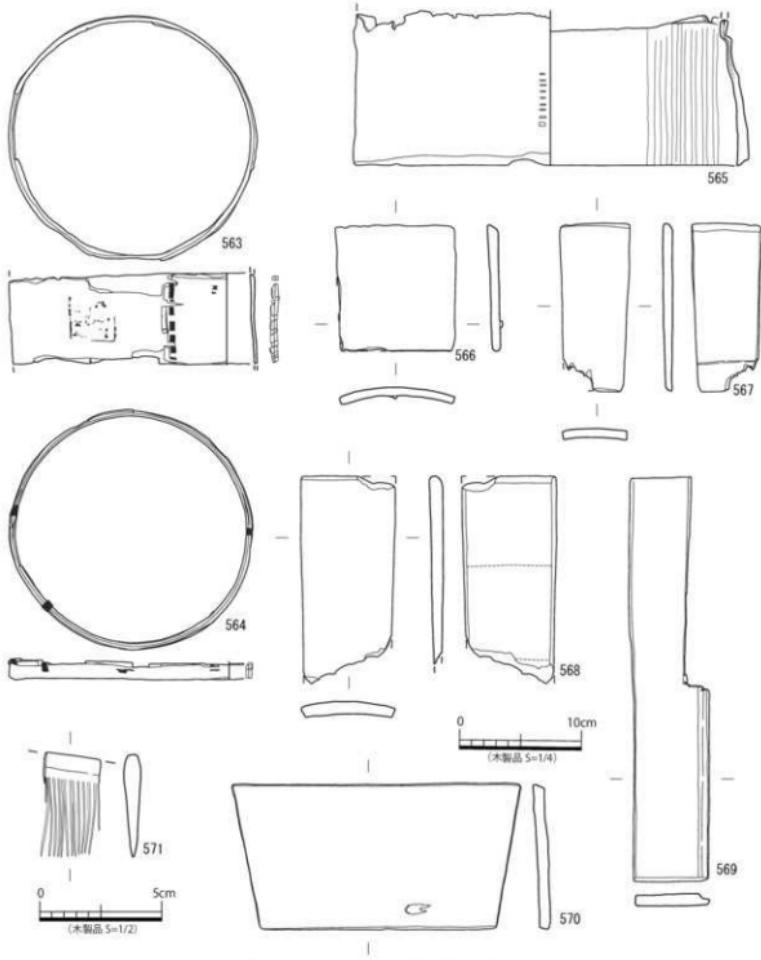
572・573は丸型の露卯下駄、574・576は角形の露卯下駄、575は角形の連歛下駄、577・578は角形の陰卯下駄、579・580は構造下駄の差歛である。576は小型であり、577・578は左足用である。



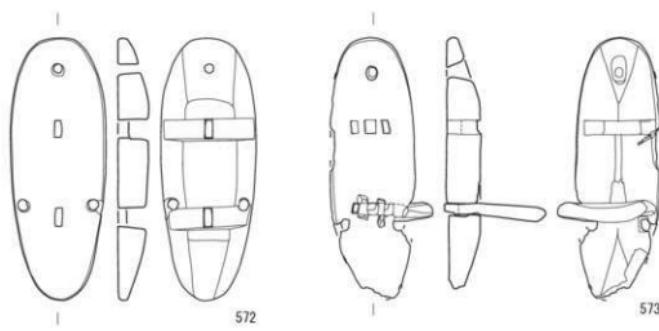
第73図 SE539出土遺物実測図(16)



第74図 SE539出土遺物実測図(17)

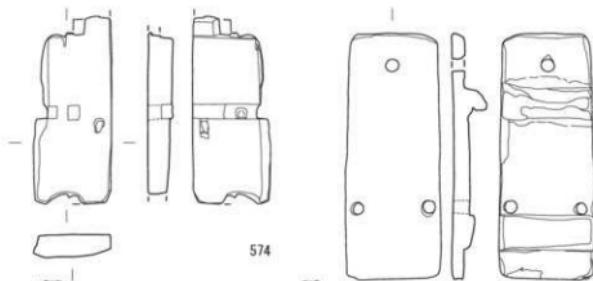


第75図 SE539 出土遺物実測図 (18)



572

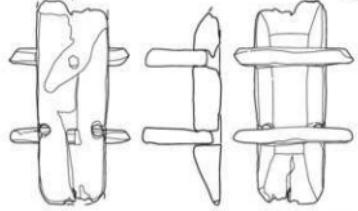
573



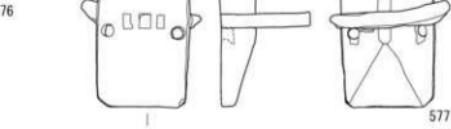
575

576

577

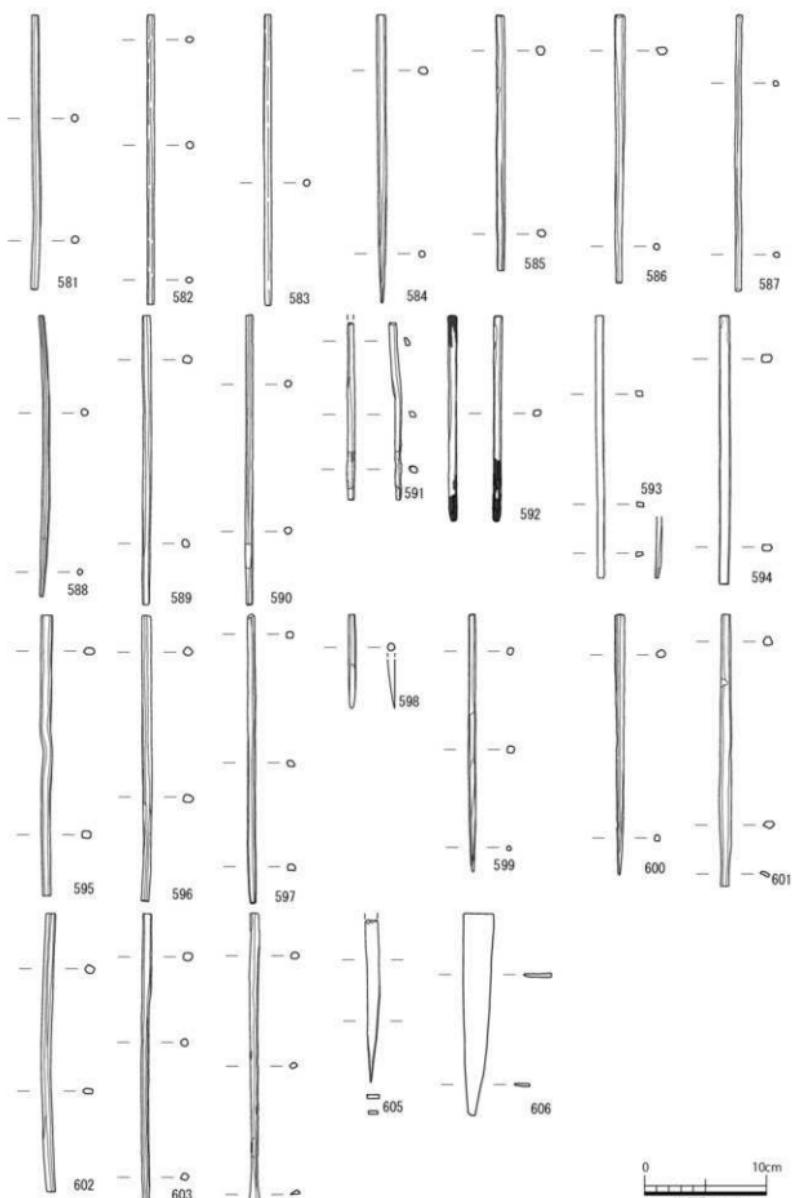


578



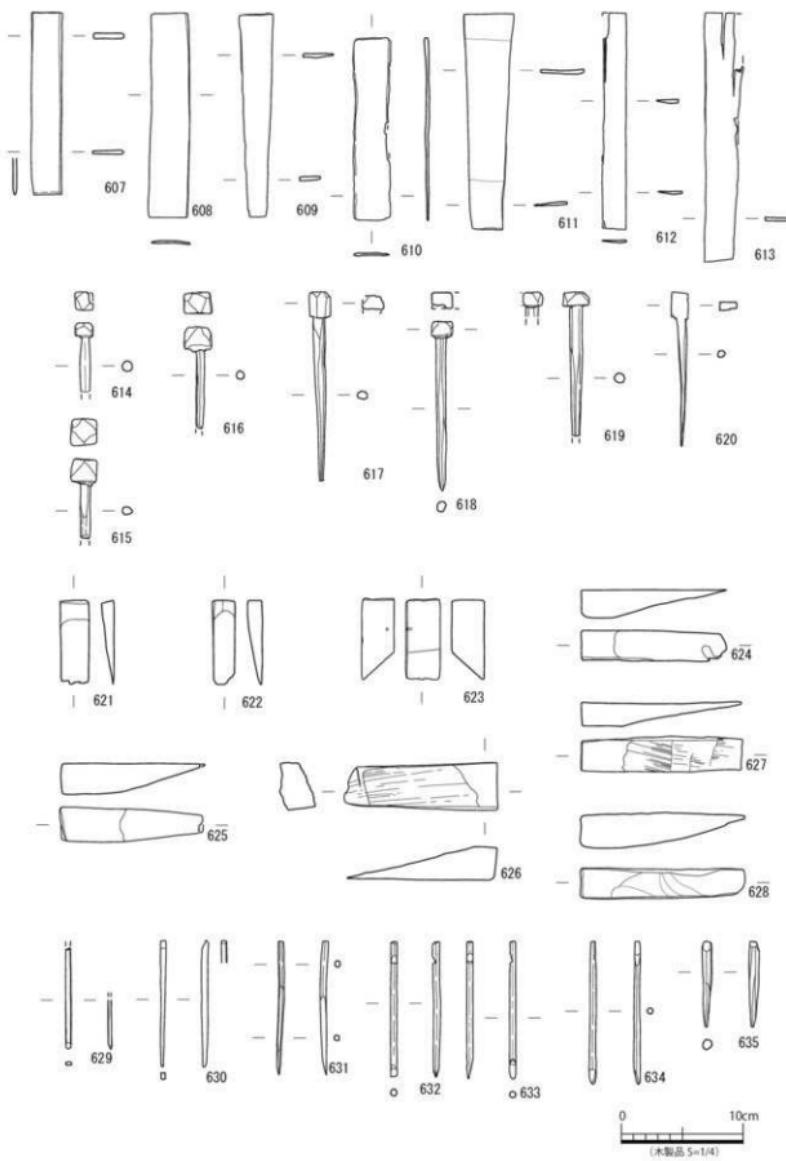
0
10cm
(木製品 5=1/4)

第 76 図 SE539 出土遺物実測図 (19)

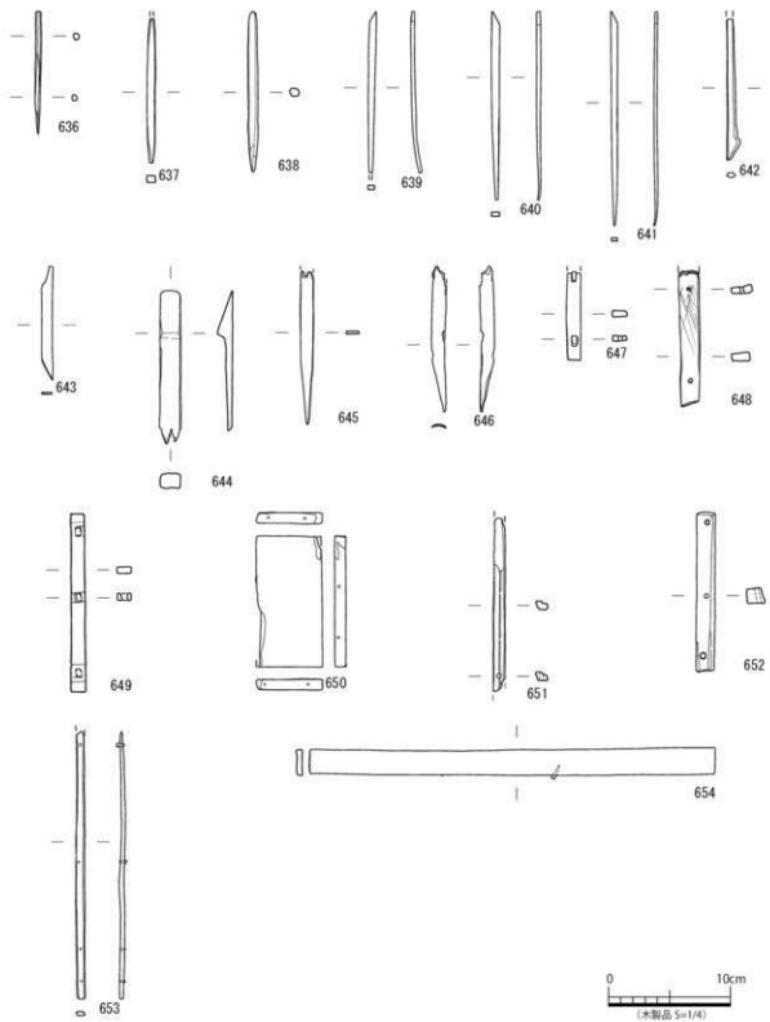


第 77 図 SE539 出土遺物実測図 (20)

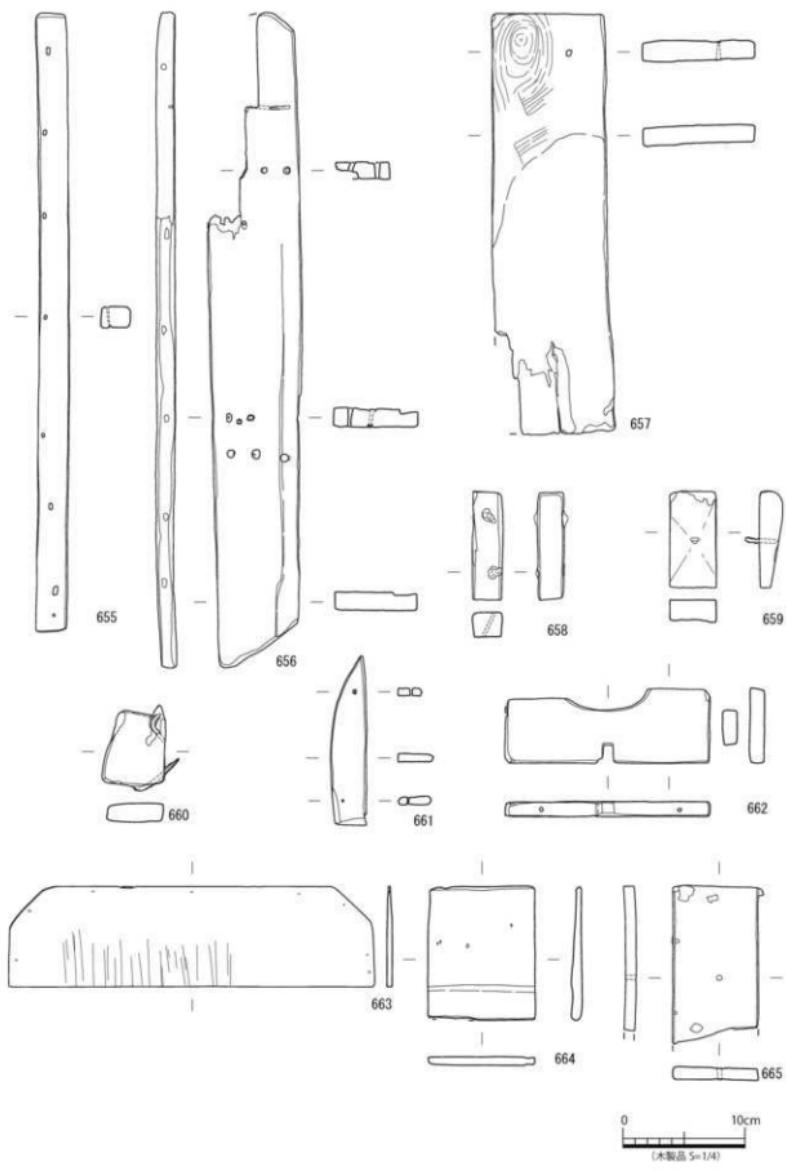




第78図 SE539出土遺物実測図(21)



第79図 SE539出土遺物実測図(22)



第 80 図 SE539 出土遺物実測図 (23)

581～584は長さ23cm前後の箸である。581～583は丁寧な加工で、断面が正円に近い。584は先端を丁寧に尖らせる。丁寧な加工を根拠に箸としたが、籌木の可能性もある。

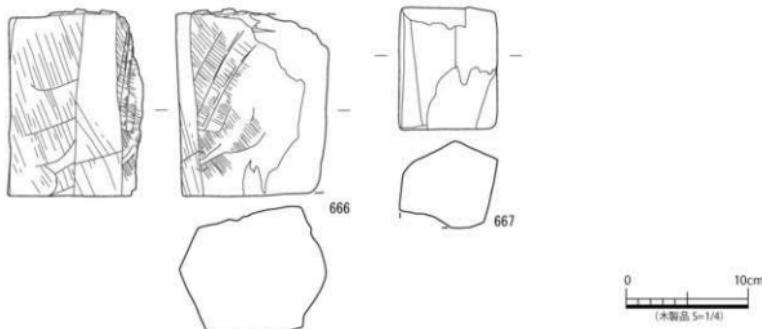
585～604は棒状籌木、605～613は板状籌木である。585～590は断面が丸形、591～597は断面が方形、598～600は断面多角形で、先端を尖らせる。601～604は断面多角形で、先端を平坦にする。605・606は短冊形の板材で、先端を尖らせる。607～613は短冊形である。591は先端部に残留物が付着する。592は両端を焼いている。598は先端を1方向から加工する。

614～620の針部は断面丸形で、先端に向かって細くなる。頭部は断面四角形で、角を面取りする。

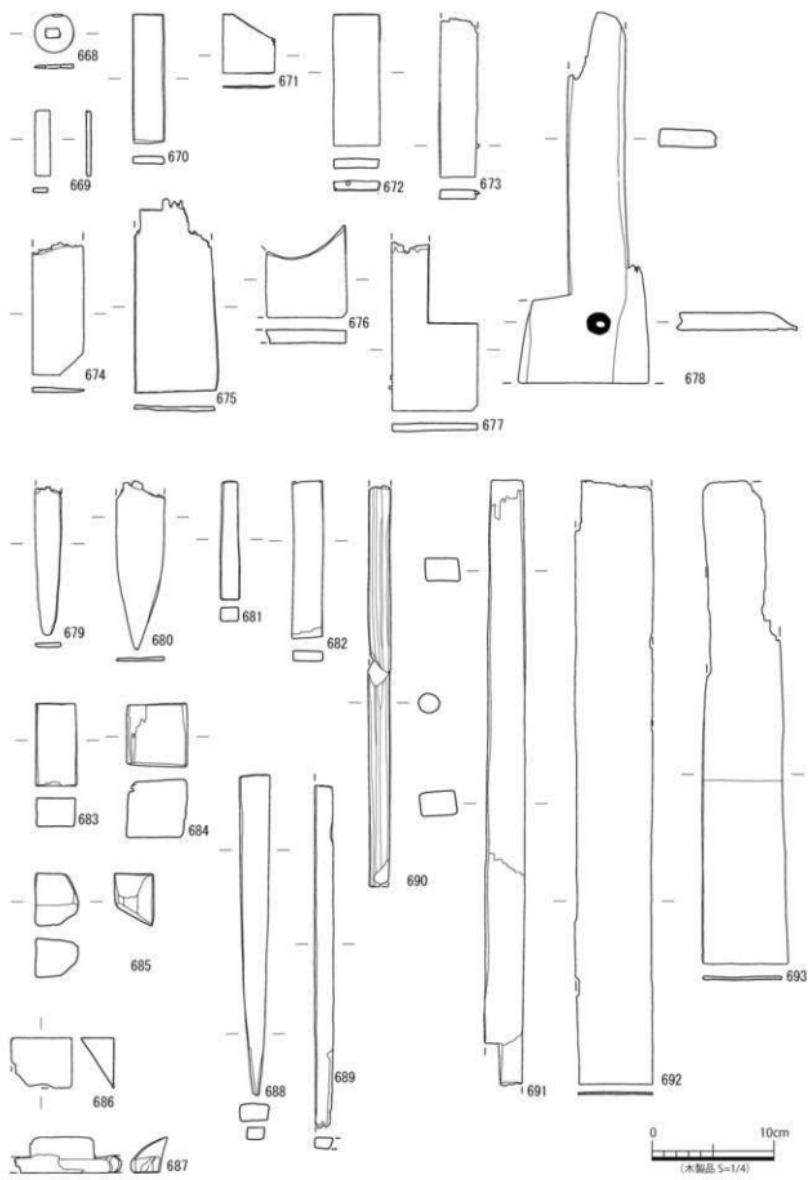
621～623は全長7cm未満の小型、624～628は11.9～13.5cmを測る大型の楔である。

629～631は端部を加工し、筹木の可能性もある。632～634は先端と上端近くを加工する。635・636は先端を尖らす。637・638は両端をわずかに細く加工し、638は筹木の可能性もある。639～641は先端を曲げ、基部を1方向から加工する。

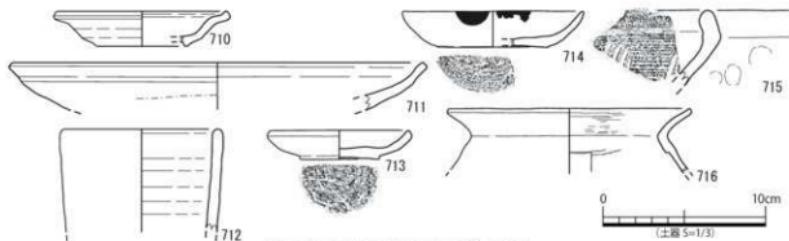
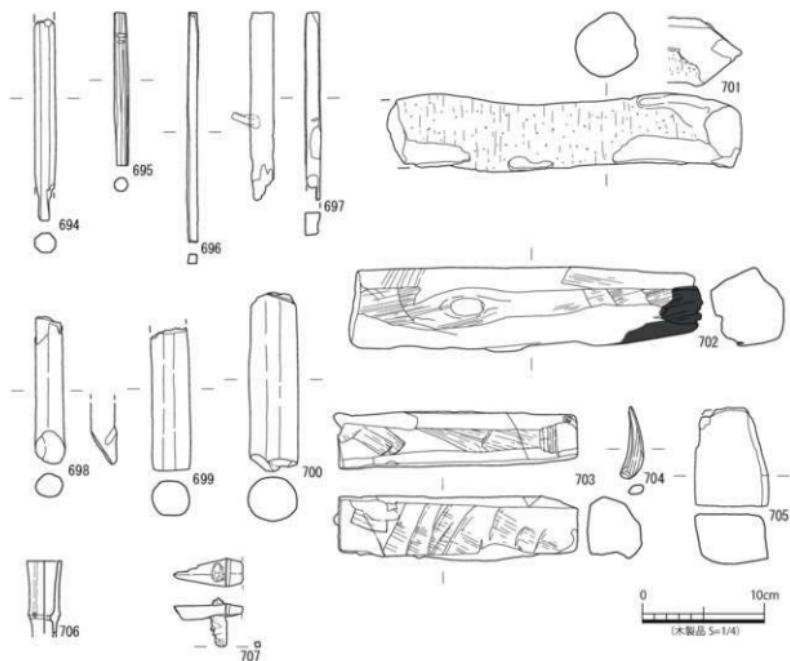
642～645は板材、646は竹を加工する。647～649は短冊形の板材で、方形ないし丸形の孔がある。650は側面3面に木釘がある。651～655は木釘ないし木釘の孔を有し、建具と思われる。656～660は鉄釘ないし鉄釘の孔を有する。661は木釘の孔を有し、662は長方形の板材で、円形と長方形の切り込みがあり、側面に木釘を有する。663は細長い六角形の板材で、縁辺に8個の木釘の孔を有する。664は木釘1本と木釘の孔3個を有する。665は鉄釘6本を有する。666・667は柱材を切断したと考えられ、断面は六角形を呈し、側面にはヤリガンナによる加工が残る。668は円形の板材で、中央は四角に削り抜かれる。669～674は短冊形の板材で、672は両端面に木釘の孔があり、673の側面には木釘がある。675～678は長方形の板材で、676は端部を曲線的に切られ、677は側面に木釘を有し、678は外面に丸文の墨書きがある。679・680は先端を尖らす。681～686は角材であり、685・686は楔の可能性もある。687は孔を有する。688は角材で、先端を尖らす。689・691は角材である。690は細かい加工を施し、断面は円形であり、柄と考えられる。692・693は大型の板材である。694は八角形に面取りする。695は両端を切断し、細かい加工を施す。696・697は角材で、697は鉄釘を有する。698～701は加工痕のある丸木である。698は1方向から加工し、樹種は桜である。699は端部を切断し、700は両端部を加工する。701は端部を2方向から加工し、樹種は桜である。702・703は端部を切断し、側面に明確な加工痕を施す。704は全面加工する。705は全面加工された角材である。706は竹製の灰落しである。707は鉄釘の刺さる竹である。



第81図 SE539出土遺物実測図(24)



第82図 SE539出土遺物実測図(25)



第 83 図 SE539 出土遺物実測図 (26)

棕櫚製品は 708・709 (写真図版 30) である。708 は棕櫚の纖維を棕櫚で作る繩で 5 重に巻いている。709 は棕櫚の纖維である。

掘り方からの出土遺物は、陶器皿 (710・711)、同火入 (712)、土師質土器皿 (713)、同灯明皿 (714)、同擂鉢 (715)、土師器甕 (716) である。

710 は瀬戸・美濃系皿、711 は肥前系大皿である。712 は備前焼で、内外面に自然釉がかかる。713 は厚い器厚で、底面は回転糸キリである。714 は口縁部内外面に煤が付着し、底面は回転糸キリである。716 は「く」字状に屈曲し、口縁部内面はハケ、体部内面は板ナデが施される。

土坑

SK501 (第84図)

調査区東端において検出した土坑である。検出面の標高は0.72mである。平面形は不整な円形であり、検出した径は1.83m、深さは0.34mを測る。掘り込みは急傾斜であり、西端に直径0.35mの落ち込みがある。所属時期は遺構面及び出土遺物から様相2に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器捏鉢(717)、土師質土器鍋(718)、軒丸瓦(719)、軒平瓦(720)、磁器碗、陶器大甕、同捕鉢、土師質土器杯である。717は備前焼。719は佐藤分類IV類68、720は佐藤分類XX類89。

SK503 (第84図)

調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は0.74mである。平面形は不整な円形であり、検出した径は1.50m、深さは0.06mを測る。所属時期は様相2に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯(721・722)、同鍋(723)である。721・722の底面は静止糸キリ。

SK504 (第85図)

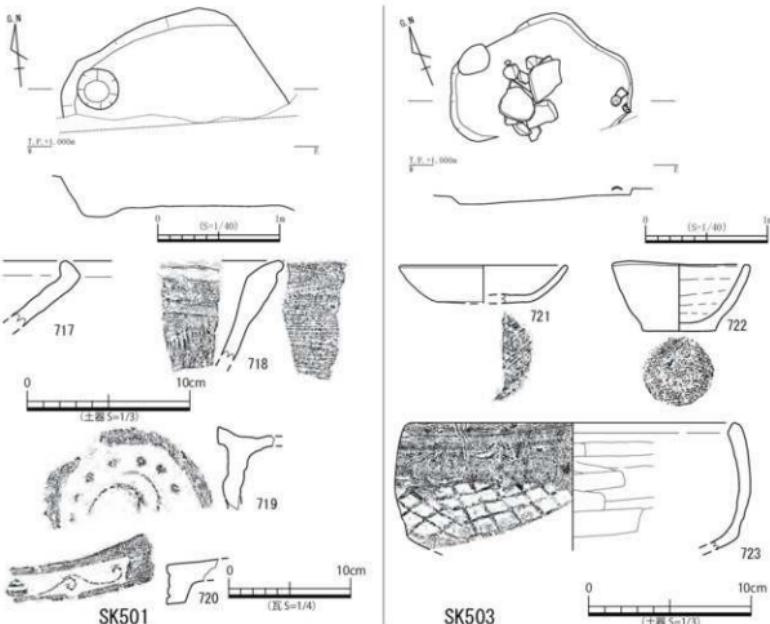
調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は0.77mである。平面形は不整な円形であり、検出した径は0.82m、深さは0.40mを測る。底面は段を有する。

出土遺物は、土師質土器杯、丸瓦、平瓦であるが、図化できるものはない。

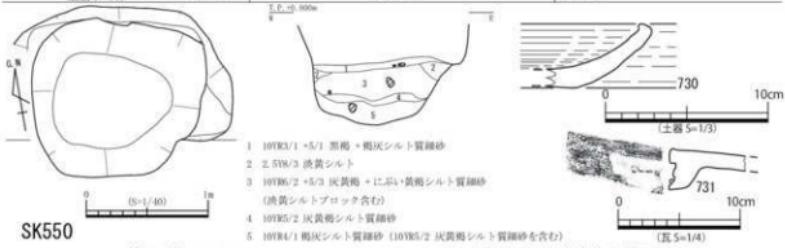
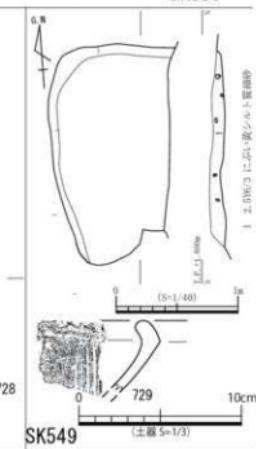
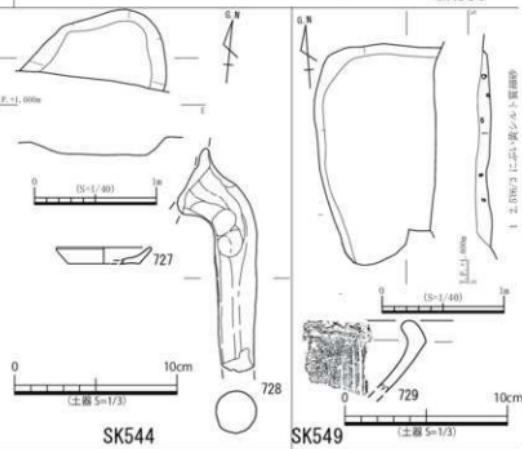
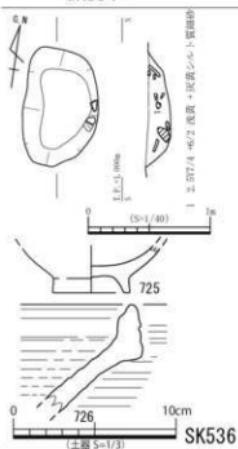
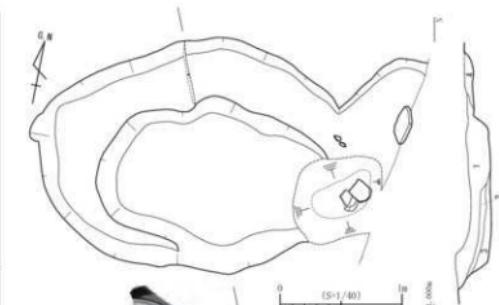
SK534 (第85図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は0.81mである。平面形は不整な円形であり、直径は1.16×0.98m、深さは0.37mを測る。所属時期は様相2に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器大甕、同捕鉢、土師質土器杯、同鍋、丸瓦、平瓦、鉄である。



第84図 SK501・503平・断面図、出土遺物実測図



第 85 図 SK504・534～536・544・549・550 平・断面図、出土遺物実測図

S K 535 (第 85 図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.75 ~ 0.80 m である。平面形は不整な円形であり、直径は 2.88×1.90 m、深さ 0.21 m を測る。所属時期は様相 2 に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器皿 (724)、陶器碗、同甕、土師質土器杯、丸瓦、平瓦である。

724 は肥前系で、高台内に年号を記し、内面に草花文と五弁花を描き、高台内にピン痕が残る。

S K 536 (第 85 図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.80 m である。平面形は不整な円形であり、直径は 0.95×0.61 m、深さは 0.38 m を測る。所属時期は様相 2・3 に相当すると考えられる。

出土遺物は、陶器碗 (725)、同捕鉢 (726)、丸瓦である。

725 は肥前系で、見込みにピン痕が残る。726 は備前焼で、口縁部に重ね焼き痕が残る。

S K 544 (第 85 図)

調査区西側において検出した土坑で、S E 539 に切られる。検出面の標高は 0.70 m である。平面形は不整な円形、直径は 1.20 m、深さは 0.10 m を測る。所属時期は様相 2 に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器小皿 (727)、同足釜 (728)、陶器碗、同壺、丸瓦、鉄である。

S K 549 (第 85 図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.72 ~ 0.75 m である。平面形は不整な円形、検出した直径は 1.80 m、深さ 0.14 m を測る。所属時期は様相 2・3 に相当すると考えられる。

出土遺物は、土師質土器捕鉢 (729)、磁器碗、陶器大甕、土師質土器鍋、弥生土器甕である。

S K 550 (第 85 図)

調査区西端において検出した土坑で、調査工程の都合により第 6 遺構面調査で完掘した。検出面の標高は 0.75 m 前後である。平面形は円形であり、検出した直径は 1.53 m、深さは 0.87 m を測る。掘り込みは急傾斜である。所属時期は様相 2 に相当すると考えられる。

出土遺物は、備前焼陶器捏鉢 (730)、軒平瓦 (731)、磁器碗、同瓶、陶器碗、土師質土器鍋、須恵器甕、鉄である。730 は外面に自然釉とゴマがかかる。731 は連珠文であり、中世の瓦と考えられる。

S K 546 (第 86 図)

調査区南西隅において検出した土坑である。検出面の標高は 0.65 m である。平面形は不整な円形、直径は 1.12×0.85 m、深さは 0.35 m を測る。中央に礎石が南北方向に設置される。約 2.40 m 南に礎石のある S K 553 と関連する遺構と考えられる。所属時期は様相 2・3 に相当すると考えられる。

出土遺物は、礎石 (732)、磁器碗、陶器大甕、土師質土器杯、軒丸瓦、平瓦である。

732 は上面に長さ 58.4 cm、幅 10.6 cm、深さ 5.0 cm の溝状の窪みが掘られる。底面と小口側面に明確なノミ痕が残る。石材は凝灰岩である。

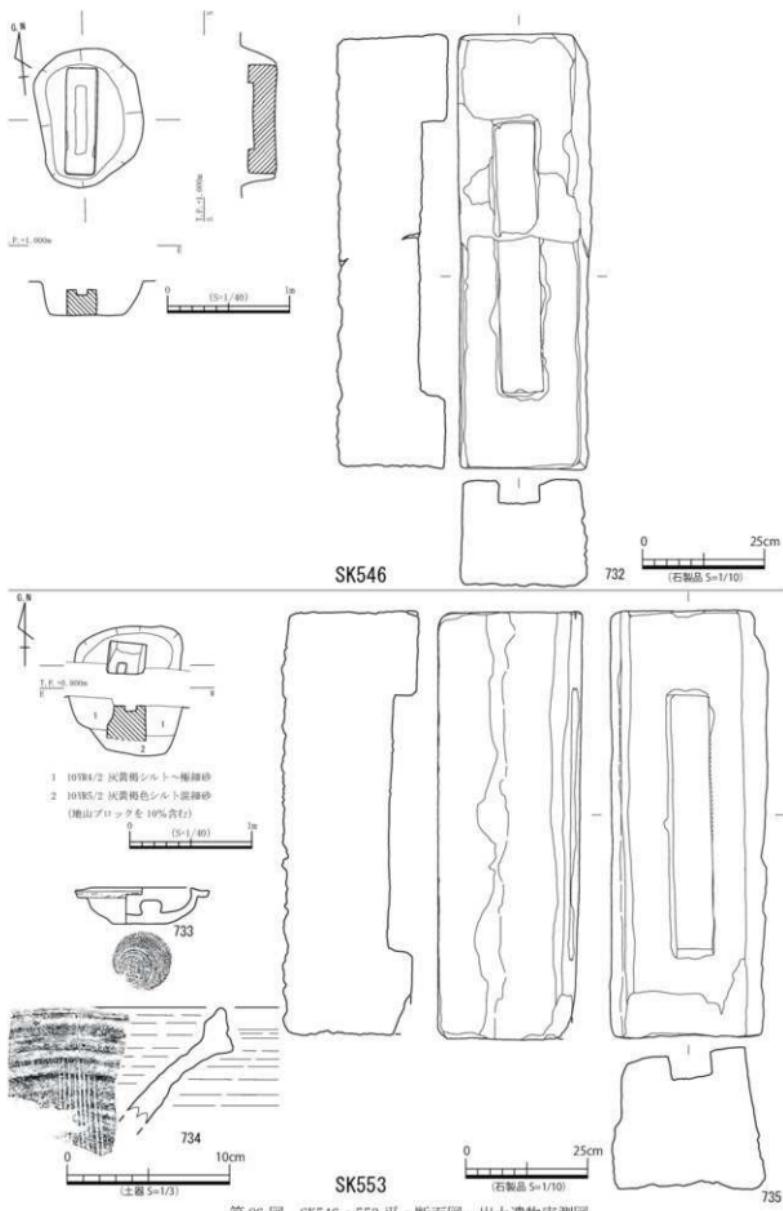
S K 553 (第 86 図)

調査区南西隅において検出した土坑で、南側は調査区外にかかる。検出面の標高は 0.65 m である。平面形は不整な円形、直径は 0.87 m、深さは 0.41 m を測る。中央に礎石が南北方向に設置される。礎石のある S K 546 と関連する可能性がある。所属時期は様相 2・3 に相当すると考えられる。

出土遺物は、軟質施釉陶器の土瓶蓋 (733)、陶器捕鉢 (734)、礎石 (735) である。

733 は屋島焼で、底面は回転糸キリである。734 は備前焼であり、口縁部に重ね焼き痕が残る。

735 は上面に長さ 55.2 cm、幅 9.0 cm、深さ 5.0 cm の溝状の窪みが掘られる。側面に明確なノミ痕が残るが、側面下半の加工は粗い。石材は凝灰岩である。

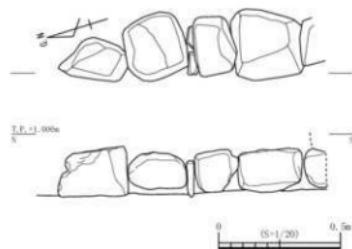


第 86 図 SK546・553 平・断面図、出土遺物実測図

石垣

SW524 (第87図)

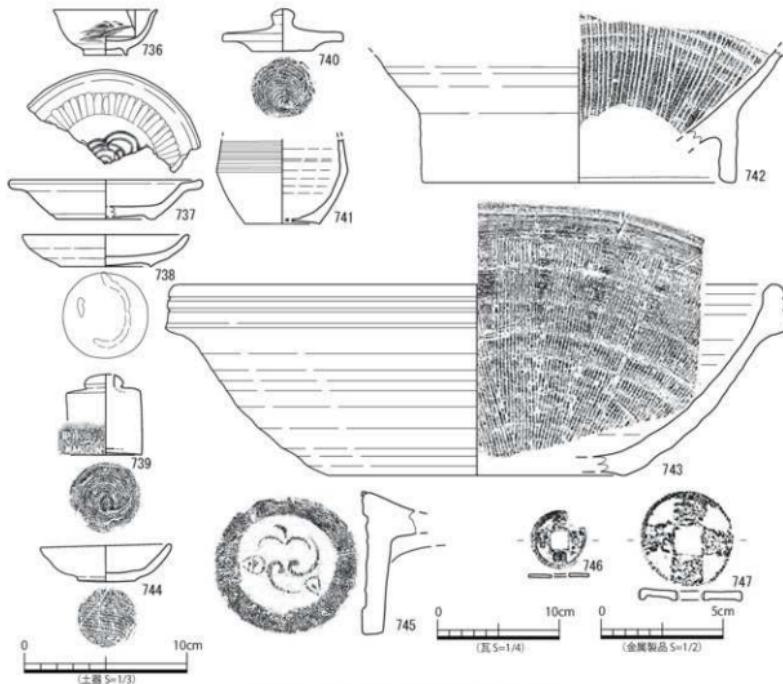
調査区東側において検出した石垣である。石垣は西側に面を持ち、南北方向に延びる。検出した長さは1.10mであり、方位はN-15°-Eである。石垣は5個の石のみ検出され、1段のみ残存し、上面の標高は0.93m前後である。石材は安山岩と花崗岩であり、交互に配置される。



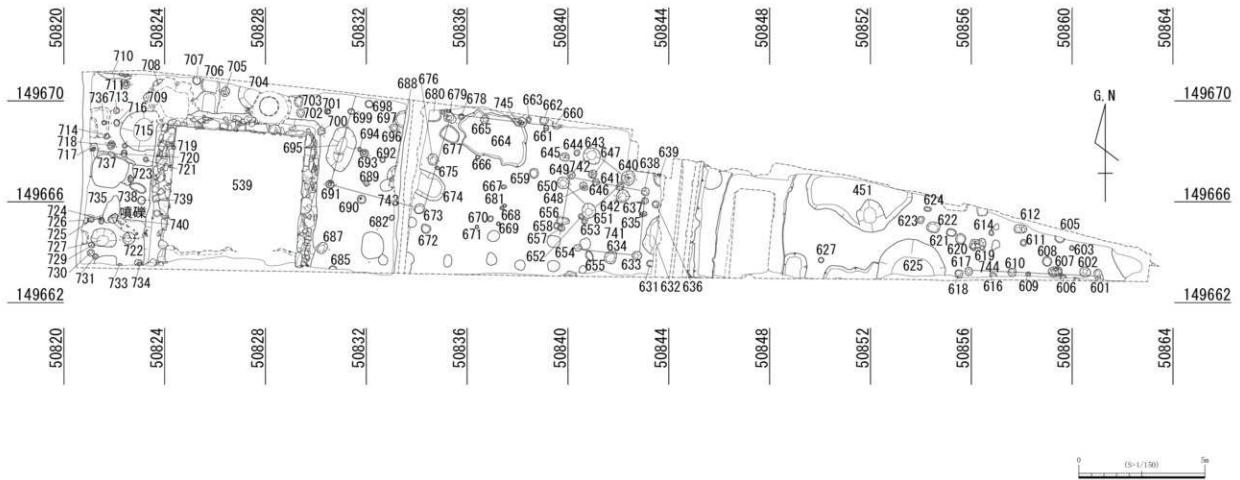
第87図 SW524 平・立面図

第5遺構面包含層出土遺物 (第88図)

736は肥前系磁器酒杯で、豊付に砂目が付着する。737は瀬戸・美濃系陶器の折縁ソギ皿で、見込みに波文を描く。738は瀬戸・美濃系陶器皿で、高台内に胎土目が残る。739は輸入陶器の髪油壺で、外面に数字とアルファベットがある。740は陶器蓋で、底面は回転糸キリである。741は大谷焼陶器そば徳利である。742・743は備前焼陶器の捕鉢。744は土師質土器杯で、底面は静止糸キリ。745は佐藤分類V類277の軒丸瓦。746は銭貨。747は直径4.2cmの性格不明青銅品。



第88図 第5遺構面包含層出土遺物実測図



第89図 第6遺構面 平面図

第7節 第6造構面の遺構・遺物

1 調査の概要

第6造構面は調査区全域において検出したが、調査区中央部東寄りでは擾乱が広く及んでいる。造構面の土層は、55層灰オーリープシルト～極細砂である。造構面の標高は0.50～0.60mを測る。

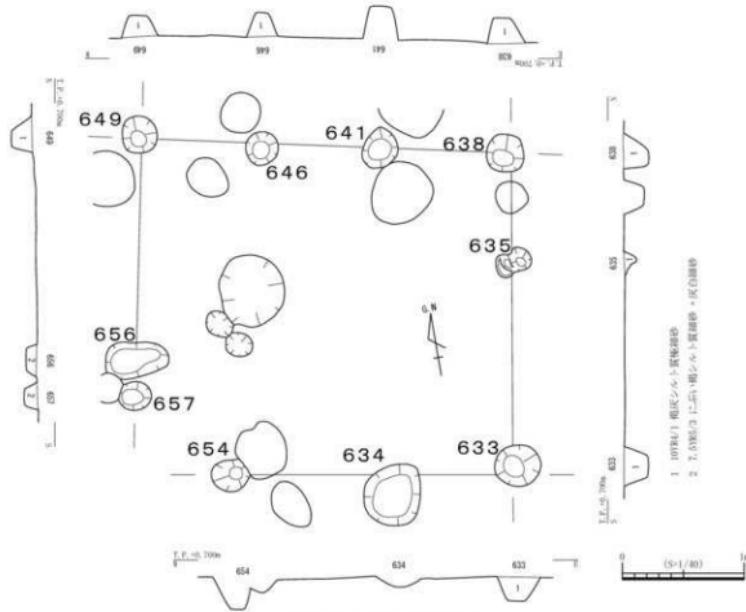
調査は1工区を造構面まで重機で下げ、人力による遺構の調査を行い、全ての調査終了後に2工区を同様の工程で実施した。検出した遺構は掘建柱建物、柱列、土坑、柱穴である。第6造構面以下の土層堆積状況の観察と遺構・遺物の有無の確認を目的とした深掘りを2工区南壁側において実施した。

2 遺構・遺物

掘立柱建物

SB741 (第90図)

調査区中央において検出した掘立柱建物である。検出面の標高は0.52～0.57mである。規模は東西3間、南北2間(3.28×2.90m)を測る。本遺構はS P 633～635・638・641・646・649・654・656の9個の柱穴から構成される。主軸方向はN=80°～Wである。東西方向の重心間距離は1.00m、南北は0.86mと1.68mである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は0.27～0.51m、深さは0.09～0.20mを測る。遺物の出土はないが、所属時期は他の柱穴の埋土を参考にすると様相1と考えられる。



第90図 SB741 平・断面図

S B 742 (第 91 図)

調査区中央において検出した掘立柱建物である。検出面の標高は 0.52 ~ 0.57m である。規模は東西 1 間、南北 1 間 ($2.60 \times 2.30m$) を測る。本遺構は S P 640・643・650・651 の 4 個の柱穴から構成され、S P 640 の位置がずれている。主軸方向は N - 50° - E である。南北方向の心心間距離は 2.05 m と 1.60 m、東西は 1.70 m と 1.52 m である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.46 ~ 0.67 m、深さは 0.14 ~ 0.30 m を測る。所属時期は 13 世紀と考えられる。

出土遺物は、土師質土器杯 (748)、備前焼陶器大甕、陶器甕、土師質土器足釜である。

S B 743 (第 91 図)

調査区西側において検出した掘立柱建物である。検出面の標高は 0.52 ~ 0.59m である。規模は南北 2 間以上、東西 2 間 (4.33 以上 $\times 4.00m$) を測る。本遺構は S P 673・676・679・690・691・699 の 6 個の柱穴から構成される。主軸方向は N - 16° - E である。南北方向の心心間距離は 2.00 m、東西は 1.35 m と 2.30 m である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.28 ~ 0.56 m、深さは 0.08 ~ 0.41 m を測る。所属時期は中世と考えられる。

出土遺物は、平瓦 (749)、丸瓦である。

柱列

S A 744 (第 92 図)

調査区東側において検出した柱列であるが、掘立柱建物の可能性もある。検出面の標高は 0.45 ~ 0.50m である。S P 601・607・610・617 の 4 個の柱穴から構成され、規模は東西 3 間 (5.47m) を測る。方向は N - 88° - W である。心心間距離は 1.70 m である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.30 ~ 0.55 m、深さは 0.10 ~ 0.27 m を測る。出土遺物はないが、所属時期は埋土から中世と考えられる。

S A 745 (第 92 図)

調査区中央において検出した柱列であるが、掘立柱建物の可能性もある。検出面の標高は 0.50m である。S P 660・664・665・678 の 4 個の柱穴から構成され、規模は東西 3 間 (4.08m) を測る。方向は N - 86° - W である。心心間距離は 1.00 m と 1.40 m である。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.24 ~ 0.57 m、深さは 0.02 ~ 0.18 m を測る。出土遺物はないが、所属時期は埋土から中世と考えられる。

土坑

S K 625 (第 92 図)

調査区東側において検出した土坑である。検出面の標高は 0.43 m である。平面形は円形であり、直径は 2.67 m、深さは 0.53 m を測る。所属時期は遺構面及び出土遺物から 16 世紀と考えられる。

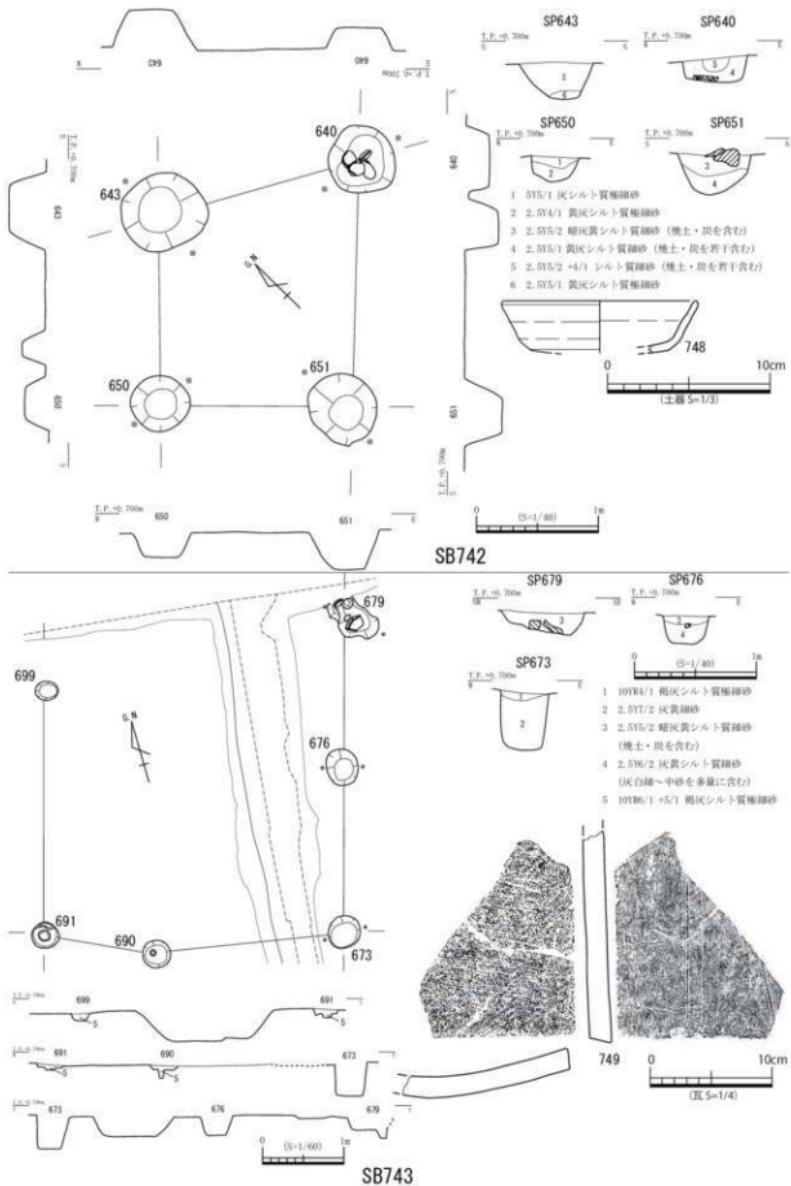
出土遺物は、土師質土器皿 (750)、同擂鉢 (751)、同鍋 (752)、陶器甕である。

750 の底面は回転糸キリである。751 は外面全域に煤と炭化物が付着する。

S K 632 (第 93 図)

調査区中央において検出した土坑であり、第 4 遺構面の掘り残しである。平面形は不整な円形であり、直径は 1.54 m、深さは 0.30 m を測る。所属時期は様相 5 に相当すると考えられる。

出土遺物は、肥前系磁器碗 (753) で、外面に格子文が描かれる。



第91図 SB742・743平・断面図、出土遺物実測図

SK677 (第93図)

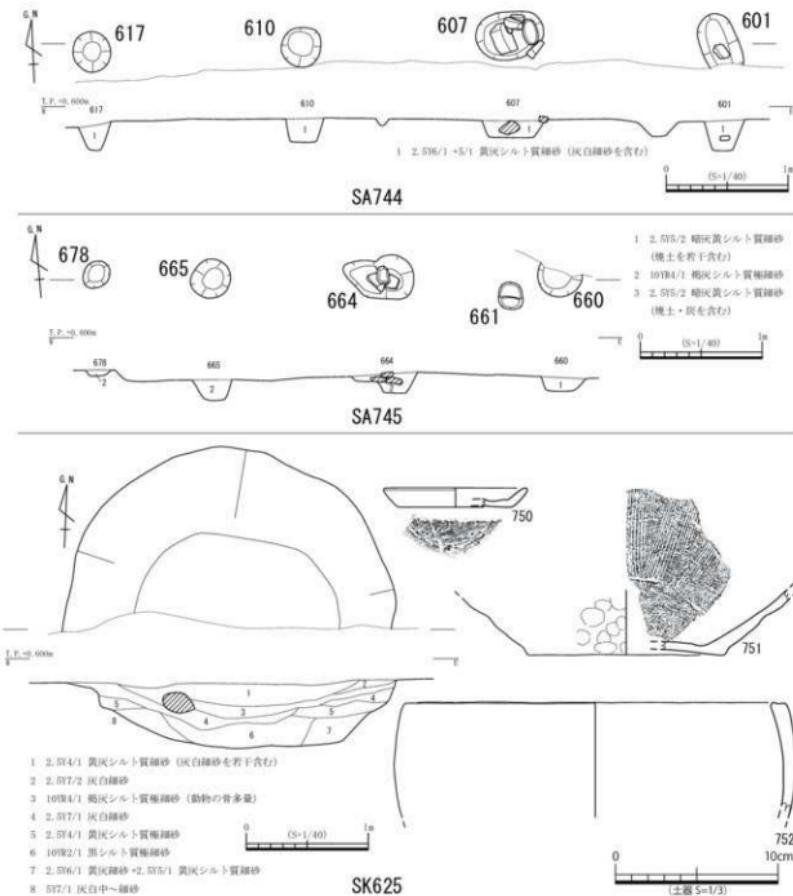
調査区中央において検出した土坑である。検出面の標高は0.57mである。平面形は不整な円形であり、検出した直径は 0.77×0.60 m、深さは0.02mを測る。

出土遺物は、土師質土器杯(754)のみで、底面は静止糸キリの後にナデが施される。

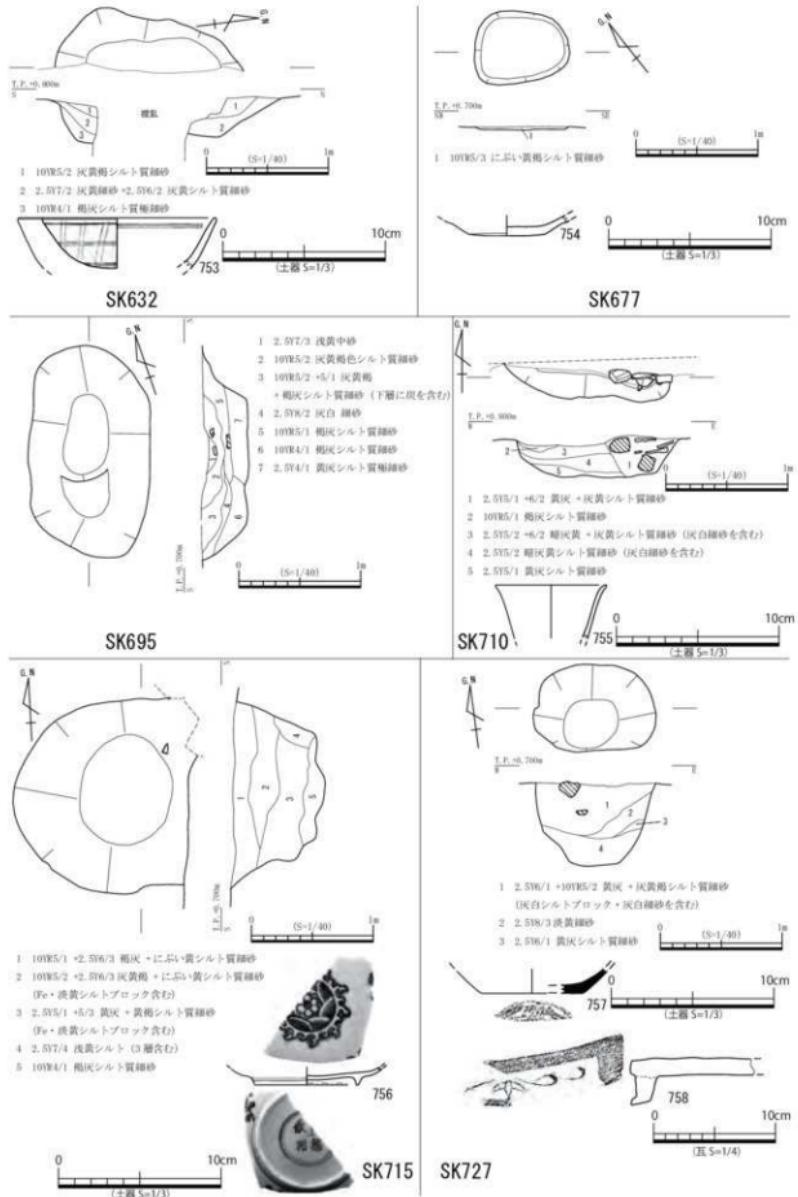
SK695 (第93図)

調査区西側において検出した土坑である。検出面の標高は0.55mである。平面形は梢円形であり、直径は 1.73×1.00 m、深さは0.30mを測る。底面は南側に段を有す。

出土遺物は、陶器碗、土師質土器杯、同鍋であるが、図化できるものはない。



第92図 SA744・745, SK625 平・断面図、出土遺物実測図



第93図 SK632・677・695・710・715・727 平・断面図、出土遺物実測図

SK 710 (第93図)

調査区北西隅において検出した土坑であり、第5遺構面の掘り残しである。検出面の標高は0.64mである。平面形は不整な円形であり、検出した直径は1.35m、深さは0.31mを測る。所属時期は様相2に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器小杯(755)で、端反形である。

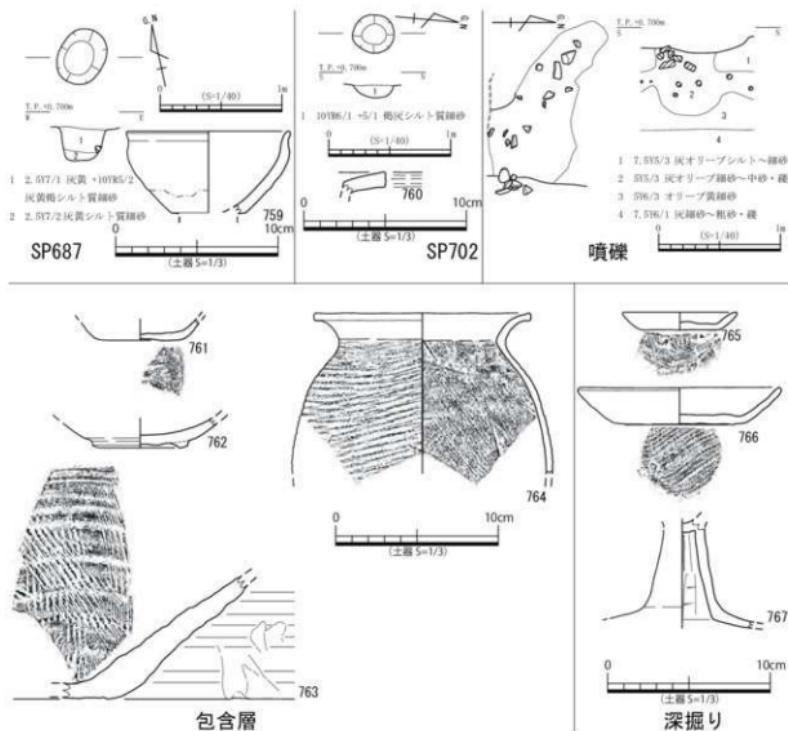
SK 715 (第93図)

調査区西端において検出した土坑である。検出面の標高は0.64mである。平面形は円形であり、直径は1.57m、深さは0.75mを測る。所属時期は様相1に相当すると考えられる。

出土遺物は、磁器皿(756)、平瓦である。756は輸入磁器で、外面に草花文、内面に青海波文が描かれる。高台内に吉祥字を記す。

SK 727 (第93図)

調査区南西隅において検出した土坑である。検出面の標高は0.54mである。平面形は梢円形であり、直径は1.00×0.71m、深さは0.56mを測る。所属時期は様相1に相当すると考えられる。



第94図 SP687・702・噴縫平・断面図、出土遺物実測図、第6遺構面包含層・深掘り出土遺物実測図

出土遺物は、須恵質土器杯（757）、軒平瓦（758）、土師質土器足釜、丸瓦である。757は底面に板目が残り、内外面に火捺がある。758は佐藤分類VI類26で、接合痕が明瞭。

柱穴

S P 6 8 7（第94図）

調査区西側において検出した柱穴である。検出面の標高は0.59mである。平面形は円形、直径0.47×0.38m、深さ0.28mを測る。所属時期は様相1に相当すると考えられる。

出土遺物は陶器碗（759）である。

S P 7 0 2（第94図）

調査区西側において検出した柱穴である。検出面の標高は0.60mである。平面形は円形、直径0.34m、深さ0.10mを測る。出土遺物は土師質土器鍋（760）。

噴礫（第94図）

調査区南西隅において検出した。噴き上がった砂礫（56層）が北西方向に帯状に延びる。検出した長さは1.40mである。第6遺構面の遺構であるS P 722・740が噴礫の上面に検出されたことから、噴礫は中世以前の地震に伴うものと考えられる。

第6遺構面包含層出土遺物（第94図）

761は土師質土器杯で、底面に板目が残る。762は土師器杯。763は備前焼陶器擂鉢。764は土師器甕で、口縁部外面に縱方向のハケ、体部外面に平行タタキ、内面にハケが施される。

第6遺構面以下の深掘り（第4図・第94図）

第6遺構面の基盤層である55層より下層を確認する目的で、2工区南壁側を重機で標高-0.26mまで掘り下げた。土層は55～59層に分層され、55層はシルト～極細砂、56～58層は中砂～細砂、59層は砂礫である。59層上面の標高は-0.10～0.20mである。堆積状態は水平である。遺構は検出されなかった。

出土遺物は、土師質土器皿（765）、土師器杯（766）、弥生土器高杯（767）である。765の底面は回転系キリの後に板目が施される。766の底面切り離しは静止ヘラキリである。

第4章 自然科学分析

第1節 高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1. 試料

試料は高松市高松城跡から出土した容器 2 点、文房具 3 点の合計 5 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹 2 種、広葉樹 2 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(遺物 518・516)

(光学顕微鏡写真 518・516)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ~ 3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

2) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(遺物 514)

(光学顕微鏡写真 514)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1 ~ 2 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

3) ブナ科ブナ属 (*Fagus* sp.)

(遺物 531)

(光学顕微鏡写真 531)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 (~ 110 μ m) がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2 ~ 3 列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2 ~ 3 列、広放射組織の 3 種類がある。広放射組織は肉眼でも 1 ~ 3mm の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはつきりと見られる。ブナ属はブナ、イ

ヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

4) トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

(遺物 520)

(光学顕微鏡写真 520)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 80 \mu\text{m}$ ）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数とともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は單穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は單列で大半が高さ $\sim 300 \mu\text{m}$ となっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

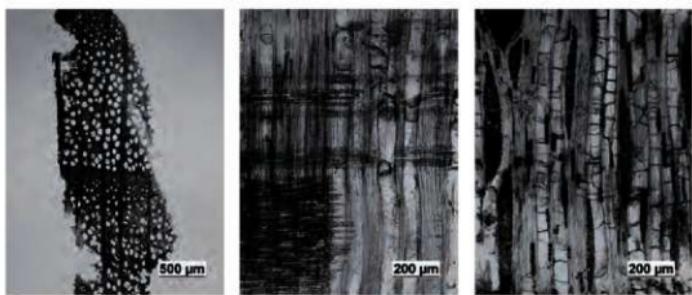
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

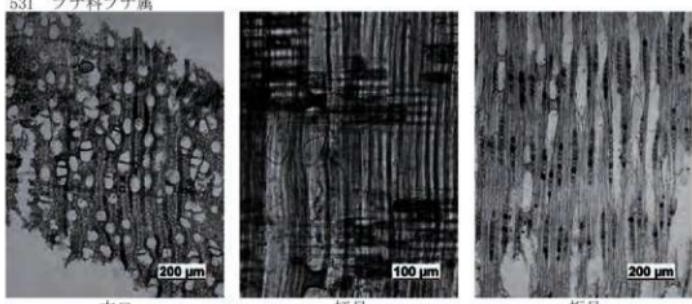
第1表 高松市高松城跡出土木製品同定表

遺物番号	器種	樹種
531	漆椀	ブナ科ブナ属
520	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
518	木筒	スギ科スギ属スギ
516	木筒	スギ科スギ属スギ
514	木筒	ヒノキ科ヒノキ属

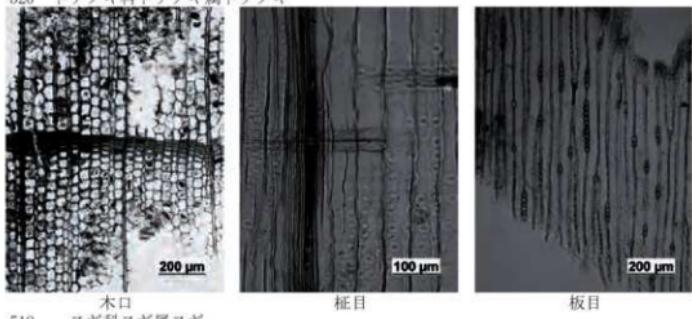


531 ブナ科ブナ属

p-1



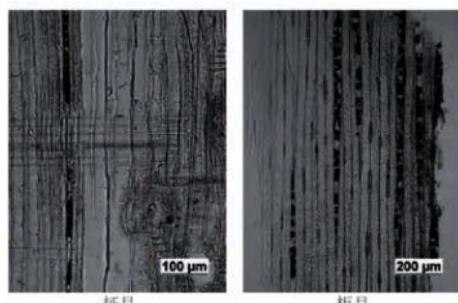
520 トチノキ科トチノキ属トチノキ



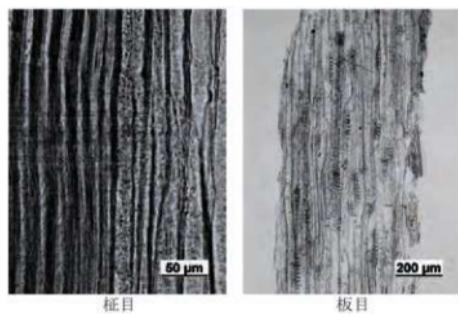
518 スギ科スギ属スギ

第95図 光学顕微鏡写真(1)

516 スギ科スギ属スギ



514 ヒノキ科ヒノキ属



第96図 光学顕微鏡写真(2)

P-2

板目

柾目

板目

柾目

第2節 高松城跡出土木製品の樹種同定

株式会社 イビソク

1. はじめに

高松城跡より出土した木製品の樹種同定を行なった。

2. 試料と方法

試料は2工区第5面のSE 539から出土した木製品19点である。発掘調査所見によれば、SE 539の時期は江戸時代の17世紀中頃～18世紀初頭と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

第2表 高松城跡出土木製品の樹種同定

樹種/器種	差荷下點台	櫛	漆桶	曲物側板	木筒	不明木製品	合計
ヒノキ	1				1		2
アスナロ			4	1	1		6
ツゲ		1					1
ケヤキ	1						1
ブナ属			5				5
トチノキ			3				3
広葉樹		1					1
合計	2	1	9	4	2	1	19

同定の結果、針葉樹ではヒノキとアスナロの2分類群、

広葉樹ではツゲとケヤキ、ブナ属、トチノキの4分類群の、計6分類群がみられた。アスナロが6点で最も多く、ブナ属が5点、トチノキが3点、ヒノキが2点、ツゲとケヤキが各1点であった。また、材組織が不明瞭であったため、広葉樹までの同定にとどめた試料が1点あった。同定結果を第2表に、一覧を第3表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を示す。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 光学顕微鏡写真(1) 1a-1c(517)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(2) アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 光学顕微鏡写真(1) 2a-2c(559)、3a-3c(562)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ2～13列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1分野に2～4個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また、精油分が多く、耐朽性に優れている。

(3) ツゲ *Buxus microphylla* Siebold et Zucc. var. *japonica* (Moll. Arg. ex Miq.) Rehder ツ

ケ科 光学顕微鏡写真(2) 4a-4c(571)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は10～20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～2列となる。ツゲは関東以西の本州と四国、九州、屋久島に分布する常緑低木の広葉樹である。材はきわめて緻密で堅硬だが、切削などの加工は比較的容易である。また、耐久性が高い。

(4) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 光学顕微鏡写真(2) 5a-5c(577)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は單穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(5) ブナ属 *Fagus* ブナ科 光学顕微鏡写真(2)、(3) 6a-6c(538)、7a-7c(532)

小型の道管が単独ないし2～3個複合して密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～10列である。

ブナ属にはブナとイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は、重硬で強度があるが、切削加工は困難ではない。

(6) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科 光学顕微鏡写真(3) 8a-8c(541)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で単列である。また、放射組織は層階状に配列する。

トチノキの分布の北限は北海道南部で、九州まで広く分布するが、東北に多くみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや軽軟で、切削加工は極めて容易である。

(7) 広葉樹 Broadleaf-wood 光学顕微鏡写真(3) 9a-9c(534)

中型の道管がほぼ単独で散在する散孔材であるが、試料の状態が悪く、不明瞭であった。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～2列となる。

4. 考察

江戸時代の遺構と考えられている、SE 539から出土した差歎下駄の台は、ヒノキとケヤキであった。ヒノキは真っすぐに生育する加工性の良い樹種で、ケヤキは堅硬だが加工性の良い樹種である(伊東ほか, 2011)。香川県の東山崎・水田遺跡から出土した戦国時代～江戸時代初期頃の連歎の一木下駄ではマツ属複維管東亜属が最も多くみられ、ヒノキ科も確認されているが、ケヤキはみられない(伊東・山田編, 2012)。

櫛は、ツゲであった。ツゲは堅硬で加工性が良く、耐久性も高い樹種である(伊東ほか, 2011)。ツゲは緻密で、古来より現代に至るまで櫛に多く利用されており(平井, 1996)、東京都内の江戸時代の遺跡群でもツゲ製の櫛が多く利用されている(伊東・山田編, 2012)。

漆椀には、ブナ属とトチノキ、広葉樹がみられた。ブナ属は堅硬だが加工性が良く、トチノキは軽軟で加工性が良く、ともに現在でも漆椀の木胎として多く利用されている樹種である(伊東ほか, 2011)。また、高松城跡で過去に行われた漆椀の樹種同定でも、漆椀にブナ属とトチノキが多く利用されており(伊東・山田編, 2012)、傾向は一致する。

曲物側板は、いずれもアスナロであった。アスナロはヒノキと同様に真っすぐで加工性が良い(伊

東ほか, 2011)。高松城跡の過去の調査で出土した曲物の井筒の樹種同定ではアスナロが確認されており(伊東・山田編, 2012)、傾向は一致する。

木筒はヒノキとアスナロ、不明木製品はアスナロであった。香川県の東山崎・水田遺跡の戦国時代～江戸時代初期頃の木筒にはスギが利用されており(伊東・山田編, 2012)、異なる傾向を示した。ただし、スギもヒノキおよびアスナロと同様に加工性が良く、類似する材質の木材が利用されたと考えられる。

引用文献

平井信二(1996)木の大百科一解説編一、642p, 朝倉書房。

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳(2011)日本有用樹木誌、238p, 海青社。

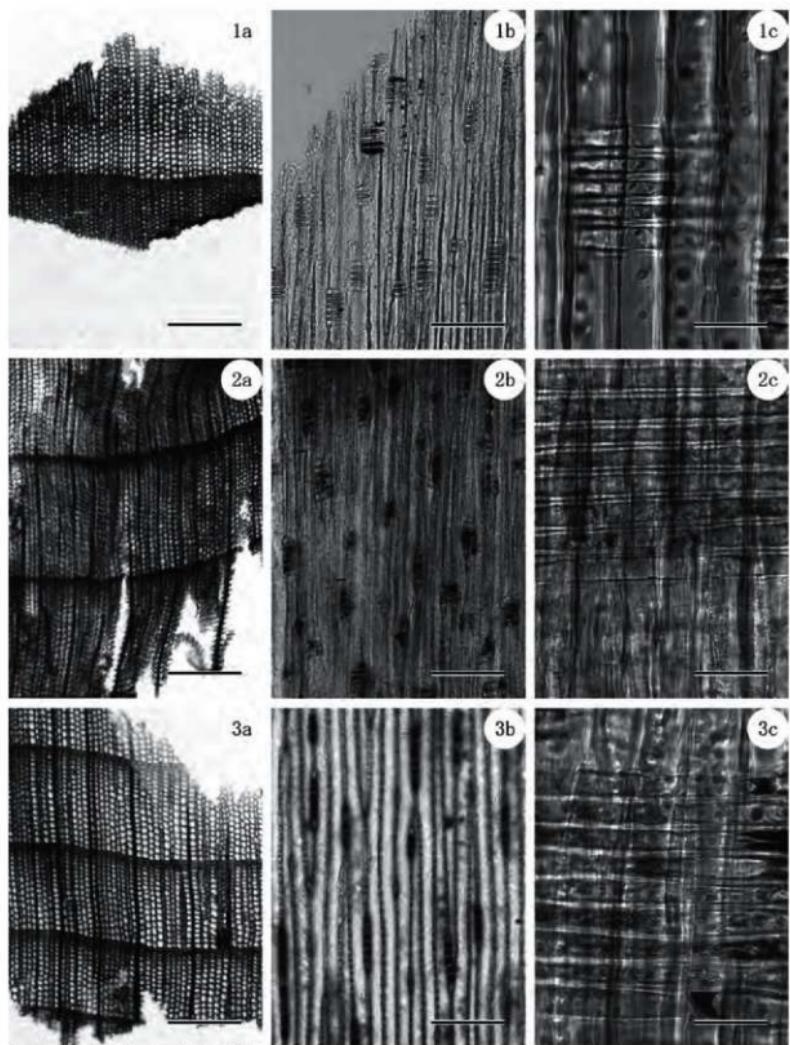
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベースー、449p, 海青社。

技術協力

小林 克也氏(パレオ・ラボ)

第3表 高松城跡出土木製品の樹種同定結果

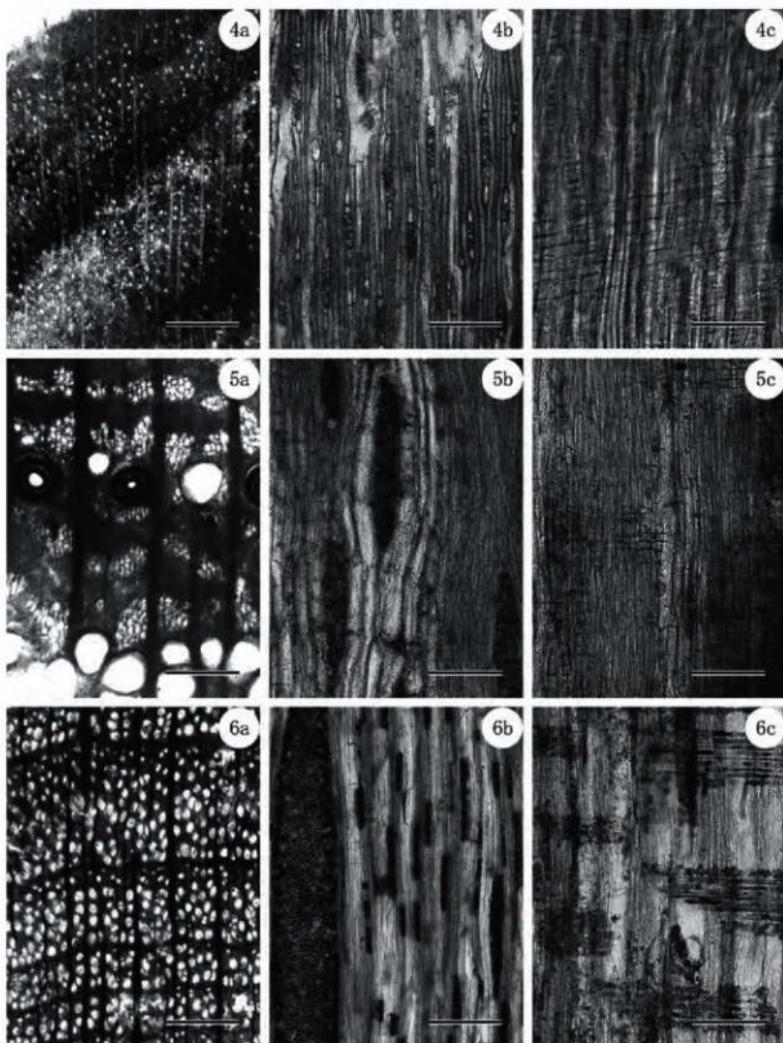
保存処理No.	遺物番号	地区	遺構番	出土遺構	層位	樹種	樹種	木取り	備考	時期
18	515	2工区	第5面	539	西側下層	木筒	アスナロ	板目	墨書きあり	江戸時代
19	517	2工区	第5面	539	西側下層	木筒	ヒノキ	板目	墨書きあり	江戸時代
20	519	2工区	第5面	539	西側下層	加工材	アスナロ	板目	墨書きあり	江戸時代
21	571	2工区	第5面	539	西側下層	櫛	ツゲ	板目		江戸時代
24	538	2工区	第5面	539	東側下層	漆椀	ブナ属	埋木取り		江戸時代
25	537	2工区	第5面	539	西側下層	漆椀	ブナ属	埋木取り		江戸時代
26	525	2工区	第5面	539	西側下層	漆椀	ブナ属	埋木取り		江戸時代
27	524	2工区	第5面	539	西側下層	漆椀	トチノキ	埋木取り		江戸時代
28	536	2工区	第5面	539	西側下層	漆椀	ブナ属	埋木取り		江戸時代
29	530	2工区	第5面	539	下層	漆椀	トチノキ	埋木取り		江戸時代
30	541	2工区	第5面	539	下層	漆椀	トチノキ	埋木取り		江戸時代
31	532	2工区	第5面	539	最下層	漆椀	ブナ属	埋木取り		江戸時代
32	534	2工区	第5面	539	西側下層	漆椀	広葉樹	埋木取り		江戸時代
33	565	2工区	第5面	539	ベルト下層	曲物側板	アスナロ	板目		江戸時代
34	557	2工区	第5面	539	西側下層	曲物側板	アスナロ	板目		江戸時代
35	559	2工区	第5面	539	西側下層	曲物側板	アスナロ	板目		江戸時代
36	562	2工区	第5面	539	西側下層	曲物側板	アスナロ	板目		江戸時代
37	577	2工区	第5面	539	西側下層	差函下駄台	ケヤキ	板目		江戸時代
38	578	2工区	第5面	539	東側下層	差函下駄台	ヒノキ	直板目		江戸時代



1a-1c, ヒノキ (517)、2a-2c, アスナロ (559)、3a-3c, アスナロ (562)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=50 μm)

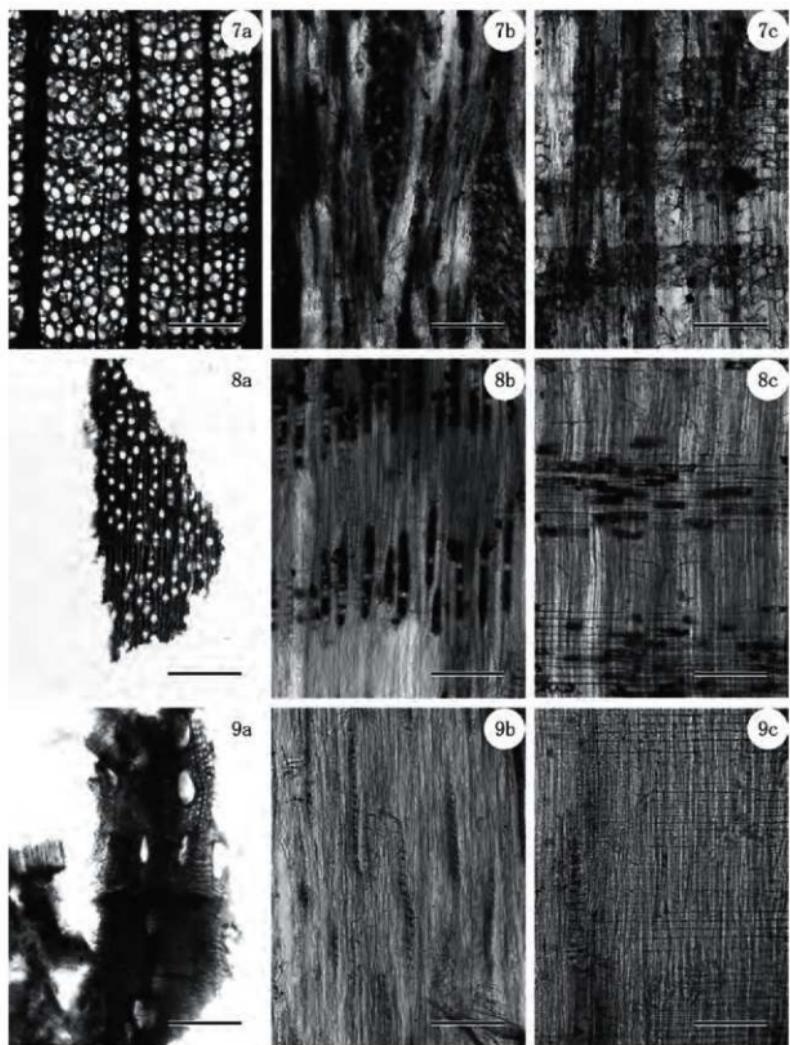
第97図 高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真 (1)



4a-4c. タガ属(571)、5a-5c. ケヤキ(577)、6a-6c. ブナ属(538)

a: 横断面(スケール=500 μm)、b: 接線断面(スケール=200 μm)、c: 放射断面(スケール=5・6:200 μm・4:100 μm)

第98図 高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真(2)



7a-7c. ブナ属 (532)、8a-8c. トチノキ (541)、9a-9c. オニグルミ? (534)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=200 μm)

第99図 高松城跡出土木製品の光学顕微鏡写真 (3)

第3節 高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果

(株) □田生物研究所

1. 試料

試料は高松市高松城跡から出土した容器6点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹1種、広葉樹2種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(遺物 558、563、564)

(光学顕微鏡写真 558、563、564)

木口では仮道管を持ち、早材から晚材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

2) ブナ科ブナ属 (*Fagus* sp.)

(遺物 533、539、543)

(光学顕微鏡写真 533、539、543)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 110 \mu\text{m}$ ）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2～3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1～3mmの高さを持った褐色の紺錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

3) トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

(遺物 528)

(光学顕微鏡写真 528)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 80 \mu\text{m}$ ）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性

である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300 μmとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

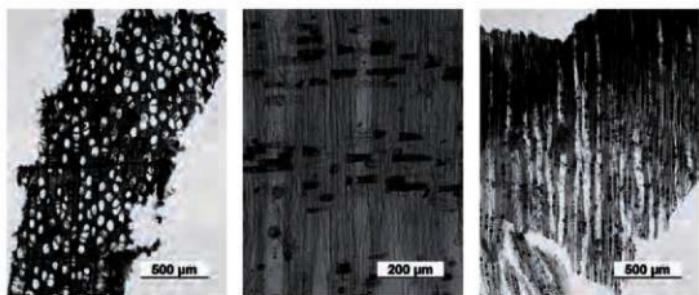
- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）
島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

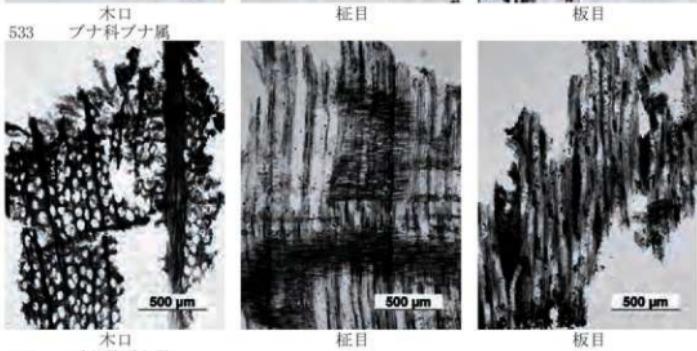
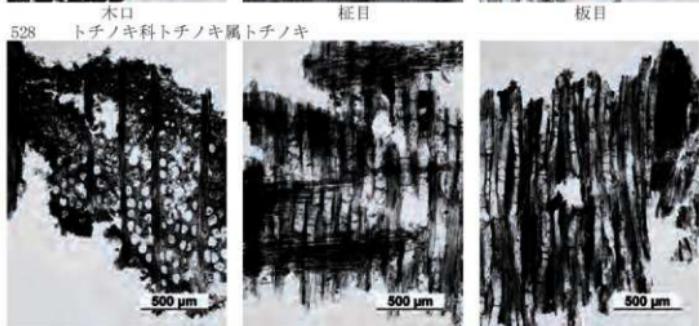
Nikon DS-Fi1

第4表 高松市高松城跡出土木製品同定表

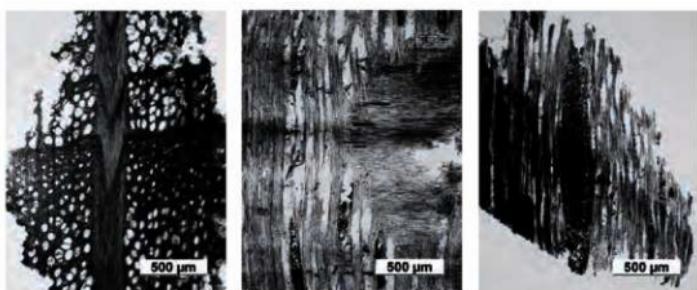
遺物番号	器種	樹種
528	椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
533	椀	ブナ科ブナ属
539	椀	ブナ科ブナ属
543	椀	ブナ科ブナ属
558	曲物	ヒノキ科アスナロ属
563	曲物（側板）	ヒノキ科アスナロ属
564	曲物（籠）	ヒノキ科アスナロ属



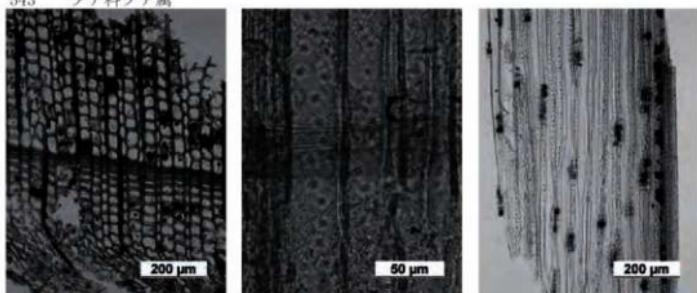
P-1



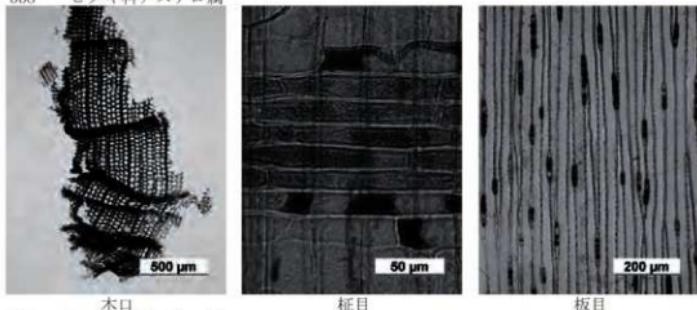
第 100 図 光学顕微鏡写真 (1)



543 ブナ科ブナ属

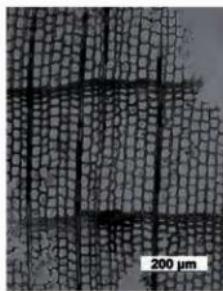


558 ヒノキ科アスナロ属



563 ヒノキ科アスナロ属

第101図 光学顕微鏡写真(2)



564 木口
ヒノキ科アスナロ属



第 102 図 光学顕微鏡写真 (3)



板目

p-3

第5章 調査のまとめ

第1節 遺構の変遷

今回の調査によって、中世～近世（17世紀前葉～19世紀末葉）の遺構面が6面確認され、各面において多数の遺構が検出され、土地利用の変遷を確認することができた。以下、各時期における遺構の変遷を概観する。ただし、調査区の平面形が細長く、面積が狭いため、遺構の全貌を明らかにすることは出来なかつた。

I期（弥生時代～古代）

中・近世の基盤層である灰オリーブシルト～極細砂（55層）の深掘りを部分的であるが実施した。掘削は標高0m付近の砂礫層まで達した。遺構は検出されなかつたが、砂礫層付近において弥生土器高杯（767）と土師器杯（766）、土師質土器皿（765）が出土した。弥生土器は摩滅しており、上流から流されてきたものである。土師器と土師質土器は良好な遺存状態であり、本遺跡の周辺に当該時期の遺構が存在すると考えられる。

II期（中世）

調査区全域において遺構を検出した。遺構面としては第6遺構面であり、標高は0.55m前後である。主な遺構は、掘立柱建物のSB742・743、柱列のSA744・745、SK625、多数の柱穴である。SB742は1間×1間の規模であり、出土した杯から13世紀に比定される。SB743は南北方向に主軸をもち、2間以上×2間の規模である。埋土から中世と考えられる。SA744は調査区東端、SA745は調査区中央の北端に位置し、埋土から中世と考えられる。黄灰シルト質細砂を埋土とする柱穴は調査区全域に検出されるが、特に東側に集中している。

III期（17世紀初頭）—様相1

調査区中央より西側において遺構を検出した。遺構面としては第6遺構面であり、標高は0.55m前後である。主な遺構は、掘立柱建物のSB741、SK715・727、SP687である。SB741は東西方向に主軸を持ち、3間×2間の一般的な掘立柱建物であり、絵図に記載される「入谷助市」が居住する建物とは考えにくい。褐灰シルト質細砂を埋土とする柱穴は調査区中央に集中し、西側はSK715・727を含める土坑があり、東側は空白区域となっている。居住区間である建物と考えられる遺構は確認できなかつた。

IV期（17世紀前半）—様相2・3

調査区の東側と西側において遺構を検出した。遺構面としては第5遺構面であり、標高は0.75m前後である。主な遺構は、井戸状石組み遺構のSE539、石垣のSW524、土坑のSK501・503・535・546・550・553、多数の柱穴である。最も注目すべき遺構はSE539である。1段ないし2段が残存する石積みで構成される地下空間は北壁・東壁・西壁の3面の石積に囲まれ、東西約5.2mを測り、南北約5.4mを検出し、17世紀中頃に築かれ、18世紀初頭に埋没した。礎石を有するSK546・553がSE539の西側に検出される。礎石は全長55cmと58cmで、上面に幅5cm、深さ5cmの溝が掘り込まれる。二つの礎石は約2.4mの間隔で南北方向に直線的に並んでおり、SE539に関連する施設である可能性も考えられる。調査区の西側ではSE539と規模の大きな土坑が検出され、東側は土坑と柱穴が密集した状態で検出される。同じ敷地内においても空間利用が違っていることが明らかになる。しかしながら、居住区間である建物と考えられる遺構は確認できなかつた。

V期（18世紀初頭）—様相5

擾乱部分を除いた調査区全域において遺構を検出した。遺構面としては第4遺構面であり、標高は0.9m前後である。主な遺構は掘立柱建物のSB476、土坑のSK422・439・451・455・461・463、多

数の柱穴である。S B 476 は調査区中央に検出した總柱の建物であり、柱穴の深さは 0.3 ~ 0.5m を測り、根石を有する柱穴もある。S B 476 より西側は土坑が大半を占めるが、東側は空白部分を挟み、土坑と柱穴が検出される。同じ敷地内においても空間利用が違っていることが明らかになる。しかしながら、居住区間である建物と考えられる遺構は確認できなかった。

VII期（18世紀）—様相 5・6

調査区の東側と西側において遺構を検出した。遺構面としては第3遺構面であり、標高は 1.05m 前後である。享保 3（1718）年に発生した、いわゆる「高松大火」に伴う焼土層が厚く堆積し、遺構はその焼土層を掘り込む。主な遺構は、溝の S D 330、柱列の S A 344、土坑の S K 301・302・304・314、多数の柱穴である。S A 344 は 5 個の柱穴から構成され、方位は N-74° - W である。東側と西側では遺構の種別は変わらないが、分布状態は違がある。東側は全域に遺構が検出されるが、西側では北半城には遺構が全く検出されず、検出された遺構の分布はやや希薄である。同じ敷地内においても空間利用が違っていることが明らかになる。しかしながら、居住区間である建物と考えられる遺構は確認できなかった。

VIII期（18世紀第3四半期～19世紀初頭）—様相 6・7

調査区の東側と西側において遺構を検出した。遺構面としては第2遺構面であり、標高は 1.2m 前後である。主な遺構は、石垣の S W 225、溝の S D 201・202、土坑の S K 228・236・237・242・245・247・248、多数の柱穴である。S W 225 は東側に面をもち、方位はほぼ磁北を示す。規模の大きな土坑は調査区西側に集中しており、切り合 S K 242・248 を除いて単独であり、分布に規則性は認められない。柱穴は調査区東側に集中し、同じ敷地内においても空間利用が違っていることが明らかになる。しかしながら、居住区間である建物と考えられる遺構は確認できなかった。

VIII期（19世紀前半～後半）—様相 8

調査区中央から東側において遺構を検出し、その分布は希薄である。遺構面としては第1遺構面であり、標高は 1.3m 前後である。遺構は、礎石である S S 101 ~ 104、石垣である S W 105、S D 111・120 の溝、S K 106・108、柱穴である。礎石は一辺 0.5 ~ 0.9m を測る方形の花崗岩を 2段積みしており、大規模な礎石である。調査面積が狭いため建物の規模は不明であるが、S S 101 ~ 104 は第9代藩主頼恕の生母である染信院に関係する建物の礎石である可能性が高い。S W 105 は西側に面を有し、方位はほぼ磁北を示す。S D 111 と 120 は規模・埋土が同じであることから同一の溝と考えられる。S D 111 は S W 105 と平行に延びており、関連する遺構である。第1遺構面の遺構は染信院の屋敷に伴うと考えられる。

第2節 絵図と調査成果の比較

高松城下は城下町を描いた多数の絵図が残されていることで知られ、近年、絵図と考古学的な調査成果との比較に関する研究も進み、城下町の具体的な実像が復元されつつある。今回の調査では 6 面の遺構面を確認し、近世の遺構を多数検出した。絵図と調査との整合性について検討する。絵図から読み取る本調査地の土地利用の変遷に関しては、波多野篤氏が「高松城跡（丸の内地区）」（高松市教委 2016）（†で詳細に検討されているので参照されたい）。

絵図からたどれる本調査地の変遷は、生駒期後半と考えられる 17 世紀中頃は「入谷助市」、松平入封後の 17 世紀中頃から後半にかけては「谷平右衛門」、18 世紀前半は「谷藏人」、18 世紀末頃は「大久保黄之介」、19 世紀前半は「前御屋敷」、19 世紀中頃以降は「染信院様」である。

第5遺構面で検出した S E 539 は大規模な井戸状石組み遺構であり、出土土器の時期から判断して 17 世紀中頃に築かれ、18 世紀初頭に埋没した。この時期の絵図では「谷平右衛門」の人物名が記載さ

れているが、『高松城下図屏風』には S E 539 は描かれてない。S E 539 から碗・皿等の陶磁器、瓦、漆碗・木筒・下駄・藤木等の木製品などの日常品が多量に出土した。その中に 1 点のみであるが谷家の家紋である「下藤」を描く理兵衛焼碗が含まれており、この屋敷地の居住者が入谷家から谷家に変わったことを示している。このことは絵図と考古学的成果が一致するという点で注目すべきである。

第 2 ~ 4 遺構面は 18 世紀 ~ 19 世紀前半に比定される遺構面である。絵図では「谷藏人」「大久保寅之介」の名が記載されている。二人とも高松藩の要職である大老を務めた人物である。考古学的成果では、建物として検出したのは第 3 遺構面の S A 344、第 4 遺構面の S B 476 の 2 遺構のみであり、武家屋敷とするには小規模である。その他の遺構は土坑や柱穴であり、屋敷地内の様相を明らかにすることはできない。同じ屋敷地内の高松城跡（丸の内地区）（高松市教委 2016）の調査では 17 世紀後半から 18 世紀前半の遺構・遺物の希薄さが報告されている。しかし、本遺跡では第 3 遺構面でわずかに遺構数が減少するが、遺構の頻度や遺物量の変動はほとんど認められない。これは発掘調査を行った位置が関係していると思われる。本調査区のある北西側が屋敷地の中核となっていたのではないだろうか。年代がやや古くなるが、『高松城下図屏風』では北西側に屋敷の建物が描かれているのは参考となる。

享保 3（1718）年に発生した、いわゆる「高松大火」は調査地周辺に甚大な被害をもたらしたと考えられる。前述した高松城跡（丸の内地区）（高松市教委 2016）では大火に関する具体的な知見は確認されていないが、本遺跡では第 3 遺構面の形成に至る過程で約 10 cm の厚さの焼土層が確認される。特に調査区東側で検出した S P 312・316 から調査区中央にかけた範囲では焼土層（21 層）が厚く堆積し、その下には整地されたと考えられる版築状を呈する 27 層が堆積する。21 層と 27 層は高松大火の前後を示す鍵となる層の可能性が高い。

第 1 遺構面で検出した S S 101 ~ 104 は、礎石の構造や規模から大規模の建物であると考えられる。調査範囲が非常に狭いため、礎石の配列や建物の規模等は不明である。S K 108 からは「三つ葉葵」の家紋が描かれた皿が出土しており、藩主との強い結びつきが考えられる。S S 101 ~ 104 は第 9 代藩主賴恕の生母である染信院に関係する建物の礎石である可能性が高いと考える。

第 3 節 井戸状石組み遺構について

今回の調査において検出した多数の遺構の中で最も注目すべき遺構は、第 5 遺構面で検出した井戸状石組み遺構（S E 539）である。ここでは高松城跡（廻跡）⁽²⁾で確認した同様な遺構（S X 103）を参考にして若干の考察を試みる。

S E 539 に関する詳細は第 3 章第 6 節に記述しているが、その概要を再掲する。調査区西側で検出した石積をもつ地下遺構である。遺構全体を検出してないのでその構造や規模は不明な部分もあるが、平面形は長方形を呈し、掘り方の規模は東西約 7.0m を測り、南北は約 6.0m を検出し、検出面積は約 42.0 m² である。地下空間は北壁・東壁・西壁の 3 面の石積に囲まれ、東西約 5.2m を測り、南北約 5.4m を検出し、検出面積は約 28.0 m² である。石積は 1 段目のみの残存が大半であるが、一部に 2 段目が残る。石材は花崗岩である。根石付近からは湧水が認められる。地下空間の中から土器・瓦・木製品等が多量に出土し、遺物から判断して S E 539 は 17 世紀中頃に築かれ、18 世紀初頭に埋没したと考えられる。

次に高松城跡（廻跡）で検出した S X 103 の概要である。精緻な石積をもつ地下空間と南側に付随する半地下の昇降部から構成される遺構である。平面形は長方形を呈し、掘り方の規模は東西約 6.8m、南北約 10.7m を測る。地下空間は 4 面の石積に囲まれており、その規模は東西約 3.8m、南北約 5.9m、面積は約 22.4 m² である。石積は布積を基調に最も遺存する北壁・西壁で 4 段相当が認められる。石積の石材は全て花崗岩であり、矢穴とハツリ痕を有する石が多数みられる。西壁北端の 3 段目の石には

④と生駒家の家紋である波切車紋の刻印が認められる。根石付近から多量の湧水が認められ、當時水深 0.3 ~ 0.5m の水溜となっている。地下空間の中から土器・瓦・木製品等の遺物が多量に出土した。地下空間の南側に付随する昇降部は東西約 7.35m、南北約 3.4m を測る長方形を呈し、地下空間の南壁と南端部の石列に挟まれる床面には那智黒石の疊敷きが認められる。地下空間の南西隅には昇降部から降りる階段石が設置される。構築・機能した時期は 17 世紀前半であり、廃絶時期は 17 世紀後半であると考えられる。

S X 103 の特徴として、① 2 × 3 間相当の長方形を呈し、精緻な石積をもつ井戸状造構、② 疋敷きの昇降部や階段石をもつ、③ 上部構造をもつ可能性がある、④ 石積に生駒家の家紋が刻印される、の 4 点が挙げられている。この特徴を基に本遺跡の S E 539 を検討してみる。① 規模に関して、S E 539 は南側が調査区外にかかっており完掘できていないが、東西方向の長さは約 5.2m、検出できた南北方向の長さは 5.4m であり、3 間 × 3 間以上に相当する。S E 539 は S X 103 より東西の長さで 1.4m 長くなっている、検出できた地下空間の面積は約 28.0 m² であり、完掘した S X 103 より広い面積である。S E 539 は S X 103 より規模の大きい遺構である。しかし、掘り方の形状や施工方法等には同一の要素が多い。石積は S X 103 が 4 段目の石が遺存し、地下空間が良好な状態であるのに対し、S E 539 は 1 段ないし 2 段目の石のみが残っているに過ぎない。検出面の高さから考えると残存する石積の上に数段の石が積み上げられていたと推測できる。両方の遺構の石材の使用方法は同一であり、石積部分は花崗岩であり、間詰めと裏込めは花崗岩・安山岩が使われている。さらに 1 段目の石の下には胴木等の設置はなく、砂礫上に直接据えられていた。S E 539 は地下空間の内側に崩落したと思われる石積の石がほとんど検出されなかつたことから、廃棄される際に上段の石積の石は取り除かれ、何等かに再利用されたと考えられる。

② の昇降部や階段石は S X 103 では地下空間の南側に隣接して検出されたが、前述したように S E 539 は南側を調査していないので不明である。

③ の上部構造は S X 103 では疊敷の状態や出土瓦から上屋の存在が想定され、廂・雨落ちの可能性がある遺構も確認されている。S E 539 の地下空間から上屋存在の根拠の一つである瓦が多量に出土したが、付随施設と思われる遺構は検出されなかった。現段階では上屋の存在は不明である。しかし、S E 539 の西側に礎石を有する土坑（S K 546・553）が検出される。礎石は全長 55 cm と 58 cm で、上面に幅 5 cm、深さ 5 cm の溝が掘り込まれる。二つの礎石は約 2.4m の間隔で南北方向に直線的に並んでおり、S E 539 に関連する施設である可能性も考えられる。

④ 家紋であるが、石積の解体調査で全ての石を確認したが、家紋は検出されなかつた。さらに矢穴・ハツリ痕・ノミ痕等を留める石は検出されなかつた。

遺構の性格としては、地下室、井戸、軍事的並びに祭祀施設などが考えられているが不詳な点が多い。熊本県人吉城跡⁽⁹⁾で確認された 2 例の「大井戸遺構」は、上部構造、井戸内部の状況や絵図との対比から軍事的並びに祭祀的性格も有する施設であると想定されている。高松城跡（廐跡）の S X 103 は出土遺物、記録資料に軍事、宗教性を示すものは認められず、敷地内における使用を目的とする井戸と想定されている。ただ、疊敷の昇降部や階段石の存在は宗教的な性格も考えるべきことを示唆している。

本遺跡の S E 539 は、底面が標高 - 0.25m を測り、當時多量の伏流水が認められ、ほぼ海拔高まで湧水が及び、水深約 0.3m の水溜となっている。このような状況から判断して地下室として機能を有する施設ではないと考える。地下空間の内部から磁器・陶器・土師質土器の土器や軒丸瓦・軒平瓦等の瓦、木筒・漆塗り椀・曲物・下駄・籌木等の木製品が多量に出土した。これらの出土遺物は日常的に

使用されていたものであり、軍事、宗教性を示すものは認められない。内部構造は3面の石積のみの検出であり、軍事、宗教的性格を有する構造は確認されてない。将来的にS E 539の南側で発掘調査が実施されれば、S X 103と同様な昇降部や階段石が検出される可能性もあるが、全面を検出していない現段階では、S E 539は井戸としての機能を持つ施設であると考える。

城下町を描いた絵図の中でS E 539はどのように表現されているかを考えてみる。本調査地は絵図の中で比定すると、以下のとおりになる。17世紀中頃に描かれた絵図である『讃岐国高松城図寛永十七年生駒家封地没収大洲藩加藤泰興領当時』(寛永17年、1640年)では、「入谷助市」と記載されている。松平入封後に描かれた『讃岐高松之城図』(寛永19～寛文10年、1642～1670年)では「谷平右衛門」と記載されている。これらの絵図は武家屋敷住人名や町名を記載しているのみである。S E 539が構築・機能していたと考えられる17世紀中葉頃の景観を写実的に描いた『高松城下図屏風』は、城内全城の各施設だけでなく武家屋敷、町屋に至るまで詳細に描いている。本調査地に比定される屋敷地には、北西側に瓦葺きの建物とその東側に板葺きの簡素な建物が描かれている。規模の大きな井戸状石組みであるS E 539は本調査地の北西隅で検出し、屋敷地の北西隅にある。屏風には主屋である建物が描かれるが、S E 539は描かれていない。高松城跡(廃跡)で検出されたS X 103も屏風には描かれていない。S X 103は上屋に覆われていた可能性があり、その場合には建物として描かれていると考えることもできる。現段階ではS E 539の上屋の存在は不明であるが、屏風を詳細に観察すると北側中央にある門の西側に土塀より規模の大きな屋根が描かれており、S E 539の上屋の可能性がある。

井戸状石組み遺構にはその構造、機能、性格や構築から廃棄に至るまでの社会環境の変化や廃棄の原因等の解明すべき事項が多数ある。高松における井戸状石組み遺構は本遺跡を含めて2例のみであり、これらの課題を解決するためには考古学的事例の蓄積と絵図等の史料の研究や社会的・歴史的事象の研究を学際的に行う必要がある。

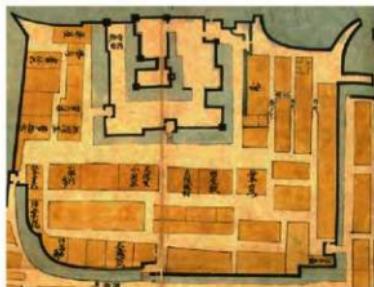
引用文献

- 1 波多野篤 2016『丸の内町共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 高松城跡（丸の内地区）』有限会社都市企画設計 高松市教育委員会
- 2 小川賢ほか 2006『高松丸亀町商店街A街区第一種市街地再開発事業に係る隔地駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡（廃跡）』高松市教育委員会 高松丸亀町商店街A街区再開発組合
- 3 人吉市教育委員会 1999「史跡 人吉城跡X 平成10年度地下室遺構の発掘調査報告書」人吉市文化財調査報告書 第19集
- 人吉市教育委員会 2003「史跡 人吉城跡XI」人吉市文化財調査報告書 第21集

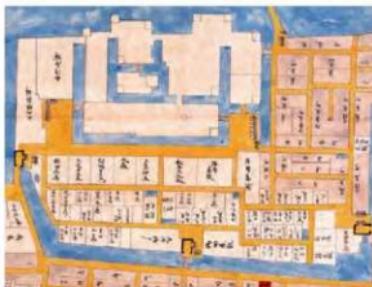
参考文献

- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
- 池見渉 2015『丸の内共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 高松城跡（丸の内地区）』穴吹興産株式会社 高松市教育委員会
- 小川賢ほか 2004『新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会 四電ビジネス株式会社
- 小川賢ほか 2005『共同住宅建設（コトデン片原町バーミング跡）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡（東町奉行所跡）』高松市教育委員会 高松琴平電気鉄道株式会社
- 小川賢ほか 2007『寿町二丁目テナントビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡（寿町二丁目地区）』香川トヨタ自動車株式会社 高松市教育委員会

- 小川賢・渡邊誠 2008『都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1冊 高松城跡(江戸長屋跡I)』高松市教育委員会
- 小川賢・中西克也 2016『都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3冊 高松城跡(丸の内地区)』高松市教育委員会
- 大嶋和則 2002『香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡(松平太膳家中屋敷跡)』高松市教育委員会
- 大橋康二 1994『古伊万里の文様』理工学社
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 佐藤竜馬 2000『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 空港跡地遺跡IV』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤竜馬 2002『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 高松城跡(西の丸町地区)II』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 高上拓 2018『都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4冊 高松城跡(丸の内地区)』高松市教育委員会
- 東京大学理藏文化財調査室 1999『東京大学構内遺跡調査研究年報2 1997年度』
- 松本和彦 2003a『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡(丸の内地区)』香川県教育委員会
(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 松本和彦 2003b『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 高松城跡(西の丸町地区)III』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 渡邊誠 2009『都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2冊 高松城跡(江戸長屋跡II)』高松市教育委員会



絵図1 讃岐高松之城（高松市歴史資料館蔵）



絵図2 享保年間高松城下図（高松市歴史資料館蔵）

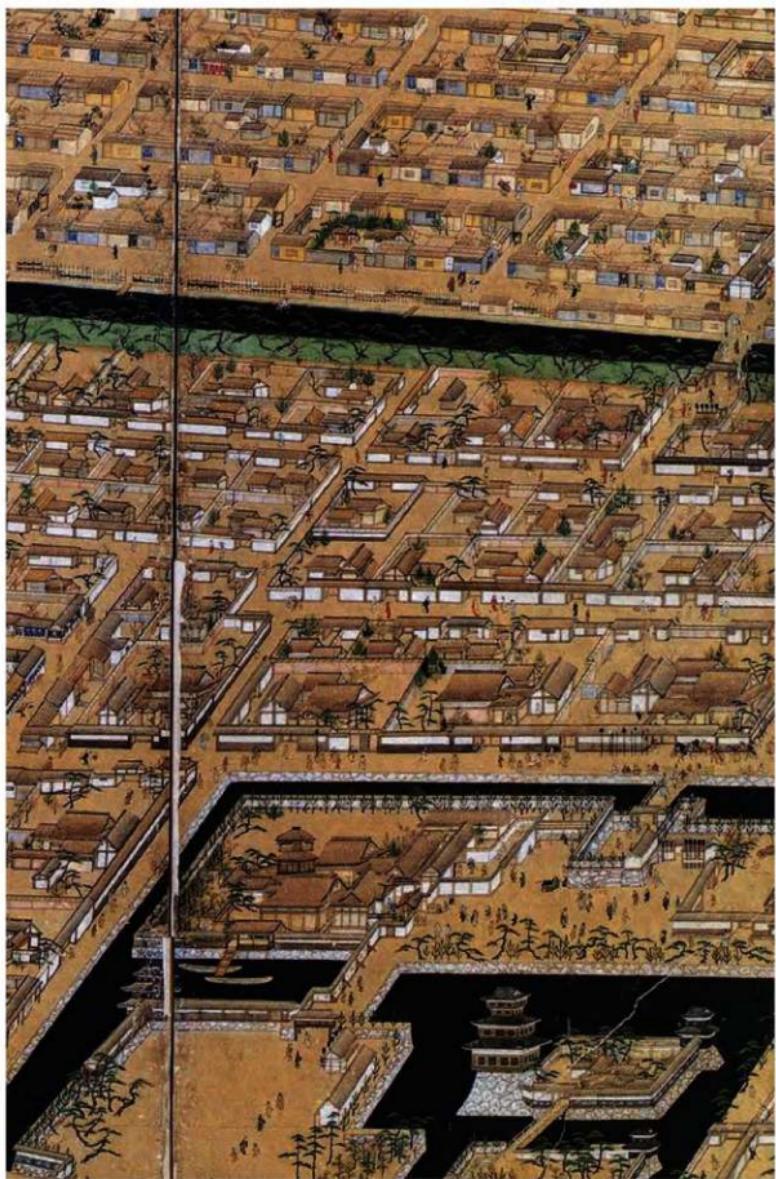


絵図3 高松市街古図（高松市歴史資料館蔵）



絵図4 讃岐高松城下絵図（高松市歴史資料館蔵）

第103図 高松城下の絵図



第 104 図 『高松城下図屏風』(部分) (香川県立ミュージアム蔵 高松松平家歴史資料)

第5表 遺構一覧

第1面

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SS101	方形	123×160	36	土層固参照	
SS102	方形	(102)×93	38	土層固参照	
SS103	方形	(75)×85	8	土層固参照	
SS104	方形	(43)×64	18	土層固参照	
SW105					
SK106	円形	(78)	19	土層固参照	
107					欠番
SK108	円形	390	55	土層固参照	
SP109	円形	60×50	15	土層固参照	
SP110	円形	63	19	土層固参照	
SD111		23~43	10	土層固参照	
SP112	円形	78	9-		
SP113	円形	60	27	7.5YRS/1灰皮 シルト質細砂(礫を多量に含む)	
114					欠番
115					欠番
116					欠番
SP117	円形	45×40	12	SY4/1灰 シルト質細砂(瓦・灰・礫を多量に含む)	
118					欠番
SP119	円形	53	10	SY4/1灰 シルト質細砂(瓦・灰・礫を多量に含む)	
SD120		30~53	20	2.5Y4/1灰皮 シルト質細砂(灰を多量に含む)	
SP121	円形	60×42	8-		
SP122	円形	20	9-		

第2面

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SD201		42~70	8	土層固参照	
SD202		26~38	8	土層固参照	
SK203	円形	(105)×(47)	35	2.5Y3/3明オリーブ褐 シルト質細砂(堆土・灰を含む)	
204					欠番
SK205	円形	83×(58)	25-		
SP206	円形	55	16	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂	
SP207	円形	23	9	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂	
SP208	円形	20	6	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂	
SP209	円形	46×41	9	2.5Y6.2~10YRS/3灰黄・暗褐シルト質細砂	
SK210	不規円形	58×46	19	土層固参照	
SK211	縦円形	60×47	14	土層固参照	
SP212	円形	22	8	10YRS/2灰黄褐 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP213	円形	33×26	10	10YRS/2灰黄褐 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP214	円形	26	7	10YRS/2灰黄褐 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP215	円形	24	14	10YRS/2灰黄褐 シルト質細砂(灰を含む)	
SP216	円形	29	13-		
SK217	不規円形	103×87	9	10YRS/2灰黄褐 シルト質細砂(7.3に近い黄褐色 細砂)	
SP218	横円形	50×36	9	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP219	横円形	53×44	38	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP220	円形	39	7.2	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP221	円形	40	10	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP222	不規円形	60	9	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP223	横円形	48×34	9	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SP224	円形	49	3	2.5Y5/1黄灰 シルト質細砂(中砂を含む)	
SW225					
SK226	不規円形	112×(30)	9-		
SP227	円形	53	23	2.5Y5.2灰黒シルト質細砂(堆土を含む)	
SK228	不明	(128)×(60)	28	5Y4/1オリーブ風 シルト質細砂(灰を多量に含む)	
SP229	円形	21	8	10YRS/3~7/3に近い黄褐色 シルト質細砂・細砂	
SK230	円形	90	5	10YRS/2灰 黄褐 シルト質細砂	
SK231	横円形	(54)	4	土層固参照	
SP232	円形	32×28	18	2.5Y7.3~10YRS/2浅黄シルト・灰黃褐色シルト質細砂	
SK233	横円形	80×35	9	10YRS/2灰 黄褐 シルト質細砂(灰を含む)	
SK234	方形	100×90	32-		
SK235	円形	106×(40)	13	2.5Y8.4~10YRS/3淡黄に近い黄褐色 シルト質細砂(堆土・灰を含む)	
SK236	不明	240×(32)	50	土層固参照	
SK237	円形	190	18	土層固参照	
SP238	円形	45	17	10YRS/2灰 黄褐色 シルト質細砂・灰白細砂・灰を含む+6.3に近い黄褐色 シルト質細砂	
SK239	円形	100	17	10YRS/4~8.6~10YRS/2に近い黄褐色 シルト質細砂・黄褐色シルトブロック・灰 黄褐色シルト質細砂	
SK240	不規円形	75×(55)	9		
SK241	円形	42	11	土層固参照	
SK242	横円形	158×(136)	36	土層固参照	
SK243	円形	(138)×(106)	24-		
SK244	不規円形	186	35	土層固参照	
SK245	円形	217	44	土層固参照	
SK246	横円形	163×102	36	土層固参照	
SK247	不規円形	239×227	74	土層固参照	
SK248	円形	(188)	50	土層固参照	
SK249	溝状	(51)×44	11	10YRS/2~6.2灰 黄褐色 シルト質細砂(灰を含む)	
SK250	横円形	138×(70)	24	土層固参照	

第3面

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK301	円形	(70) × 40	30	土層図参照	
SK302	不整円形	(225)	60	土層図参照	
303					欠番
SK304	横円形	136 × 96	14	土層図参照	
SP305	不整円形	43 × 28	7.25Y6/2灰黃シルト質細砂(5Y7/2灰白細砂を含む)		
SP306	不整円形	47 × 41	25	2.5Y6/3にじらし黄シルト質細砂	
SK307	円形	76	28	土層図参照	
SP308	円形	44	17	土層図参照	
SP309	円形	31	35-		
SP310	円形	51	15-		
SP311	円形	30	18	土層図参照	
SP312	円形	30	27-		
SP313	円形	40 × 30	10-		
SK314	円形	157 × 150	33	土層図参照	
SK315	不整円形	160 × 115	27	土層図参照	
SP316	円形	30	13	土層図参照	
SK317	横円形	100 × 76	19	2.5YS/2-2.5Y6/3-7/4-2.5Y7/2堆灰黃シルト質細砂にじらし黄シルト質 細砂(淡黄細砂)、灰黃細砂	
SP318	円形	22	11	10YR6/2灰黃褐色	
SP319	円形	28	3	10YR6/2灰黃褐色	
SP320	円形	50 × 45	17	2.5Y6/2+10YR5/2灰黃褐色、灰黃褐色シルト質細砂	
SP321	円形	20	11	10YR6/2灰黃褐色	
SP322	円形	47	21	10YR6/2灰黃褐色	
SP323	円形	38 × 33	35	10YR6/2灰黃褐色シルト質細砂(土・中砂を含む)	
SK324	横円形	71 × 57	12	10YR5/2+4-2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・若干含む)	
SK325	不整円形	(135) × 92	8	2.5Y6/2+10YR5/2にじらし黄・灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度・中砂を含む)	
SK326	円形	72 × 50	13	NS/2堆灰黃シルト質細砂/2.5Y6/2灰黃褐色/2.5Y8/4淡黃中砂	
SP327	円形	50	15	2.5YS/2堆灰黃シルト質細砂	
SP328	円形	20	13	2.5YS/2堆灰黃シルト質細砂	
SP329	円形	18	6	2.5YS/2堆灰黃シルト質細砂	
SD330		50	6	土層図参照	
SK331	不明	(125) × (80)	5-		
SP332	円形	34 × 30	3	2.5Y6/2灰黃シルト質細砂	
SP333	円形	30	10	2.5Y6/2灰黃シルト質細砂	
SP334	円形	30	3	2.5Y6/2灰黃シルト質細砂	
SK335	円形	98 × (50)	29	土層図参照	
SK336	円形	180 × (135)	23	土層図参照	
SK337	不明	(60)	10-		
SP338	円形	40 × 38	8	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(2.5YB/4淡黄シルトブロックを大量に含む) (?)	
SP339	横円形	95 × 60	28	土層図参照	
SP340	円形	74 × 70	33	土層図参照	
SP341	円形	50	10	土層図参照	
SP342	円形	56 × (47)	40	土層図参照	
SP343	円形	(70) × (35)	20	土層図参照	
SA344					

第4面

遺構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK401	円形	110 × (38)	22-		
SK402	横円形	(210) × (43)	29-		
SP403	円形	45 × (36)	8	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP404	円形	11	5	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP405	不整円形	46 × 40	26	2.5Y6/2-2.5Y5/2灰黃シルト質細砂(砂土を若干含む)-堆灰黃シルト質 細砂	
SP406	円形	46	40	2.5Y6/2-2.5Y5/2堆灰黃シルト質細砂(砂土を若干含む)-堆灰黃シルト質 細砂	
SP407	円形	20	10	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP408	円形	22	18	2.5Y6/3にじらし黄シルト質細砂(砂土・度を若干含む)	
SP409	横円形	40 × 22	7	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP410	円形	20	8	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP411	円形	45 × 40	37	2.5YS/2-2.5Y6/2堆灰黃シルト質細砂(砂土・度を含む)-灰黃シルト質 細砂(中砂を含む)	
SP412	横円形	70 × 47	29	10YR5/2-3-5-10YR7/4にじらし黄褐色にじらし灰褐色シルト質細砂(砂土・度 を多量に含む)-にじらし黄褐色シルト質細砂	
SP413	円形	60	14	10YR7/4にじらし黄褐色シルト質細砂(砂土・度を含む)	
SP414	円形	58 × 40	37	2.5YS/2堆灰黃シルト質細砂(砂土・度を含む)	
415					欠番
SK416	円形	(105) × (105)	12	NS/-2.5Y6/4-5Y8/2-2.5Y7/4灰シルト質細砂にじらし黄褐色(砂土・度 を多量に含む)-淡黃シルト質細砂-堆灰黃シルト質細砂(砂土・度を含 む)	
SK417	円形	117 × (92)	18	土層図参照	
SP418	円形	24	13	10YR5/2灰黃褐色シルト質細砂(2.5YS/6度・粘質土ブロックを含む)	
SK419	不整円形	90 × 65	37	2.5Y7/4-10YR6/3-5/3-2.5Y5/3淡黃シルト質細砂にじらし黄褐色にじら し黄褐色シルト質細砂(砂土・度を多量に含む)-黃褐色シルト質細砂	
SP420	円形	32	11	7.5YR5/2-2.5Y7/4灰褐色シルト質細砂-淡黃褐色	
SK421	不整円形	143 × (45)	30		

造構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK422	不明	(150)	35	土壌固參照	
SP423	円形	20	21	10YR6/2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SP424	円形	20	18	2.5Y5.2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SK425	円形	92×(90)	41	10YR5/3にぶい黄褐 シルト質細砂(壤土ブロック・底を含む)	
426					欠番
SP427	円形	30	19	10YR5/2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SP428	円形	15	12	10YR6/2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SP429	円形	37×30	35	土壌固參照	
SP430	円形	52×50	48	土壌固參照	
SP431	円形	62	9	10YR6/3+5.2-2.5Y7/2+7/1にぶい黄褐・灰黄褐 シルト質細砂(灰白細砂を含む)・壤土・底・灰黄 シルト質細砂・灰白 細砂	
SP432	円形	50×42	31	土壌固參照	
SP433	円形	23	11	2.5Y6.2灰 黄褐色シルト質細砂(壤土・灰白細砂を含む)	
SP434	円形	43×40	41	土壌固參照	
SP435	円形	39×39	11	10YR6/2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SP436	円形	49×40	50	土壌固參照	
437					欠番
SK438	円形	156×66	10YR6/2-10YR6/1灰 黄褐 シルト質細砂・褐灰 シルト質細砂		
SK439	円形	91×70	26	土壌固參照	
SK440	溝状	68	12	土壌固參照	
SP441	円形	57×38	33	10YR5/2灰 黄褐 シルト質細砂(壤土・底を含む)	
SK442	不整円形	170×164	22	土壌固參照	
SP443	円形	58×40	30	-	
SP444	不明	(70)×(60)	26	-	
SP445	円形	55×42	37	土壌固參照	
SP446	円形	41×37	39	土壌固參照	
SP447	円形	74×56	50	土壌固參照	
SP448	円形	65	12	10YR6/3+8/3-10YR1.7/1にぶい黄褐 シルト質細砂・浅黄褐色細砂・黒色灰	
SP449	円形	50×48	29	10YR6/2+7/4-10YR6/1+5/1-2.5Y5.1-10YR6/1灰 黄褐 シルト質細砂(底を若干含む)・褐灰 シルト質細砂・灰黄 シルト質細砂・褐灰 シルト質細砂(灰白細砂を含む)	
SK450	不整円形	120×102	13	-	
SK451	不整円形	432×(208)	63	土壌固參照	
SK452	溝状	195	15	-	
SK453	円形	78×60	22	土壌固參照	
SK454	円形	83×62	16	土壌固參照	
SK455	円形	(208)×180	35	土壌固參照	
SP456	円形	50×46	16	2.5Y6.2+6.3灰黃(にぶい黄) シルト質細砂	
SP457	円形	50	19	土壌固參照	
SK458	円形	100×87	21	土壌固參照	
SK459	不整円形	165×136	36	土壌固參照	
SD460		25	5	2.5Y6.3-5.4黄 シルト質細砂	
SK461	円形	160×143	22	土壌固參照	
SK462	不整円形	(418)×242	19	土壌固參照	
SK463	円形	(110)×(103)	19	土壌固參照	
SK464	円形	78	27	土壌固參照	
SK465	不整円形	118×93	15	土壌固參照	
SK466	不整円形	190×(177)	36	2.5Y6.3-10YR6/2にぶい黄・灰黄褐色シルト質細砂(灰白シルトブロックを含む)・2.5Y6.2+6.3灰黃細砂	
SK467	不整円形	(160)×94	32	2.5Y6.2+2.5Y6.2灰 黄 シルト質細砂(にぶい黄 シルト質細砂)	
SK468	円形	72×(55)	11	2.5Y6.2+5.2灰 黄褐色シルト質細砂(灰白 シルトブロックを含む)	
SP469	円形	50×34	10	10YR5/2灰 黄褐色シルト質細砂・黄褐 細砂(底を含む)	
SP470	円形	52×(24)	14	10YR6/3+6/2-2.5Y6.1-2.5Y6/6-2にぶい黄褐 シルト質細砂・灰白 黃褐色シルト質細砂・黄褐 シルト質細砂・灰白・灰黃 シルト質細砂	
SK471	円形	(203)	12	10YR5/2-10YR6/1灰 黄褐色 シルト質細砂・灰白 細砂	
SK472	不明	(138)×(70)	25	-	
SK473	円形	88×(45)	26	10YR6/3-10YR6/2+5Y6/3にぶい黄褐 シルト質細砂・灰黄褐色にぶい黄 シルト質細砂	
474					欠番
SK475	円形	82×(53)	21	-	

第5面

造構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK501	不整円形	183×(94)	34	-	
SK502	円形	17	10YR6/2+5.3灰 黄褐色(にぶい黄褐色 シルト質細砂		
SK503	不整円形	150×(105)	6	土壌固參照	
SK504	不整円形	82×(35)	40	土壌固參照	
SP505	円形	33	22	10YR3/2灰 黄褐色(底土を少量含む)	
SP506	円形	30	24	2.5Y6.3-3.1ワーブ穀シルト質細砂(底・底土を少量含む)-10YR6/3にぶい黄褐色シルト質細砂	
SP507	楕円形	57×38	24	2.5Y6.3-10YR6/1にぶい黄 シルト質細砂(底土・底を若干含む)・褐灰 シルト質細砂(底土・底を若干含む)	
SP508	円形	26	17	2.5Y6.3-10YR6/1にぶい黄 シルト質細砂	
SP509	円形	24	8	-	
SP510	円形	44	24	-	
SP511	円形	24	9	2.5Y6.3-5.4黄 シルト-粘土	

造構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SP512	円形	65×54	34	2.5Y6-/3-2.5Y6-/1にらい黄 シルト質細砂(焼土・灰を若干含む)・黄灰 シルト質細砂	
SP513	円形	36	21	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土・灰を少量含む)	
SP514	円形	27	11	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土・灰を少量含む)	
515					欠番
SP516	円形	21	14	2.5Y7-/2灰灰 シルト質細砂(焼土を少量含む)	
SP517	円形	30	13	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土を少量含む)	
SP518	円形	22×18	14	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土を少量含む)	
SP519	円形	24	13	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土を少量含む)	
SP520	円形	26	21	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(焼土を少量含む)	
SP521	円形	43	15	2.5Y6-/3にらい黄 シルト質細砂(灰を若干含む)	
SP522	円形	29×25	19	灰被 シルト質細砂(焼土・灰を多量に含む)	
SP523	円形	30	21		
SS524					
525					欠番
SP526	円形	30	13	2.5Y6-/1-6-3灰灰にらい黄 シルト質細砂	
SP527	円形	55×47	25	2.5Y6-/1-6-3灰灰にらい黄 シルト質細砂	
SP528	円形	47	20	2.5Y6-/1-6-3灰灰にらい黄 シルト質細砂	
SP529	円形	42	29	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂	
SK530	円形(?)	95×(30)	15	2.5Y6-/2-10YR5-1灰 黃シルト質細砂・褐灰 シルト質細砂・灰	
SK531	円形	(15)×(65)	24		
SK532	円形(?)	(30)×(43)	10		
SK533	円形	65	40	10YR6.4-6-2にらい黄被・灰黃褐 シルト質細砂(焼土を若干含む)	
SK534	不整円形	116×98	37	土層図参照	
SK535	不整円形	288×190	21	土層図参照	
SK536	不整円形	95×61	38	土層図参照	
537					欠番
538					欠番
SE539	長方形			土層図参照	
540					欠番
541					欠番
542					欠番
543					欠番
SK544	円形	(120)×(60)	10	土層図参照	
SK545	不整円形	(114)×(102)	21		
SK546	不整円形	112×85	35	土層図参照	
547					欠番
548					欠番
SK549	円形(?)	(180)×(53)	14	土層図参照	
SK550	円形	153	77	土層図参照	
551					欠番
552					欠番
SK553	不整円形	(40)×87	41	土層図参照	

第6面

造構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SP601	楕円形	(44)×(30)	27	土層図参照	
SP602	円形	43×40	22	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP603	円形	20×18	5	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
604					欠番
SP605	円形	40×(23)	19	2.5Y5-/2暗灰 黃シルト質細砂(焼土を若干含む)	
SP606	円形	24	20	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP607	楕円形	55×40	16	土層図参照	
SP608	円形	37	19	2.5Y7-/1灰白 褐砂(小石を含む)	
SP609	円形	19	13	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP610	円形	33	19	土層図参照	
SP611	円形	24	10	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP612	楕円形	50×33	19	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
613					欠番
SP614	円形	23×18	6	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
615					欠番
SP616	円形	27	7	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP617	円形	30	23	土層図参照	
SP618	円形	31	15	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP619	不整円形	63×47	11	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP620	円形	43×40	10	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP621	円形	39×30	12	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP622	楕円形	55×42	19	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP623	円形	30×26	8	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP624	楕円形	28×19	2	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
SP625	円形	287×(146)	53	土層図参照	
626					欠番
SP627	円形	20	4	2.5Y6-/1-5-1黄灰 シルト質細砂(灰白 細砂を含む)	
628					欠番
629					欠番
630					欠番
SP631	円形	25	2	10YR4/1褐色 シルト質細砂	

造構番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SK632	不規円形	154×(50)	30	土層固参照	
SP633	円形	38×25	20	土層固参照	
SP634	不規円形	50×46	9-		
SP635	不規円形	30×20	10	土層固参照	
SP636	円形	28	12	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP637	円形	25	17	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP638	円形	30	20	土層固参照	
SP639	円形(?)	(48)×(25)	14-		
SP640	円形	58×55	14	土層固参照	
SP641	円形	30	14-		
SP642	円形	51	29	10YR5/2-10YR5/2+6/2灰黃褐色 シルト質粘細砂	
SP643	円形	67×63	29	土層固参照	
SP644	円形	74	11	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP645	円形	37×32	16	2.5YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)	
SP646	円形	37	20	土層固参照	
SP647	円形	35	9.25YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)		
SP648	円形	34×30	11	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP649	円形	30	16	土層固参照	
SP650	円形	46	19	土層固参照	
SP651	円形	58×52	30	土層固参照	
SP652	円形	24×19	6	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP653	円形	20	7.25YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土ブロックを多量に含む)		
SP654	円形	(30)×26	16	土層固参照	
SP655	横円形	42×27	3	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP656	不規円形	51×30	9	土層固参照	
SP657	円形	26	11	7.5YR5/3に近い褐色 シルト質粘細砂(灰白細砂を含む)	
SP658	円形	24×20	9.25YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)		
SP659	円形	40×35	12	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP660	円形	36	10	土層固参照	
SP661	円形	21	13	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP662	円形	33	19	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP663	円形	23×20	16	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP664	不規円形	57×35	18	土層固参照	
SP665	円形	32	18	土層固参照	
SP666	円形	16	11	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP667	円形	20×10	7	10YR5/3に近い黄褐色 シルト質粘細砂	
SP668	円形	16	9.25YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)		
SP669	円形	15	4	2.5YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)	
SP670	円形	24×20	3	2.5YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)	
SP671	円形	14	14	2.5YS/2灰黃褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)	
SP672	円形	36×35	6	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂(供土・底を若干含む)	
SP673	円形	40	41	土層固参照	
SK674	横円形	(106)×98	23	10YR4/1-10Y4/1褐色 シルト質粘細砂(灰・灰を含む)→灰 シルト質粘細砂	
SP675	円形	18×14	10	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP676	円形	45×39	24	土層固参照	
SK677	不規円形	77×60	2	土層固参照	
SP678	円形	34×30	2	土層固参照	
SP679	不規円形	(56)×42	18	土層固参照	
SK680	円形(?)	(48)×(46)	4	2.5YS/1灰褐色 シルト質粘細砂	
SP681	円形	15×12	8	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP682	円形	22×17	9	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂(供土を若干含む)	
883					欠番
884					欠番
SP685	円形	30	4	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
886					欠番
SP687	円形	47×38	28	土層固参照	
SK688	不規円形	88×(28)	15	10YR4/1褐色 シルト質粘細砂	
SP689	円形	20	19	2.5YR7/2-10YR6/1灰黃褐色 シルト・褐色 シルト質粘細砂	
SP690	円形	34	15	土層固参照	
SP691	円形	33	8	土層固参照	
SP692	円形	21	4	10YR6/1褐色 シルト質粘細砂	
SP693	円形	31	10	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂-10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂(灰白色を含む)	
SP694	円形	17×14	24	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SK695	横円形	173×100	30	土層固参照	
SP696	円形	30	14	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SP697	円形	68×(38)	4	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SP698	円形	20	5	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SP699	円形	28×23	10	土層固参照	
SP700	不規円形	30	12	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SP701	円形	25	14	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SP702	円形	34×30	10	土層固参照	
SP703	不規円形	40×32	1	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SK704	円形	(83)	55	5Y4/2-5Y4/1オリーブ シルト質粘細砂(地山ブロック・底を含む)→灰・灰 シルト質粘細砂(供土を少量化)	
SP705	円形	37	32	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	
SK706	円形	72×(45)	20	2.5YS/2+6/2灰黃褐色(に近い)黃 シルト質粘細砂	
SP707	円形	31	6	10YR6/1+5/1褐色 シルト質粘細砂	

構造番号	平面形	直径・幅	深さ	埋土	備考
SP707	円形	31	8	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP708	不整円形	62×(28)	33	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP709	円形(?)	36×(20)	12	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SK710	不明	135×(22)	31	土層図参照	
SP711	円形	32×27	12	10YR4/1褐色 シルト質細砂(填土を若干含む)	
712					欠番
SP713	円形	23	16	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP714	円形	20	11	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SK715	円形	(144)×(157)	75	土層図参照	
SP716	円形	28×22	13	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SK717	不明	(30)	11	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP718	円形	35×30	13	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP719	円形	20	12	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP720	円形	27×23	15	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP721	円形	20	4	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP722	円形	50	33	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP723	円形	30×23	3	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP724	円形	25×20	30	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP725	円形	24	13	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP726	円形	23	8	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SK727	橢円形	100×71	56	土層図参照	
728					欠番
SP729	円形	25	16	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP730	円形	28	19	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP731	円形	22×19	13	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
732					欠番
SP733	円形	23	11	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP734	円形	29×(24)	29	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SX735	円形	(115)	20	10YR4/1褐色 シルト質細砂	
SP736	円形	18	4	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP737	円形	28×(17)	19	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP738	橢円形	68×33	21	10YR6/3-から4-黄褐色 シルト質細砂	
SP739	円形	33×30	10	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SP740	円形	42×33	20	10YR6/1+5/-1褐色 シルト質細砂	
SB741					
SB742					
SB743					
SA744					
SA745					

第6表 陶磁器・土器観察表

編號 番号	出土遺構	種別	器種名	產地	法線(cm)			胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬・内外面色調)	色調3 (底足・上部)	調整	備考
					口径	最高	底径						
1 第1面102(周 方)	陶器	碗	肥前系	-	[1.3]	-	-	7.5Y7/1灰白	透明	暗青色	外面部：回転ナデ、團鑽2本 内面部：回転ナデ		
3 第1面111(上 面)	磁器	皿	-	(12.2) [2.4]	-	普通	7.5Y8/1灰白	10Y7/2灰白	-	外面部：施輪、施輪 内面部：施輪	内面部：真人		
4 第1面111	土師質土器	小皿	-	(8.2)	1.6	3.6	普通	-	7.5Y7/6橙	-	外面部：回転ナデ 内面部：回転ナデ	施輪、轉止めヨリ	
6 第1面120(上 面)	磁器	紅口	肥前系	5.4	2.2	2.8	普通	10Y6/1灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、雲文 内面部：施輪		
7 第1面120	陶器	皿	-	(12.6) [3.3]	-	普通	5Y7/2灰白	透明	-	外面部：ナデ、施輪 内面部：ナデ、施輪	貝込み、胎土目有		
8 第1面120	陶器	皿	-	-	[1.2] (4.2)	普通	2.5Y7/3底黄	7.5Y7/2灰白	-	外面部：施輪 内面部：施輪	胎土目有 施輪、廻り出し高台		
11 第1面106	磁器	碗	肥前系	-	[2.7] [3.6]	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、團鑽 内面部：施輪、團鑽	蓋付、部分の凹印 日付有		
12 第1面108(底張 上層)	磁器	皿	鹿戸系?	(10.0) [1.1]	-	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、草花文 内面部：施輪、四方桙			
13 第1面108	磁器	皿	肥前系	10.2	3.1	4.6	普通	NB/灰白	透明	暗色・淡青色	片面部：施輪、寶物文、草 花文 内面部：施輪、四方桙、寶 物文、團鑽		
14 第1面108(底張 下層)	磁器	碗	肥前系	8.3	[3.5]	-	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、菊花紋ら し、木製文 内面部：施輪、菊花紋ら し、木製文		
15 第1面108	磁器	碗	肥前系	-	[3.4]	3.2	細	2.5Y8/1灰白	施輪	淡褐色	外面部：施輪、草花文、團 鑽 内面部：施輪	蓋付、砂目付蓋 貝込み、砂目	
16 第1面108(底張 下層)	磁器	碗	肥前系	(9.4)	5.8	[4.7]	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：丸文、團鑽、施輪 内面部：施輪	蓋受けが付く	
17 第1面108(下 層)	磁器	碗	京焼系	(10.6)	5.1	[4.2]	普通	NB/灰白	7.50Y8/1明緑灰	-	外面部：回転ナデ後施輪 内面部：回転ナデ後施輪	真人 施輪、廻り出し高 台	
18 第1面108(南側 上層)	磁器	碗	肥前系	(11.6)	6.4	5.2	細	灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、草文、團鑽 内面部：施輪、四方桙、團 鑽、松葉文		
19 第1面108(底張 下層)	磁器	碗	肥前系	-	[4.0]	4.2	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、草文 内面部：施輪、蛭ノ目和斜 ぎ	蓋付、砂目 蓋受けが付く	
20 第1面108(北側 下層)	磁器	碗	肥前系	-	[4.1]	4.2	普通	10Y6/1灰白	内面部：50Y8/1灰白 外面部：10Y7/7明緑灰	-	外面部：施輪 内面部：施輪	蓋付、砂目付蓋 貝込み、砂目	
21 第1面108(南側 下層)	磁器	碗	肥前系	12.0	5.5	4.4	普通	7.5Y8/1灰白	透明	-	外面部：施輪、砂目 内面部：施輪、蛭ノ目和斜 ぎ、砂目		
22 第1面108(底張 上層)	磁器	碗	肥前系	-	[4.1]	3.7	細	7.5Y8/1灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、草花文 内面部：施輪		
23 第1面108(底張 下層)	磁器	碗	肥前系	(11.0)	[5.7]	[5.0]	普通	5Y6/1灰白	透明	暗青色	外面部：草花文、区画開 内面部：四方桙、團鑽、若 松文	底付、「萬貴〇春」	
24 第1面108(底張 下層)	磁器	碗	肥前系	(12.6)	6.7	[4.6]	普通	10Y8/1灰白	内面部：透明 外面部：10Y7/1明緑	暗青色	外面部：二重方形柄、鈕 款、施輪 内面部：四方桙、團鑽、五 瓣花、立脚		
25 第1面108(底張 上層)	磁器	碗	肥前系	-	[3.3]	-	細	NB/灰白	7.50Y8/1明緑灰	淡褐色・暗青色	外面部：施輪、文字 内面部：施輪		
26 第1面108(底張 下層)	磁器	紅口	肥前系	(4.6)	1.5	3.4	細	白	透明	-	外面部：施輪 内面部：施輪		
27 第1面108(底張 下層)	磁器	紅口	肥前系	6.0	2.1	2.4	細	10Y9/1灰白	透明	-	外面部：回転ナデ、施輪、 雲文 内面部：回転ナデ、施輪		
28 第1面108	白磁	皿	肥前系	(16.4) [3.2]	-	細	NB/灰白	透明	-	外面部：施輪 内面部：施輪	輪花		
29 第1面108	磁器	皿	肥前系	-	3.9	-	細	NB/灰白	透明	暗青色	外面部：施輪、唐草文、團 鑽 内面部：施輪、施、浅山、 團鑽	輪花	
30 第1面108	磁器	大皿	肥前系	25.0	3.1	18.4	細	NB/灰白	透明	暗青色・暗青色	外面部：施輪、唐草文、團 鑽、二重方形柄 内面部：施輪、花造草文、 團鑽		

器名 番号	出土遺構	種別	器種名	產地	重量(g)			胎土	色相 (胎土)	色調 (胎土・内外色色調)	色調 (良侯・上絵)	調査	備考
					口径	器高	底径						
31 第1面10B	磁器	蓋	把前系	7.3	2.3	-	細	褐/灰白	透明	淡青色・明青色	外面：施釉、團練多子、秒目付 内面：施釉、秒目		
32 第1面10B	磁器	小壺	輸入?	(7.2) [4.3]	-	-	細	褐/灰白	透明	暗青色	外面：施釉、草花文 内面：施釉		
33 第1面10B(底張 上層)	磁器	蓋	把前系	-	[5.4]	5.4	普通	褐/灰白	7.5GY7/1稍綠灰	明青色	外面：施釉、草花文 内面：回転ナデ(一部に釉 が剥れる)	實付：部分的に秒 目付無	
34 第1面10B(底張 下層)	磁器	鉢	把前系	(11.2)	8.6	(7.8)	普通	白	透明	淡青色・朱色	外面：施釉、草花文、唐 草文、斜格子 内面：施釉		
35 第1面10B(底側 上層)	磁器	鉢	把前系	-	[8.1]	7.8	細	灰白	透明	暗青色	外面：施釉、草花文、團 練 内面：施釉		
36 第1面10B(北側 下層)	磁器	鉢	-	(28.6) [7.9]	-	-	細	褐/灰白	2.5GY7/1稍オリーブ 灰	-	外面：回転ナデ後施釉 内面：回転ナデ後施釉	實入	
37 第1面10B(底張 上層)	磁器	灰吹	把前系	(5.6)	[6.7]	-	細	褐/灰白	5GY7/1稍オリーブ灰	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、施釉	口絆部：胡打痕	
38 第1面10B(底張 上層)	陶器	蓋	直横系?	(4.0) [0.9]	-	-	普通	9Y8/2灰白	7.5Y7/2灰白	暗青色・SY4/2底オ リーブ	外面：施釉、草文 内面：施釉		
39 第1面10B(底張 下層)	陶器	蓋	把前系	5.6	1.2	-	普通	10Y9B/2浅黄裡	透明	朱色・灰黃褐色	外面：施釉、草花文 内面：施釉	實入	
40 第1面10B(底張 上層)	陶器	碗	直横系	(9.6) [4.3]	-	-	細	2.5Y8/2灰白	透明	5GY8/1灰白 10Y5/2オリーブ灰 2.5Y8/4赤褐 10Y9B/2にぶい黄褐	外面：回転ナデ後施釉、 葉文 内面：回転ナデ後施釉		
41 第1面10B(底張 下層)	陶器	碗	直横系	(9.2)	5.7	3.0	普通	9Y8/2灰白	透明	朱色・白色	外面：施釉 内面：施釉	高台内：墨書 「金」	
42 第1面10B(底張 下層)	陶器	碗	宽横系	9.3	5.2	3.1	細	褐/灰白	SY6/3オリーブ灰	2.5Y8/1灰白 10Y5/2オリーブ灰	外面：施釉、葉文 内面：施釉	高台内：墨書 (模 様不可) 實入	
43 第1面10B(底張 上層)	陶器	碗	把前系	(10.4)	6.8	4.5	細	SY6/1灰	透明	2.5GY5/1オリーブ灰	外面：施釉、唐草文 内面：施釉	實入	
44 第1面10B(底側 下層)	陶器	碗	把前系	(11.0)	5.7	(4.1)	普通	7.5Y7/1灰白	透明	7.5Y2/2オリーブ葉	外面：施釉、草花文 内面：施釉	實入	
45 第1面10B(底張 下層)	陶器	皿	直横系	-	[2.4]	-	普通	9Y8/2灰白	透明	黑色	外面：施釉、階列、「三 葉裏」 内面：施釉		
46 第1面10B	陶器	皿	把前系	9.2	2.2	4.4	細	SY8/2灰白	透明	-	外面：施釉 内面：施釉	實入	
47 第1面10B(底張 上層)	陶器	皿	把前系	-	[1.2]	(5.4)	普通	2.5Y8/2灰白	透明	細色	外面：回転ナデ 内面：施釉	高台内：刻字 接合部	
48 第1面10B(底張 上層)	陶器	土瓶	直横系	(10.4) [3.4]	-	-	普通	SY8/2灰白	透明	2.5Y4/4オリーブ葉	外面：施釉、葉文 内面：無無、施釉		
49 第1面10B(底張 下層)	陶器	花生	把前系	-	[10.0]	4.5	細	SY8/1灰白	10Y9B/3にぶい黄裡	黑色・青色	外面：施釉 内面：施釉		
50 第1面10B(底側 上層)	陶器	蓋	-	(10.6) [1.2]	-	-	普通	2.5Y7/2浅黄・SY7/1 灰白	透明-SY7/1灰白	-	外面：施釉 内面：施釉、回転ナデ	全体的に並んでい る	
51 第1面10B(北側 下層)	陶器	灯明皿	直前側	(10.6) [1.5]	-	-	普通	7.5Y8/2灰褐	7.5Y8/2灰褐	-	外面：回転ナデ、回転ヘ ラズリ 内面：指オエ後ナデ、 回転ナデ	重ね焼き痕 外面：保付蓋	
52 第1面10B(北側 下層)	陶器	灯明皿	直前側	(10.2)	1.6	-	普通	7.5Y8/2灰赤	10Y4/2赤褐	-	外面：回転ナデ、回転ヘ ラズリ 内面：回転ナデ		
53 第1面10B(北側 下層)	陶器	灯明皿	直前側	10.5	1.5	5.7	細	-	2.5Y8/6赤褐	-	外面：回転ナデ、回転ヘ ラズリ 内面：回転ナデ		
54 第1面10B(北側 下層)	陶器	擂鉢	直前側	(27.4) [5.1]	-	-	普通	SY8A/2灰褐	内面：10Y4/1褐色 外面：10Y4/1褐色 ～10Y4/2灰赤	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	重ね焼き痕	
55 第1面10B(底張 上層)	陶器	土鍋	在地	(18.0) [6.4]	-	-	細	7.5Y6/1灰	SY9D/3暗赤褐	-	外面：回転ナデ後施釉 内面：回転ナデ後施釉	其の一部接着	

相次 番号	出土遺構	種別	器種名	度地	法面(Con)			地土	色調1 (鉢土)	色調2 (鉢裏・外面部色調)	色調3 (内底・上縁)	調整	備考	
					口径	幅	底径							
56	第1面108(底張 下層)	敷装施物陶器	土鍋	在地	[17.8]	8.7	[9.6]	普通	7.SYR7/2灰褐色	SYR4/にぶい赤褐色	-	外面：施錆、回転ヘラケ リズ、無輪。 内面：回転ナデ、施錆。	底部外面：煤付帯 底合板 印1つ残	
57	第1面108(東側 上層)	陶器	手木盆	戸戸系	[36.6]	19.1	[15.0]	縦	2.SYR5/6灰褐色	2.SYR4/3オーリーブ緑	白色・水色	外面：回転ナデ、施錆。 内面：施錆を残す。 内面：回転ナデ、施錆、 回転ナデ		
58	第1面108(北側 下層)	土師質土器	皿	-	[8.2]	[1.1]	[7.0]	普通		7.SYR7/6縦		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部：回転系キリ	
59	第1面108(底張 上層)	土師質土器	杯	-	-	9.4	[1.6]	[6.2]	普通		7.SYR7/4/にぶい縦		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部：回転系キリ
60	第1面108(北側 土層)	土師質土器	皿	-	[12.6]	[1.9]	-	普通		7.SYR7/6縦		外面：回転ナデ、回転ヘ ラケアリ 内面：回転ナデ		
61	第1面108(北側 下層)	土師質土器	茶釜	-	-	[8.0]	-	普通		内面：10YR5/3/にぶ い黄褐色 外面：2.5Y5/2灰褐色		外面：ナデ、ヨコナデ 内面：ナデ	調下半：煤付帯	
62	第1面108(下 層)	土師質土器	透活	-	-	[6.0]	-	普通		2.SY5/1黄灰		外面：ヨコナデ、指オサ 工後ナデ 内面：ヨコナデ、ハケ、 ナデ		
63	第1面108(下 層)	土師質土器	透活	-	[34.4]	[5.1]	-	無底		内面：2.SY5/1黄灰 ～2.SY7/2灰褐色 外面：2.SY5/1黄灰		外面：回転ナデ、指オサ 工後ナデ 内面：回転ナデ、ハケ後 ナデ	要孔：2ヶ所	
64	第1面108(底張 上層)	土師質土器	焼塙壺 (皿)	-	-	8.0	1.7	-	普通		SYR6/6縦		外面：ナデ 内面：ナデ、布目模	
65	第1面108(底張 上層)	土師質土器	焼塙壺 (皿)	-	-	[7.6]	[1.8]	-	普通		SYR6/6縦		外面：回転ナデ、指オサ 工、米穀型、布目模 内面：布目模	
66	第1面108(底張 上層)	土師質土器	焼塙壺 (舟)	-	-	6.0	7.3	[4.6]	普通		SYR6/6縦		外面：ナデ、摩滅 内面：ナデ、ヘラナデ	
67	第1面108(底張 上層)	土師質土器	焼塙壺 (舟)	-	-	[7.4]	[5.4]	-	普通		SYR7/6縦		外面：ナデ、摩滅 内面：箱ナデ、摩滅	
68	第1面108(底張 上層)	土師質土器	焼壺	-	-	[3.6]	[10.8]	普通		内面：2.SY7/2灰褐色 外面：10YR7/3/にぶ い黄褐色		外面：指オサ工後ナデ、 摩滅 内面：摩滅		
69	第1面108(北側 下層)	土師質土器	焼壺	-	-	[5.6]	[10.4]	普通		7.SYR7/4/にぶい縦		外面：指オサエ、ナデ 内面：指オサ工後板ナデ (10本1束)		
70	第1面108(北側 下層)	道具類	轆太夫	-	長さ [4.1]	幅 4.1	厚み 2.6	普通		2.SY8/2灰白	-	外面：- 内面：-		
87	第1面108	道具類	神社	-	長さ [4.7]	幅 5.0	厚み 2.2	普通		7.SYR7/3/にぶい縦	-	外面：- 内面：-		
91	第1面110(ベル ト)	土師質土器	小皿	-	[8.0]	[1.3]	-	普通		10YR7/3/にぶい黄褐色		外面：回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ		
92	第1面110	土師質土器	小皿	-	[8.0]	[1.3]	-	普通		内面：10YR7/4/にぶ い黄褐色 外面：10YR7/3/にぶ い黄褐色		外面：回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ後ナデ		
93	第1面110	土師質土器	小皿	-	[8.0]	[1.3]	-	普通		7.SYR7/6縦		外面：ナデ 内面：ナデ		
94	第1面110	土師質土器	小皿	-	[8.2]	[1.3]	-	普通		10YR7/4/にぶい黄褐色		外面：ナデ 内面：ナデ		
95	第1面110	土師質土器	小皿	-	-	[0.8]	[3.4]	普通		10YR7/3/にぶい黄褐色		外面：回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ	底部：鈎止めキリ	
96	第1面110	土師質土器	小皿	-	-	[0.5]	[3.8]	普通		内面：7.SYR6/4/にぶ い縦 外面：7.SYR5/2灰褐色		外面：ナデ 内面：ナデ	底部：鈎止めキリ	
97	第1面113(南 側)	陶器	皿	把前茶	-	[4.4]	-	普通	7.SYR4/1灰褐色～ 7.SYR4/2灰褐色	透明白	7.SYR8/2灰白	外面：回転ナデ、施錆、 内面：白泥によるハケメ		
98	第1面113	陶器	盤	把前茶	-	[7.0]	-	普通	SYR5/2灰褐色	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後脚部		

範文 番号	出土場所	種別	器種名	產地	法量(cm)			形状	色調1 (油土)	色調2 (陶器・内外面色調)	色調3 (真偽・上粒)	測量	備考	
					口径	腹高	底径							
100	第1面121	土師質土器	杯	-	(13.4)	[2.1]	-	普通	内面：10YR7/4明黄 外面：10YR7/4C2赤い青碧					
101	第1面石判5葉側板遺土	磁器	紅口	肥前系	6.2	2.1	3.2	微	7.SYB/1灰白	透明	褐色	外面：施釉 内面：回転ナデ	貫入	
102	第1面石判5葉側板遺土	磁器	小皿	肥前系	(8.0)	2.5	(3.6)	普通	9.0/灰白	9.0/灰白	Nb/灰白	外面：施釉 内面：施釉、施刻西方 縁側板	裂打ち	
103	第1面石判5葉側板遺土	磁器	小碗	肥前系	7.2	3.1	2.6	微	7.SYB/1灰白	透明	淡青色・褐色	外面：施釉 内面：施釉		
104	第1面石判5葉側板遺土	磁器	小碗	肥前系	7.2	3.7	2.8	細	7.SYB/1灰白	透明	淡青色	外面：施釉 内面：施釉、圓錐		
105	第1面石判5葉側板遺土	磁器	碗	瀬戸系	(10.0)	6.5	5.7	細	10YR6/6赤理	透明	淡青色	外面：施釉、竹文、草花文、圓錐 内面：施釉、「寿」		
106	第1面石判5葉側板遺土	磁器	皿	肥前系	-	[2.6]	(8.0)	普通	9.0/1灰白	透明	淡青色	外面：施釉、圓錐 内面：施釉、瀬戸、樹木	瀬ノ目田形蓋台	
107	第1面石判5葉側板遺土	青磁	鉢	輸入	(28.0)	4.6	-	微	-	7.SYB/2緋オリーブ	-	外面：施釉 内面：施釉		
108	第1面石判5葉側板遺土	磁器	小皿	-	-	1.7	(3.5)	細	SYR6/4にぶい青	青	淡綠色	外面：施釉、白化粧土 内面：墨書き		
109	第1面石判5葉側板遺土	陶器	花生	肥前系	-	[5.8]	(9.6)	普通	7.SYB/3赤眞理	透明	褐色	外面：施釉、白化粧土 内面：回転ナデ	高台内 墓番	
110	第1面石判5葉側板遺土	陶器	壺鉢	備前焼	(2.0)	12.5	(15.4)	普通	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐	10YR6/6明黄褐	外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ		
111	第1面石判5葉側板遺土	粗質陶輪物	丸頂	厘島燒	9.4	2.0	4.6	細	SYR6/6裡	透明	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、ナデ、施釉	選部：回転ホキリ	
112	第1面石判5葉側板遺土	土師質土器	俵底壺(裏)	-	-	6.8	1.2	-	普通	内面：10YR6/3C赤い青碧 外面：10YR6/4C2赤い青碧			外面：ナデ 内面：ナデ、布日	
116	第2面202	陶器	碗	瀬戸系?	-	[0.9]	(5.0)	普通	2.SYB/2灰眞	7.SYB/3赤オリーブ	-	外面：施釉 内面：施釉、實始	破反模	
117	第2面202(上面)	陶器	小釜	備前焼	-	(2.4)	(4.4)	細	7.SYB/2灰赤	透明	-	外面：ヘラカゼリ。施釉 内面：回転ナデ		
118	第2面202(上面)	土師質土器	小皿	-	-	[0.9]	(4.6)	粗	内面：2.5Y4/2暗灰 外面：2.5Y6/3C赤い青			外面：回転ナデ 内面：ナデ	選部：回転ホキリ	
119	第2面205	陶器	鉢	備前?	-	[3.8]	-	普通	9.0/2灰褐	7.SYB/4/2灰褐	-	外面：回転ナデ、ヘラナ 内面：回転ナデ、施釉		
120	第2面205	土師質土器	杯	-	-	(6.0)	(3.2)	-	普通	SYR6/6裡	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ			
124	第2面210	土師質土器	杯	-	-	10.0	(2.5)	-	普通	内面：SYR7/6裡 外面：SYR7/4にぶい青	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ			
125	第2面210	陶器	鉢	-	-	[10.1]	-	やや粗	SYR6/2灰褐	10YR6/4赤褐	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ		
127	第2面228	磁器	碗	肥前系	(11.2)	6.3	5.9	普通	2.SYB/1灰白	透明	淡青色	外面：施釉、茎井文様、草花文、圓錐 内面：施釉、施刻、四方彫、圓錐、草花文	高台内側：砂目	
128	第2面228	磁器	皿	肥前系	9.6	2.8	3.4	普通	9.0/1灰白	透明	褐色	外面：施釉、圓錐、草花文、内面：施釉、四方彫、圓錐、草花文		
129	第2面228	磁器	合子	-	(5.0)	1.9	(5.0)	微	9.0/1灰白	透明	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、施釉		
130	第2面228	磁器	鉢	肥前系	-	[4.9]	(7.0)	微	SYB/1灰白	透明	淡青色・褐色	外面：施釉、草花文、圓錐 内面：施釉、草花文、圓錐		
131	第2面228	陶器	碗	-	(9.6)	5.3	(3.8)	細	2.SYB/2灰眞	7.SYB/1灰白	10YR6/2黒褐	外面：施釉、松文、圓錐 内面：施釉、削り出し高台		
132	第2面228	陶器	碗	肥前系	(11.0)	5.9	5.4	細	9.0/2灰白	透明	褐色	外面：施釉、松文、圓錐 内面：施釉、圓錐、五井花		

番号 番号	出土遺構	種別	器種名	產地	法面(conv)			地土	色調1 (粘土)	色調2 (輪裏・外面部色調)	色調3 (内面・上粒)	調整	備考
					口径	輪高	底径						
132 第2面228	陶器	皿	-	(13.2)	3.2	4.4	縦	2.5Y7/3底黄 リーブ	灰オリーブ・淡黄オ リーブ	-	外面 斜輪 内面 斜輪	柱ノ目輪ハ千 重付・砂目付蓋 更込み 砂目	
134 第3面228	陶器	鉢	輪入?	-	[2.8]	[7.4]	縦	SY6/2底オリーブ	SY8/2底白	SY4/3底オリーブ	外面 斜輪、ケズリ、淡 水文 内面 斜輪		
135 第2面 228	陶器	灯明皿	唐前後	9.4	1.5	-	縦	10R6/4にぶい赤 い赤 外面 10R6/4にぶい 赤	内面 7.5R6/4にぶ い黄 外面 10R6/4底黄 理	-	外面 回転ヘラケズリ 内面 回転ナデ	口縁部に焼付蓋	
136 第2面228	土師質土器	皿	-	(10.4)	2.0	(6.3)	普通		内面 10Y8/4にぶ い黄 外面 10Y8/4底黄 理	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	底部 回転ホキリ		
137 第2面228	土師質土器	杯	-	(11.2)	2.5	(6.6)	普通		7.5Y8/2底黄理	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	底部 回転ホキリ		
138 第2面228	土師質土器	追迹	-	33.8	[7.4]	-	普通		内面 10Y8/1底灰 外面 10Y8/1基輪	外面 ヨコナデ、指オサ エ、平行タタキ 内面 ヨコナデ、ナデ、 ヘラナデ	未調査の孔2ヶ 外面 褐付着		
142 第2面233	白磁	碗	-	-	[2.4]	-	縦	2.5Y8/1底白	透明	-	外面 斜輪 内面 斜輪		
143 第2面236	磁器	碗	肥前系	(8.4)	[4.6]	-	普通	2.5Y8/1底白	透明	薄青色	外面 斜輪、唐草文、團 紋 内面 斜輪、丸文		
144 第2面236	欽賞施釉陶器	灯明皿	-	(9.0)	1.6	-	普通	10R5/6赤	-	-	外面 回転ナデ、回転ヘ ラケズリ 内面 回転ナデ	口縁部内外面に焼 付着	
152 第2面237	磁器	盃	肥前系	(6.0)	3.0	(2.6)	縦	7.5Y8/1底白	透明	青色	外面 斜輪、唐草文 内面 斜輪、草花文		
153 第2面237	磁器	小頃	肥前系	(6.0)	4.8	3.0	縦	5Y8/1底白	透明・7.5Y7/1明緑 灰	-	外面 斜輪 内面 斜輪		
154 第2面237	磁器	盃	肥前系	5.4	1.4	-	縦	10Y7/2にぶい黄 理	7.5Y7/1底白	-	外面 斜輪 内面 回転ナデ		
155 第2面237	磁器	皿	肥前系	(15.2)	4.0	8.2	縦	2.5Y8/1底白	透明・7.5Y7/1明緑 灰	明青色・暗青色	外面 斜輪、横花 内面 斜輪、横花、蓬山		
156 第2面237	陶器	盃	肥前系	(12.8)	2.9	(4.6)	縦	2.5Y8/2底白	透明・2.5Y8/3底黄	-	外面 回転ナデ、回転ヘ ラケズリ 内面 斜輪		
157 第2面237	陶器	水注	肥前系	4.8	3.8	2.6	縦	SY7/2底白	透明	-	外面 斜輪、回転ケズ リ、ナデ 内面 斜輪	貢入	
158 第2面237	欽賞施釉陶器	土瓶	-	-	[6.0]	7.9	普通	2.5Y8/7.6赤	SY8/6赤縁～SY8/4赤 端	-	外面 ヘラナデ、回転ナ デ 内面 回転ナデ		
159 第2面237	土師質土器	瓶	-	-	[2.0]	4.0	粗食		10Y8/4底黄理	外面 回転ナデ、ナデ 内面 回転ナデ	底部 回転ホキリ		
160 第2面237	土師質土器	飯炉	-	22.4	10.6	20.4	普通		内面 2.5Y8/1底灰 外面 SY7/2灰	外面 ナデ、ミガキ 内面 ハケ、ナデ	上面 刻印		
161 第2面237	遊戲具	盤	-	(5.4)	1.3	2.1	普通		内面 10Y8/4にぶ い黄 外面 7.5Y8/2底黄 理	-	外面 斜輪、紅葉 内面 ナデナデ	紅葉：赤茶色の染 料	
162 第2面237	遊戲具	壺	-	長さ [5.6]	幅 2.2	厚み 0.9	普通	7.5Y8/2底黄理	灰オリーブ	-	表面 斜輪 裏面 斜輪ナデ	裏面 唐草有	
163 第2面240	磁器	碗	肥前系	-	[4.0]	-	縦	白	透明	暗青色	外面 斜輪、團繩、斜刻 花文 内面 斜輪、四方摩、團 繩		
164 第2面242	磁器	碗	肥前系	(10.6)	6.0	(4.8)	縦	NB/底白	透明・5Y8/1底白	淡青色・オリーブ色	外面 斜輪、草花文、團 繩 内面 斜輪、團繩		
165 第2面242	磁器	皿	肥前系	(12.8)	3.3	(7.0)	縦	NB/底白	透明・5Y8/1底白	暗青色	外面 斜輪、唐草文、團 繩 内面 斜輪、五糸花		
166 第2面242	磁器	皿	肥前系	(8.4)	[1.9]	-	縦	白	透明	明青色	外面 回転ナデ、斜輪 内面 回転ナデ、斜輪		
167 第2面242	磁器	望遠鏡	肥前系	-	[3.5]	-	縦	白	透明	明青色	外面 斜輪、タコ唐草 文、根木 内面 回転ナデ、斜輪		

範文 番号	出土場所	種別	器種名	產地	測量(cm)			出土 形質	色調1 (油土)	色調2 (陶器・外見色調)	色調3 (真値・上粒)	測量	備考	
					口径	腹高	底径							
168 第2面242	陶器	瓦平	-	-	12.4	7.5	5.1	普通	10YR6/3にぶい黄褐	オリーブ灰	-	外観：施釉、回転ナデ 内面：施釉	精毛文張 保付書 印2號既存	
169 第2面242	土師質土器	植木鉢	-	(31.4)	12.8	(24.8)	普通			7.5YR7/4にぶい褐			内面：ナデ、ヘラナデ 内面：回転ナデ、板ナ 子、板オサエ	鹿部：回転ヘラキ リ後ナデ
170 第2面242	土師質土器	カマド	-	-	[30.4]	-	普通			7.5YR7/4にぶい褐			内面：ナデ、ミガキ、ヘ ラナデ 内面：指ナデ、ハケ	
173 第2面244	磁器	瓶	肥前系	-	[2.8]	-	細	緑/灰白	透明・50Y8/1灰白	暗青色		外観：施釉、圓錐、草花 文 内面：回転ナデ、一部施 釉		
174 第2面244	陶器	皿	肥前系	-	[1.4]	4.0	普通	7.5YR7/2褐褐灰	透明	-	-	外観：回転ヘラケズリ、 ナデ 内面：回転ナデ、施釉		
175 第2面244	土師質土器	秆	-	-	[1.2]	[8.6]	普通		10YR8/2浅黃褐			外観：回転ナデ、ナデ 内面：ナデナデ、回転ナ 子後指ナデ	鹿部：回転ホキリ 後ナデ	
178 第2面245	磁器	皿	肥前系	-	[3.5]	7.0	細	緑/灰白	透明	暗青色		外観：施釉、施釉、草花 内面：施釉	貴付：砂目付書	
179 第2面245	陶器	壺鉢	備前焼	-	[6.0]	-	普通	2.5YR5/5明赤褐	10R6/5赤褐	-		外観：回転ナデ、目跡		
180 第2面245	陶器	甕	備前焼	-	[6.0]	[13.4]	普通	10YR6/1褐灰	5YR4/2灰褐～5YR5/6 明赤褐	-		外観：指オサエ、ナデ後 ナラケズリ、回転ナデ後 ナラケズリ 内面：回転ナデ		
181 第2面245	陶器	火鉢	瀬戸系	-	[9.05]	[20.6]	細	2.5Y7/3淡黃	2.5Y8/3淡黃	-		外観：施釉、ヘラケズリ ナデ、ハケ 内面：接合痕		
182 第2面245	土師質土器	土鉢	-	高さ (4.8)	重さ (30.3g)	幅 (3.3)	普通		7.5YR7/4にぶい褐			外観：ナデ、指オサエ 内面：ナデ		
187 第2面246	磁器	仏壇器	-	(6.2)	[2.0]	-	細	緑/灰白	透明	-		外観：施釉、施釉 内面：施釉	貴入	
188 第2面246	陶器	皿	瀬戸系	(10.5)	2.0	(6.2)	普通	7.5Y8/1灰	7.5Y5/3灰オリーブ	-		外観：施釉 内面：施釉	紺日	
189 第2面246	土師質土器	小皿	-	-	[1.7]	-	普通		内面：7.5YR7/4にぶ い褐 内面：10YR7/3にぶ い黄褐			外観：回転ナデ 内面：回転ナデ		
190 第2面247	磁器	碗	肥前系	-	[1.1]	3.6	細	7.5Y8/1灰白	透明	暗青色		外観：施釉、施釉、「大鏡成」		
191 第2面247	磁器	碗	肥前系	-	[3.3]	(6.0)	やや粗	緑/灰白	透明	暗青色・青色		外観：施釉、圓錐、 内面：施釉、圓錐、 「唐」	蓋台内面：砂目 見込み・施土日	
192 第2面247	磁器	皿	肥前系	9.2	2.4	5.2	細	緑/灰白	透明	暗青色		外観：施釉、菊文、流水 内面：施釉、圓錐		
193 第2面247	磁器	皿	肥前系	10.8	2.7	6.6	細	緑/灰白	2.5Y8/1灰白	暗青色		外観：施釉、圓錐 内面：施釉、圓錐、唐草 文	蛇ノ目形容蓋台	
194 第2面247	磁器	皿	肥前系	(10.4)	[1.6]	-	細	緑/灰白	透明	5YR4/1暗青灰		外観：施釉 内面：施釉		
195 第2面247	磁器	皿	瀬戸系	10.2	2.8	5.8	細	白	透明	暗青色		外観：施釉、瀬戸山文 内面：施釉、瀬戸山文	繪花 模様 貴入	
196 第2面247	磁器	笠泡垂	肥前系	2.1	[4.2]	-	細	緑/灰白	透明	青色		外観：施釉、草花文 内面：施釉、回転ナデ		
197 第2面247	磁器	段業	肥前系	(12.6)	4.9	8.0	細	白	透明	青色		外観：施釉、草花文 内面：施釉	砂目	
198 第2面247	陶器	碗	笠泡垂	(7.2)	3.8	(2.6)	細	2.5Y8/1灰白	透明	-		外観：回転ナデ、高輪 内面：回転ナデ、高輪		
199 第2面247	陶器	碗	笠泡垂	(3.6)	4.8	3.0	細	2.5Y7/1灰白	透明	-		外観：施釉 内面：施釉	貴入	
200 第2面247	陶器	碗	肥前系	3.6	4.6	3.0	細	緑/灰白	5YR7/2灰白	-		外観：施釉 内面：施釉	貴入	
201 第2面247	陶器	碗	肥前系	(11.3)	9.1	5.7	細	2.5Y8/1灰白	透明	暗青色		外観：施釉、圓錐 内面：施釉、圓錐	貴入	
202 第2面247	陶器	碗	-	-	[0.2]	-	細	2.5Y8/1灰白	透明	-		外観：回転ナデ 内面：施釉	底面：墨書き	
203 第2面247	陶器	瓦	-	-	3.0	18.4	7.5	普通	2.5YR5/6明赤褐	5YR3/1墨褐	-		外観：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ	

番号 番号	出土場所	種別	器種名	產地	法面(conv)			施土	色調1 (胎土)	色調2 (輪裏・内外面色調)	色調3 (内側・上粒)	調査	備考
					口径	輪高	底径						
204 第2面247	陶器	瓶	-	-	[7.8]	-	普通	SYR4/2灰褐色	SYR4/1褐灰	-	内面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ、しばり目		
205 第3面247	陶器	灯明皿	肥前系	8.3	1.2	-	普通	-	2.SYR4/6赤褐色	-	外面 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面 回転ナデ	口縁部付着	
206 第2面247	陶器	灯明皿	肥前系	(11.7)	[1.9]	-	細	2.SYR4/1灰白色	透明	-	外面 施釉 施釉		
207 第3面247	陶器	豆皿	肥前系	(10.6)	4.9	[3.6]	細	7.SYR4/2灰褐色	化粧土：7.5YR4/1灰白	-	外面 回転ナデ、回転ヘラケズリ、白化粧土 内面 回転ナデ、白化粧土		
208 第2面247	欽賞施釉陶器	土瓶	-	(7.4)	[2.8]	-	細	2.SYR4/1灰白色	7.SYR7/3深青	-	外面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ		
209 第2面247	陶器	土瓶	屋島系	8.9	13.4	8.1	普通	SYR7/6橙	SYR7/6赤褐色	-	外面 施釉、回転ナデ		
210 第2面247	陶器	罐	-	-	[3.7]	[17.8]	細	-	10YR6/6明黄褐	-	外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 頂目、ナデ		
211 第2面247	陶器	水瓶	鹿戸系	-	[9.0]	[21.0]	普通	SYE4/1灰白	SY7/3深青	-	外面 施釉、施刻 内面 施釉	實入、施土目	
212 第2面247	土師質土器	焼塙壺(重)	-	7.3	-	-	普通	-	7.SYR7/4にぶい橙	-	外面 ヘラナデ、ヨコナデ 内面 布目		
213 第2面247	土師質土器	焼塙壺	-	(6.6)	7.6	(4.8)	普通	-	SYR7/3橙	-	外面 ナデ、施ナデ 内面 ヘラケズリ、指ナデ	接合痕	
214 第2面247	土師質土器	焼塙壺	-	6.4	7.5	(5.0)	普通	-	7.SYR7/4にぶい橙	-	外面 ナデ、ヘラミガキ、指オサエ、 内面 ヘラナデ	接合痕	
224 第2面247	遊戲具	足	-	長さ [6.0]	幅 [3.8]	高さ [3.5]	普通	-	SYR7/4にぶい橙	-	外面 ナデ、指オサエ、 内面 ヘラナデ		
225 第2面247	土師質土器	土瓶	-	長さ 4.8	重さ 40.4g	底径 2.5	普通	-	2.SYR4/1灰白色	-	外面 ナデ、白色化粧土 内面 ナデ、白色化粧土		
226 第2面248	磁器	碗	輸入?	-	[2.4]	-	細	NB/灰白色	7.5YR5/1明綠灰	-	外面 施釉、施刻 内面 施釉		
229 第2面248	磁器	鉢	輸入?	-	[3.0]	[5.5]	細	7.SYR7/1灰白色	透明	-	外面 施釉 内面 施釉	登目 實入	
230 第2面248	陶器	碗	肥前系	-	[2.8]	2.8	細	2.SYR4/2灰白色	透明	暗青色	外面 施釉 内面 施釉	實入	
231 第2面248	陶器	罐	博体系	-	[4.6]	-	普通	7.SYR6/1褐灰	-	外面 回転ナデ、重ね燒 内面 回転ナデ			
232 第2面248	陶器	罐	朝石保系	-	[5.2]	[18.4]	普通	2.SYR4/6赤褐色	-	-	外面 回転ナデ、ヘラケズリ 内面 頂目		
233 第2面248	土師質土器	杯	-	-	[0.9]	6.2	普通	-	7.SYR6/4にぶい橙	-	外面 ナデ 内面 回転ナデ	底部 回転ホキリ	
235 第2面250	磁器	段	-	(11.4)	2.1	11.1	細	白	透明	明青色	外面 施釉 内面 施釉	登目	
236 第2面250	陶器	碗	-	-	[4.6]	-	普通	SYE4/1灰	SY5/2灰オーリーブ	-	外面 施釉 内面 施釉		
237 第2面直上	磁器	碗	鹿戸系	(9.1)	5.1	3.7	細	NB/灰白色	透明	内面 淡青色・明青色 外面 淡青色・暗青色	外面 圓錐、施釉 内面 圓錐、施釉		
238 第2面直上	磁器	碗	肥前系	-	[1.3]	3.4	細	白	透明	明青色	外面上施釉、草花文、圓 内面 施釉		
239 第2面直上	磁器	盤	輸入?	(10.6)	2.6	-	細	NB/灰白色	透明	-	外面上施釉、圓取り 内面 施釉		
240 第2面直上	磁器	鉢	-	-	[2.3]	[11.0]	細	NB/灰白色	SY5/2灰オーリーブ	-	外面上施釉、施剥 内面 施釉		
241 第2面直上	磁器	鉢	輸入?	-	[8.6]	14.2	細	2.5GYR8/1灰白色	SY7/3淡黃・10YR7/2 灰白色	-	外面上施釉 内面 施釉、施剥	底ノ目凹形高台 底ノ目施剥ぎ内に 重ね燒き底有	
242 第2面直上	陶器	碗	鹿戸系	4.8	[6.1]	-	普通	SY5/1灰	7.SYR6/4暗褐色	-	外面上施釉 内面 施釉、回転ナデ		
242 第2面直上	土師質土器	杯	-	-	[0.8]	6.2	普通	-	内面 10YR6/1灰白色 外面 7.5YR8/2灰白色	-	外面上ナデ 内面 施ナデ	底部 回転ホキリ による押圧痕有	

番号	出土遺構	種別	器種名	産地	法量(cm)		地土	色調1 (底土)	色調2 (底土+外観色調)	色調3 (外観+上粒)	調査	備考	
					口径	基面	直径						
244 第2面3上	遺戻具	瓶	-	-	幅5.2	長さ3.5	厚み1.1	普通	7.SYR7/3にぶい緑・SYR8/6緑	-	-	ナデ ナデ	キラコ付帯
245 第3面330	土師質土器	杯	-	-	[0.9]	6.2	-	普通	7.SYR5/4にぶい緑	-	-	回転ナデ 回転ナデ	底部・回転系キリ
246 第3面301	陶器	土瓶	-	-	[3.2]	[9.0]	幅2.5	SYR5/4底黄	7.SYR3/4緑褐色	-	-	外底・回転ナデ、回転ヘ ラケツリ・黄釉	
250 第3面301	陶器	大甕	側前傾	-	[6.8]	-	-	普通	2.SYR5/1赤灰	-	-	外底・回転ナデ、ごま付 内底・回転ナデ、ごま付 蓋	
251 第3面302	磁器	碗	肥前系	(8.0)	[3.0]	-	-	細・灰白	透明	淡青色	外底・施釉、開閉口文 内底・施釉		
252 第3面302	磁器	碗	肥前系	(9.6)	4.4	[5.8]	普通	白	透明	明青色	外底・施釉、漫山文 内底・施釉		
253 第3面302	磁器	碗	肥前系	-	[3.7]	4.6	幅	白	透明	暗青色	外底・施釉、圓線、草花文、 内底・施釉、圓線、宝文	見込み・秒目有	
254 第3面302	磁器	碗	肥前系	11.4	[2.8]	-	-	細・白	透明	明青色	外底・施釉、タコ唐草文 内底・施釉、四方導		
255 第3面302	磁器	蓋	肥前系	(8.0)	[2.0]	-	-	細・灰白	透明	暗青色	外底・施釉、宝文 内底・施釉	秒目付帯	
256 第3面302	磁器	蓋	肥前系	9.6	3.0	3.8	普通	白	透明	淡青色	外底・施釉、圓線、梅 内底・施釉、四方導、五 弁花、圓線		
257 第3面302	磁器	紅椿口	肥前系	6.2	2.3	3.1	細	白	透明	オリーブ黒色	外底・施釉、銘文(葉葉文) 内底・施釉		
258 第3面302	磁器	鉢	肥前系	(14.2)	4.2	[7.8]	細・灰白	-	透明	暗青色	外底・施釉、唐草文、圓 線 内底・施釉、草文、圓 文	鉢花	
259 第3面302	磁器	花生	肥前系	12.2	[4.0]	-	細	白	透明	暗青色	外底・施釉、圓文、草花文、 内底・施釉、四方導		
260 第3面302	陶器	碗	肥前系	(9.6)	[4.3]	-	細	SYR7/3底黄	2.SYR9/2底白	淡青色・暗青色	外底・施釉、露文、寶文 内底・施釉	貫入	
261 第3面302	陶器	碗	京焼系	-	[3.1]	4.6	細	10SYR7/4にぶい黄緑	2.SYR8/4底黄	淡青色・朱色・黃緑 色・金色・淡水色・ 青土色	外底・施釉、草花文 内底・施釉		
262 第3面302	陶器	碗	肥前系	-	[4.2]	[4.4]	普通	N7/灰白	SYR7/1朝オリーブ灰	SYR4/1暗青灰	外底・施釉 内底・施釉	貫入	
263 第3面302	陶器	蓋	肥前系	5.5	0.8	-	細	SYR8/1灰白	透明	10GS/1鉢灰・10YR2/1 底黑	外底・施釉 内底・施釉	貫入	
264 第3面302	陶器	香炉	-	(11.2)	7.8	4.9	細	N6/灰	SYR7/1朝オリーブ灰	オリーブ灰色	外底・施釉、田字ヘラ カズリ・回転ナデ 内底・回転ナデ	見込み・底土目有	
265 第3面302	陶器	灯明皿	側前傾	10.4	1.7	-	細	-	2.SYR5/6明赤褐	-	外底・回転ナデ、ヘラ カズリ 内底・回転ナデ	口縁内外面・煤付 口縁外面・重ね燒 き色	
266 第3面302	陶器	灯明皿	側前傾	(11.6)	1.6	[3.2]	普通	2.SYR5/6明赤褐	2.SYR5/6明赤褐	-	外底・回転ナデ、回転ヘ ラカズリ 内底・前転ナデ	内底・重ね燒 き色 外底・自然釉付帯 内底・保合窓	
267 第3面302	陶器	急須	肥前系	6.1	8.7	5.1	細	SYR7/2底黄	透明	淡青色・淡茶色・こ げ茶色	外底・施釉、竹文 内底・施釉		
268 第3面302	陶器	土瓶	肥前系	(10.0)	[8.7]	-	普通	2.SYR6/1底黄	内底・10SYR4/2底黄 外底・SYR7/2底白	茶色・黑色・淡綠色	外底・施釉 内底・施釉		
269 第3面302	陶器	蓋	側前傾	13.8	1.3	-	やわ 用	2.SYR4毛赤褐	-	-	外底・回転ヘラケズリ、 ナデ 内底・ナデ		
270 第3面302	陶器	壺	壺系	-	[6.1]	[24.0]	普通	10SYR4/1壺灰~ 10SYR5/6赤	SYR5/2底褐	-	外底・回転ナデ、ナデ 内底・如日	複合窓	
271 第3面302	瓦質土器	尖鉢	-	(30.3)	[9.2]	-	普通	N5/灰	10YR7/2底白・N5/灰	-	外底・如日 内底・如日		
272 第3面302	土師質土器	供進壺	-	(8.2)	1.9	-	普通	-	SYR7/6槽	-	外底・ナデ、ヨコナデ後 ササエ 内底・ササエ	ナデ・ヨコナデ後 ササエ	
273 第3面302	土師質土器	供進壺	-	(6.0)	[7.0]	-	普通	-	SYR6/6槽	-	外底・ヨコナデ 内底・シボリ	ナデ・ヨコナデ後 工具	刺印
274 第3面302	土師質土器	壺	-	(36.4)	[5.4]	-	普通	-	内底・2.SYR5/1裏灰 外底・2.SYR4/1裏灰	-	外底・ナデ、指サエ 内底・ナデ、ハケ、ハケ 外底・ミガキ		

番号 番号	出土場所	種別	器種名	產地	法面(cm)		地盤	色調1 (粘土)	色調2 (釉薬・外観色調)	色調3 (高頂・上部)	測量	備考
					口径	底面 直徑・底面						
283 第3面304	陶器	罐	明石系	-	[3.7]	[15.2]	やや 粗	7.5YR7/1灰白	-	-	外面：回転ナデ。指サ 工 内面：回転ナデ。群目	群目：8条1束
284 第3面304	土師質土器	甕	-	(7.4)	[7.2]	-	普通	内面：10YR7/3にぶ い黄褐色 外面：7.5YR3/1黒褐	-	-	外面：ヨコナデ。指サ 工 後ハケ、ヨコナデ。ハ ケ 内面：ヨコナデ。ハケ	外側：蝶付着
286 第3面314下層	土師質土器	甕	-	[11.4]	2.0	[6.2]	普通	7.5YR7/3にぶい橙	-	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部：回転赤キリ
287 第3面314下層	陶器	罐	備前系	-	[4.3]	[9.0]	普通	5YR5/4にぶい橙	-	-	外面：板ナデ。ナデ 内面：ナデ。群目	群目：8条1束
288 第3面314上層	陶器	大甕	備前系	-	[3.4]	[23.2]	やや 粗	5YR5/4にぶい赤褐	-	-	外面：ヘラケズリ。ナデ ナデ 内面：自然釉付着	
290 第3面336	磁器	碗	肥前系	6.6	5.0	2.6	微 N8/灰白	10YR7/1朝鮮灰	-	-	外面：施輪 内面：施輪	口縁：鉛釉
291 第3面308	土師質土器	甕	-	-	[1.4]	3.8	普通	内面：10YR7/3にぶ い黄褐色 外面：2.5YR3/1淡黄	-	-	外面：ナデ 内面：回転ナデ。指ナデ	底部：回転赤キリ
292 第3面311	土師質土器	甕	-	-	[1.1]	3.6	普通	10YR7/4にぶい黄褐色	-	-	外面：ナデ 内面：回転ナデ。指ナデ	底部：鉛付赤キリ 後板目
293 第3面316	陶器	罐	-	-	[7.4]	-	普通	-	5YR5/3にぶい赤褐色	-	外面：回転ナデ 内面：施輪。ナデ。群目	口縁外側：垂れ模 型有
294 第3面面上	磁器	碗	肥前系	-	[4.6]	-	細 白	10YR6/2オリーブ灰	-	-	外面：施輪 内面：施輪。片刃部	
295 第3面面上	磁器	盤	肥前系	-	3.0	-	細 白	透明	淡青色	外面：施輪 内面：施輪。回転ナデ		
296 第3面面上	陶器	罐	備前系	-	[4.3]	-	普通	-	10YR5/3赤褐	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
297 第3面面上	土師質土器	甕	-	-	[1.1]	3.8	普通	10YR6/3Cにぶい黄褐色	-	-	外面：ナデ 内面：ナデ	底部：鉛付赤キリ
298 第3面面上	土師質土器	甕	-	-	[0.7]	4.1	普通	10YR7/3にぶい黄褐色	-	-	外面：ナデ 内面：回転ナデ	底部：鉛付赤キリ
300 第3面面上	土師質土器	土罐	-	長さ 9.9	幅 6.1	高 6.4	普通	7.5YR6/4浅黄褐	-	-	外面：指サエ 内面：-	重量：[282.0]g
302 第4面402	土師質土器	甕	-	-	[11.8]	[2.0]	-	普通	2.5YR6/2橙	-	外面：回転ナデ。回転ヘ ラケズリ 内面：回転ナデ	
304 第4面417	磁器	碗	肥前系	-	[2.6]	-	細 白	5YR7/1朝鮮灰	透明	淡青色	外面：施輪。而隣り尖 内面：施輪	
305 第4面417	土師質土器	甕	-	-	[8.2]	[2.1]	-	普通	内面：10YR7/3にぶ い黄褐色 外面：7.5YR6/2灰褐	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
306 第4面422	磁器	盤	肥前系	-	[11.6]	5.8	細 N8/灰白	透明	淡青色	外面：施輪。バイナップ ル 内面：回転ナデ	蓋付：砂目付葉	
307 第4面422下層	陶器	皿	肥前系	13.4	3.7	4.3	やや 粗	2.5YR4/6赤褐	5YR6/1灰 白色	外正：施輪。回転ナデ。 回転ヘラケズリ 内面：施輪	見込み：粘土目 4ヶ所	
308 第4面422	陶器	皿	-	-	[3.4]	3.4	普通	5YR5/3にぶい赤褐	2.5YR6/1オリーブ灰	-	外正：施輪。回転ナデ 内面：施輪	施工日 蓋番「十」
309 第4面422底部	土師質土器	甕	-	-	[10.0]	1.8	6.0	普通	2.5YR6/1灰白	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部：回転赤キリ
310 第4面422	陶器	深ね林	肥前系	[38.4]	[8.0]	-	普通	2.5YR5/6明赤褐	-	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ	
312 第4面429	陶器	皿	瀬戸系	-	[1.1]	[5.6]	普通	2.5YR2/灰白	2.5YR4/1オリーブ褐	-	外正：施輪。重ね焼き痕 内面：施輪	折損ソギ皿
313 第4面439	土師質土器	甕	-	-	[1.2]	[7.3]	普通	5YR7/4にぶい橙	-	外正：ナデ 内面：ナデ	底部：切り離し後 板目	
314 第4面439	土師質土器	足釜	-	-	[38.0]	[7.1]	-	普通	10YR8/2浅黄褐色	外正：ヨコナデ。ナデ。 内面：ヨコナデ。指サ エ後板ナデ。ヘラナデ		
315 第4面440	陶器	瓶(火口 系続)	瀬戸系	[12.4]	6.4	[4.6]	普通	10YR8/1灰白	N8/黑・10YR4/3にぶ い黄褐色	-	外正：施輪。回転ヘラケ ズリ 内面：施輪	
316 第4面442	土師質土器	灯明皿	-	7.6	1.3	5.5	普通	10YR8/4浅黄褐色	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部：回転赤切り	
317 第4面451	磁器	盤	輸入	[12.2]	[2.5]	-	細 N8/灰白	透明	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ		
318 第4面451	陶器	鉢	-	-	[3.3]	[11.4]	普通	5YR6/4にぶい橙	10YR7/1灰白	オリーブ灰色	外正：回転ナデ 内面：施輪	内面：砂目底 蓋付：砂目底
319 第4面451	陶器	罐	明石系	-	[5.1]	-	やや 粗	N7/灰白	7.5YR3/2黒褐	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面：口縁外面 自然釉付着
320 第4面451	陶器	罐	備前系	-	[3.8]	-	普通	-	内面：2.5YR5/6にぶ い赤褐 外面：2.5YR5/6にぶ い赤褐 7.5YR6/2黒オ リーブ	-	外正：回転ナデ 内面：回転ナデ	口縁部：重ね焼き 痕有

番号 番号	出土場所	種別	器種名	产地	法量(cm)			胎土	色調1 (胎土)	色調2 (陶器・外表面色)	色調3 (内面・上部)	測定	備考	
					口径	底径	高さ							
321 第4面451	陶器	罐	復原	復原	-	[4.5]	-	普通	2.5YR/1黄灰	7.5YR/4褐色	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ		
322 第4面451	陶器	大型	復原	復原	-	[15.0]	[32.0]	普通	-	2.5YR/2灰赤	-	外面：ナチュラルアーチ 内面：ナチュラルアーチ	内面：ゴマ付	
323 第4面453		器口	-	長さ [A.1]	幅 [6.4]	厚 [4.5]	-	粗	-	-	-	外面：-		
325 第4面455	陶器	鉢	把前系	-	[3.1]	[8.2]	傳	2.5YR/3にぶい黄	透明	-	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	透かし出し高台	
326 第4面455	陶器	罐	復原	復原	[33.0]	[7.0]	-	普通	2.5YR/4明赤褐色	10R4/2灰赤	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	重ね焼き痕	
327 第4面455	土師質土器	壺	-	-	[24.0]	[5.2]	-	普通	内面：7.5YR/6毛淡黄 外面：7.5YR/6毛淡黄 総寸YR/1.5	-	外面：ヨコナチュラルアーチ 内面：ヨコナチュラルアーチ	目録：7条1束		
328 第4面455	土師質土器	杯	-	-	[11.0]	1.9	[7.0]	普通	-	2.5YR/2灰白	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	透かし：回転ナチュラルアーチ	
329 第4面455	土師質土器	信玄壺	(盛)	-	8.0	1.8	8.0	普通	-	5YR/6青	-	外面：ナチュラルアーチ 内面：ナチュラルアーチ		
330 第4面455	土師質土器	茶漬	-	-	[21.0]	[5.1]	-	普通	内面：7.5YR/4にぶい青 外面：10YR5/1黄灰	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	外見：指サエ		
331 第4面458	陶器	土瓶	-	-	[9.0]	[10.4]	細	7.5YR/1灰白	5YR/6オリーブ	青色、こげ茶色	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	外見：指サエ		
332 第4面459	陶器	壺	復原	復原	-	[7.0]	-	普通	-	10YR5/3にぶい黄褐	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	目録：ナチュラルアーチ	
333 第4面459	陶器	壺	復原	復原	[28.0]	[11.5]	[12.8]	普通	2.5YR/6赤褐色	2.5YR/6橙	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	重ね焼き痕	
334 第4面461	陶器	壺	復原	復原	[31.0]	[10.9]	[16.8]	普通	-	10R4/4赤褐色	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	横縫目：重ね焼き痕、ゴマ付	
335 第4面462	陶器	大型	復原	復原	-	[7.7]	-	普通	-	2.5YR/4/2灰赤	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	内面：ゴマ付	
336 第4面462	土師質土器	灯明壺	-	-	[0.2]	1.9	[5.0]	普通	-	10YR7/4にぶい黄褐	-	外面：摩崖 内面：摩崖	縦縫目：摩崖	
337 第4面463	磁器	皿	瀬戸系	[12.0]	2.2	[8.3]	普通	白	透明	緑色	外面：施釉、圓錐 内面：施釉、圓錐	外見：牡丹 底面		
338 第4面463	磁器	中盤	把前系	-	[7.3]	[7.0]	普通	白	透明	緑色	外面：施釉、圓錐 内面：施釉			
339 第4面463	土師質土器	杯	-	-	-	9.2	1.4	5.0	普通	10YR8/4淡黄褐	-	外面：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	透かし：回転あきり	
340 第4面463	土師質土器	杯	-	-	[10.0]	2.0	[7.2]	普通	-	10YR8/2淡黄褐	-	外見：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	底面：回転あきり 後板目	
341 第4面463	土師質土器	杯	-	-	[12.0]	2.1	[6.6]	普通	-	5YR7/6青	-	外見：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	底面：回転あきり	
345 第4面464	磁器	小碗	肥前系	[7.0]	5.3	3.4	細	白	透明	緑色	外見：施釉 内面：施釉	見込み：ピンク4個		
346 第4面464	土師質土器	杯	-	-	-	[1.0]	[7.2]	普通	-	10YR8/3淡黄褐	-	外見：回転ナチュラルアーチ 内面：指サエ、ナチュラルアーチ	底面：回転あきり 後板目	
347 第4面465	土師質土器	杯	-	-	[8.0]	1.7	[5.2]	普通	-	5YR7/6青	-	外見：施釉 内面：回転ナチュラルアーチ	底面：回転あきり	
348 第4面420	陶器	壺	把前系	[10.0]	6.0	4.4	普通	2.5YR/4にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	黑色	外見：施釉、回転ヘラクリア 内面：施釉	鉄鉢		
349 第4面457	陶器	皿	瀬戸系	-	[1.0]	6.2	普通	2.5YR/2灰白	5YR/6オリーブ	-	外見：施釉 内面：施釉、回転ナチュラルアーチ	高台内：胎土目 貢入		
350 第3面掘り下げ (供土層)	陶器	皿	肥前系	[11.0]	3.1	5.8	普通	5YR/1灰白	透明	淡青色	外見：施釉、唐草文 内面：施釉、圓錐	底面：削り出し高台		
351 第3面掘り下げ (供土層)	陶器	皿	瀬戸系	[11.0]	2.1	5.0	普通	5YR/1灰白	5YR/6オリーブ	-	外見：施釉 内面：施釉、白	内面：施釉、白 底面：施釉、白 内面：施釉、白	体部内面：他の土器 底面：施釉	
352 第3面掘り下げ (供土層)	陶器	皿	瀬戸系	[12.0]	3.2	7.4	普通	2.5YR/2灰白	2.5YR/4淡黄	白色	外見：施釉、回転ナチュラルアーチ 内面：施釉、白	底面：施釉 内面：施釉	体部：胎土目 内面：施釉 外見：砂目	
353 第3面掘り下げ (供土層)	土師質土器	杯	-	-	-	[1.0]	3.2	普通	-	10YR5/2淡黄褐	-	外見：ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	底面：静止あきり	
354 第3面掘り下げ (供土層)	土師質土器	杯	-	-	-	[0.0]	4.0	普通	-	10YR6/3にぶい黄褐	-	外見：回転ナチュラルアーチ 内面：回転ナチュラルアーチ	底面：静止あきり	
355 第3面掘り下げ (供土層)	土師質土器	復ね盤	-	-	-	[6.0]	-	粗	-	内面：10YR8/3淡黄褐 外面：7.5YR/4淡黄褐	-	外見：ヨコナチュラルアーチ 内面：ヨコナチュラルアーチ 外見：指サエ		
356 第4面直上	陶器	皿	肥前系	[10.0]	1.0	[5.0]	細	2.5YR/2灰白	2.5YR/4淡黄	-	外見：施釉 内面：施釉	外見：指サエ		

番号 番号	出土場所	種別	器種名	産地	法面(conv)		出土 口径 幅高 底径	色調1 (粘土)	色調2 (輪裏・内外面色調)	色調3 (内頂・上粒)	説明	備考
					口徑	幅高						
357 第4面(上)	陶器	三	肥前系	[12.6]	3.3	4.3	縦	NB/灰白	5Y6/2灰白	N6/灰	外面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ、施釉	内面 砂目付
358 第4面(上)	土師質土器	杯	-	[8.0]	1.9	[8.0]	普通		10YR5/2淡黄褐色		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、ナナデ	底部 回転ホキリ
359 第4面(上)	陶器	杯	-	-	[2.5]	[9.5]	普通		内面 NB/灰 外面 ND/灰	-	外面 回転ナデ、ナナデ 内面 回転ナデ、ナナデ	
360 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	[6.0]	4.1	[2.6]	縦	白～灰白	7.50Y/1明緑灰	淡青色	外面 施釉、東屋、桜木 内面 施釉	
363 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	7.1	4.5	3.1	縦	NB/灰白	透明	淡緑色	外面 施釉、團線2本、淡 内面 施釉	高台内面 砂目付 青
364 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	[7.2]	4.9	[3.2]	縦	灰白	透明	-	外面 施釉 内面 施釉	高台内面 砂目付 青
365 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	[7.6]	4.8	3.8	縦	NB/灰白	透明	淡青色・緑色	外面 施釉、團線、草花 内面 施釉	
366 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	[6.2]	4.4	2.5	縦	NB/灰白	SB67/1明青灰	-	外面 施釉、ヘラ括き次 文字 大字 内面 施釉	ヘラ括次緑(萬方 向5本)・萬637 文字「春」
367 第5面539	磁器	小鏡	肥前系	[7.0]	5.4	3.8	縦	NB/灰白	透明	淡青色	外面 施釉、草文、大字 内面 施釉	「宣明年製」?
368 第5面539	磁器	碗	肥前系	[11.2]	5.8	[5.0]	普通	白	透明	淡青色	外面 施釉、唐草文、團 枝文 内面 施釉	全面貫入
369 第5面539	磁器	碗	肥前系	[11.6]	5.8	4.6	縦	白	透明	青色	外面 施釉、草花文、團 枝文 内面 施釉	
370 第5面539	磁器	碗	肥前系	[10.3]	6.0	[4.6]	縦	NB/灰白	7.50Y/1明緑灰	-	外面 施釉 内面 施釉	
371 第5面539	磁器	碗	肥前系	[16.0]	5.2	6.8	縦	灰白	透明	明青色	外面 施釉、團線3本、草 花文 内面 施釉、草文、宝物 文	裏面「太明年 製」
372 第5面539	磁器	三	肥前系	[12.8]	3.4	4.8	縦	NB/灰白	100Y/1明緑灰	-	外面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ、施釉	些ノ日輪刺ぎ 裏台見込みに砂目 青
373 第5面539	磁器	三	肥前系	[13.0]	3.6	4.6	縦	灰白	明青灰	-	外面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ、施釉、 松ノ日輪刺ぎ	雨引出・裏台 見込みに砂目付 青
374 第5面539	磁器	三	肥前系	[13.4]	3.4	4.5	普通	白	透明	10Y6/2オリーブ灰	外面 施釉 内面 施釉、些ノ日輪刺 ぎ、草文	
375 第5面539	磁器	三	肥前系	[13.0]	3.3	[5.4]	普通	白	透明	淡緑色	外面 施釉 内面 施釉、團線1本	梅花 銀鉢
376 第5面539	磁器	三	肥前系	[13.2]	3.0	5.0	普通	NB/灰白	透明	-	外面 施釉 内面 施釉、團線の花弁 文、區画文	口縁部 梅花状 裏台内面 砂目付 雨引出し 裏台
377 第5面539	磁器	三	肥前系	-	[2.2]	[8.3]	縦	NB/灰白	透明	淡青色	外面 施釉、團線4本 内面 施釉、團線の花弁 文、草花文	
378 第5面539	磁器	三	肥前系	[20.8]	2.85	[9.8]	普通	NB/灰白	透明	淡緑色	外面 施釉 内面 施釉、團線1本	
379 第5面539	磁器	香炉	肥前系	7.8	6.8	4.8	縦	5Y6/1灰白	透明	2.5Y7/2灰真	外面 施釉 内面 施釉	
380 第5面539	磁器	香炉	肥前系	[8.0]	6.7	[3.3]	縦	NB/灰白	SB7/1明緑灰	-	外面 回転ナデ、施釉、 松ノ日輪刺	裏部 砂目付青
381 第5面539	磁器	香炉	肥前系	[13.0]	[3.6]	-	縦	NB/灰白	SB7/1明緑灰	-	外面 回転ナデ、施釉、 内面 回転ナデ、施釉、 霞焰	
382 第5面539	磁器	小壺	肥前系	-	[5.2]	4.9	縦	白	5Y7/1明オリーブ灰	青色	外面 施釉 内面 回転ナデ	見込み・墨付け 砂目付青
383 第5面539	磁器	仏瓶器	肥前系	[6.2]	5.9	3.6	縦	NB/灰白	透明	明青色	外面 施釉、タコ唐草 文、團線 内面 施釉	裏面 墓蓋有
384 第5面539	磁器	仏瓶器	-	-	[4.8]	4.2	縦	7.5Y6/1灰白	透明	-	外面 回転ナデ後施釉 内面 回転ナデ、施釉、 ヘラナデ	
385 第5面539	磁器	壺	肥前系	-	[7.6]	[6.0]	普通	NB/灰白	白	-	外面 回転ナデ後施釉 内面 回転ナデ、施釉	体部 内面 銀春
386 第5面539	磁器	花生	瀬戸系	-	[14.0]	-	縦	7.5Y7/1灰白	透明	オリーブ色・灰白色	外面 回転ナデ、施釉 内面 回転ナデ、施釉	
387 第5面539	陶器	小鏡	肥前系	[6.0]	[3.9]	-	縦	5Y6/1灰白	透明	铁紅	外面 施釉、鐵 内面 施釉	
388 第5面539(上層)	陶器	碗	理山朱漆 (京焼系)	[9.2]	[4.3]	-	縦	5Y7/2灰白	透明	金色・赤茶色・黒色	外面 施釉、家紋「下 巻」、桜文 内面 施釉	上層付け
389 第5面539(下層)	陶器	碗	肥前系	9.8	5.7	4.6	縦	5Y6/1灰白	5Y7/2灰白	10Y5/2オリーブ灰	外面 施釉、回転ナデ 内面 施釉	裏面 刻印 金漆刷 見込み 仙土日ヲ

番号	出土場所	種別	器種名	地塊	法量(cm)		形状(口径 幅員 底径)	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (陶器・外面部色調)	色調3 (内面・上部)	測量	備考
					口径	幅員							
380	第5面S19(下層)	陶器	罐	把前系	[9.8]	6.3	5.1	普通	2.5Y6/2底黄	透明	灰オリーブ色	外面：施釉 内面：施釉	底面 刻字 貫入
381	第5面S19	陶器	罐	把前系	[10.6]	7.1	5.0	細	2.5Y8/1底白	2.5Y7/3底黄	-	外面：回転ナデ、施釉、 削り出し窓台 内面：回転ナデ、施釉	全面貫入
382	第5面S19(下層)	陶器	罐	-	[10.6]	7.5	5.0	普通	2.5Y6/2にぶい黄	2.5Y6/2底黄	-	外面：施釉	全面貫入
383	第5面S19	陶器	罐	涙戸系	11.5	7.0	5.5	細	10Y8/2底貴模	7.5Y6/6縁	-	外面：施釉 内面：回転ナデ、施釉	全面貫入
384	第5面S19	陶器	罐	把前系	[13.0]	6.2	4.1	細	5Y8/1底白	5Y8/2底白	-	外面：回転ナデ、施釉、 削り出し窓台 内面：回転ナデ、施釉	
385	第5面S19(下層)	陶器	罐	把前系	13.0	6.4	4.0	細	2.5Y6/2底黄	5Y8/2底白	-	外面：回転ナデ、施釉、 削り出し窓台 内面：回転ナデ、施釉	
386	第5面S19	陶器	罐	涙戸系	[13.4]	5.4	5.6	細	2.5Y7/2底黄	2.5Y7/3底黄	-	外面：回転ナデ、施釉、 削り出し窓台 内面：回転ナデ、施釉	臺面に刻字
387	第5面S19	陶器	罐	-	-	[3.8]	4.7	細	10Y8/7/3にぶい黄模	外面：長石胎 内面：粗陶胎	-	外面：施釉、回転ナデ 内面：使用時の痕跡多発有	
388	第5面S19	陶器	罐	把前系	-	[6.0]	5.9	普通	5Y8/1底	5Y8/2底オリーブ	-	外面：回転ナデ、施釉、 内面：回転ナデ、施釉	全面貫入 見込み一晩付 砂目付
389	第5面S19	陶器	罐	把前系	-	[4.4]	4.1	普通	10Y8/1底灰	温暖味	-	外面：施釉、回転ヘラケ 内面：施釉	
400	第5面S19	陶器	罐	-	-	[4.9]	4.4	普通	2.5Y8/6縁	2.5Y7/3底黄	-	外面：施釉、環様4本 内面：施釉	削り出し窓台
401	第5面S19(下層)	陶器	中瓶	把前系	[11.8]	7.4	5.4	普通	2.5Y7/1底白	透明	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、施釉	臺面に彎み 口縁一部下がる
402	第5面S19	陶器	蓋	涙戸系	[13.7]	[2.5]	-	普通	2.5Y8/1底白	外面：透明白 内面：粗陶胎	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、施釉	
403	第5面S19	陶器	耳皿	涙戸系	-	[1.8]	-	細	2.5Y7/3底黄	2.5Y6/3にぶい黄	5Y3/2オリーブ黒	外面：施釉 内面：施釉	
404	第5面S19	陶器	蓋	-	10.7	2.2	5.6	普通	5Y8/1底白	5Y5/3底オリーブ・ 6/2オリーブ黒	-	外面：施釉、胎土日 内面：施釉	
405	第5面S19	陶器	蓋	涙戸系	[13.6]	3.4	4.7	細	5Y7/1底白	5Y4/3縁オリーブ	-	外面：施釉、回転ナデ 内面：施釉、回転ナデ、 砂目剥き	内外面蓋台付砂目有
406	第5面S19	陶器	蓋	涙戸系	17.3	2.7	-	細	7.5Y8/1底白	蓋輪、縁灰胎	-	外面：施釉 内面：施釉	
407	第5面S19(下層) 西側正面(方)	陶器	蓋	-	[21.6]	4.0	8.9	細	10Y8/2底貴模	10Y8/3にぶい黄模	-	外面：回転ナデ、施釉、 内面：回転ナデ、施釉、 砂目、胎土	内面 振れ多数有
408	第5面S19(下層)	陶器	蓋	把前系	[23.2]	[3.1]	-	細	7.5Y7/1底白	5Y7/2底白	-	外面：施釉	全面貫入
409	第5面S19	土師質土器	灯明皿	僅前鏡	[8.6]	3.1	-	普通	10Y5/3赤端	外面：回転ナデ、回転ヘ ラカツリ 内面：回転ナデ	外面 煙付 内面 磁、黒斑有		
410	第5面S19(下層)	磁器	小盤	僅前	[4.8]	[5.2]	-	普通	10Y8/5/4にぶい黄模	7.5Y8/5/4にぶい模	7.5Y8/4/底灰	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
411	第5面S19	陶器	小盤	僅前系	[4.7]	[3.2]	-	普通	5Y8/6/1底灰	5Y7/6/1底白	7.5Y8/5/4にぶい模	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
412	第5面S19	陶器	蓋	-	[8.0]	[7.9]	-	細	5Y7/2底白	10Y8/2底貴模	-	外面：回転ナデ、施釉 内面：回転ナデ、施釉	
413	第5面S19	陶器	蓋	-	-	[7.5]	[8.5]	細	5Y6/1底	内面：7.5YD/3縁端 外面：7.5YB/1底灰	-	外面：回転ナデ、 内面：回転ナデ	内面：付着物有
414	第5面S19(上層)	陶器	大瓶	僅前鏡	3.1	[15.8]	-	普通	2.5Y8/6縁赤模	2.5Y9/2底赤模	-	外面：回転ナデ、ナデ、 内面：回転ナデ、自然釉	頭部外面：一部無 縫
415	第5面S19(上層)	陶器	大瓶	僅前鏡	-	[14.2]	-	普通	2.5Y8/6底赤模	内面：2.5Y8/6底赤模 外面：10Y8/4赤模	-	外面：回転ナデ後ナデ、 自然釉 内面：回転ナデ	
416	第5面S19(上層)	陶器	中瓶(碧 標剥離)	僅前系	-	[13.2]	8.5	普通	2.5Y8/6縁	2.5Y9/2底赤模	-	外面：回転ナデ、ナデ、 内面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：自然釉付 頭部：刻印
417	第5面S19(上層)	陶器	中瓶	-	-	[4.7]	[6.8]	粗良	10Y8/4にぶい赤模	2.5Y8/6/4にぶい模	-	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	頭部：分断形の刻 印
418	第5面S19	陶器	水屋甕	僅前鏡	-	[3.9]	-	普通	-	内面：7.5Y8/3にぶい 外面：7.3Y8/1底灰	-	外面：ヨコナデ、回転ナ デ 内面：ヨコナデ、回転ナ デ	
419	第5面S19	陶器	大甕	僅前系	-	[5.3]	-	細	2.5Y8/6にぶい模	-	-	外面：回転ナデ 内面：ナデ	
420	第5面S19	陶器	甕	僅前系	[26.4]	[10.2]	-	粗良	10Y8/4にぶい黄模	7.5Y8/3にぶい模	-	外面：施釉 内面：ナデ	
421	第5面S19	陶器	小甕	涙戸系	28.6	12.3	-	普通	2.5Y7/2底黄	2.5Y8/1底オリーブ 底	-	外面：施釉、回転ナデ 内面：施釉、回転ナデ	

相文 番号	出土遺構	種別	器種名	產地	法面(conv)		始土	色調1 (始土)	色調2 (輪裏・内外面色調)	色調3 (内側・上部)	測量	備考	
					口径	輪高・底径							
422	第5面539(上 部)	陶器	鉢	-	○35.1	10.1 (12.4)	普通	10R4/4赤褐色	SYR4/2灰褐色	白土による刷毛文	外面 茶褐色、回転ナデ、 内面 黒茶色、ハケ、輪筋、砂目		
423	第5面539(上 部)	陶器	盤鉢	-	-	[6.6]	-	普通	10YR6/6明黄褐色	2. SYR4/3にぶい赤褐色	-	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ後ナデ、 砂目	
424	第5面539(上 部)	陶器	盤鉢	備前焼	-	[5.6]	-	普通	10R6/4暗赤褐色	10R6/4赤	-	外面 回転ナデ、複数 内面 刷毛サエ 内面 回転ナデ、砂目	重ね焼き痕
425	第5面539	陶器	盤鉢	明石系	○22.0	9.0 (9.2)	普通	10R6/4灰	2. SYR4/3にぶい赤褐色	-	外面 回転ナデ、ヘラケ ズリ、自然目 内面 回転ナデ、砂目		
426	第5面539(上 部)	陶器	盤鉢	備前焼	○30.4	11.3 (14.6)	普通	2. SYR5/4にぶい赤褐色	2. SYR5/4にぶい赤褐色	-	外面 回転ナデ、ナデ 内面 回転ナデ、砂目		
427	第5面539(上 部)	陶器	盤鉢	備前焼	○29.0	12.3 (12.4)	やや 細	2. SYR5/4にぶい赤褐色	2. SYR5/4にぶい赤褐色	-	外面 回転ナデ、ヘラケ ズリ、自然目 内面 回転ナデ、砂目	重ね焼きによる白 茶褐色、輪筋 内面 回転ナデ、砂目	
428	第5面539(上 部・下部)	陶器	盤鉢	備前焼	○39.4	14.7 (15.8)	やや 細	2. SYR5/6明赤褐色	2. SYR5/6明赤褐色	-	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、砂目	更期、回転ヘラケ ズリ、使用時の痕 跡有	
429	第5面539	土師質土器	小皿	-	-	(7.2)	1.2 (4.6)	普通	2. SYR7/2灰青	-	外面 回転ナデ、ナデ 内面 回転ナデ、砂目	更期、回転ホキリ	
430	第5面539	土師質土器	小皿	-	-	8.6	1.5 (5.2)	普通	7. SYR7/4にぶい橙	-	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、砂目	更期、回転ホキリ	
431	第5面539	土師質土器	皿	-	-	(10.2)	1.6 (6.2)	普通	-	10YR7/2にぶい黄褐色	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	更期、回転ホキリ	
432	第5面539	土師質土器	皿	-	-	(10.0)	1.7 (6.6)	普通	-	内面 7. SYR7/3にぶ い橙 外面 7. SYR7/3にぶ い黄	外面 ナデ 内面 ナデ	更期、回転ホキリ	
433	第5面539	土師質土器	皿	-	-	(10.6)	1.8 (6.4)	普通	-	内面 SY5/1灰白色 外面 SY7/2灰白色	外面 回転ナデ後指ナデ 内面 回転ナデ後指ナデ	更期、回転ホキリ 後板目有	
434	第5面539	土師質土器	杯	-	-	-	[8.9] (9.6)	普通	-	内面 10YR2/1墨褐色 外面 10YR2/1にぶ い黄褐色	外面 ナデ 内面 ナデ、砂目	更期、回転ホキリ 板目有 内面 保付着	
435	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	(9.4)	1.9 (5.0)	普通	-	内面 7. SYR7/3にぶ い橙 外面 7. SYR6/3にぶ い黄	外面 回転ナデ後指ナデ 内面 回転ナデ後指ナデ	更期、回転ホキリ 後板ナデ	
436	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	8.6	1.5 (6.1)	普通	-	10YR6/3淡黃褐色	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	更期、回転ホキリ 内面 保付着	
437	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	(9.2)	1.6 (4.9)	普通	-	10YR6/3淡黃褐色	外面 回転ナデ後ナデ 内面 回転ナデ後ナデ	更期、回転ホキリ	
438	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	9.4	1.4 (5.7)	普通	-	10YR6/3淡黃褐色	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	更期、回転ホキリ 内面 保付着	
439	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	(11.2)	1.5 (4.7)	普通	-	2. SYR7/2灰白色	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ後指ナデ	更期、回転ホキリ 口縁部、保付着	
440	第5面539	土師質土器	灯明皿	-	-	(12.2)	2.0 (8.2)	普通	-	内面 10YR7/1灰白色 外面 10YR7/2にぶ い黄褐色	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ、回転ナ デ後指ナデ	更期、回転ホキリ 内面 保付着化 口縁部	
441	第5面539(下 部)	土師質土器	燈籠蓋 (蓋)	-	-	7.8	1.6	-	普通	7. SYR6/4にぶい橙	外面 ヨコナデ、ナデ 内面 ヨコナデ、板ナ デ、ハケ		
442	第5面539	土師質土器	火鉢	-	-	(37.8) [3.1]	-	やや 細	-	内面 7. SYR5/1褐灰 外面 7. SYR6/3にぶ い黄	内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ、板ナ デ、ハケ	内面 磁熱	
443	第5面539	土師質土器	足壺	-	-	[8.4]	-	粗	-	2. SYR7/2灰青	外面 ヨコナデ、ナデ 内面 ヨコナデ、板ナ デ		
444	第5面539(下 部)	土師質土器	燈籠	-	-	[7.23]	-	普通	-	内面 10YR4/1墨褐色 外面 2. SYR2/1墨褐色	外面 ヨコナデ、ハケ後 指ナデ 内面 ヨコナデ、ハケ	表面：磁化	
445	第5面539(下 部)	土師質土器	燈籠	-	-	[6.6]	-	普通	-	内面 2. SYR6/1灰青 外面 2. SYR2/1墨褐色	外面 ヨコナデ、板ナ デ 内面 ヨコナデ、板ナ デ	表面：磁化	
446	第5面539(下 部)	土師質土器	燈籠	-	-	[6.0]	-	普通	-	内面 細/灰 外面 細/灰	外面 刷毛サエ、ナデ 内面 ハケ、ナデ		
447	第5面539(上 部)	土師質土器	燈籠	-	-	(30.2) [5.3]	-	普通	-	内面 ND/褐灰 外面 ND/墨	外面 刷毛サエ、ナデ 内面 ハケ、ナデ		
448	第5面539(上 部・下部)	土師質土器	羽釜	-	-	17.6	14.1	-	普通	-	内面 7. SYR4/2灰褐色 外面 ND/墨	外面：磁化、磁化 物付着 内面：磁化物付着	

表文 番号	出土場所	種別	器種名	產地	法量(cm)			出土 状態	色調 (油土)	色調II (陶器・内外色色調)	色調III (真偽・上位)	測量	備考	
					口径	腹高	底径							
449	第5面S19(下層)	土師質土器	茶壺	-	-	[12.5]	-	普通	内面：10YR3/2黒褐 外面：N2/黒	外面：ハケ、指オサエ、ヨコナヂ、ナヂ 内面：ハケ、指オサエ	外面全体煤化 墨縁の一部残存			
450	第5面S19(下層)	土師質土器	茶壺	-	(17.2)	[14.5]	-	普通	内面：5YR5/4にぶい 多場 外面：5YR3/1墨褐	外面：ハケ、ナヂ、ヨコナヂ、ナヂ 内面：ハケ、指オサエ				
451	第5面S19(上層)	土師質土器	壺鉢	-	(21.4)	[7.5]	-	普通	7.SYR8/6浅黄褐	外面：回転ナヂ、ヘラケ 内面：ツマリ				
452	第5面S19	陶生土器	小型丸 壺鉢	-	-	[2.3]	-	普通	内面：5Y3/1オリーブ褐 外面：5Y7/1灰白	外面：ナヂ 内面：ナヂ、ナヂ、ヘラナヂ	外面：墨縁有			
453	第5面S19	陶生土器	壺	-	-	[4.2]	-	普通	10YR6/3にぶい黄褐	外面：ナヂ 内面：指オサエ、ナヂ	全面墨縁			
454	第5面S19	陶生土器	高杯	-	-	[3.5]	-	普通	7.SYR8/4にぶい褐	外面：ナヂ 内面：ナヂ	内面光面			
455	第5面S19	陶器	壺	-	-	[7.8]	-	普通	N7/灰白	外面：平行タキ後力 メ 内面：青面波状タキ				
459	第5面S19(下層)	追加品	馬	-	長さ [5.6]	幅 幅2.0	-	-	-	-	-	全面キラ粉付裏		
560	第5面S19(上層)	追加品	船	-	長さ [7.7]	幅 幅2.8	-	-	-	-	-	全面キラ粉付裏		
561	第5面S19	土師質土器	土鉢	-	長さ 3.9	幅 2.8	厚さ 0.2	絹良	SYR8/3波裏	外面：指による跡み、指 オサエ 内面：ナヂ、絞り目	重量 25.0g 側面をなめらかに する			
562	第5面S19	陶器	土鉢円 盤	-	-	径 5.0	厚さ 0.8	-	-	-	-			
710	第5面S19(石面 裏方)	陶器	皿	唐戸系	(10.2)	2.2	[5.6]	普通	10YR8/2浅黄褐	7.SYR8/4暗褐色	-	外面：回転ナヂ、斑駄 内面：回転ナヂ、斑駄		
711	第5面S19(西側 石面裏方)	陶器	皿	肥前系	(25.2)	[2.9]	-	普通	10YR7/2にぶい黄褐	SYR8/3オリーブ裏	-	外面：回転ナヂ、斑駄 内面：回転ナヂ、斑駄		
712	第5面S19(北側 石面裏方)	陶器	火入	肥前	(9.2)	[6.3]	-	普通	7.SYR6/1褐色	2.SYR8/4にぶい赤褐	-	外面：回転ナヂ、自然釉 内面：回転ナヂ、自然釉		
713	第5面S19(西側 石面裏方)	土師質土器	小皿	-	(8.4)	1.8	4.9	普通	7.SYR8/2灰白	外面：ナヂ 内面：ナヂ、指ナヂ				
714	第5面S19(東側 石面裏方)	土師質土器	灯明皿	-	(31.0)	2.2	[6.8]	普通	2.SYR8/2	外面：回転ナヂ 内面：回転ナヂ、指ナヂ	復付裏			
715	第5面S19(西側 石面裏方)	土師質土器	壺鉢	-	-	[4.6]	-	普通	10YR7/3にぶい黄褐	外面：ヨコナヂ、指オサ エ、無いナヂ 内面：ヨコナヂ、ハケ、 絞り目				
716	第5面S19(西側 石面裏方)	土師器	甕	-	(14.6)	[4.8]	-	普通	内面：7.SYR8/4にぶ い黄褐 外面：10YR6/3浅黃 褐	外面：ヨコナヂ、ナヂ 内面：ハケ、板ナヂ				
717	第5面S19	陶器	捏ね鉢	肥前系	(37.0)	[4.0]	-	普通	2.SYR8/6にぶい赤褐	2.SYR8/4にぶい赤褐	-	外面：回転ナヂ 内面：回転ナヂ		
718	第5面S19	土師質土器	鉢	-	-	[6.1]	-	相	内面：7.SYR8/4にぶ い黄褐 外面：7.SYR8/1墨	外面：ヨコナヂ、ハケ 内面：ヨコナヂ、ハケ後 ナヂ、ハケ				
721	第5面S03	土師質土器	杯	-	(10.1)	[2.3]	[5.6]	普通	SYR8/6	外面：回転ナヂ後ナヂ 内面：回転ナヂ後ナヂ	底部：静止ホキリ			
722	第5面S03	土師質土器	杯	-	8.4	4.3	4.5	普通	7.SYR8/4浅黄褐	外面：回転ナヂ、ナヂ 内面：回転ナヂ	底部：静止ホキリ			
723	第5面S03	土師質土器	鉢	-	(19.8)	[7.8]	-	普通	SYR8/6	外面：回転ナヂ、ナヂ、 棒状タキ 内面：回転ナヂ、ヘラナ ヂ	口縁部：保付裏			
724	第5面S15	磁器	皿	肥前系	-	[2.4]	[9.2]	普通	白	透明	淡青色、緑色	外面：施釉、團紋、年号 内面：施釉、團紋、草花文、 五弁花文	内面：年号・ピン 痕	
725	第5面S06	陶器	碗	肥前系	-	[2.9]	4.7	細	2.SYR8/2灰白	2.SYR8/3波裏	-	外面：施釉 内面：施釉	全面實人 見込み・ピン痕 2ヶ	
726	第5面S16	陶器	壺鉢	肥前燒	-	[6.4]	-	普通	2.SYR8/6明赤褐	10YR7/1灰白	-	外面：回転ナヂ、自然釉 内面：回転ナヂ	裏ね模様底	
727	第5面S44	土師質土器	小皿	-	(5.8)	1.0	[4.4]	普通	内面：7.SYR7/3にぶ い褐 外面：7.SYR8/2浅黃 褐	外面：ナヂ 内面：ナヂ	底部：切り離し後 ナヂ			
728	第5面S44	土師質土器	足壺	-	-	[13.3]	-	普通	10YR5/2灰黃褐	内面：ナヂ、指オサエ 内面：-	部分的に煤化 捲合裏 ハケ			
729	第5面S49	土師質土器	壺鉢	-	-	[4.4]	-	普通	内面：7.SYR7/3にぶ い褐 外面：7.SYR8/4浅黃 褐	内面：摩崖 内面：横方向ハケ。節目				
730	第5面S50	陶器	捏ね鉢	肥前燒	(25.4)	4.9	[17.4]	細	7.SYR8/2明赤褐	SYR8/3にぶい赤褐	-	外面：回転ナヂ、ナヂ、 自然釉 内面：回転ナヂ	外面：ゴマ付裏	

番号 番号	出土場所	種別	器種名	產地	法面(conv)			地土	色調1 (粘土)	(輪郭・内外面色調)	色調3 (内須・上絞)	説明	備考	
					口径	輪高	底径							
733 第5面563	陶器	土瓶蓋	屋島燒	8.2	2.2	3.4	普通	SYR8/6縁	2.SYR8/8赤縁	-	外須 赤縁、黒縁、ナデ 内須 黒縁、ナデ	底部：回転ホキリ		
734 第5面563	陶器	壺鉢	備前焼	-	[7.1]	-	普通	N7/灰白	SYR4/4にぶい赤縁	-	外須 回転ナデ、細いナ 内須 回転ナデ、跡目	重ね焼き痕		
736 第4面垂り下げ(第5面直上)	磁器	酒杯	肥前系	[6.4]	2.8	2.7	普通	白	透明	淡青色・オリーブ色	外須 黒縁 内須 黒縁	蓋付 砂目		
737 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	三	瀬戸系	[11.5]	2.4	[6.0]	普通	SY7/2灰白	7.SY7/3淡黄	-	外須 黒縁 内須 黒縁、隙刻縫			
738 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	三	瀬戸系	[10.0]	1.9	5.6	縦	2.SY8/2灰白	SY7/4淡黄	-	外須 黒縁 内須 黒縁	蓋台内 沢土目		
739 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	望遠鏡	-	-	1.3	4.9	4.4	縦	SF07/1明青灰	7.SYD7/0暗緑	-	外須 黒縁 内須 黒縁	背面 隙刻文字 底部：回転ホキリ	
740 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	壺	-	-	7.4	2.6	3.7	縦	7.SY7/1灰白	内須 SYR4/4にぶい 外須 SYR2/2オーラ 黒縁	-	外須 黒縁 内須 回転ナデ	底部：回転ホキリ 澤土目	
741 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	馬糞燒	大谷燒	-	[5.2]	[4.6]	縦	2.SYR4/3にぶい赤縁	SYR7/0黒縁	-	外須 回転ナデ、棒造き 立縁、黒縁 内須 回転ナデ			
742 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	壺鉢	備前焼	-	[8.2]	[18.2]	普通	2.SYR5/6明赤縁	10R4/6赤	-	外須 回転ナデ後ナデ 内須 回転ナデ、跡目			
743 第4面垂り下げ(第5面直上)	陶器	壺鉢	備前系	[36.2]	11.7	[18.4]	普通	2.SYR5/6明赤縁	内須 2.SYR5/6明赤縁 SYR4/3にぶい赤縁 外須 2.SYR5/6明赤縁	-	外須 回転ナデ、回転ナ デ後ナデ 内須 回転ナデ、跡目	口縁部背面：重ね 焼き痕		
744 第4面垂り下げ	土師質土器	杯	-	-	7.8	2.3	3.5	普通	-	7.SYR8/3淡黄緑	外須 回転ナデ後ナデ 内須 回転ナデ後ナデ	底部：特止ホキリ		
745 第6面640	土師質土器	杯	-	-	[31.8]	[3.2]	[8.6]	普通	-	10R8/2灰黄緑	外須 回転ナデ 内須 回転ナデ	底部：回転ホキリ		
750 第6面625	土師質土器	三	-	-	[8.4]	1.2	[6.8]	普通	-	7.SYR7/4にぶい緑	外須 回転ナデ 内須 回転ナデ			
751 第6面625	土師質土器	壺鉢	-	-	[4.0]	[12.0]	縦	-	-	内須 10YR6/3にぶ い緑 外須 10YR2/1墨	外須 四才エ、ナデ 内須 ナデ、跡目	背面：煤・炭化物 付着		
752 第6面625	土師質土器	鍋	-	-	[23.2]	[7.1]	-	縦	-	7.SYR6/2灰緑	外須 ヨコナデ、ナデ 内須 ヨコナデ、ナデ			
753 第6面625	土師質土器	碗	-	-	[12.0]	[3.1]	-	普通	N8/灰白	透明	淡青色	外須 黒縁、桃子文 内須 黒縁、團縫		
754 第6面677	土師質土器	杯	-	-	-	[1.2]	4.6	普通	-	7.SYR8/3淡黄緑	外須 ナデ 内須 ナデ			
755 第6面710	磁器	小杯	-	-	[6.0]	[3.3]	-	縦	7.SYB7/1灰白	透明	-	外須 黒縁 内須 黒縁		
756 第6面715	磁器	三	輸入	-	[1.1]	[6.4]	縦	白	透明	明青色	外須 黒縁、團縫、草花 内須 黒縁、青海波文	底部切り離し後に 磨拭痕 外須：火燐	「口福攸 因」	
757 第6面727	漆唐津土器	杯	-	-	-	[1.5]	[6.2]	普通	-	内須 SYB8/1灰白 外須 7.YB8/1灰白	外須 回転ナデ 内須 回転ナデ			
759 第6面687	陶器	碗	-	-	[10.0]	[5.1]	-	普通	10YR8/3淡黄緑	褐色色・黒褐色	-	外須 黒縁、回転ナデ 内須 黒縁		
760 第6面702	土師質土器	鍋	-	-	-	[1.3]	-	普通	-	内須 2.SY7/2灰黃 外須 2.YT2/2黒褐	外須 次緑、黒滅 内須 黒滅			
761 第6面直上	土師質土器	杯	-	-	-	[1.3]	[5.2]	普通	-	2.SYB7/3淡黄緑	外須 黒滅 内須 黒滅			
762 第6面直上	土師器	杯	-	-	-	[1.8]	[5.7]	普通	-	2.SYB7/3淡黄緑	外須 ナデ、回転ナデ 内須 ナデ			
763 第6面直上	陶器	壺鉢	備前焼	-	[7.5]	-	普通	-	内須 10R4/2灰赤 外須 -	-	外須 回転ナデ、ナデ 内須 回転ナデ、跡目			
764 第6面直上	土師質土器	壺	-	-	[13.2]	[9.8]	-	普通	-	内須 7.5YR7/3にぶ い緑 外須 7.SYR4/4緑	外須 ヨコナデ、ハケ。 平行タラキ 内須 ナデ、ハケ			
765 漆塗り	土師質土器	三	-	-	[7.0]	1.1	[4.8]	普通	-	7.SYR7/4にぶい緑	外須 回転ナデ 内須 回転ナデ	底部：回転ホキリ 後板目底		
766 漆塗り	土師器	杯	-	-	[12.2]	2.3	6.6	普通	-	7.SYR7/0緑	外須 回転ナデ、指ナデ 内須 回転ナデ、指ナデ	底部：特止ヘラキ リ		
767 漆塗り	漆生土器	漆杯	-	-	-	[6.7]	-	普通	-	内須 7.SYR7/3にぶ い緑 外須 7.SYR7/4にぶ い緑	外須 ナデ 内須 ナデ、ヘラケズリ			

第7表 瓦観察表

番号	出土遺物名	種別	法量(cm)				構成	胎土	色調(表面)	色調(断面)	調整	備考	
			長さ	幅	厚さ	内区段							
70	第1面108(南側下層)	軒丸瓦	[8.7]	12.6	1.5	7.8	1.4	良	密	凸面:5Y5/1灰 凹面:N5/灰	2.5Y6/2灰黒	凸面:ヘラナデ、ナデ 凹面:ナデ、ゴザ目、コピキ8	
71	第1面108(北側上層)	軒丸瓦	[2.3]	12.5	-	8.4	1.5	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	N5/灰	凸面:ナデ、キラ粉 凹面:ナデ	
72	第1面108(北側下層)	軒丸瓦	[7.4]	12.8	1.5	8.9	1.9	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	SYB/1灰白	凸面:ナデ、板ナデ 凹面:ナデ、箱オサエ後ナデ、 板ナデ	瓦曲面:キラ粉 付着
73	第1面108(北側下層)	軒丸瓦	-	12.8	-	9.1	1.6	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	7.SYB/1灰白	凸面:- 凹面:-	
74	第1面108	軒丸瓦	24.0	12.5	1.7	9.1	[1.2]	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N5/灰	N5/灰白	凸面:ナデ、ケズリ 凹面:ゴザ目、ナデ、箱オサエ	
75	第1面108(北側下層)	軒平瓦	[7.2]	[16.2]	[1.7]	[4.2]	[2.2]	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	2.5Y7/1灰白	凸面:ヘラナデ 凹面:ヘラナデ、ナデ	瓦曲面:キラ粉 付着
76	第1面108(北側下層)	軒平瓦	[3.2]	[12.6]	[1.0]	[3.9]	[2.3]	良	密	凸面:2.5Y7/1灰白 凹面:N4/灰	10Y6/1灰白	凸面:様方尚のナデ 凹面:様方尚のナデ	瓦曲面:ナ/灰 底、キラ粉付着
77	第1面108(北側下層)	軒平瓦	[9.9]	[10.3]	1.4	3.4	1.0	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	SYT/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	瓦曲面:キラ粉 付着
78	第1面108	軒平瓦	[5.6]	[11.5]	1.4	[4.0]	1.5	良	密	凸面:N4/灰 凹面:2.5Y7/2灰白	N5/灰	凸面:ナデ、ヘラナデ 凹面:ナデ	
79	第1面108(北側下層)	軒丸瓦	[7.8]	[8.2]	1.6	[5.5]	1.4	良	密	凸面:10Y6/1極灰 凹面:2.5Y7/1灰白	10Y6/1極灰 10Y7/2/ふい黄緑	凸面:板ナデ、指オサエ 凹面:ナデ	接着痕
80	第1面108(北側下層)	軒丸瓦	12.05	8.5	1.5	-	0.8	良	密	凸面:N4/灰・2.5Y7/1 灰白 凹面:N4/灰・2.5Y7/1 灰白	SYT/1灰白	凸面:板ナデ、指オサエ、紫花 文 凹面:ナデ、剥印?	凹面:剥印
81	第1面108	軒丸瓦	13.5	8.4	1.5	8.8	1.1	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	SYT/1灰白	凸面:板ナデ 凹面:ナデ	
82	第1面108(北側下層)	丸瓦	25.0	[13.7]	1.6	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N5/灰白	凸面:ナデ、板ナデ、指オサエ 凹面:ナデ?、布目、コピキ8	
83	第1面108(北側下層)	丸瓦	21.8	12.5	1.5	-	-	良	密	凸面:N4/灰・N6/灰 凹面:N4/灰・N6/灰	N6/灰白	凸面:ナデ、ヘラナデ 凹面:布目、コピキ8	
84	第1面108(北側下層)	丸瓦	[22.3]	13.5	1.4	-	-	良	密	凸面:N2/黒 凹面:N2/黒	N7/灰白	凸面:ナデ、板ナデ 凹面:布目、面取り	
85	第1面108	鬼瓦	[3.9]	[8.8]	[4.2]	-	-	良	密	表面:N4/灰 裏面:2.5Y7/2灰黒	N5/灰	裏面:獣字 裏面:ナデ、コピキ8	
99	第1面113	鬼瓦	[14.0]	[11.7]	4.9	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	7.SY7/1灰白	凸面:ナデ、指オサエ、指ナデ 凹面:ヘラナデ	
113	第1面石25 西面被覆土	鬼瓦	[7.7]	[6.8]	[4.8]	-	-	良	粗	凸面:N5/灰 凹面:N6/灰	7.SYB/1灰白	凸面:ナデ 凹面:指オサエ、未調節	
115	区第2面202	丸瓦	25.2	13.8	2.0	-	-	良	密	凸面:SY7/1灰白 凹面:SY7/1灰白	SY7/1灰白	凸面:ナデ、ヘラナデ 凹面:布目、コピキ8	
121	区第2面205	軒丸瓦	16.8	13.6	1.7	9.5	1.8	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	SY7/1灰白	凸面:ヘラナデ 凹面:布目、コピキ8、ナデ	
122	区第2面205	丸瓦	24.5	12.3	1.7	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	2.5Y7/2灰黒	凸面:板ナデ、ナデ 凹面:布目、コピキ8	
123	第2面205	丸瓦	27.0	13.3	1.7	-	-	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	2.5Y7/2灰黒	凸面:板ナデ、ナデ 凹面:布目、コピキ8、タタキ	
139	第2面228	平瓦	21.5	20.6	1.5	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N4/灰	凸面:ナデ 凹面:ナデ、ケズリ	
145	第2面236	軒平瓦	[12.2]	[15.9]	1.6	4.1	1.7	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	SYB/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	
146	第2面236	軒平瓦	[6.2]	[15.8]	1.3	3.6	1.2	良	密	凸面:SYB/1灰 凹面:SYB/1灰	SY7/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	瓦曲面:キラ粉 付着
147	第2面236	丸瓦	21.5	12.4	1.7	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N5/暗灰	N7/灰白	凸面:板ナデ、ナデ 凹面:布目、コピキ8	
148	第2面236	丸瓦	21.0	12.1	1.6	-	-	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	N5/灰	凸面:ナデ、ヘラナデ 凹面:ゴザ目、コピキ8、 タタキ	
149	第2面236	丸瓦	[16.3]	13.0	1.7	-	-	良	粗	凸面:N3/暗灰 凹面:N5/灰	7.SYB/1灰白	凸面:ナデ 凹面:布目、粘土板合わせ 目、粘土相接合スリ	
150	第2面236	平瓦	[14.4]	21.2	1.5	-	-	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	7.SY7/1灰白	凸面:様方尚のナデ 凹面:様方尚の板ナデ、ナデ	
151	第2面236	平瓦	[20.4]	[18.7]	2.5	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N5/灰	2.5Y7/1灰白	凸面:ナデ 凹面:板ナデ	
171	第2面242	軒丸瓦	[8.7]	12.6	1.6	9.1	2.0	良	密	凸面:N6/灰 凹面:N6/灰	N7/灰白	凸面:ナデ 凹面:指オサエ、ナデ、ゴザ目	
172	第2面242	軒平瓦	[4.3]	[12.8]	1.5	3.6	1.3	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N5/灰	SY7/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ、接着痕	
176	第2面244	軒丸瓦	[3.0]	12.8	-	8.8	2.0	良	密	凸面:SYA/1灰 凹面:SYA/1灰	N6/灰	凸面:- 凹面:瓦当裏面:ナデ、指オサエ	
177	第2面244	軒丸瓦	-	[10.3]	-	[7.9]	2.2	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	2.5Y7/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ、指オサエ	

編文 番号	出土遺構名	種別	法量(cm)				備成	釉土	色調(裏面)	色調(前面)	調整	備考	
			長さ	幅	厚さ	内区格							
183	第2面245	丸瓦	[15.4]	13.2	1.5	-	-	良	密	凸面: N3/暗灰 凹面: N4/灰	N7/灰白	凸面: 板ナデ。ナデ 凹面: コビキモ、布目、ナデ	
184	第2面245	菊丸瓦	[5.4]	[7.4]	1.2	[4.6]	-	良	粗	凸面: 10YR7/3にぶい黄 凹面: N4/灰	2.5Y6/1灰白	凸面: 横方向のナデ、ナデ 凹面: 横方向のナデ、ナデ	
185	第2面245	菊丸瓦	-	[4.7]	-	[3.3]	1.6	良	密	凸面: NB/灰白 凹面: N4/灰	N7/灰白	凸面: キラ粉 凹面: ナデ、横方向のナデ	
186	第2面245	菊丸瓦	-	[8.2]	-	-	0.7	良	密	凸面: NB/灰 凹面: N6/灰	2.5Y6/1灰白	凸面: 布目 凹面: 指オサエ後ナデ。ナデ	
215	第2面247	軒丸瓦	[8.2]	13.6	1.3	8.5	1.3	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N6/灰	N6/灰 2.5GY1/8灰白	凸面: 篦ナデ。三つ穴(左巻、達門12巻) 凹面: ナデ。ゴザ目	
216	第2面247	軒丸瓦	[7.8]	12.4	1.5	7.9	1.7	良	密	凸面: 5Y5/1灰 凹面: SY6/1灰	2.5Y7/3淡黄	凸面: ナデ、ヘラナデ ナデ、指オサエ後ナデ。 布目、ゴザ目。タクナ	瓦当面: キラ粉 付裏
217	第2面247	土押瓦	[3.7]	-	[1.8]	[5.8]	[1.5]	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N4/灰	SY7/1灰白	凸面: ナデ 凹面: ヘラナデ	瓦当面: キラ粉 付裏
218	第2面247	平瓦	[12.5]	21.2	1.5	-	-	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	N8/灰白 N6/灰	凸面: ナデ、弓状压痕 凹面: ナデ	
219	第2面247	棘瓦	[15.3]	5.8	1.1	-	-	良	やや粗	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	SY7/1灰白	凸面: ナデ、篠ナデ 凹面: 未調査	
234	第2面248	軒丸瓦	-	13.4	-	8.4	1.5	良	密	凸面: 2.5Y6/2灰黄 凹面: 2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	凸面: ナデ 凹面: ナデ、指オサエ後ナデ	接合底有
275	第3面302	軒丸瓦	[6.4]	12.7	1.3	9.0	1.6	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N6/灰	SY7/1灰白	凸面: ナデ、ヘラナデ 凹面: 布目、ナデ、指オサエ後 ナデ	
276	第3面302	軒丸瓦	[8.0]	12.8	1.5	9.2	1.8	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N4/灰	2.5Y7/1灰白	凸面: ナデ、ヘラナデ 凹面: 布目、コビキモ、ナデ、 指オサエ	
277	第3面302	軒丸瓦	[10.4]	12.8	[1.7]	8.5	[1.7]	良	密	凸面: 2.5Y7/2灰黄 凹面: 2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	凸面: ヘラナデ 凹面: 指オサエ、ナデ、布目後 ナデ	虹穴1孔
278	第3面302	丸瓦	[19.6]	12.3	2.2	-	-	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N3/暗灰	2.5Y6/1灰白	凸面: ナデ、ヘラナデ 凹面: 布目、ナデ、コビキモ	
279	第3面302	丸瓦	21.0	11.9	1.7	-	-	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	N8/灰白	凸面: ナデ、ゴザ目、コビキモ	
303	第3面402	軒丸瓦	[7.5]	[13.4]	1.7	3.3	1.9	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	N8/灰白 N5/灰	凸面: ナデ 凹面: ナデ	
324	第4面453	丸瓦	23.4	12.0	1.7	-	-	良	密	凸面: 10YR7/2灰黄 凹面: 10YR7/2灰黄	10YR6/2灰黄補	凸面: ヘラナデ 凹面: ゴザ目、コビキモ、ナデ	
342	第4面463	特殊瓦	[13.2]	[26.1]	2.5	-	-	良	密	凸面: N2/暗灰 凹面: N2/暗灰	N8/灰白	凸面: ミガキ。ナデ 凹面: ナデ	鉄製品(訂)付裏
456	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	[16.0]	13.3	1.7	13.3	1.5	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	7.5Y1/1灰白	凸面: ナデ、指オサエ 凹面: ナデ、布目、コビキモ	軒丸瓦II種2 調整2
457	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[10.1]	13.2	1.7	13.2	1.7	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N4/灰	N7/灰白	凸面: ヘラナデ 凹面: 指オサエ後ナデ、 布目、コビキモ	
458	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	[8.4]	[12.2]	1.4	8.3	1.3	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N5/灰白	-	凸面: ヘラナデ 凹面: 布目、ナデ	
459	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	-	13.6	-	8.5	1.6	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	N8/灰白	凸面: - 凹面: 指オサエ後ナデ、ナデ	
460	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[5.0]	[12.7]	1.8	-	-	良	密	凸面: N4/灰 凹面: 7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	凸面: ヘラナデ 凹面: 指オサエ後ナデ、ナデ	軒丸瓦III種
461	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[9.2]	15.0	1.7	10.5	1.9	良	やや粗	凸面: N4/灰 凹面: N5/灰	7.5Y7/1灰白	凸面: ナデ、コビキモ 凹面: ナデ	軒丸瓦IV種34
462	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	[10.5]	12.1	2.0	8.7	1.9	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N4/灰	N8/灰白	凸面: ヘラナデ 凹面: ナデ、指オサエ、布目、 コビキモ	軒丸瓦IV種40
463	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[4.8]	13.6	-	14.0	1.6	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N4/灰	7.5Y7/1灰白	凸面: ナデ 凹面: ナデ	軒丸瓦IV種40
464	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	22.9	12.8	1.8	8.7	[1.4]	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N5/灰	N7/灰白	凸面: ナデ、ヘラナデ 凹面: 布目、コビキモ	
465	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[17.7]	14.1	2.2	8.5	-	良	密	凸面: N4/灰 凹面: N5/灰	N8/灰白	凸面: ヘラナデ、面取り 凹面: 布目、ナデ	軒丸瓦IV種47
466	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[21.0]	13.3	2.0	[6.7]	-	良	密	凸面: N5/灰 凹面: N5/灰	N8/灰	凸面: ヘラナデ、面取り 凹面: 布目、コビキモ	
467	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[6.2]	12.6	1.6	9.2	-	良	密	凸面: N2/暗灰 凹面: N3/暗灰	N8/灰白 N5/灰	凸面: ヘラナデ 凹面: ナデ、指オサエ、布目、 コビキモ	軒丸瓦IV種76
468	第5面539(下 屋)	軒丸瓦	[13.1]	13.8	1.5	8.6	1.9	良	密	凸面: 5Y7/1灰白 凹面: 5Y5/1灰白	10YR7/2にぶい黄	凸面: ヘラナデ 凹面: ナデ、指オサエ後ナデ、 布目、コビキモ	軒丸瓦IV種71~ 85
469	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	[3.8]	13.2	1.6	8.8	1.3	良	密	凸面: 2.5Y7/2灰黄 凹面: 2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	凸面: ナデ 凹面: ナデ	軒丸瓦IV種80 C2
470	第5面539(上 屋)	軒丸瓦	[12.7]	13.9	1.7	8.8	2.2	良	密	凸面: 7.5Y5/1灰 凹面: 7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	凸面: ヘラナデ、ナデ 凹面: ナデ、指オサエ、布目、 コビキモ	軒丸瓦IV種88~ 97 C3

備考番号	出土遺物名	種別	法量(cm)				構成	胎土	色調(表面)	色調(断面)	調査	備考	
			長さ	幅	厚さ	内区段							
471	第5面539(上層)	軒丸瓦	[8.0]	12.7	1.8	8.3	1.8	良	密	凸面:7.5Y5/1灰 凹面:10Y6/1灰	10Y6/1灰白	凸面:ナデ、ヘラナデ 凹面:ナデ、指サエ後にナ デ、白目、コビキB	軒丸瓦IV層138 C3 文字・巴文の表 面に布目残存
472	第5面539(下層)	軒丸瓦	[7.5]	15.1	2.1	10.8	1.2	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	N7/灰白	凸面:横方向のナデ 凹面:ナデ、ゴザ目	
473	第5面539(上層)	軒丸瓦	[23.3]	[13.5]	1.7	[1.9]	1.0	良	密	凸面:7.5Y6/1灰 凹面:7.5Y5/1灰	2.5Y7/2灰黄	凸面:ヘラナデ 凹面:ナデ、白目、コビキB	刻印
474	第5面539	軒平瓦	[6.6]	[9.3]	1.6	3.4	3.0	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N7/灰白	N6/灰白	凸面:ナデ、横方向のナ デ 凹面:ナデ(一部摩滅)、面取 り、斜タタキ	軒平瓦V層9
475	第5面539(上層)	軒平瓦	24.2	[13.4]	1.9	2.8	1.8	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	N6/灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	軒平瓦V層9
476	第5面539(上層)	軒平瓦	[16.2]	22.6	1.6	(4.0)	[1.8]	やや良	やや粗	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	N7/灰白	凸面:ヘラナデ、無いナ デ 凹面:無いナデ	軒平瓦V層16
477	第5面539(上層)	軒平瓦	[12.2]	[10.4]	2.0	3.5	1.3	良	密	凸面:2.5Y7/2灰黃 凹面:N5/灰	7.5Y8/1灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ、無いナデ	軒平瓦V層19に 類似
478	第5面539(下層)	軒平瓦	[10.3]	[14.9]	1.8	3.0	2.8	良	密	凸面:N4/灰~7.5Y7/1 灰白 凹面:N7/暗灰~N4/灰	N6/灰白	凸面:ナデ、無いナ デ 凹面:ヘラナデ、白マガキ	軒平瓦VI層23
479	第5面539(下層)	軒平瓦	[25.7]	[16.3]	1.8	(3.2)	(2.0)	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N3/暗灰	N7/灰白	凸面:ナデ、無いナ デ 凹面:ナデ	軒平瓦VI層23
480	第5面539(下層)	軒平瓦	[2.0]	[14.7]	(1.3)	3.5	1.5	良	密	凸面:N5/1灰 凹面:N6/灰	N6/灰	凸面:ケズリ。ナ デ 凹面:ナデ	軒平瓦X1層42
481	第5面539	軒平瓦	[19.0]	[13.0]	1.3	3.0	1.9	良	密	凸面:7.5Y7/1灰白 凹面:7.5Y7/1灰白 凹面:N6/灰~N4/黑	N7/灰白	凸面:ナデ 凹面:横方向のナデ、ナ デ	軒平瓦XⅢ層48 類似
482	第5面539(下層)	軒平瓦	[5.8]	[13.3]	1.6	3.5	2.7	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N6/灰白	N6/灰白	凸面:横方向のナ デ 凹面:ナデ(一部摩滅)	軒平瓦XX層89
483	第5面539(下層)	軒平瓦	(8.8)	(13.0)	1.5	(3.3)	1.4	良	密	凸面:N8/灰白 凹面:N7/黑	N5/灰	凸面:ナデ、無いナ デ 凹面:ナデ	軒平瓦XX層102
484	第5面539	軒平瓦	[10.3]	[15.8]	1.5	3.6	1.4	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	7.5Y7/1明褐色	凸面:ナデ 凹面:ナデ、板ナデ	軒平瓦X1層66
485	第5面539(上層)	軒平瓦	[13.4]	19.0	2.1	3.5	2.0	良	やや良	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N7/灰白	凸面:ナデ、無いナ デ 凹面:ヘラナデ	
486	第5面539(下層)	滴水瓦	[2.5]	[13.6]	1.9	9.4	2.3	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	2.5Y7/2灰黃	凸面:ナデ 凹面:指サエ	接着痕有
487	第5面539(下層)	滴水瓦	-	-	-	[7.7]	1.6	良	密	凸面:N4/灰 凹面:7.5Y6/1灰白	N6/灰白	凸面:ナデ 凹面:板ナデ	
488	第5面539(下層)	丸瓦	[15.9]	13.1	1.8	-	-	良	密	凸面:N3/暗灰 凹面:N5/灰	N7/灰白	凸面:横・縱方向のナ デ 凹面:ゴザ目、ナデ	行基式 釘六1ヶ 1/2程度 残存
489	第5面539(上層)	丸瓦	27.0	12.6	1.6	-	-	良	密	凸面:N6/暗灰 凹面:N4/灰	N7/灰白	凸面:横・縱方向のナ デ 凹面:ナデ、コビキB	
490	第5面539(上層)	丸瓦	23.4	12.5	1.9	-	-	良	密	凸面:N6/暗灰 凹面:N4/灰	10Y6/1横皮	凸面:ナデ、ナデ 凹面:ヘラナデ、板ナデ	
491	第5面539(下層)	平瓦	[18.5]	[17.6]	2.1	-	-	良	難	凸面:10Y6/1横皮 凹面:10Y6/2灰黃	10Y6/1横皮	凸面:ナデ、ナデ 凹面:ナデ	
492	第5面539(下層)	平瓦	26.0	[13.5]	1.5	-	-	良	密	凸面:N5/灰 凹面:N4/灰	N7/灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	
493	第5面539(上層)	平瓦	[11.4]	23.6	1.8	-	-	良	密	凸面:N6/灰~7.5Y7/1 灰白 凹面:N6/灰~N4/灰	2.5Y8/1灰白	凸面:ナデ、ナデ 凹面:ヘラナデ、ヘラケズリ、 ナナデ	
494	第5面539(下層)	特殊瓦	[19.0]	[20.7]	2.4	-	7.4	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N6/灰	凸面:ナデ、横方向のナ デ 凹面:ナデ、横方向のナ デ	釘穴1ヶ残存 接着痕明瞭
495	第5面539(下層)	特殊瓦	[16.9]	[14.5]	3.0	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N6/灰	凸面:ナデ 凹面:無いナデ	
496	第5面539(下層)	特殊瓦	[25.2]	[19.5]	2.8	-	-	良	密	凸面:N3/暗灰 凹面:7.5Y7/1灰白	N7/灰白	凸面:ケズリとナデ、縱方向の ナデ、ナデ、面取り 凹面:ケズリとナデ、ナデ	接着痕有
497	第5面539(下層)	鬼瓦	[11.3]	[9.9]	6.8	-	-	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N5/灰	7.5Y7/1灰白	凸面:ナデ、ケズリ 凹面:ケズリ	
498	第5面539(上層)	飾り瓦	[7.6]	4.4	-	-	-	良	密	外輪:N2/黒 内面:N2/黒	7.5Y7/1灰白	外輪:ヘラナデ、指ナデ、指オ サエ 内面:ナデ、ヘラナデ	
719	第5面501	軒丸瓦	[8.2]	[13.7]	1.3	[10.9]	1.5	良	やや粗	凸面:N4/灰 凹面:N3/灰	N7/灰白	凸面:ナデ 凹面:ナデ	
720	第5面501	軒平瓦	[7.4]	[13.0]	1.6	3.2	1.5	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	N6/灰白-N6/灰	凸面:ナデ 凹面:指オサエ、ナデ	
731	第5面550	軒平瓦	[6.3]	[8.0]	1.2	3.3	1.6	良	密	凸面:N2/黒 凹面:N2/黒	N6/灰白	凸面:ナデ、無いナ デ 凹面:無いナデ	
745	第4面割り下 H(第5面直 上)	軒丸瓦	[5.5]	11.8	1.9	7.7	1.9	良	密	凸面:N2/黒 凹面:N2/黒	9Y7/1灰白	凸面:ヘラナデ 凹面:ナデ	
749	第6面679	平瓦	[17.2]	[13.6]	1.7	-	-	良	やや粗	凸面:2.5Y6/2灰白 凹面:2.5Y6/2灰白	2.5Y8/2灰白	凸面:無いヘラナデ 凹面:板ナデ、ナデ	
750	第6面727	軒平瓦	[12.3]	[13.3]	1.4	3.6	1.7	良	密	凸面:N4/灰 凹面:N4/灰	7.5Y8/1灰白	凸面:ヘラナデ、無いナ デ 凹面:板ナデ	軒平瓦VI層26 接着縫による輪 郭を持つ三つ葉

第8表 木製品観察表

編 番 号	出土遺構名	名称	法量(cm)			備考
			長さ・口径	幅・底径	厚さ・板高	
S14	第5面S39(ベルト下層)	木槌	13.1	2.4	0.5	ヒノキ 板目
S15	第5面S39(西側下層)	木槌	16.1	1.7	0.6	アスナロ 板目
S16	第5面S39(東側下層)	木槌	[9.9]	[2.0]	0.2	スギ 組目
S17	第5面S39(西側下層)	木槌	[8.3]	2.2	[2.5]	西・裏面に墨書 組目
S18	第5面S39(東側下層)	木槌	11.4	7.0	0.8	スギ 板目
S19	第5面S39(西側下層)	加工板	[9.3]	[2.5]	0.7	アスナロ 板目 裏面に墨書
S20	第5面S39(下層)	漆板(蓋)	8.4	4.2	2.5	外面：黒漆塗、文様 内面：赤漆塗
S21	第5面S39(西側下層)	漆板(蓋)	8.2	-	[2.3]	外面：黒漆塗、円形文様3ヶ 内面：赤漆塗
S22	第5面S39(東側下層)	漆板	-	5.6	3.3	外面：黒漆塗、赤色の絞付け、羅刹文様 内面：黒漆塗
S23	第5面S39(西側)	漆板	-	-	[4.7]	外面：黒漆塗、羅刹文様 内面：赤漆塗
S24	第5面S39(下層)	漆板	-	-	[4.1]	外面：黒漆塗 内面：赤漆塗 土任の為変形
S25	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[3.7]	外面：黒漆塗 内面：赤漆塗
S26	第5面S39(東側下層)	漆板	-	-	[4.8]	外面：黒漆塗 内面：赤漆塗 土任の為変形
S27	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[5.8]	外面：黒漆塗 内面：赤漆塗 土任の為変形
S28	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[7.7]	外面：黒漆塗、鈴、樹木 内面：赤漆塗 土任の為変形
S29	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[7.6]	外面：黒漆塗、羅刹文様 内面：赤漆塗 土任の為変形
S30	第5面S39(下層)	漆板	-	-	[4.6]	内外面：赤漆塗 トサノキ
S31	第5面S39(西側)	漆板	-	-	[9.5]	外面：黒漆塗 内面：赤漆塗 底部：刻印か 土任の為変形
S32	第5面S39(蓋下層)	漆板	(10.2)	-	[4.1]	内外面：赤漆塗
S33	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[4.8]	内外面：赤漆塗 土任の為変形著しい 高台内側に「井」形の削痕有
S34	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[5.0]	内外面：赤漆塗
S35	第5面S39(東側下層)	漆板	-	-	[4.2]	内外面：赤漆塗 土任の為変形
S36	第5面S39(西側下層)	漆板	(13.2)	-	[9.4]	内外面：赤漆塗 外面上円形の剥離 片側からの土任による歪が著しい
S37	第5面S39(西側下層)	漆板	(13.6)	[8.8]	-	内外面：赤漆塗
S38	第5面S39(東側下層)	漆板	-	-	[9.7]	内外面：赤漆塗
S39	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[10.2]	内外面：赤漆塗 土任の為変形
S40	第5面S39(西側下層)	漆板(体部～邊部)	-	6.0	[7.0]	内外面：赤漆塗 横木取り 組目 外側：赤漆塗。鶴文様(3個1セット)
S41	第5面S39(下層)	漆板	-	6.0	7.1	外側：赤漆塗。鶴文様
S42	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[5.4]	外側：赤漆塗
S43	第5面S39(西側下層)	漆板	-	-	[7.0]	内外面：赤漆塗 土任の為変形
S44	第5面S39(西側下層)	杓子	[12.3]	2.7	0.5	組目
S45	第5面S39(ベルト下層)	杓子	[21.1]	[5.2]	0.5	板目
S46	第5面S39(東側下層)	食卓	[6.3]	0.8	[0.5]	黒漆塗 切込み有 組目 重箱か
S47	第5面S39	食卓	8.8	0.9	0.5	黒漆塗 組目 重箱か
S48	第5面S39(西側下層)	食卓	[8.8]	[1.1]	0.7	2面が黒漆塗 木釘の孔 3個 組目
S49	第5面S39(下層)	食卓	6.3	[6.5]	0.7	組目 四面：黒漆塗 重箱か
S50	第5面S39(東側下層)	食卓	16.5	2.4	0.4	桜の樹皮 組目 先端を薄くする
S51	第5面S39(西側下層)	曲物 底板	7.8	-	0.5	組目
S52	第5面S39(西側下層)	曲物 底板	7.1x7.5	-	0.9	組目
S53	第5面S39(西側下層)	曲物 底板	7.8	-	0.6	組目
S54	第5面S39(下層)	曲物 底板	7.5x8.0	-	0.3	組目
S55	第5面S39(西側下層)	曲物 底板	11.5x12.0	-	0.8	組目
S56	第5面S39(西側下層)	曲物 底板	12.5	-	1.2	組目 木釘 5本
S57	第5面S39(西側下層)	曲物	8.9x8.5	高さ[6.9]	厚さ1.0	アスナロ 組目 木釘 4本 桜の樹皮
S58	第5面S39(西側下層)	曲物(側板)	12.3	高さ[3.9]	-	アスナロ 組目 内側に縫割7本
S59	第5面S39(西側下層)	曲物(側板)	11.6	高さ[6.5]	厚さ1.1	アスナロ 木釘 5本 桜の皮
S60	第5面S39(ベルト下層)	曲物 底板	16.2	-	1.0	組目
S61	第5面S39(東側下層)	曲物 底板	15.9x16.4	-	0.7	組目 木釘 3本 木釘孔 1孔

編文 番号	出土遺構名	名稱	法量(cm)			備考
			長さ/口径	幅/底径	厚さ/基高	
562 第5面539(西側下層)	曲物(側板)		[18.0]	高さ[10.5]	厚さ0.2	桙の樹皮による補修
563 第5面539(ベルト下層)	曲物(側板)		20.0	高さ[7.5]	厚さ0.3	
564 第5面539(ベルト下層)	曲物(タガ)		19.8	1.5	0.5	
565 第5面539(ベルト下層)	曲物(側板)		32.3	[12.6]	0.8	桙の樹皮 内側に幅5mmの刻線
566 第5面539(西側下層)	楕 側板		10.3	9.8	0.9	柾目 鉄付着
567 第5面539(西側下層)	楕 側板		13.8	5.7	0.8	板目 柊板の痕跡有
568 第5面539(ベルト下層)	楕 側板		[16.9]	7.7	1.1	内側 黒色付着物 板目
569 第5面539(東側下層)	楕 側板		33.1	6.1	1.0	柾目
570 第5面539(西側下層)	楕 側板		23.5	11.8	0.9	柾目
571 第5面539(西側下層)	楕		[4.3]	[2.4]	0.7	ツゲ 板目
572 第5面539(西側下層)	下駄		21.4	7.8	2.5	柾目
573 第5面539(ベルト下層)	下駄		[21.2]	7.0	高さ8.3	
574 第5面539(東側下層)	下駄		[15.4]	[6.3]	2.0	柾目
575 第5面539(ベルト下層)	下駄		20.1	9.8	高さ2.9	板目
576 第5面539(西側下層)	下駄		16.6	9.8	2.3	
577 第5面539(西側下層)	下駄		21.8	10.5	高さ7.6	左足用
578 第5面539(東側下層)	下駄		21.7	9.0	6.0	左足用
579 第5面539(東側下層)	下駄 靴		10.1	12.5	1.9	板目 加工痕
580 第5面539(東側下層)	下駄 靴		8.8	12.8	1.7	板目 加工痕
581 第5面539(下層)	箸		22.5	直徑0.7	0.6	
582 第5面539(下層)	箸		23.6	0.6	-	
583 第5面539(下層)	箸		23.7	0.5	0.5	
584 第5面539(下層)	箸		23.5	0.8	0.6	
585 第5面539(下層)	箸木		20.9	直徑0.6	-	
586 第5面539(下層)	箸木		21.9	0.9	0.6	
587 第5面539(下層)	箸木		22.6	0.5	-	
588 第5面539(下層)	箸木		22.9	直徑0.6	-	
589 第5面539(西側下層)	箸木		23.6	0.7	0.7	
590 第5面539(東側下層)	箸木		23.7	直徑0.6	0.5	
591 第5面539(下層)	箸木		[14.5]	0.6	0.5	残留物付着
592 第5面539(西側下層)	箸木		16.8	0.6	0.5	両端を焼く
593 第5面539(東側下層)	箸木		21.4	0.6	0.4	板目
594 第5面539(下層)	箸木		21.9	0.8	0.6	
595 第5面539(下層)	箸木		22.9	直徑0.9	0.6	
596 第5面539(下層)	箸木		23.3	0.7	0.7	
597 第5面539(下層)	箸木		23.6	0.6	0.5	
598 第5面539(西側下層)	箸木		7.7	0.7	-	
599 第5面539(下層)	箸木		21.0	0.6	0.6	
600 第5面539(下層)	箸木		21.3	0.8	0.6	
601 第5面539(下層)	箸木		22.2	直徑1.0	0.7	
602 第5面539(下層)	箸木		22.7	0.8	0.7	
603 第5面539(下層)	箸木		23.5	直徑1.5	0.6	
604 第5面539(東側下層)	箸木		23.5	直徑0.8	0.6	
605 第5面539(ベルト下層)	箸木?		[13.3]	1.0	0.3	柾目
606 第5面539(西側下層)	箸木		16.5	2.5	0.3	柾目
607 第5面539(西側下層)	箸木		14.9	2.5	0.4	柾目 I端部が薄くなる
608 第5面539(西側下層)	箸木		16.7	3.2	0.2	柾目
609 第5面539(西側下層)	箸木		16.6	2.8	0.4	柾目
610 第5面539(西側下層)	箸木		14.9	3.0	0.3	柾目 I端部が薄くなる
611 第5面539(西側下層)	箸木		17.6	4.1	0.3	柾目 切込み痕 I端部が薄くなる
612 第5面539(西側下層)	箸木		17.7	2.0	0.3	柾目
613 第5面539(東側下層)	箸木		20.3	2.7	0.3	板目
614 第5面539(西側下層)	羅針		[5.6]	0.6	-	
615 第5面539(西側下層)	羅針		[6.5]	0.8x0.6	-	
616 第5面539(西側下層)	羅針		[8.3]	0.6	-	
617 第5面539(西側下層)	羅針		[15.4]	1.3	-	

番号	出土遺構名	名称	法量(cm)			備考
			長さ/口径	幅/底径	厚さ/高さ	
618	第5面539(東側下層)	籠針	13.8	0.75	0.8	
619	第5面539(西側下層)	籠針	[13.7]	0.9	-	
620	第5面539(東側下層)	籠針	12.6	0.7	0.5	
621	第5面539(西側下層)	クサビ	6.8	2.3	1.0	柾目
622	第5面539(西側下層)	クサビ	6.9	1.8	1.2	板目
623	第5面539(西側下層)	クサビ	6.6	2.8	2.7	板目 刻穴
624	第5面539(東側下層)	クサビ	11.9	2.5	2.0	板目
625	第5面539(西側下層)	クサビ	13.0	2.8	2.5	柾目
626	第5面539(東側下層)	クサビ	12.3	3.9	2.7	板目 加工痕既存
627	第5面539(西側下層)	クサビ	13.2	2.9	1.9	柾目 加工痕明瞭
628	第5面539(ベルト下層)	クサビ	13.5	2.5	2.7	加工痕明瞭 柾目
629	第5面539(西側下層)	加工材	[8.3]	0.5	0.3	端部を加工
630	第5面539(西側下層)	加工材	10.3	0.5	0.5	端部を2方向から加工
631	第5面539(西側下層)	加工材	10.9	0.5	-	
632	第5面539(西側下層)	加工材	11.0	0.5	-	奥端を加工 決り 1ヶ所
633	第5面539(下層)	加工材	11.3	0.5	-	先端加工 決り 2ヶ所
634	第5面539(西側下層)	加工材	11.7	0.5	-	先端は焼く 基部は加工
635	第5面539(西側下層)	加工材	7.0	0.8	-	全面加工 上端部を加工
636	第5面539(西側下層)	加工材	10.0	0.5	-	全面加工 先端断面 四角形
637	第5面539(西側下層)	加工材	[11.8]	0.8	0.6	板目
638	第5面539(西側下層)	加工材	13.1	0.8	0.6	
639	第5面539(西側下層)	加工材	[13.2]	0.6	0.3	板目
640	第5面539(西側下層)	加工材	15.4	0.7	0.4	板目
641	第5面539(西側下層)	加工材	17.4	0.6	0.3	板目
642	第5面539(西側下層)	加工材	[11.5]	1.1	0.4	
643	第5面539(西側下層)	加工材	9.3	0.9	0.2	
644	第5面539(西側下層)	加工材	12.5	1.8	1.3	柾目
645	第5面539(西側下層)	加工材	[12.6]	1.1	0.2	柾目
646	第5面539(東側下層)	加工材	[11.9]	1.0	0.1	櫛様：竹 先端を加工
647	第5面539(東側下層)	加工材	[7.1]	1.2	0.4	板目
648	第5面539(下層)	加工材	[11.2]	1.6	0.7	柾目 孔 2ヶ 摩擦
649	第5面539(東側下層)	加工材	14.6	1.2	0.6	板目 表面にのみ縦状の刻み有
650	第5面539(ベルト下層)	加工材	10.7	5.4	0.9	側面の3面に木釘有 柾目
651	第5面539(東側下層)	加工材	[14.1]	[1.0]	[0.7]	木釘 1本 段
652	第5面539(東側下層)	加工材	13.1	1.5	1.3	木釘 3本 板目
653	第5面539(ベルト下層)	加工材	[21.8]	0.8	0.4	板目 木釘 4本
654	第5面539(西側下層)	加工材	34.1	2.2	0.5	木釘 2本 木釘穴 2ヶ 柾目
655	第5面539(西側下層)	加工材	50.6	2.5	1.7	柾目 釘穴 5ヶ
656	第5面539(東側下層)	加工材	53.6	7.5	1.6	板目 釘釘 1本 釘釘底 15ヶ
657	第5面539(西側下層)	加工材	34.4	10.1	1.8	釘 1ヶ所 (真直) 表面に炭化部分 加工痕 押圧による流れ
658	第5面539(下層)	加工材	8.9	2.4	2.0	釘釘 2本既存 柾目
659	第5面539(西側下層)	加工材	7.9	3.8	1.9	釘釘 柾目
660	第5面539(西側下層)	加工材	7.0	5.1	1.5	柾目 釘釘 2本 釘釘穴 1ヶ
661	第5面539(西側下層)	加工材	13.8	2.9	0.7	板目
662	第5面539(東側下層)	加工材	16.7	6.1	1.2	柾目 木釘 2本
663	第5面539(西側下層)	加工材	29.9	8.2	0.4	木釘 3本 木釘底6ヶ 表・裏面に縦刻多数 柾目
664	第5面539(西側下層)	加工材	11.0	8.7	0.9	板目 木釘 1本 木釘底
665	第5面539(西側下層)	加工材	7.0	[12.9]	1.0	柾目 釘釘 6本
666	第5面539(西側下層)	加工材	15.2	11.9	10.7	両端を切断 側面に加工痕
667	第5面539(下層)	加工材	10.0	8.0	7.1	両端を切断 側面加工 柾目 柱材か
668	第5面539(西側下層)	加工材	3.2	-	0.3	柾目
669	第5面539(東側下層)	加工材	5.4	1.2	0.4	板目
670	第5面539(西側下層)	加工材	10.6	2.6	0.6	柾目
671	第5面539(ベルト下層)	加工材	4.8	4.2	0.2	柾目
672	第5面539(東側下層)	加工材	10.8	3.7	0.8	柾目 裏端面に木釘底

編文 番号	出土遺構名	名稱	法量(cm)			備考
			長さ/口径	幅/直径	厚さ/高さ	
673	第5面539(下層)	加工材	[13.0]	3.1	0.7	柱目 木釘残存
674	第5面539(西側下層)	加工材	[10.8]	4.2	0.4	柱目
675	第5面539(ベルト下層)	加工材	[15.8]	6.6	0.3	板目
676	第5面539(下層)	加工材	7.4	[6.6]	1.1	板目
677	第5面539(東側下層)	加工材	[13.0]	7.0	0.6	木釘 2本 柱目 木釘痕 1ヶ所
678	第5面539(下層)	加工材	[30.3]	[10.6]	1.5	柱目 墨書き「◎」
679	第5面539(東側下層)	加工材	[12.1]	2.1	0.3	柱目
680	第5面539(西側下層)	加工材	[13.8]	3.9	0.3	板目
681	第5面539(西側下層)	加工材	9.8	1.5	1.1	板目
682	第5面539(西側下層)	加工材	2.5	12.8	0.9	柱目
683	第5面539(下層)	加工材	6.7	3.3	2.3	板目 全面加工
684	第5面539(西側下層)	加工材	5.2	4.9	4.8	6面を加工 柱目
685	第5面539(西側下層)	加工材	4.3	3.5	3.2	ミカン割 全面加工
686	第5面539(東側下層)	加工材	4.1	4.95	2.7	
687	第5面539(西側下層)	加工材	[8.8]	2.9	2.4	
688	第5面539(東側下層)	加工材	26.2	2.5	1.4	柱目 先端加工 上端切削
689	第5面539(西側下層)	加工材	[27.9]	[1.6]	0.9	
690	第5面539(西側下層)	柄	[32.7]	1.8	—	
691	第5面539(西側下層)	加工材	[49.5]	3.3	1.9	柱目 神社による焼れ
692	第5面539(西側下層)	加工材	[49.4]	6.2	0.2	柱目
693	第5面539(下層)	加工材	39.5	7.0	0.3	板目 縦の圧痕か
694	第5面539(西側下層)	加工材	16.5	1.7	1.6	側面の墨取り
695	第5面539(西側下層)	加工材	12.5	1.2	—	両端部 切断 全面加工 神社痕
696	第5面539(東側下層)	加工材	18.8	0.8	0.8	板目
697	第5面539(西側下層)	加工材	[15.3]	1.2	1.9	柱目 鉄釘
698	第5面539(西側下層)	加工材	[12.0]	2.2	—	柱 端部を加工 横皮残存
699	第5面539(西側下層)	加工材	[11.7]	3.1	—	1端部を切断
700	第5面539(西側下層)	加工材	14.6	4.0x3.6	—	両端部を加工
701	第5面539(下層)	加工材	[28.9]	直徑5.4	—	柱 先端を2方向から加工 横皮残存
702	第5面539(西側下層)	加工材	[16.6]	5.7	3.4	板目 1端部を切断 側面を加工 枝払い 花化
703	第5面539(西側下層)	加工材	19.9	5.2	4.5	ミカン割 加工痕 両端切削
704	第5面539(西側下層)	加工材	5.9	1.5	0.7	板目 全面加工
705	第5面539(東側下層)	加工材	8.1	6.0	4.1	柱目 全面加工
706	第5面539(西側下層)	灰漬とし	(2.8)	長さ[5.9]	厚さ0.4	竹
707	第5面539(西側下層)	竹製品	[5.6]	[2.3]	0.4	鉄釘残存
708	第5面540(西側下層)	棒根	15.0	6.0	1.5	写真のみ掲載
709	第5面541(西側下層)	棒根	20.0	7.0	5.0	写真のみ掲載

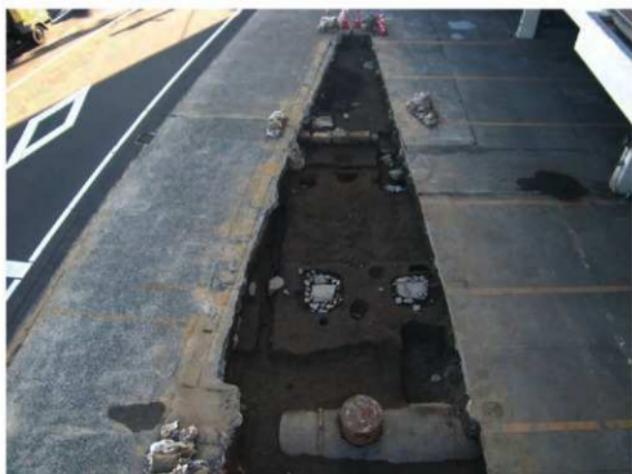
第9表 石製品観察表

報文番号	出土遺構名	名称	法面(cm/g)				備考
			長さ	幅	厚さ	重さ	
88	第1面108(拡張上層)	磯	[12.0]	6.1	1.85	[209.7]	
140	第2面231	不明	[13.5]	[19.6]	5.6	[2000.0]	材質：凝灰岩(豊島石)
141	第2面231	不明	[13.9]	[19.0]	4.7	[1800.0]	材質：凝灰岩(豊島石)
226	第2面247	磯石	[8.2]	[5.0]	1.9	[38.4]	石材：チャート 使用面：2面
227	第2面247	不明	13.7	11.6	—	1800.0	磯石？(人工石)
281	第3面302	加工石材	[7.9]	12.4	4.7	[453.2]	表裏・側面に加工痕
282	第3面302	加工石材	[21.7]	[12.5]	4.0	[1002.2]	加工痕
289	第3面314(下層)	磯石	[7.2]	4.3	1.7	[88.3]	石材：流紋岩
503	第5面539(上層)	碁石	2.1	—	0.9	3.4	碁石
504	第5面539	磯石	[12.2]	3.8	0.9	[67.2]	石材：粘板岩 標本
505	第5面539	磯石	[5.3]	[3.6]	1.0	[20.5]	石材：砂岩
732	第5面546	磯石	89.0	27.3	22.7	—	材質：凝灰岩 加工痕(ツル・ノミ)
735	第5面553	磯石	87.5	30.0	29.5	—	材質：凝灰岩 加工痕(ツル)

第10表 金属製品観察表

報文番号	出土遺構名	名称	法面(cm/g)				備考
			長さ	幅	厚さ	重量	
2	第1面102(後石の下)	釘	[3.5]	0.5	0.6	[2.5]	鉄
5	第1面111	釘	[5.6]	0.4	0.4	—	鉄 木材が残存
9	第1面120	釘	19.9	—	0.4	9.6	鉄
10	第1面120	釘	[5.6]	0.5	0.4	—	鉄
89	第1面108(拡張下層)	煙管 吸口	[4.9]	1.0	0.1	5.4	真鍮
90	第1面108(北側上層)	環首	5.0	1.4	0.8	6.8	真鍮 形状から19世紀の所産か
114	第1面右列5西側被覆土	銭貨	2.4	2.4	0.1	3.0	表：「寛永通寶」 裏：無文
126	第2面211(上面)	銭貨	2.5	2.5	0.1	2.9	表：「元豐通寶」 裏：無文
220	第2面247	煙草入 キセル袋	2.4	1.0	0.15	9.9	銀
221	第2面247	鐵板	[3.7]	[2.8]	0.1	[5.3]	木質残存 新面：平状
222	第2面247	鐵板	[4.7]	[5.4]	0.1	[7]	鐵板2枚
223	第2面247	釘	15.3	16.7	0.3	[275.1]	鉄
245	第2面直上	小柄	[3.1]	[1.8]	0.9	[2.1]	柄は樹の骨 茎に木質若干残存
246	第2面直上	釘	[8.4]	0.3	0.3	[4.7]	鉄
247	第3面直上	板	[4.5]	[3.1]	0.3	[12.0]	青銅
290	第3面302	小柄	[7.1]	[1.3]	[0.6]	[3.6]	木質が全面に残る
285	第3面307	銭貨	2.4	2.4	0.1	1.6	表：「寛永通寶」 裏：無文
299	第3面直上	銭貨	2.5	2.5	0.15	4.4	表：「寛永通寶」 裏：無文
301	第4面432	火打ち金	7.9	4.1	0.4	19.5	鉄
311	第4面422	釘	2.4	1.2	0.5	2.9	鉄
343	第4面463	銭貨	2.5	2.5	0.1	2.8	表：「寛永通寶」 裏：無文
344	第4面463	銭貨	2.45	2.45	0.15	3.3	表：「寛永通寶」 裏：無文
360	第4面直上	火打ち袋 対鉢	1.6	1.6	0.1	1.6	青銅
361	第4面直上	飾り金具	4.9	2.6	0.1	10.0	青銅
506	第5面539	銭貨	2.5	2.5	0.1	2.8	表：「寛永通寶」 裏：無文
507	第5面539	銭貨	2.45	2.45	0.1	2.8	表：「寛永通寶」 裏：放射状の文様か
508	第5面539	銭貨	2.5	2.5	0.15	3.4	表：「寛永通寶」 裏：文の字
509	第5面539(東側下層)	銭貨	2.5	2.5	0.15	2.8	表：□□□□ 裏：無文
510	第5面539	箱 亜	5.7	[2.3]	0.2	[11.2]	青銅
511	第5面539(西側下層)	毛抜き	8.1	0.6	0.3~0.4	5.5	青銅
512	第5面539	鐵板	[8.6]	4.6	0.1	[66.5]	木質残存
513	第5面539	鐵釘	8.4	0.5	0.55	7.9	鉄
746	第4面振り下げる(236の西側)	銭貨	2.45	2.45	0.1	3.1	表：□□□□ 裏：無文
747	第4面振り下げる(236の西側)	青銅品	4.1~4.2	—	0.4	27.1	

写
真
図
版



1 工区第1 遺構面完掘（西から）



1 工区第2 遺構面完掘（西から）



1 工区第3 遺構面完掘（西から）



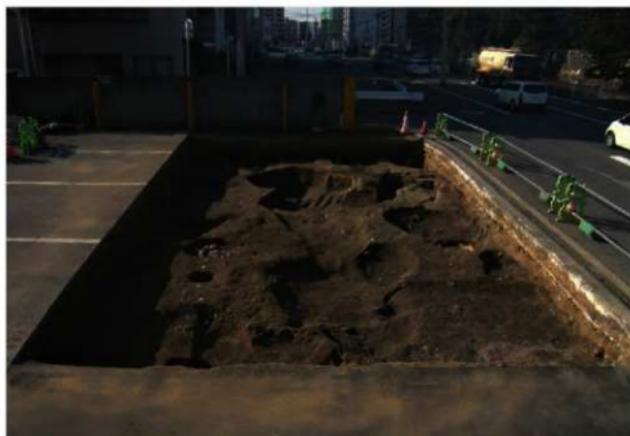
1工区第4遺構面完掘（西から）



1工区第5遺構面完掘（東から）



1工区第6遺構面完掘（西から）



2工区第2遺構面完掘（東から）



2工区第3遺構面完掘（東から）



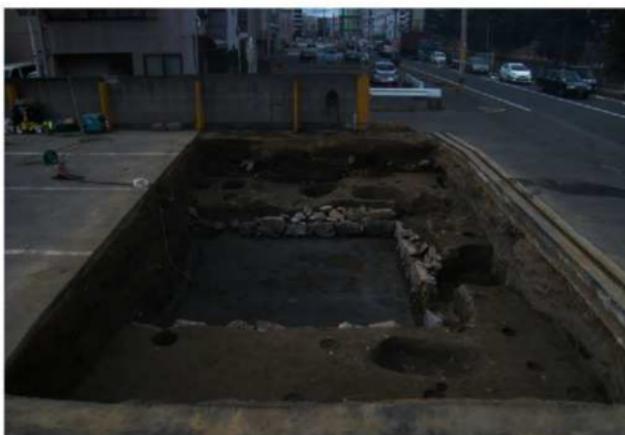
2工区第4遺構面完掘（東から）



2工区第5遺構面完掘（東から）



2工区第5遺構面完掘（西から）



2工区第6遺構面完掘（東から）



SS101・102、SW105（西から）



SS101 2段目礎石撤去（西から）



SS101・102（北から）



SS102 2段目礎石撤去（西から）



SS101 1段目礎石（西から）



SS102 1段目礎石（西から）



SS101 1段目礎石（西から）



SS102 1段目礎石（西から）



SW105 (南から)



SW105 (西から)



SW225 (東から)



SW524 (西から)



SW524 (北から)



SK108 (南から)



SK245 (東から)



SK247 (南から)





1工区南壁（北西から）



1工区南壁（北から）



1工区南壁（北から）



1工区南壁（北から）



2工区南壁（北から）



SE 539（西から）



SE 539出土遺物



SE 539出土遺物



SE 539出土遺物



SE 539出土遺物



SE 539 土層（東から）



SE 539 土層（北から）



SE 539 西壁（北から）



SE 539 西壁（東から）



SE 539 北壁（西から）



SE 539 北壁（南から）



SE 539 東壁（北から）



SE 539 東壁（西から）



遠景（南から）



遠景（南東から）





SK108出土遺物



第1遺構面包含層出土遺物



SK108出土遺物



第1遺構面包含層出土遺物



SK228出土遺物



SK 237・242出土遺物



SK 302出土遺物



SK 247出土遺物





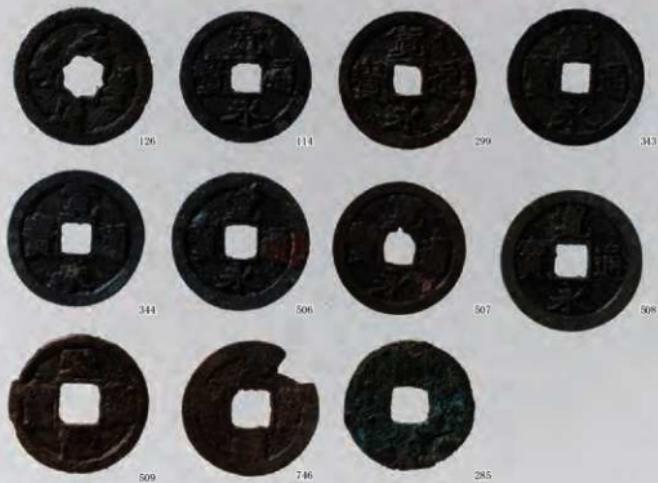
SK 108・302・422、SE 539、第1遺構面包含層出土遺物



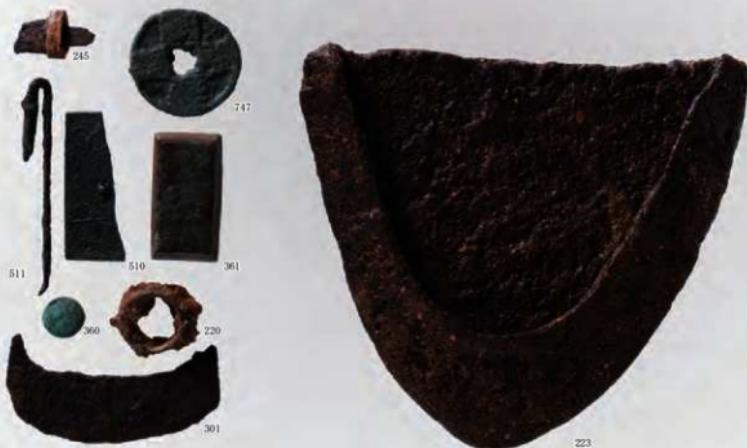
SK 108、SE 539出土遺物



第5遺構面包含層出土遺物



錢貨



金属製品



金属製品



SE 539 出土遺物



SE539出土遺物



SE 539出土遺物



529



531



536



540



541



542



SE 539出土木簡（片面）



SE 539出土木簡（他面）

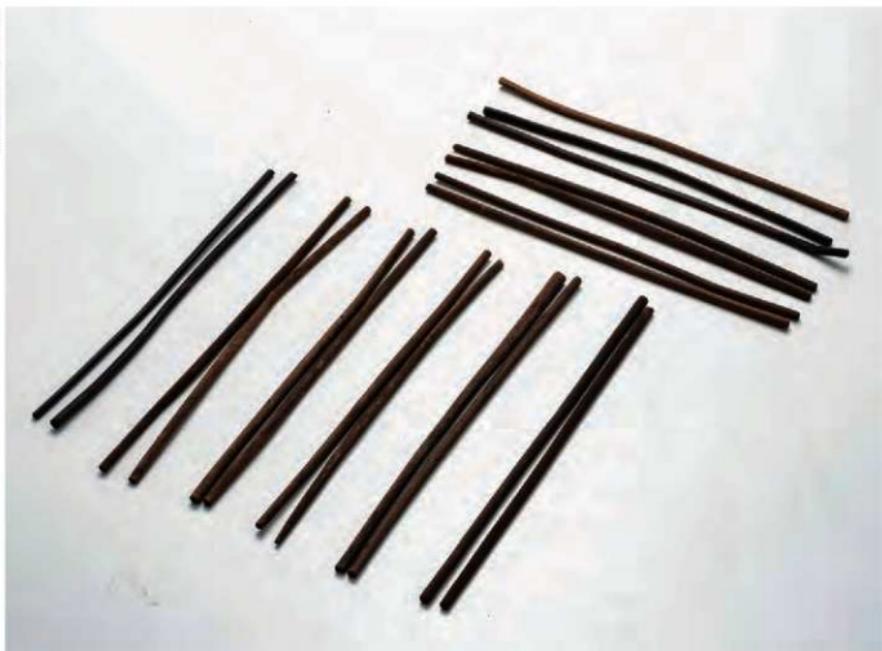


571





SE 539 出土遺物



SE 539 出土遺物



SE 539 出土遺物



SE 539 出土遺物



SE 539 出土遺物



SE 539出土遺物



SE 539出土遺物



SK 546・533出土遺物

報告書抄録

ふりがな	たかまつじょうあと（まるのうちちく）							
書名	高松城跡（丸の内地区）							
副書名	都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	第5冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第209集							
編著者名	中西 克也							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2660							
発行年月日	西暦2020年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
たかまつじょうあと 高松城跡 (丸の内地区)	香川県 高松市 (丸の内地区)	37201	10990	34° 20' 54"	134° 03' 10"	2017.10.13 ～ 2018. 1.29	平面積 237 m ²	都市計画 道路高松 海岸線
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
たかまつじょうあと 高松城跡 (丸の内地区)	城跡	中世 近世	掘立柱建物 柱列 溝 井戸状石組遺構 土坑 柱穴	土師質土器、木製品、金属 製品、石製品、瓦、陶磁器			井戸状石組遺構	
要約	今回の調査では、中世～近世の遺構面を6面確認した。調査によって中世～近世の各時期の土地利用の状況の一端が明らかとなつた。また、調査地は絵図の記載から高松藩の上級武士や藩主の生母が居住した地点であり、絵図と考古学的成果が一部整合することが明らかになった。							

都市計画道路高松海岸線街路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊

高松城跡（丸の内地区）

2020年3月30日

編集 高松市教育委員会
 発行 高松市・高松市教育委員会
 印刷 有限会社 中央ファイリング